

文化庁委託事業
ウィズコロナにおけるオンライン
日本語教育実証事業
成果報告書

令和5年5月
株式会社近畿日本ツーリスト

目次

1. 事業概要	p.2
1. 事業目的	p.3
2. 実施体制	p.3
3. 本事業の全体像	p.4
4. 参加機関一覧	p.5
5. 実施状況（実施期間、参加生徒数、レベル・コース・言語活動・学習方法等）	p.6
2. 事業内容	p.9
1. 自主事業で実施した教師研修概要	p.10
2. 自主事業概要（目的、内容等）	p.13
3. 自主事業で開発した教材やシステム・ツール概要	p.14
4. 自主事業「モデル開発等事業」における日本語教育機関の取組結果	p.74
1. 実施結果（設定目標、達成度評価、教材、成績等）分析	p.74
2. アンケート（学習者・教師・機関責任者）結果分析	p.77
3. マトリクスに基づくグッドプラクティス抽出・分析	p.95
3. 外部評価委員会による分析	p.254
1. 実施概要	p.255
2. オンラインによる日本語教育の成果と課題	p.256
3. オンライン教育普及に向けた制度・仕組みに関する提言	p.257
4. 本事業の総括	p.258
5. 参考	p.261
1. 別添資料一覧	p.262

1. 事業概要

1.事業概要

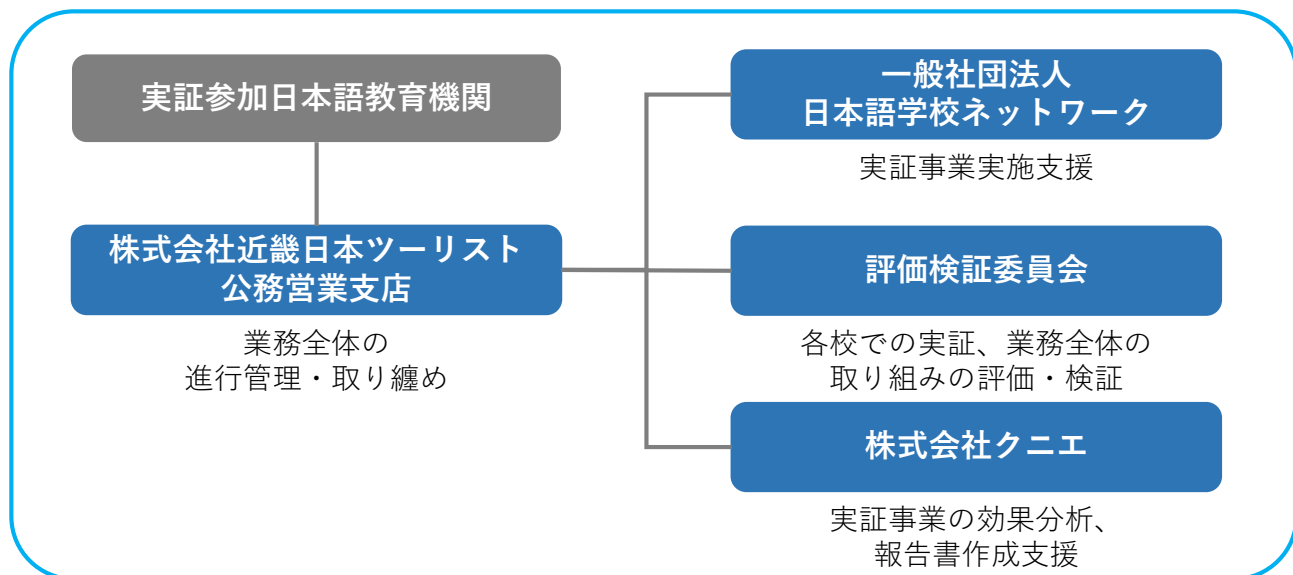
1-1. 事業目的

新型コロナウイルス感染拡大による入国制限等の影響により、我が国に入国できない外国人留学生が増加の一途を辿っている。令和3年11月からの水際対策に係る新たな措置により段階的に外国人留学生の受入れが開始されたものの、オミクロン株の影響もあって、外国人の入国停止措置が継続されている状況にある。

コロナ禍でオンライン教育は増えてきているものの、各機関の取り組みは区々であり、質の高い日本語教育をオンライン環境において実現することは必要不可欠と考え、本事業は、入国が困難な外国人留学生への日本語教育環境を構築するため、オンラインを活用した日本語教育を実証することで、ウィズコロナにおける持続的な日本語教育のあり方を検討した。

1-2. 実施体制

近畿日本ツーリスト公務営業支店内に事務局を開設し、業務全体の進行管理を執り行った。具体的な事務局運営体制は以下の通りである。



1.事業概要

1-3. 本事業の全体像

本事業では、各校におけるオンライン日本語教育の本格的な導入に向けて課題感や効果、対応が求められる環境整備などを明らかにすることを目指して実施した。

本事業の取組

①事業全体の事務局運営

- ・ 公募に関する説明会の実施

②自主事業

- ・ 日本語教師研修
 - ・ 日本語教育機関の教員を対象とした、オンライン教育に必要な基本的な知識と技術習得のための研修（オンデマンド配信と対面型ワークショップ）の実施
- 教師研修の講師等のオンライン教育に関するスキルアップを通じて、研修受講者である日本語教師が実践を通じてその基本的な知識と技術を習得することを実現
- ・ モデル開発等事業
 - ・ 動画教材で日本事情等を学ばせる双方向（※生徒と教師がリアルタイムでやり取りする）授業のオンライン日本語教育プログラムの開発
 - ・ e-learning用教材での学習と反転授業型の双方向授業において各学習項目の定着の確認や運用能力を向上を図るハイブリッド型オンライン日本語教育プログラムの開発
 - ・ 「みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ」電子版教材を使用し、教室授業に最も近い形式である双方向授業を行うオンライン日本語教育プログラムの開発
 - ・ 各校が独自に開発したオンデマンド配信教材を利用して、海外の待機学生を日本国内の対面授業にオンラインで参加させながら授業を実施するハイフレックス型のオンライン日本語教育プログラムの開発及び「日本語教育の参照枠」を参照した言語能力記述文（いわゆる「Can do」）の試案検討と試行試験の実施
 - ・ 学習者の母語による学習サポートを組み込み、「みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ」電子版教材と各校が独自に開発したオンデマンド教材を使用したハイブリッド型のオンライン日本語教育プログラムの開発
- オンライン授業の検証、実践を通じた課題・効果導出

③事業全体の分析、報告、発信

- ・ 第一次・第二次中間報告会、最終報告会の実施
- ・ 実証結果の分析・効果検証の実施
- ・ 分析方針等の策定を目的とした評価検証委員会の実施
- オンラインを活用した効果的な日本語教育の方法等を提言

本事業の貢献 (想定)

日本語教育機関 の日々の取組

教師による
日本語指導

オンラインでの
指導力向上、実
践を通じたオン
ライン教育の課
題や効果の把握

対面中心の
授業実施

本格導入に向け
たオンライン教
育の実践的学び、
課題等の把握

日本語教育機関
運営

オンライン日本
語教育実施にむ
けた必要な環
境整備、人材配
置、国に求める
支援などの導出
による、オンラ
イン本格導入の
環境整備への貢
献

1.事業概要

1-4. 参加機関一覧

本事業では、33の機関に参加いただいた。

日本語教育機関名（実証事業の登録順）	所在地（都道府県、市区町村）
学校法人アリス国際学園 アリス日本語学校横浜校	神奈川県横浜市
京都民際日本語学校	京都府京都市
青山国際教育学院	東京都港区
東京育英日本語学院	東京都渋谷区
双葉外語学校	千葉県中央区
アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ	東京都新宿区
ユニタス日本語学校東京校	東京都新宿区
上尾国際教育センター（AIEC）	埼玉県上尾市
浦和国際教育センター	埼玉県さいたま市
与野学院日本語学校	埼玉県さいたま市
福井ランゲージアカデミー	福井県福井市
早稲田文化館日本語科	東京都台東区
東方国際学院	東京都江戸川区
埼玉国際学園	埼玉県熊谷市
習志野外語学院	千葉県習志野市
ミツミネキャリアアカデミー日本語コース	東京都新宿区
東京国際日本語学院	東京都新宿区
新宿平和日本語学校	東京都新宿区
東京三立学院	東京都杉並区
東京ノアランゲージスクール	東京都杉並区
東京四木教育学院	東京都葛飾区
東京アジア学友会	埼玉県越谷市
学校法人静岡日本語教育センター	静岡県静岡市
振栄株式会社 日本教育学院	福岡県福岡市
SCG日本語学校	京都府京都市
Sun-A国際学院大江戸校	東京都葛飾区
ヨシダ日本語学院	東京都新宿区
えびす日本語学校	大阪府大阪市
KIJ語学院東京校	東京都文京区
友国際文化学院	東京都新宿区
友ランゲージアカデミー	北海道札幌市
ファースト・スタディ日本語学校泉大津校	大阪府泉大津市
東京東陽日本語学院	東京都江東区

1.事業概要

1-5. 実施状況（実施期間、参加生徒数、レベル・コース・言語活動・学習方法等）

33の機関において、様々な教育手法、日本語の教育レベルで68の授業が実施された。

授業ID	日本語教育機関名	採択校ID	選択モデル*	オンライン教育手法	日本語教育のレベル	授業期間	
						開始日	終了日
002-1	京都民際日本語学校	2	実証取組モデル1（6か月）	オンライン（双方向）	A2	7/20(水)	12/14(水)
002-2	京都民際日本語学校	2	モデル外(4か月)	オンライン（双方向）	A1	9/1(木)	12/22(木)
004-1	東京育英日本語学院	4	実証取組モデル1（3か月）	オンライン（双方向）	B1	7/19(火)	10/18(火)
009-1	ユニタス日本語学校東京校	9	実証取組モデル1（3か月）	オンライン（双方向）	A1	7/20(水)	9/26(月)
010-1	上尾国際教育センター(AIEC)	10	実証取組モデル1（3か月）	オンライン（双方向）	A1	7/25(月)	10/4(火)
011-1	浦和国際教育センター	11	実証取組モデル1（3か月）	オンライン（双方向）	A1	7/25(月)	9/22(木)
014-2	早稲田文化館日本語科	14	実証取組モデル1（6か月）	オンライン（双方向）	A1	7/25(月)	12/9(金)
014-3	早稲田文化館日本語科	14	実証取組モデル1（6か月）	オンライン（双方向）	A2	7/25(月)	12/9(金)
014-4	早稲田文化館日本語科	14	実証取組モデル1（6か月）	オンライン（双方向）	B1	9/26(月)	12/21(水)
014-5	早稲田文化館日本語科	14	モデル外(4か月)	オンライン（双方向）	A1	7/11(月)	12/22(木)
016-1	東方国際学院	16	モデル外②オンラインA1	オンライン（双方向）	A1	7/14(木)	12/20(水)
016-2	東方国際学院	16	モデル外①オンラインB1	オンライン（双方向）	B1	7/14(木)	9/30(金)
019-2	ミツミネキャリアアカデミー日本語コース	19	モデル外①（2か月）	オンライン（双方向）	B2・C	7/25(月)	9/30(金)
019-3	ミツミネキャリアアカデミー日本語コース	19	モデル外①（2か月）	オンライン（双方向）	B2・C	7/25(月)	9/29(木)
025-1	東京四木教育学院	25	実証取組モデル1（3か月）	オンライン（双方向）	B1	8/23(火)	10/27(木)
027-1	学校法人静岡日本語教育センター	27	実証取組モデル1（3か月）	オンライン（双方向）	B1	9/20(火)	12/15(木)
033-1	えびす日本語学校	33	実証取組モデル1	オンライン（双方向）	A1	10/14(金)	12/14(水)
037-1	ファースト・スタディ日本語学校泉大津校	37	モデル外	オンライン（双方向）	A1	11/1(火)	12/29(木)
037-2	ファースト・スタディ日本語学校泉大津校	37	モデル外	オンライン（双方向）	A2	10/31(月)	12/29(木)
037-3	ファースト・スタディ日本語学校泉大津校	37	モデル外	オンライン（双方向）	B1	10/31(月)	12/29(木)
037-4	ファースト・スタディ日本語学校泉大津校	37	モデル外	オンライン（双方向）	B2	11/7(月)	12/27(火)
038-1	東京東陽日本語学院	38	モデル外	オンライン（双方向）	A1	11/1(火)	12/23(金)
001-1	学校法人アリス国際学園アリス日本語学校横浜校	1	実証取組モデル2（6か月）	オンライン（双方向）+オンデマンド型	A1・A2	7/29(金)	12/9(土)
003-1	青山国際教育学院	3	実証取組モデル3（6か月）	オンライン（双方向）+オンデマンド型	A1・A2	7/11(月)	12/22(木)
004-2	東京育英日本語学院	4	実証取組モデル2（3か月）	オンライン（双方向）+オンデマンド型	A1	7/20(水)	10/5(水)
007-1	アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ	7	実証取組モデル2（3か月）	オンライン（双方向）+オンデマンド型	A1	7/18(月)	9/22(木)
007-2	アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ	7	実証取組モデル2（3か月）	オンライン（双方向）+オンデマンド型	A1	10/10(月)	12/15(木)
007-3	アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ	7	実証取組モデル2（6か月）	オンライン（双方向）+オンデマンド型	A1・A2	7/18(月)	12/15(木)

*モデル外①、モデル外②について：モデル外①→B1,B2,Cレベル、モデル外②→A1,A2レベルに該当

1.事業概要

授業ID	日本語教育機関名	採択校ID	選択モデル*	オンライン教育手法	日本語教育のレベル	授業期間	
						開始日	終了日
017-1	埼玉国際学園	17	実証取組モデル3 (6か月)	オンライン (双方向) + オンデマンド型	A1・A2	7/11(月)	12/23(金)
018-1	習志野外語学院	18	実証取組モデル2 (3か月)	オンライン (双方向) + オンデマンド型	A1	7/20(水)	10/7(金)
018-2	習志野外語学院	18	実証取組モデル2 (3か月)	オンライン (双方向) + オンデマンド型	A1	9/29(木)	12/9(金)
019-1	ミツミネキャリアアカデミー日本語コース	19	実証取組モデル2 (3か月)	オンライン (双方向) + オンデマンド型	A1	7/19(火)	9/26(月)
022-1	新宿平和日本語学校	22	モデル外②	オンライン (双方向) + オンデマンド型	A1	9/5(月)	12/10(土)
023-1	東京三立学院	23	モデル外①	オンライン (双方向) + オンデマンド型	B1	10/5(水)	10/31(月)
023-2	東京三立学院	23	モデル外①	オンライン (双方向) + オンデマンド型	B1	11/4(金)	11/30(水)
024-1	東京ノアランゲージスクール	24	実証取組モデル5 (6か月)	オンライン (双方向) + オンデマンド型	A1・A2	9/9(金)	1/30(日)
027-2	学校法人静岡日本語教育センター	27	実証取組モデル2 (3か月)	オンライン (双方向) + オンデマンド型	A1	9/26(月)	12/7(水)
028-1	振栄株式会社 日本教育学院	28	実証取組モデル3 (3か月)	オンライン (双方向) + オンデマンド型	A1	10/11(火)	1/17(火)
034-1	KIJ語学院東京校	34	モデル外	オンライン (双方向) + オンデマンド型	A2・B1	10/20(木)	12/1(木)
035-1	友国際文化学院	35	実証取組モデル5	オンライン (双方向) + オンデマンド型	A1	10/26(水)	12/23(金)
036-1	友ランゲージアカデミー	36	実証取組モデル5	オンライン (双方向) + オンデマンド型	A2	10/25(火)	12/31(土)
006-1A	双葉外語学校	6	モデル外② (ABCD) A	オンライン (双方向) + オンデマンド型+ハイブリッド型	A1・A2	7/28(木)	9/15(木)
006-1B	双葉外語学校	6	モデル外② (ABCD) B	オンライン (双方向) + オンデマンド型+ハイブリッド型	A1・A2	7/27(水)	9/15(木)
006-1C	双葉外語学校	6	モデル外② (ABCD) C	オンライン (双方向) + オンデマンド型+ハイブリッド型	A1・A2	7/27(水)	9/15(木)
006-1D	双葉外語学校	6	モデル外② (ABCD) D	オンライン (双方向) + オンデマンド型+ハイブリッド型	A1・A2	7/28(木)	9/15(木)
006-2E	双葉外語学校	6	モデル外② (EFG) E	オンライン (双方向) + オンデマンド型+ハイブリッド型	A1・A2	10/27(木)	12/2(金)
006-2F	双葉外語学校	6	モデル外② (EFG) F	オンライン (双方向) + オンデマンド型+ハイブリッド型	A1・A2	10/27(木)	12/2(金)
006-2G	双葉外語学校	6	モデル外② (EFG) G	オンライン (双方向) + オンデマンド型+ハイブリッド型	A1・A2	10/27(木)	12/2(金)
006-3	双葉外語学校	6	モデル外① (就職コース)	オンライン (双方向) + オンデマンド型+ハイブリッド型	B1・B2	11/1(火)	11/29(火)

*モデル外①、モデル外②について：モデル外①→B1,B2,Cレベル、モデル外②→A1,A2レベルに該当

1.事業概要

採択校ID	日本語教育機関名	授業ID	選択モデル*	オンライン教育手法	日本語教育のレベル	授業期間	
						開始日	終了日
010-2	上尾国際教育センター (AIEC)	10	実証取組モデル4 (3か月)	ハイフレックス型	A1	10/11(火)	12/23(金)
011-2	浦和国際教育センター	11	実証取組モデル4 (3か月)	ハイフレックス型	A1	10/11(火)	12/23(金)
012-1	与野学院日本語学校	12	実証取組モデル4 (3か月)	ハイフレックス型	A1	7/20(水)	10/14(金)
020-1	東京国際日本語学院	20	モデル外② (5か月)	ハイフレックス型	A1・A2	7/25(月)	12/23(金)
022-2	新宿平和日本語学校	22	モデル外②	ハイフレックス型	A1	9/5(月)	12/10(土)
026-1	東京アジア学友会	26	実証取組モデル4 (6か月)	ハイフレックス型	A1・A2	8/22(月)	1/31(火)
029-1	SCG日本語学校	29	モデル外②	ハイフレックス型	A1・A2	10/1(土)	1/31(月)
031-1	Sun-A国際学院大江戸校	31	実証取組モデル4 (3か月)	ハイフレックス型	A1	10/5(水)	12/23(金)
031-2	Sun-A国際学院大江戸校	31	実証取組モデル4 (3か月)	ハイフレックス型	A1	10/5(水)	12/23(金)
032-1	ヨシダ日本語学院	32	実証取組モデル4 (3か月)	ハイフレックス型	A1	10/11(火)	12/21(水)
032-2	ヨシダ日本語学院	32	実証取組モデル4 (3か月)	ハイフレックス型	A2	10/11(火)	12/21(水)
012-2	与野学院日本語学校	12	モデル外① (3か月)	オンデマンド型	B1	10/1(土)	12/23(金)
024-2	東京ノアランゲージスクール	24	モデル外②	オンデマンド型	B1	9/22(木)	11/30(水)
013-1	福井ランゲージアカデミー	13	モデル外② (3か月)	ハイブリッド型	A1	7/21(木)	9/9(金)
013-3	福井ランゲージアカデミー	13	モデル外② (3か月)	ハイブリッド型	A1	9/16(金)	12/2(金)
037-5	ファースト・スタディ日本語学校泉大津校	37	モデル外	ハイブリッド型	A1	10/31(月)	12/28(水)
037-6	ファースト・スタディ日本語学校泉大津校	37	モデル外	ハイブリッド型	A	10/31(月)	12/28(水)
013-2	福井ランゲージアカデミー	13	モデル外② (3か月)	ハイブリッド型+オンデマンド型	A1	7/21(木)	9/9(金)
013-4	福井ランゲージアカデミー	13	モデル外② (3か月)	ハイブリッド型+オンデマンド型	A1	9/16(金)	12/2(金)

*モデル外①、モデル外②について：モデル外①→B1,B2,Cレベル、モデル外②→A1,A2レベルに該当

2. 事業内容

2.事業内容

2-1. 自主事業で実施した教師研修概要

オンライン日本語教育を行う日本語教師が基礎的な知識と、スキル（ICT機材操作、ソフト利用を含む）を高めるための研修を実施した。

オンデマンド配信

- 対象 日本語教育機関に所属する教師
- 日程 2022年6月上旬～12月
- 内容 オンデマンド配信 7講座

講座	学習内容
1.オンライン教育概論	現在行われている種々のオンライン教育の手法の概要の説明
2.著作権法概論	著作権法の概要とオンライン教育を行う際の留意点
3.オンライン日本語教育概論	現在、行われているオンラインを利用した日本語教育の概要の説明
4.日本語教育の参照枠の概要	「日本語教育の参照枠」の概要とこれを利用した教育効果実証の方法の解説
5.オンライン教育の教材作成	PPTやフリー素材を利用した教材作成の方法と授業での利用方法の解説
6.ICT機材の使用法Ⅰ	映像・音響機材等の選定とPCとの接続や操作方法解説
7.ICT機材の使用法Ⅱ	授業におけるオンライン会議システム（Zoom等）や学習管理システム（learningBOX等）操作活用方法

■実施結果

- 動画再生回数
 - ・ 1165回（うちアンケート回答者数：14名）
- 理解度（Q.講座内容は理解できましたか？）
 - ・ よく理解できた：4名、理解できた：10名
- 満足度（Q.全体を通して満足度はいかがですか？）
 - ・ 大変満足：4名、満足：10名
- 実務への影響（Q.講座内容は実務で役立ちそうですか？）
 - ・ 役立つ：7名、やや役立つ：7名

参加者の声（Q.「オンデマンド講座」におけるご意見やご感想があればお聞かせ下さい。）

- ・ 教材の作成について参考になる点が多かった。
- ・ 特に教材作成の具体的な画像は大変役に立ちました。
- ・ 時間の制約を受けずに視聴することができ大変勉強になりました。
- ・ スリーエーネットワークのみんなの日本語電子版の教材活用方法講座があればぜひ受けたい。
- ・ "learningBOXなどのLMSツールを使うのがはじめてだったため、概要を知ることができて非常に役立ちました。
- ・ オンデマンドだと自分の都合の良い時に、また、必要なら繰り返し見て学べるので、その点が非常によかったです。
- ・ 多忙のため、見逃してしまったものがあるので、アーカイブとしていつでも見られるようにしてもらえたらと思います。
- ・ 様々な日本語教育機関の教師の授業を受講でき、勉強になりました。

2.事業内容

ワークショップ講座

- 対象 日本語教育機関に所属する教師
- 日程 2022年6月上旬～9月
- 内容 ワークショップ講座 7講座 ×各4回実施

No.	研修内容		研修ID	日付	曜	時間
①	実証取組モデル1	プログラムの内容を説明しながら実際の教育実施方法を解説し、各教材の扱い方を実習教育する	①-1	6月14日	火	18:00～20:00
			①-2	6月23日	木	18:00～20:00
			①-3	8月2日	火	15:00～17:00
			①-4	9月5日	月	15:00～17:00
②	実証取組モデル2	プログラムの内容を説明しながら実際の教育実施方法を解説し、各教材の扱い方を実習教育する	②-1	6月15日	水	18:00～20:00
			②-2	6月22日	水	18:00～20:00
			②-3	8月3日	水	15:00～17:00
			②-4	9月6日	火	15:00～17:00
③	実証取組モデル3	プログラムの内容を説明しながら実際の教育実施方法を解説し、各教材の作成方法や扱い方を実習教育する	③-1	6月16日	木	18:00～20:00
			③-2	6月24日	金	18:00～20:00
			③-3	8月4日	木	15:00～17:00
			③-4	9月7日	水	15:00～17:00
④	実証取組モデル4	プログラムの内容を説明しながら実際の教育実施方法を解説し、各教材の作成方法や扱い方及びICT機材の扱い方を実習教育する	④-1	6月17日	金	18:00～20:00
			④-2	6月25日	土	13:00～15:00
			④-3	8月8日	月	15:00～17:00
			④-4	9月8日	木	18:00～20:00
⑤	実証取組モデル5	プログラムの内容を説明しながら実際の教育実施方法を解説し、各教材の作成方法や扱い方を実習教育する	⑤-1	6月18日	土	13:00～15:00
			⑤-2	6月27日	月	18:00～20:00
			⑤-3	8月1日	月	15:00～17:00
			⑤-4	9月9日	金	18:00～20:00
⑥	ICT機材の使用法Ⅰ	特に映像・音響機材等とPCとの接続や操作方法を実際の機材を使用して指導する	⑥-1	6月20日	月	18:00～20:00
			⑥-2	6月28日	火	18:00～20:00
			⑥-3	8月9日	火	15:00～17:00
			⑥-4	9月12日	月	15:00～17:00
⑦	ICT機材の使用法Ⅱ	授業におけるオンライン会議システム（Zoom等）や学習管理システム（learningBOX等）操作について実際に同システムを使用して指導する	⑦-1	6月21日	火	18:00～20:00
			⑦-2	6月29日	水	18:00～20:00
			⑦-3	8月10日	水	15:00～17:00
			⑦-2	9月13日	火	15:00～17:00

2.事業内容

■実施結果

- 参加者数
 - ・ 60名（うちアンケート回答者数：11名）
- 理解度（Q.講座内容は理解できましたか？）
 - ・ よく理解できた：7名、理解できた：3名、どちらとも言えない：1名
- 満足度（Q.全体を通して満足度はいかがですか？）
 - ・ 大変満足：4名、満足：6名、どちらとも言えない：1名
- 実務への影響（Q.講座内容は実務で役立ちそうですか？）
 - ・ 役立つ：5名、やや役立つ：5名、どちらとも言えない：1名

参加者の声（Q.本講座におけるご意見やご感想があればお聞かせ下さい。）

- ・ learningBOXは初めての利用だったので、講座中には覚えきれないことが多々ありました。
- ・ “Zoomに関しては既に利用していましたので概要は理解していましたが、新しい機能を教えていただきました。learningBOXに関しても教えていただいたのですが、それまで自分で使ったことがなかったので、教えていただいたもののその場では雲をつかむような感触でした。（これは私自身のPCレベルの問題です）。
- ・ 後日、実際にテスト問題を作成する際に、教えていただいたことが大変役に立ちました。一度でも触ったことがあるという経験値があったことで何とか今回のプロジェクトを乗り越えることができました。ありがとうございます。
- ・ とても丁寧にご指導いただき、不安が解消されました。
- ・ よく準備されていて、レベルごとに授業の目的や内容がよくわかりました。教材は、実際には2時間の授業には多くの追加準備が必要でしたが、動画は非常に丁寧に作られていて大変参考になりました。
- ・ 大変勉強になる講座でした。親身にご指導いただきました。研修後も、様々なご相談に乗っていただき、無事に実証事業を終えることができました。

2.事業内容

2-2. 自主事業概要（目的、内容等）

5つの実証取組モデルと、モデル外の取組を実施した。

実証取組モデルの概要

「実証事業」という趣旨を踏まえ、多様な背景、ニーズ、日本語のレベルを持つと想定される外国人留学生在が自身の求める・適した日本語教育を享受できるよう、複数の日本語教育の手法・教育内容による多様なオンライン教育の実証を目的として、5つのモデルに取り組んだ。

実証内容	レベル	開催形式	概要	主な使用教材	授業期間	オンライン授業時間数	オンデマンド授業時間数
実証取組モデル1	A1	オンライン（双方向）	臨場感のある動画教材を使用して、日本文化を紹介しながらの日本語教育を行うプログラム	動画教材提供	3か月	50	—
	A2				6か月（前期+後期）	100	—
	B1						
実証取組モデル2	A1	オンライン（双方向）+オンデマンド型	e-learning 教材で自習し、オンライン（双方向）授業で運用力を向上させるプログラム	『eTRY!START,eTRY!N5』 『動く絵本ライブラリー』 『いろどり生活の日本語』	3か月	60	100
	A2				6か月（前期+後期）	120	200
実証取組モデル3	A1	オンライン（双方向）+オンデマンド型	「みんなの日本語」電子版を主教材とした普段の教室授業に近いオンライン授業とオンデマンドで復習ができるプログラム	『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』 オンデマンド動画教材提供	3か月	150	19
	A2				6か月（前期+後期）	300	19
実証取組モデル4	A1	ハイフレックス型	対面の教室授業にオンライン参加ができ、オンデマンドで復習ができるプログラム	『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』（聴解タスク25) オンデマンド動画教材（オリジナル）	3か月	150	25
	A2				6か月（前期+後期）	300	50
実証取組モデル5	A1	オンライン（双方向）+オンデマンド型	学習者の母語ができるスタッフが学習支援として定期的に授業に入りサポートする体制を加えた「みんなの日本語」電子版を主教材としたオンライン授業とオンデマンドで復習ができるプログラム	『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』 『まるごとeラーニング』 『JFにほんごeラーニングみなと』 オンデマンド動画教材（オリジナル）	3か月	94.5	21
	A2				6か月（前期+後期）	189	42

2.事業内容

2-3. 自主事業で開発した教材やシステム・ツール概要

5つのモデルにおいて、各モデルにおいて求められる日本語のレベル等を踏まえて、教材を作成し、実証事業に参加した各日本語教育機関において使用いただいた。作成した資料を示す。

モデル1 概要

動画を教材とするオンライン（双方向）の日本語教育プログラム

取組の内容・目的

独自に撮影した動画を教材として作成し、日本に行かなければ体験できない臨場感あふれる場面（デパートや商店街での買い物、各地の旅行の手配や予約、浅草散策、スマホやスイカを使って電車に乗る、席を譲ったり、車窓から見える街並み等）を再現した3レベル（日本語参照枠に示される日本語習熟度A1、A2、B1）の教材を開発し、この教材を用いて各場面での日本語のやり取りや日本事情を学ばせるためのオンライン（双方向）授業の効果的な教育プログラムを開発した。なお本プログラムの開発には、参加学習者向けの母語（英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ロシア語）を用いた当オンラインプログラム概要案内と参加の仕方等の説明書及び教師用マニュアルの製作が含まれている。実証のためのオンライン教育の標準的な実施頻度は、2週間で5回（1回2時間）、全20週（6か月）で合計100時間となるように計画、1回の授業での学習項目は完結型であり、教育機関や参加学習者の都合により実施頻度を変更することにより短期間で修了することを可能となるよう実施した。

取組により期待される効果・成果、成果物及びその活用方法

待機している留学生を含めて日本留学を予定している学習者が臨場感あふれる教材を使用した本取組のオンライン日本語授業を受講することにより、楽しく日本語を学ぶだけでなく、日本事情を理解し、日本に対する興味を倍加させることが可能と考え、実施した。また、その結果として、留学生の日本への留学意欲が高まることが期待して実施。コロナ禍終息後も日本語学習と日本事情の理解により日本留学に対する興味を喚起することを企図して、事業に取り組んだ。

2. 事業内容

モデル1 A1クラス前期

取組概要／カリキュラム／シラバス

講座名	A1クラス (N5レベル)	
講座の目的 (目標)	<p>本講義は、自分と他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いが、持ち物などの個人情報について、質問をしたり、答えたりできるようにする。</p> <p>オリジナル動画をみて、日本の町や文化に親しみを感じてもらう。</p>	
講座の概要	<p>動画を見ながらレベルに合わせた日本を勉強して、自分の言葉で発表する。</p> <p>期間は3カ月、2時間/週3回、授業回数25回、合計時間50時間</p>	
授業回数	項目	学習内容
1回目	ひらがな・カタカナ・教室用語	ひらがな・カタカナ・レストランメニュー
2回目	教科書 1課 初めまして①	自己紹介
3回目	教科書 1課 初めまして②	家族/クラスメート紹介
4回目	教科書 2課 教室はどこですか①	ここ/そこ/あそこは～です。
5回目	教科書 2課 教室はどこですか②	～の～に～がいます。うちに隣に猫がいます)
6回目	教科書 2課 教室はどこですか③	～は～の～にいます。
7回目	動画①「上野公園」	発表：私のうちと部屋
8回目	教科書 3課 これは何ですか①	発表：私の一日①
9回目	教科書 3課 これは何ですか②	発表：私の一日②
10回目	動画②「浅草」	
11回目	教科書 4課 明日はテストです①	今～時～分です。
12回目	教科書 4課 明日はテストです②	毎日どのくらい勉強しますか/寝ますか/運動しますか
	発表：自分の好きな事、嫌いな事	
13回目	動画③「レストラン」	
14回目	教科書 5課 どこへ行きますか①	～へ行きます/行きました。
	動詞グループ分け	なんで～へ行きますか。
15回目	教科書 5課 どこへ行きますか②	～に/と行きます/行きました。
16回目	動画④「鎌倉①」	グループ分けテスト
17回目	動画⑤「鎌倉②」	発表：私の夏休み、
18回目	教科書 6課 何をしますか、しましたか①	毎朝～を食べます/朝ご飯は～を食べました。
19回目	教科書 6課 何をしますか、しましたか②	もう～へ行きました/行きましたか。
20回目	動画⑥「たこ焼き」	発表：国の料理を紹介
21回目	教科書 7課 生活はどうですか①	い形容詞/な形容詞
22回目	教科書 7課 生活はどうですか②	よく使う形容詞
23回目	動画⑦「のり巻き」	て形
24回目	前期修了テスト	
25回目	フィードバック、カウンセリング	
テキスト	教科書 動画	
成績評価	<p>小テスト 30%、修了テスト 50%、発表 20% (100%)</p> <p>S : 90%以上、A : 89～80%、B : 79～70%、C : 69～60、F : 59%以下</p>	

2. 事業内容

使用教材等

1. A1前期3カ月 教材一覧

教材名	ファイル形式
1回目 あいうえお・カタカナ・教室用語・挨拶①	.pptx
2回目 1課 はじめまして①	.pptx
3回目 1課 はじめまして②	.pptx
4回目 2課 教室はどこですか①	.pptx
5回目 2課 教室はどこですか②	.pptx
6回目 2課 教室はどこですか③	.pptx
7回目 A1「上野公園」シート	.pptx
8回目 3課 これは何ですか①	.pptx
9回目 3課 これは何ですか②	.pptx
10回目 A1「浅草」シート	.pptx
11回目 4課 明日はテストです①	.pptx
12回目 4課 明日はテストです②	.pptx
13回目 A1「レストラン」シート	.pptx
14回目 5課 どこへ 行きますか①	.pptx
動詞グループ分け	.pptx
15回目 5課 どこへ 行きますか②	.pptx
16回目 A1「鎌倉1」シート	.pptx
17回目 A1「鎌倉2」シート	.pptx
18回目 6課 何をしますか、しましたか①	.pptx
19回目 6課 何をしますか、しましたか②	.pptx
20回目 A1「たこ焼き」シート	.pptx
21回目 7課 生活はどうですか①	.pptx
22回目 7課 生活はどうですか②	.pptx
23回目 A1「のり巻き」シート	.pptx
動詞て形	.pptx

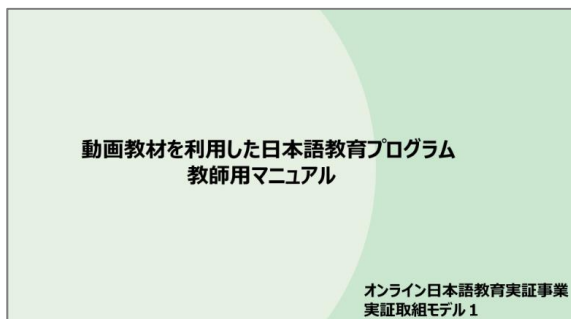


【資料】“あいうえお・カタカナ・教室用語・挨拶①”の例



【資料】“A1「たこ焼き」シート”の例

2. 動画教材を利用した日本語教育プログラム 教師用マニュアル (.pdf)



目次	
動画をメインとした新教材の狙いと特徴	5
対象クラス・到達目標・講座概要	6
授業回数・期間	7
A1 教材の種類と構成	
A1 進捗予定表 (前期)	10
A1 進捗予定表 (後期)	12
A1 授業の進め方: 動画 ① 動画	14
A1 授業の進め方: 動画 ② 語彙 ③ 文法シート	17
A1 授業の進め方: 動画 ④ 会話シート	18
A1 授業の進め方: 動画 ⑤ 作文シート	19
A1 授業の進め方: 教科書 (前期のみ)	20
A1 授業の進め方: 文法練習	21
A1 授業の進め方: 場面別会話 (後期のみ)	22

2. 事業内容

3. 学生用マニュアル (.pdf)

作成言語
日本語
英語
韓国語
中国語
ベトナム語
ロシア語

(左)
学生用マニュアル中国語版
(右)
学生用マニュアル英語版



免費網上授課

本網上授課每周三次，通过观看有关日本文化或者热门观光景点的视频，来愉快地学习教科书上学不到的具有实践性的日语。本课程全部免费。

期间：预定8月开始 3个月或者6个月的课程
 時間：周一、周三、周五の19~21点（日本時間）
 日語水平：N5・N4・N3 ※通过分班考试决定。
 授課形式：通过 zoom 的实时授課

報名条件 ※符合其中一項即可

- 获得语言学校入学许可的同学
- 今后想在语言学校学习的同学

听课要求 ※两项都要符合


- 课程期间，每次课程都能参加的同学
- 具有接受网上授课硬件条件和环境的同学

報名方法

- 请将要参加的意向通过邮件方式联系我们。因为听课人数限制，报名人数过多的话将进行面试。

咨询方式

- 对本课程有疑问或者想要咨询的同学请联系上方的解雇进行咨询。



FREE ONLINE CLASS

You will have engaging online classes 3 times a week based on original short videos that introduce traditional Japanese cuisine and culture. You will learn practical and useful Japanese that you cannot easily find in textbooks! All classes are available for free!

Course period: Around August 2022
 Class Hours: 7pm to 9pm Japan time on every Mon, Wed, and Fri
 Class Level: N5・N4・N3 * You will take a placement test.
 Class Structure: Classes will be conducted via Zoom.

Who can apply? * if either one applies to you

- Students admitted to a Japanese language school.
- Students who want to study in a Japanese language school.

Application requirements

- Students who can attend all classes
- Students who have a reliable and stable internet connection to take online classes without interruption.

How to apply?

- Please send an e-mail. We will have an interview if many people apply for the course.

Contact

- Feel free to send us an e-mail if you have any questions about the course.

4. 動画教材

教材名	ファイル形式
浅草	.mp4
上野公園	.mp4
レストラン	.mp4
のり巻き	.mp4
たこ焼き	.mp4
鎌倉①	.mp4
鎌倉②	.mp4



【資料】“のり巻き”の一場面

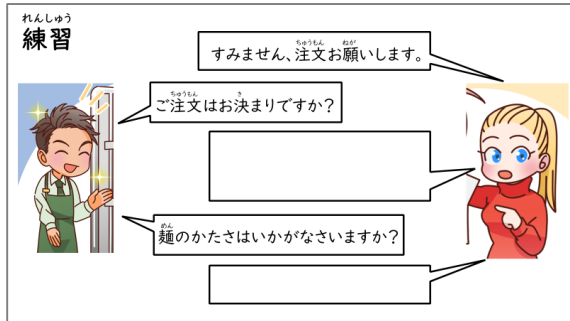


【資料】“鎌倉①”の一場面

2. 事業内容

5. その他活用できる食に関する教材

教材名	ファイル形式
役立つ会話 ラーメンを注文する	.pptx
日本文化 お菓子和「映え」	.pptx



【資料】“役立つ会話 ラーメンを注文する”の例



【資料】“日本文化 お菓子和「映え」”の例

2.事業内容

モデル1 A1クラス後期

取組概要／カリキュラム／シラバス

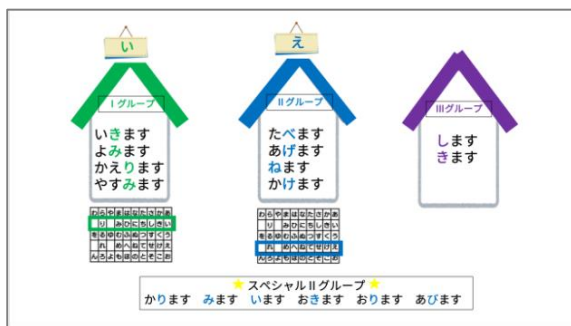
講座名	A1クラス (N5レベル)	
講座の目的 (目標)	<p>本講義は、自分と他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人情報について、質問をしたり、答えたりできるようにする。</p> <p>オリジナル動画をみて、日本の町や文化に親しみを感じてもらう。場面別会話で実際の日本生活で使う言葉を覚える。</p>	
講座の概要	<p>動画を見ながらレベルに合わせた日本語を勉強して、自分の言葉で発表する。</p> <p>期間は3カ月、2時間/回、授業回数25回、合計時間 50時間</p>	
授業回数	項目	学習内容
1回目	動画⑧ 「原宿」、て形復習	～てから、～てもいいですか。
2回目	場面別会話「誘い」、て形テスト	～しませんか。～しましょう。
3回目	動画⑨ 「鎌倉3」	～でした。 過去形
4回目	場面別会話 「道聞き・乗り物」、辞書形	～どこですか。 ～までどうやって行きますか。
5回目	辞書形テスト、発表	自慢大会、私の趣味、私ができる事！
6回目	動画⑩ 「両国」	～は～が形容詞、形容詞
7回目	動画⑪ 「横浜散策1」	～前に
8回目	場面別会話 「家を探す」、た形	～たいです。
9回目	場面別会話 「体の部位・休みの連絡」、た形テスト	～から、～たいです。
10回目	動画⑫ 「横浜散策2」	～ないでください。
11回目	場面別会話 「引っ越し、住所登録」	引っ越しの挨拶などの練習
12回目	場面別会話 「ごみ捨てマナー」、ない形	日本の生活ルールを覚える
13回目	動画⑬ 「横浜散策3」、ない形テスト	～と思います。
14回目	場面別会話 「約束を決める」	場面を設定し、会話練習をする
15回目	動画⑭ 「伊豆の魅力」	～たら、
16回目	場面別会話 「買い物をする」	スーパー、コンビニ、薬局での買い物
17回目	動画⑮ 「着物」	～とき、
18回目	擬態語、普通形	それは～しています (ふわふわ、つつつつ)
19回目	場面別会話 「ラーメンを注文する」、普通形テスト	麺の量・種類を覚え、ラーメンを注文できるまで
20回目	仮定条件、確定条件、動詞復習	～たら～
21回目	場面別会話 「美容室へ行く」	実際に使うヘアスタイルの表現
22回目	発表準備	「日本に行きたい理由、日本でやりたいこと」
23回目	発表	「日本に行きたい理由、日本でやりたいこと」
24回目	後期修了テスト	
25回目	フィードバック+会話テスト	
テキスト	教科書 動画	
成績評価	<p>小テスト30%、修了テスト50%、発表20% (100%)</p> <p>S : 90%以上、A : 89～80%、B : 79～70%、C : 69～60、F : 59%以下</p>	

2.事業内容

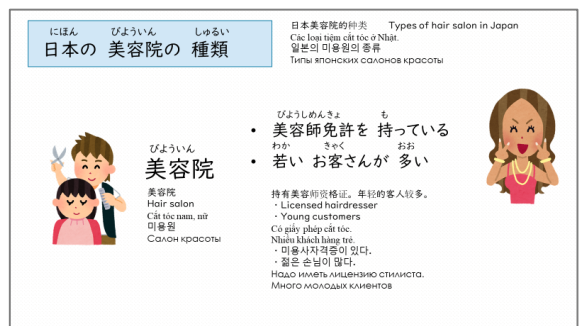
使用教材等

1. A1後期3カ月 教材一覧

教材名	ファイル形式
1回目 A1「原宿」シート	.pptx
て形	.pptx
2回目 A1誘い	.pptx
3回目 A1「鎌倉3」シート	.pptx
4回目 A1道聞き・乗り物	.pptx
辞書形	.pptx
6回目 A1「両国」シート	.pptx
7回目 A1「横浜1」シート	.pptx
8回目 A1家を探す	.pptx
た形	.pptx
9回目 A1体の部位・休みの連絡	.pptx
11回目 A1引っ越し、住所登録	.pptx
12回目 A1ごみ捨てマナー	.pptx
ない形	.pptx
13回目 A1「横浜3」シート	.pptx
14回目 A1約束を決める	.pptx
15回目 A1「伊豆」シート	.pptx
16回目 A1買い物をする	.pptx
17回目 A1「着物」シート	.pptx
19回目 A1ラーメンを注文する	.pptx
21回目 A1美容室へ行く	.pptx



【資料】“て形”の例



【資料】“A1美容室へ行く”の例

※「動画教材を利用した日本語教育プログラム 教師用マニュアル (.pdf)」「学生用マニュアル (.pdf)」は、A1前期と同様

2. 事業内容

2. 動画教材

教材名	ファイル形式
両国	.mp4
伊豆	.mp4
原宿	.mp4
横浜①	.mp4
横浜②	.mp4
横浜③	.mp4
着物	.mp4
鎌倉③	.mp4



【資料】“伊豆”の一場面

A2 N4レベル ぶんぼう 文法

た が く の さん の <small>がいこくじん</small> 外国人が <small>よこはま</small> 横浜に <small>す</small> 住み始めました。
はる <small>き</small> 春が来て、 <small>さくら</small> 桜が <small>さ</small> 咲き始めました。
<small>かぞく</small> 家族のために <small>はたら</small> 働きます。
この部屋は <small>へや</small> 本を <small>ほん</small> 読むための <small>よ</small> 部屋です。
<small>けんこう</small> 健康のために、 <small>ジム</small> ジムに <small>かよ</small> 通い始めました。

【資料】“横浜①”の一場面

2.事業内容

モデル1 A2クラス前期

取組概要／カリキュラム／シラバス

講座名	A2クラス (N4レベル)	
講座の目標	本講座は、自分と他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人情報について、質問をしたり、答えたりできるようにする。オリジナル動画をみて、日本の町や文化に親しみを感じてもらうとともに、自分のことや国について紹介することができる。	
講座の概要	<p>講座の概要： 本講座は動画教材を見ながら、A2 (N4) レベルの文型を学ぶ。 各課の最後には習った文型を使い、発表する機会を設ける。 期間は3カ月、2時間/回、授業回数25回、合計時間 50時間</p>	
授業回数	学習項目	学習内容
1回目	動画①「浅草散策」	文型①：富士山は日本のシンボルの1つです。 文型②：人形焼きは安くておいしいです。／この靴は丈夫で軽いです。
2回目	文法チェックテスト・作文	
3回目	発表準備・発表	
4回目	動画②「伊豆に行こう」	「あなたの国の町や食べ物、人を紹介してください。」 文型①：伊豆というところに遊びに行きました。 文型②：あの旅館は食事はおいしいですが、高いです。
5回目	文法チェックテスト・作文	
6回目	発表準備・発表	
7回目	動画③「原宿散策」	「みんなが知らないあなたの国のことを教えてください。」 文型①：参拝するまえに手と口をきれいにしましょう。 文型②：クレープを食べに行きます。 文型③：仕事が終わったあとで友達にあいませ。
8回目	文法チェックテスト・作文	
9回目	発表準備・発表	
10回目	動画④「のり巻き」	「休みの日何をしますか／何をしましたか」 文法①：この薬は小さくて飲みやすいです／この靴は歩きにくいです。 文法②：包丁を濡らすと切りやすいです。
11回目	文法チェックテスト・作文	
12回目	発表準備・発表	
13回目	動画⑤「レストラン」	「オリジナルのり巻きを作りましょう」 文法①：「A：辛さはどうしますか」「B：普通でお願いします」 文法②：このナンはおいしそうです。今年の夏は歩くなりそうです。
14回目	文法チェックテスト・作文	
15回目	発表準備・発表	
16回目	動画⑥「たこ焼き」	「将来を予想してみましよう」 文法①：マヨネーズをかけてみます。 文法②：たこ焼きプレートはたこ焼きを作るのに必要です。 文法③：タコを小さく切ります。
17回目	文法チェックテスト・作文	
18回目	発表準備・発表	
19回目	動画⑦「鎌倉1」・文法チェックテスト	
20回目	発表準備・発表	
21回目	作文・発表	
22回目	動画⑧「鎌倉2」	「あなたの国の料理の作り方を発表してください」 文法：鎌倉には古いお寺や神社がたくさん残っているそうです。
23回目	文法チェックテスト・作文	
24回目	発表準備・発表	
25回目	前期修了テスト 会話テスト	「最近どんなニュースを聞きましたか」 文法①：今朝、電車の中で財布を落としてしまいました。 文法②：木の大仏は台風で壊れてしまいました。 「最近悲しかったことや失敗したことはありますか」
テキスト	パワーポイント 動画	
成績評価	小テスト30%、修了テスト50%、発表20% (100%)	

2. 事業内容

使用教材等

1. A2前期3カ月 教材一覧

教材名	ファイル形式
1回目～3回目_A2動画浅草PPT完成版	.pptx
4回目～6回目_A2動画ー伊豆PPT完成版	.pptx
7回目～9回目_A2動画ー原宿散策PPT完成版	.pptx
13回目～15回目_A2動画ーレストランPPT完成版	.pptx
16回目～18回目_A2動画たこ焼きPPT完成版	.pptx
19回目20回目_A2動画ー鎌倉1P完成版	.pptx
21回目～23回目_A2動画ー鎌倉2 PPT完成版	.pptx

どうが あさくさぶんぽう
A2 動画 浅草 文法シート

ぶんぽう
文法

Grammar
文法
문법
Граматика
NGỮ PHÁP

名詞1は 名詞修飾 名詞2 の 1つです。
Noun1は noun modification noun2 の 1つです。
名詞1は 名詞修飾 名詞2 の 1つです。
명사1は 명사수식 명사2 の 1つです。
Сущ.1は Модификация сущ. Сущ.2 の 1つです。
DANH TỪ1は BỔ NGHĨA DANH TỪ DANH TỪ 2 の 1つです。

【資料】“1回目～3回目_A2動画浅草PPT完成版”の例

どうがはらじゅくさんさくぶんぽう
A2 動画 原宿散策 文法シート

いっかげつ にはん き
一か月まえに 日本へ 来ました。

I came to Japan a month ago.
一个月之前来了日本。
1개월전에 일본에 왔습니다.
Я приехал в Японию месяц назад..
Tôi đến Nhật Bản một tháng trước.

【資料】“7回目～9回目_A2動画ー原宿散策PPT完成版”の例

※「学生用マニュアル (.pdf)」は、A1前期と同様

2.事業内容

モデル1 A2クラス後期

取組概要／カリキュラム／シラバス

講座名	A2クラス (N4レベル)	
講座の目標	本講座は、自分と他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人情報について、質問をしたり、答えたりできるようにする。オリジナル動画をみて、日本の町や文化に親しみを感じてもらおうとともに、自分のことや国について紹介することができる。	
講座の概要	<p>本講座は動画教材を見ながら、A2 (N4) レベルの文型を学ぶ。</p> <p>各課の最後には習った文型を使い、発表する機会を設ける。</p> <p>期間は3カ月、2時間/回、授業回数25回、合計時間 50時間</p>	
授業回数	学習項目	学習内容
1回目	動画⑨「鎌倉3」・文法チェックテスト	文型①：子どもが生まれるまえに、服などを買っておきます。 文型②：帰りは船で帰るのがおすすめです。
2回目	作文・発表準備・発表	「誕生会をします。何を準備しておきますか。」
3回目		文型①：絵馬に願い事が書いてあります。
4回目	動画⑩「上野公園」	文型②：お茶屋さんでお団子が食べられます。
5回目	文法チェックテスト・作文発表準備・発表	「みなさんの家族、ペット、友達を紹介してください。」
6回目		文型①：たくさんの 外国人が横浜に住みはじめました。
7回目	動画⑪「横浜1」	文型②：家族のために働きます。
8回目	文法チェックテスト・作文発表準備・発表	「どうして日本に留学したいですか。」
9回目		文法①：あの店は何を食べてもおいしいです。
10回目	動画⑫「横浜2」	文法②：屋上から花火が見えます。／海が近いので船の音が聞こえます。
11回目	文法チェックテスト・作文発表準備・発表	「みなさんの好きな景色を教えてください。」
12回目		文法①：せめて話を聞くだけでもお願いします。
13回目	動画⑬「横浜3」	文法②：次回受ける試験は12月です。(名詞修飾)
14回目	文法チェックテスト・作文発表準備・発表	「町のシンボルについて発表してください。」
15回目		文法①：今年は 去年ほど 寒くないです。
16回目	動画⑭「着物」	文法②：着物が落ちないように、ひもで強く結びます。
17回目	文法チェックテスト・作文発表準備・発表	文法③：日本語が上手になるように毎日練習しています。 「あなたの国で注意しなければならないことは何ですか。」
18回目	動画⑮「生け花を体験」	文法①：わたしはホアさんにお花をもらいました。 わたしは社長にお土産をいただきました。
19回目		文法②：わたしは友達に本を貸してもらいました。 わたしは先生に生け花を教えていただきました。
20回目	文法チェックテスト作文発表準備・発表	文法③：ジョンさんはわたしにチョコレートをくれました。 社長はお土産をくださいました。 「だれかに何かしてもらって、嬉しかったことはありますか。」
21回目		
22回目	動画⑯「两国散策」	文法：わたしは泥棒にさいふを盗まれました。
23回目	文法チェックテスト・作文発表準備・発表	「友達の国について調べてみよう。」
24回目		
25回目	前期修了テスト 会話テスト	
テキスト	パワーポイント 動画	
成績評価	小テスト30%、修了テスト50%、発表20% (100%) S：90%以上、A：89～80%、B：79～70%、C：69～60%、F：59%以下	

2.事業内容

使用教材等

1. A2後期3カ月 教材一覧

教材名	ファイル形式
1回目-2回目_A2動画-鎌倉3 PPT完成版(2)	.pptx
3回目-5回目_A2動画「上野公園」完成版	.pptx
6回目-8回目_A2動画-横浜1 PPT完成版(1)	.pptx
9回目-11回目_A2動画-横浜2 PPT完成版	.pptx
15回目-17回目_A2動画-着物PPT完成版	.pptx
18回目-20回目_A2動画-生け花PPT完成版	.pptx
21回-23回_A2動画-両国PPT完成版	.pptx



【資料】“6回目-8回目_A2動画-横浜1 PPT完成版(1)”の例

問4

A: カッコいい時計とけいですね。

B: ええ、姉あね(____)くれました。

a)に b)が

【資料】“18回目-20回目_A2動画-生け花PPT完成版”の例

※「学生用マニュアル (.pdf)」は、A1前期と同様

2.事業内容

モデル1 B1クラス前期

取組概要／カリキュラム／シラバス

講座名	B1クラス (N3レベル)	
講座の目標	本講座は、言語知識を増やし、身近な話題に関する内容の理解・発言ができるようにする。オリジナル動画をみて、日本の町や文化に触れ、日本の社会文化について考えを深める。身近な話題について、出来事や希望などを説明し、根拠を示しながら自分の意見を具体的に述べられるようにする。	
講座の概要	動画を見ながらレベルに合わせた日本語を勉強し、身近な話題について理解する。動画に関連する日本文化やポップカルチャーに触れ、日本を理解する。日本での日常生活で出会う話題について、会話の表現を勉強し、練習する。期間は3カ月、2時間/週3回、授業回数25回、合計時間 50時間	
学習項目	学習内容	
1回目	動画① 「たこ焼き」 N3文法「～を通して」「うちに」 場面別会話1「引っ越し」	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。 N3文法「～を通して」「うちに」を勉強する。
2回目	動画② 「浅草」	「引っ越し」という場面で使う会話の表現を勉強し、練習する。
3回目	N3文法「おかげ/せい」「あいだ	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。
4回目	(に)」	
5回目	動画③ 「生け花」	N3文法「おかげ/せい」「あいだ(に)」を勉強する。
6回目	N3文法「～ば～ほど」「ほど～	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。
7回目	ない」	
8回目	自己紹介	N3文法「～ば～ほど」「ほど～ない」を勉強する。
9回目	動画④ 「原宿」	自己紹介のやり方を説明し、学生に自己紹介させる。
10回目	N3文法「こそ」「たびに」	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。
11回目	日本文化1「神社とおみくじ」	
12回目	動画⑤ 「両国」	N3文法「こそ」「たびに」を勉強する。
13回目	N3文法「さえ」「ているばかり」	日本文化「神社とおみくじ」について説明し理解を深める。
14回目	日本文化2「相撲」	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。
15回目	発表「おすすめのお土産・特産	
16回目	品」	N3文法「さえ」「ているばかり」を勉強する。
17回目	動画⑥ 「のり巻き」	日本文化「相撲」について説明し理解を深める。
18回目	N3文法「に対して」「にとって」	自分の国・地域のお土産や特産品について発表させる。
19回目	場面別会話2「買い物」	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。
20回目	動画⑦ 「伊豆」	
21回目	N3文法「敬語Ⅰ」	N3文法「に対して」「にとって」を勉強する。
22回目	動画⑧ 「レストラン」	「買い物」という場面で使う会話の表現を勉強し、練習する。
23回目	N3文法「敬語Ⅱ」	
24回目	場面別会話3「ラーメン」	日本文化3「お菓子と「映え」」
25回目	修了テスト カウンセリング	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。 尊敬語について勉強する。

2. 事業内容

使用教材等

1. B1前期3カ月 教材一覧

教材名	ファイル形式
1回目 動画「たこ焼きを作ろう！」B1シート	.pptx
2回目 N3文法「～を通して・うちに」	.pptx
3回目 場面別会話1「引っ越し」	.pptx
4回目 動画「浅草に行ってみよう！」B1シート	.pptx
5回目 N3文法「おかげ・せい、あいだ（に）」	.pptx
6回目 動画「生け花を体験しよう！」B1シート	.pptx
7回目 N3文法「～ば～ほど・ほど～ない」	.pptx
8回目 自己紹介しよう	.pptx
9回目 動画「原宿に行ってみよう！」B1シート	.pptx
11回目 日本文化1「神社とおみくじ」	.pptx
12回目 動画「両国で相撲について勉強しよう！」B1シート	.pptx
13回目 N3文法「さえ・ばかり」	.pptx
14回目 日本文化2「すもう」	.pptx
16回目 動画「のり巻きを作ろう！」B1シート	.pptx
17回目 N3文法「に対して・にとって」	.pptx
18回目 場面別会話2「買い物」	.pptx
19回目 動画「伊豆に行ってみよう！」B1シート	.pptx
20回目 N3文法「尊敬語」	.pptx
21回目 動画「レストランで注文してみよう！」B1シート	.pptx
22回目 N3文法「お～です」「お～ください」「お～いただく・くださる」	.pptx
23回目 場面別会話3「ラーメン」	.pptx
23回目 日本文化3「お菓子と「映え」」	.pptx

★自己紹介【例】

- 名前・・・
- 好きなこと、趣味、好きな人（応援/尊敬している人）
 - アニメのキャラクターを考えることが好きです。
 - 趣味は「アニメのキャラクターを考えること」です。
 - 好きな人は「嵐」の二宮くんです。（二宮君のファンです。）



【資料】“自己紹介しよう”の例

特別な尊敬の動詞

いらっしゃいます、おっしゃいます、
ごらんになります、なさいます、
めしあがります、ごぞんじです

【資料】“N3文法「尊敬語」”の例

※「動画教材を利用した日本語教育プログラム 教師用マニュアル (.pdf)」「学生用マニュアル (.pdf)」は、A1前期と同様

2. 動画教材

教材名	ファイル形式
両国	.mp4
伊豆	.mp4
原宿	.mp4
浅草	.mp4
レストラン	.mp4
のり巻き	.mp4
生け花	.mp4
たこ焼き	.mp4

2. 事業内容

モデル1 B1クラス後期

取組概要／カリキュラム／シラバス

講座名	B1 クラス (N3レベル)	
講座の目標	<p>本講座は、言語知識を増やし、身近な話題に関する内容の理解・発言ができるようにする。 オリジナル動画を見て、日本の町や文化に触れ、日本の社会文化について考えを深める。 身近な話題について、出来事や希望などを説明し、根拠を示しながら自分の意見を具体的に述べられるようにする。</p>	
講座の概要	<p>動画を見ながらレベルに合わせた日本語を勉強し、身近な話題について理解する。 動画に関連する日本文化やポップカルチャーに触れ、日本を理解する。 日本での日常生活で出会う話題について、会話の表現を勉強し、練習する。 期間は3カ月、授業回数 25 回、2 時間/回、合計時間 50 時間</p>	
学習項目	学習内容	
1 回目	動画⑨「鎌倉 1」	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。
2 回目	N3 文法「に違いない」「しかない」	N3 文法「に違いない」「しかない」を勉強する。
3 回目	場面別会話 4「電車」	電車に乗るという場面で使う会話の表現を勉強し、練習する。
4 回目	動画⑩「鎌倉 2」	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。
5 回目	N3 文法「によって (手段)」「V きる」	N3 文法「によって (手段)」「V きる」を勉強する。
6 回目	日本文化 4「和食 (世界遺産)」	世界遺産である和食について説明し理解を深める。
7 回目	動画⑪「鎌倉 3」	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。
8 回目	N3 文法「縮約形」	N3 文法「縮約形」を勉強する。
9 回目	場面別会話 5「ゴミ捨て」	ゴミを捨てるという場面で使う会話の表現を勉強し、練習する。
10 回目	動画⑫「横浜 1」	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。
11 回目	N3 文法「ようだ (例示)」「っぱなし」	N3 文法「ようだ (例示)」「っぱなし」を勉強する。
12 回目	発表「いまはやっている〇〇」	自分の国や周りではやっているものについて発表させる。
13 回目	動画⑬「横浜 2」	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。
14 回目	N3 文法「わけではない」「わけがない」	N3 文法「わけではない」「わけがない」を勉強する。
15 回目	場面別会話 6「病気」	病院に行くという場面で使う会話の表現を勉強し、練習する。
16 回目	動画⑭「横浜 3」	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。
17 回目	N3 文法「はず／はずがない」「だけでなく」	N3 文法「はず／はずがない」「だけでなく」を勉強する。
18 回目	日本文化 5「節句」	日本文化「節句 & 祝日」について説明し理解を深める。
19 回目	動画⑮「上野公園」	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。
20 回目	N3 文法「連用中止形」	連用中止形について勉強する。
21 回目	動画⑯「着物」	動画を見て、語彙と文法を勉強し、会話と作文の練習をする。
22 回目	N3 文法「させてくれる」「使役受身」	N3 文法「させてくれる」「使役受身」を勉強する。
23 回目	場面別会話 7「美容院」	美容院で使う会話の表現を勉強し、練習する。
	日本文化 6「kimono kawaii ファッション」	「kimono kawaii メイクとファッション メイクなど」について説明する。
24 回目	修了テスト	
25 回目	カウンセリング	
テキスト	動画 パワーポイント	
成績評価	修了テスト 80%、発表 20% (100%) S : 90%以上、A : 89~80%、B : 79~70%、C : 69~60、F : 59%以下	

2. 事業内容

使用教材等

1. B1後期3カ月 教材一覧

教材名	ファイル形式
1回目 動画「鎌倉に行ってみよう！」B1シート	.pptx
2回目 N3文法「～にちがいない・～しかない」	.pptx
3回目 場面別会話4「電車」	.pptx
4回目 動画「江ノ電に乗って鎌倉を探検しよう！」B1シート	.pptx
5回目 N3文法「～によって（手段）・～きる/きれる」	.pptx
6回目 日本文化4「和食」	.pptx
7回目 動画「鎌倉で人気のある場所に行ってみよう！」B1シート	.pptx
8回目 N3文法「縮約形」	.pptx
9回目 場面別会話5「ゴミ捨て」	.pptx
10回目 動画「横浜山手西洋館に行ってみよう！」B1シート	.pptx
13回目 動画「山手イタリア山庭園、横浜中華街、大さん橋に行ってみよう！」	.pptx
14回目 N3文法「～わけではない・～わけがない」	.pptx
15回目 場面別会話「病院」	.pptx
16回目 動画「横浜みなとみらいに行ってみよう！」B1シート	.pptx
17回目 N3文法「～はずだ/はずがない・～だけでなく」	.pptx
18回目 日本文化5「節句」	.pptx
19回目 動画「春の上野公園へ行ってみよう！」B1シート	.pptx
20回目 N3文法「連用中止形」	.pptx
21回目 動画「着物を着て浅草を街歩きしよう！」B1シート	.pptx
22回目 N3文法「させてくれる/させてくださる・使役受身」	.pptx
23回目 場面別会話7「美容院」	.pptx
23回目 日本文化6「kimono・kawaii」	.pptx

会話① ICカードを買う

すみません。
Suicaを買いたいです。
おし
教えてください。

電車に乗るときは最初にSUICAかPASMOを買うと便利です。
切符を買って乗ることもできますが、切符のほうが値段が少し高いです。
どちらも、すべての交通機関で使うことができます。(地下鉄、バス、タクシーなど)また、買い物にも使うことができます。

【資料】「場面別会話4「電車」」の例

接続 ～わけがない

V(普通形)+わけではない
 イA(普通形)+わけではない
 ナだな/である+わけではない
 Nだの/である+わけではない

【資料】「N3文法「～わけではない・～わけがない」」の例

※「動画教材を利用した日本語教育プログラム 教師用マニュアル (.pdf)」「学生用マニュアル (.pdf)」はA1前期、「動画教材」は、B1前期と同様

2.事業内容

モデル2 概要

市販のオンデマンド教材を利用した反転授業型のオンライン（双方向）授業の教材とカリキュラムの開発

取組の内容・目的

オンデマンド教材として「eTRY!START, eTRY!N5, eTRY!N4」（株式会社アスク出版）を利用して、語彙・文法・文型等を習得させながら、反転授業型のオンライン（双方向）授業を行う。実証のためのオンライン教育の実施は6か月間（20週）としているが、3か月ごとに完結するプログラムとして計画されているため、3か月間（10週）のみの実施が可能となっている。参加学習者のオンデマンド教材を使用した標準的な自習時間は、10時間/週（週3～4回程度）、6か月間合計200時間を想定している。またオンライン教育の標準的な実施頻度は、1週間で3回（1回2時間）、全20週（6か月）で合計120時間となるように計画されている。

取組により期待される効果・成果、成果物及びその活用方法

時と場所を選ばずに自習できるオンデマンド教材により身に着けた言語知識をオンライン（双方向）授業において実際の言語活動を行わせることで、学習者のその言語知識の定着を強化させるとともに教師も学習者の理解を確認できることから教育効果を上げることができ

2.事業内容

モデル2 コース1

取組概要／カリキュラム／シラバス

- * オンラインライブ対面・・・6時間/週
- * 自主学習・・・
 - a)オンデマンド視聴①（3時間/週）
 - b)オンデマンド視聴②（1時間/週）
 - c)その他の自主学習（6時間/週）

		DAY-1	DAY-2	DAY-3	DAY-4	DAY-5	
オンライン対面	オンラインライブ (etry・いろどり・うごく絵本ライブラリ)	2時間	2時間	2時間			6時間/週
自主学習	オンデマンド視聴① (etry・いろどり)	1時間	1時間	1時間			3時間/週
	オンデマンド視聴② (うごく絵本ライブラリ)	1時間					1時間/週
	その他の自主学習 (オンラインライブの課題)	1.5時間	1.5時間	1.5時間	1.5時間		6時間/週

実証授業効果検証に関して

- 1) 受講期間中2回試験を実施
 - 1回目：開始時
 - 2回目：修了時
- 2) 試験内容
 - a)ALAが開発した初級向け口頭テストで発話能力・会話能力を測定
 - b)ALAのプレイスメントテスト（筆記）で言語知識理解能力を測定
- 3) 結果の取りまとめに関して
 - 1回目と2回目の試験は同じ内容のもので行う
 - * 1回目の試験の後、フィードバックはしない
 - 受講生ごとに簡易レポートを作成する

2. 事業内容

使用教材等

1. モデル2 コース1 教材一覧

教材名	ファイル形式
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W1D1	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W1D3	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W2D1	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W2D2	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W2D3	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W3D1	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W3D2	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W3D3	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W4D1	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W4D2	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W4D3	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W5D1	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W5D2	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W5D3	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W6D1	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W6D2	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W6D3	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W7D1	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W7D2	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W7D3	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W8D1	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W8D2	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W8D3	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W9D1	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W9D2	.pdf
実証取組モデル2 コース1 【教材】 W9D3	.pdf

<p>第1週 DAY-1</p> <p>1)</p> <p>A: すずきさんですか。 Suzuki san desu ka?</p> <p>B: はい、すずきです。 Hai, Suzuki desu.</p> <p>A: _____さんですか。 _____ san desu ka?</p> <p>B: はい、_____です。 Hai, _____ desu.</p> <p>2)</p> <p>A: ヤンです。どうぞよろしく。 Yan desu. Doozo yoroshiku.</p> <p>B: すずきです。こちらこそ、よろしくおねがいします。 Suzuki desu. Kochirakoso, yoroshiku onegaishimasu.</p> <p>A: _____です。どうぞよろしく。 _____ desu. Doozo yoroshiku.</p> <p>B: _____です。こちらこそ、よろしくおねがいします。 _____ desu. Kochirakoso, yoroshiku onegaishimasu.</p>
--

【資料】“実証取組モデル2 コース1 【教材】 W1D1”の例

<p>第8週 DAY-1</p> <p>1) 【Nの】</p> <p>A: これは どのの くらまでですか。 B: イタリアのです。</p> <p>A: _____は どのの _____ですか。 B: _____のです。</p> <p>2) 【I-Aの】</p> <p>A: この くらいのは だれのかさですか。 B: さんのです。</p> <p>A: _____のは だれの _____ですか。 B: _____のです。</p> <p>3) 【N-Aの】</p> <p>A: その きれいなのは どののしやんですか。 B: ほんかいどうのです。</p> <p>A: _____なののは どのの _____ですか。 B: _____のです。</p> <p>4)</p> <p>A: どんな くつが いいですか。 B: じょうぶなのを ください。</p> <p>A: どんな _____が いいですか。 B: _____のを ください。</p>

【資料】“実証取組モデル2 コース1 【教材】 W8D1”の例

2. 事業内容

2. Q&Aワークシート

教材名	ファイル形式
動く絵本コース1_W3D2ウサギとカメ	.pdf
動く絵本コース1_W4D2落とし物がいっぱい	.pdf
動く絵本コース1_W5D3助けて	.pdf
動く絵本コース1_W6D3良さんのクリスマス	.pdf
動く絵本コース1_W7D2北風と太陽	.pdf
動く絵本コース1_W8D2七夕	.pdf

ウサギとカメ～イソップ物語より～

【Q&A ワークシート】

- Q1 ウサギは、足が 速い ですか？ 遅い ですか？
 Q2 カメは、足が 速い ですか？ 遅い ですか？
 Q3 カメは、ウサギに「遅くないですよ」と言いましたか？
 「遅いですよ」と言いましたか？
 Q4 ウサギと カメは、いっしょに 何をしましたか？
 Q5 ウサギは、大きな木の下で 何をしましたか？
 Q6 カメは、ウサギといっしょに 寝ましたか？
 Q7 カメは、ウサギのあとで 山の上に 来ましたか？
 Q8 カメは、ウサギに 何と言いましたか？

【資料】“動く絵本コース1_W3D2ウサギとカメ”の例

風と太陽～イソップ物語より～

【Q&A ワークシート】

- Q1 風は、「わたしは、とても 強い」と言いましたか？
 Q2 太陽は、何と 言いましたか？
 Q3 それから、風は、何と 言いましたか？
 Q4 太陽は、雲の中に 入りましたか？
 Q5 風は、冷たい風を 吹きましたか？
 Q6 男は、「寒い」と言いました。風は、何を しましたか？
 Q7 風は、つかれましたか？
 Q8 太陽は、すこし 雲の中から 顔を出しました。男は、なんと 言いましたか？
 Q9 太陽は、もっと 顔を 出しました。男は、何と 言いましたか？
 Q10 太陽は、雲から 出ました。男は、何と 言いましたか？
 Q11 男は、服を ぬぎましたか？

【資料】“動く絵本コース1_W7D2北風と太陽”の例

3. テスト

教材名	ファイル形式
スピーチテスト（コース1）	.tsv
書くテスト（コース1）	.xlsx

(コース1) テスト4 かくテスト	ぶん (20分)
Course 1 Test 4 Essay	
もんだい：じこしょうかい	
あなたのことを かいてください。	
Topic: selfintroduction Introduce yourself in Japanese.	
Đề bài: Giới thiệu bản thân	
Hãy viết về bản thân bạn.	
作文題目：自我介绍	
请写一下自我介绍。	

【資料】“書くテスト（コース1）”

2.事業内容

モデル2 コース2

取組概要／カリキュラム／シラバス

- * オンラインライブ対面・・・6時間/週
- * 自主学習・・・a)オンデマンド視聴①（3時間/週）
b)オンデマンド視聴②（1時間/週）
c)その他の自主学習（6時間/週）

		DAY-1	DAY-2	DAY-3	DAY-4	DAY-5	
オンライン 対面	オンラインライブ (etry・いろどり・うごく 絵本ライブラリ)	2時間	2時間	2時間			6時間/週
自主学習	オンデマンド視聴① (etry・いろどり)	1時間	1時間	1時間			3時間/週
	オンデマンド視聴② (うごく絵本ライブラリ)	1時間					1時間/週
	その他の自主学習 (オンラインライブの課 題)	1.5時間	1.5時間	1.5時間	1.5時間		6時間/週

実証授業効果検証に関して

- 1) 受講期間中2回試験を実施
 - 1回目：開始時
 - 2回目：修了時
- 2) 試験内容
 - a)ALAが開発した初級向け口頭テストで発話能力・会話能力を測定
 - b)ALAのプレイスメントテスト（筆記）で言語知識理解能力を測定
- 3) 結果の取りまとめに関して
 - 1回目と2回目の試験は同じ内容のもので行う
 - * 1回目の試験の後、フィードバックはしない
 - 受講生ごとに簡易レポートを作成する

2. 事業内容

使用教材等

1. モデル2 コース1 教材一覧

教材名	ファイル形式
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W1D1	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W1D2	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W1D3	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W2D1	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W2D2	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W2D3	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W3D1	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W3D2	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W3D3	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W4D1	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W4D2	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W4D3	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W5D1	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W5D2	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W5D3	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W6D1	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W6D2	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W6D3	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W7D1	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W7D2	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W7D3	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W8D1	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W8D2	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W8D3	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W9D1	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W9D2	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W9D3	.pdf
実証授業モデル2 コース2 【教材】 W10D3	.pdf

第9週 DAY-1

1) A: すみません、ちんご を 8つ ください。
B: はい、あげがとつございます。300円 です。
A: はい。

A: すみません、_____ を _____ ください。
B: はい、あげがとつございます。_____ 円です。
A: はい。

① 茶 X 2
② シヤツ X 5
③ みかん X 6
④ みさ X _____
⑤ ビール X _____

2) A: すみません、おねい、あげますか。
B: はい、こちらほ いちびですから、きれいですよ。
A: 目録のですか。
B: はい、セラーのです。10,000円です。
A: もっと 安いのを、あげませんか。
B: はい、こちらほ 20,000円です。
A: うーん、ちよっと……/ いいですね、じゃあ、それを ください。

A: すみません、_____、あげますか。
B: はい、こちらほ いちびですから、_____ 上。
A: _____ のですか。
B: はい、ハワイ、_____ のです。_____ 円です。
A: もっと 安いのを、あげませんか。
B: はい、こちらほ _____ 円です。
A: うーん、ちよっと……/ いいですね、じゃあ、それを ください。

【資料】“実証授業モデル2 コース2 【教材】 W2D1”の例

第9週 DAY-3

1) A: いつから 日本語を勉強していますか。
B: 高校のとき、すこし 勉強しました。
A: そうですか。

A: いつから _____ ていますか。
B: _____ のとき、_____。
A: そうですか。

A: うれしいとき、なにをしますか。
B: ダンスをします。
A: いいですね。

A: うれしいとき、/ お祝いとき、なにをしますか。
B: _____。
A: いいですね。

A: ひまなとき、なにをしますか。
B: ゲームをします。
A: そうですか、わたしも、です。

A: ひまなとき、なにをしますか。
B: _____。
A: そうですか、_____。

【資料】“実証授業モデル2 コース2 【教材】 W9D3”の例

2. 事業内容

2. Q&Aワークシート

教材名	ファイル形式
動く絵本コース 2_W3D2 どうしてエビの体は曲がった？	.pdf
動く絵本コース 2_W4D2 バス／タクシー	.pdf
動く絵本コース 2_W5D3 浦島太郎	.pdf
動く絵本コース 2_W6D2 笠地蔵	.pdf
動く絵本コース 2_W7D1 ハチの話	.pdf
動く絵本コース 2_W9D3 女の子	.pdf
動く絵本コース 2_W10D2 舌切り雀	.pdf

浦島太郎
【Q&A ワークシート】
Q1 太郎とお母さんは、どこに 在んでいましたか？
Q2 太郎は、毎朝、どこへ 行きますか？
Q3 そして、荷を しますか？
Q4 子どもたちは、荷を たいいていますか？
Q5 太郎は、子どもたちに 荷を あげましたか？
Q6 太郎は、子どもたちに 荷を もらいましたか？
Q7 カメは、どこへ 帰りましたか？
Q8 カメは、太郎と いっしょに どこへ 行きたいですか？
Q9 カメと太郎は、どこへ 入りましたか？
Q10 きれいな女の人、だれですか？
Q11 太郎は、毎日、りゅうぐうじょうで 荷を しましたか？
Q12 どうして 太郎は、うちへ 帰りますか？
Q13 おとひめさまは、太郎に 荷を あげましたか？
Q14 太郎のうちは、ありましたか？
Q15 太郎のお母さんは、いましたか？
Q16 荷箱前、うちが ありましたか？
Q17 太郎は、ほこを あげました。ほこの中から 荷が 出ましたか？
Q18 太郎は、ほこを あげました。それから、太郎は、まだ わからいですか？

【資料】“動く絵本コース 2_W5D3浦島太郎”

舌切り雀
【Q&A ワークシート】
Q1 おじいさんは、まいにち どこへ 行きますか？
Q2 おじいさんは、すずめと いえへ 帰りましたか？
Q3 おばあさんは、すずめが すきですか？ きらいですか？
Q4 おばあさんは、荷で せんたくのりを 作りましたか？
Q5 どうして おばあさんは、すずめのしたを 切りましたか？
Q6 おじいさんは、山で すずめと 会いましたか？
Q7 おじいさんは、すずめと どこへ 行きましたか？
Q8 おじいさんは、すずめのいえで 荷を しましたか？
Q9 おじいさんは、すずめに 荷を もらいましたか？
Q10 はこの 中に 荷が ありましたか？
Q11 おばあさんは、おちやとおかしが ほしいですか？
Q12 おばあさんは、荷が ほしいですか？
Q13 おばあさんは、大きいほこと 小さいほこと どちらが いいですか？
Q14 おばあさんが もらった ほこの中は、荷でしたか？

【資料】“動く絵本コース 2_W10D2舌切り雀”

3. テスト

教材名	ファイル形式
スピーチテスト (コース 2)	.tsv
書くテスト (コース 2)	.xlsx

(コース 2) テスト 4 かくテスト
Course 2 Test 4 Essay
もんだい：たのしかった りょこう
たのしかったりょこうのことを 書いてください。／
Topic : Fun trip
Write about your experience of trip.
Đề bài: Chuyến du lịch vui vẻ
Hãy kể về một chuyến du lịch vui vẻ.
作文題目：快乐的旅行
请分享一下快乐的旅行经历。

【資料】“書くテスト (コース 2)”

2.事業内容

モデル3 概要

オンライン（双方向）授業の日本語教育プログラム及び ひらがな・カタカナのオンデマンド教材

取組の内容・目的

本取組では待機学生の多くを占める初級学習者を対象に、多くの日本語教育機関が使い慣れた教材である「みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ」電子版教材を主教材として使用し、教室授業に最も近い形式であるオンライン（双方向）授業のオンライン日本語教育プログラムを開発した。このオンライン日本語教育プログラムを実施することによりオンライン授業の導入の検討もしくは導入後間もない日本語教育機関の教師においても安易に利用できるプログラムとなるよう配慮している。また日本語未習者や初歩の学生でも興味をもってオンライン（双方向）授業を受けられるようにひらがな・カタカナの読み方、書き方や簡単な挨拶などを学習できるオンデマンド教材も併せて開発した。

実証のためのオンライン教育の実施は6か月間（20週）としているが、3か月ごとに完結するプログラムとして計画されているため、3か月間（10週）のみの実施が可能となっている。本プログラムは参加学習者が、ほとんど学習経験のない学習者やひらがな・カタカナの学習が必要な学習者を対象としたオンデマンド教材が準備されているが、この場合のオンデマンド教材を使用した標準的な自習時間は、3.75時間/週（週5回）、合計19時間を想定している。またオンライン教育の標準的な実施頻度は、1週間で5回（1回3時間）、全20週（6か月）で合計300時間となるように計画されている。

取組により期待される効果・成果、成果物及びその活用方法

教師が本取組のオンライン日本語教育プログラムを実施することにより基本的な機材の利用方法や効果的なオンライン（双方向）授業の実施方法を学ぶことができ、スムーズにオンライン授業を行えることを実感するようになる。これにより教師はオンライン授業実施の不安から解放され、通常の教室で行う授業と同様に学習者と向き合うことができるようになる。また、本事業で学習未経験者等向けに開発したオンデマンド教材の使用を体験し、短期間ではあるが、ハイブリッド型の教育手法も学ぶことができる。これらにより、多くの日本語教育機関に対して積極的なオンライン授業導入を促すことが期待できる。

2. 事業内容

取組概要／カリキュラム／シラバス

1, 取り組みのねらい

入国前の外国人留学生、特に初級学習者に対し、多くの日本語教育機関が利用している「みんなの日本語I/II」電子版を主教材とし、普段の教室授業に近いオンライン教育実証を行う。また、日本語未習者や初歩の学生でも興味をもって授業を受けられるよう、ひらがな・カタカナの読み方・書き方や簡単な挨拶などを学習できるオンデマンド動画教材を取り入れる。

2, 実証取組モデル3の概要

想定学習対象者	オンライン生：未入国の入学予定者・入学希望者(2022年7月生以降)、在留資格「留学」以外の学習者で、日本国外若しくは、国内遠隔地の居住者等	
開始学習レベル	ゼロレベル	
目標到達レベル	A1(N5)、A2(N4)	
想定対象人数	オンラインライブ 計10名	
授業時間 (例)	週5日(月-金)、日本時間13時から16時半	
総学習時間	ライブ150時間(3時間/日)+ オンデマンド5時間(10分×26回)	ライブ150時間(3時間/日)
	①初級1：ライブ150時間 (3時間/日×50日) (副教材) オンデマンド5時間 (10分×26回)	②初級2：ライブ150時間 (3時間/日×50日)
授業方式	オンラインライブ+オンデマンド	オンラインライブ
推奨インターネット環境	上り下り3Mbps以上(15Mbps以上推奨)	
必要機材	PC、PCマイク※、PCカメラ※、三脚※、作業台 (※ノートパソコンを使用の場合は不要)	
想定するオンライン学生の受講環境	PCまたはスマートフォンで受講(2台目のスマートフォン、PCやタブレットは利用できない想定)、通信環境あり。	
使用教材	オンライン教材	みんなの日本語初級Ⅰ第2版オンライン版 (本冊、翻訳・文法解説、標準問題集、漢字 英語版) みんなの日本語初級Ⅰ第2版聴解タスク25音声アプリ
	オンデマンド教材	挨拶、ひらがな、濁音、拗音、促音、カタカナ、長音、数字(1~10)、数字(10~100)、全26項目
	教員用	みんなの日本語初級Ⅰ第2版(本冊付属CDの音声)
評価方法	小テスト、定期テスト、授業態度、オンデマンド習得度*から総合的に評価 (※初級Ⅱでは使用しない)	

2. 事業内容

使用教材等

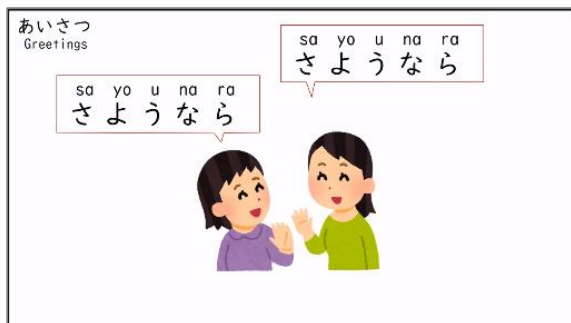
1. 使用教材 概要

教材種類	教材名	利用方法	著作権上の留意点	必要数	
オリジナル教材	ひらがな・カタカナ動画	オンデマンドで動画を視聴して、ひらがな・カタカナの読み書きを学習する。	—	受講者数+教師分	
オンライン教材	みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ第2版オンライン版	本冊	学生は電子版の書籍を持って、教師は電子版を画面共有して使用する。	「電子版」をオンラインの学生と教師の分購入すれば、画面共有で利用可能。	オンライン生分+教師分
		漢字 英語版・ベトナム語版			
		標準問題集	学生は電子版を持って、テストまたは宿題として答えをノートに記入。	本冊、漢字英語版と同じ扱い	
		漢字練習帳	学生は電子版を持って、テストまたは宿題として答えをノートに記入。	本冊、漢字英語版と同じ扱い	オンライン生分+教師分
		書いて覚える文型練習帳	学生は電子版を持って、テストまたは宿題として答えをノートに記入。	本冊、漢字英語版と同じ扱い	オンライン生分+教師分
		翻訳・文法解説	学生は電子版の書籍を持って、予習・復習用（宿題）として使用する。	クラス全員分購入なのでOK	学生全員分
通常教材	みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ第2版 本冊付属CDの音声	問題や会話の音声を共有する。	受講者数分の『みんなの日本語初級本冊』（電子）を購入している状況であれば、申請不要でwebsiteからダウンロードした音声を音声共有利用可能。		

2.事業内容

2. モデル3 オリジナル教材一覧

教材名	ファイル形式
長音	.mov
拗音_促音1_拗音	.mov
拗音_促音2_拗音	.mov
あいさつ	.mov
1_すうじ 1~10	.mov
2_すうじ 11~100	.mov
1_あ行	.mov
2_か行	.mov
3_さ行	.mov
4_た行	.mov
5_な行	.mov
6_は行	.mov
7_ま行	.mov
8_や行	.mov
9_ら行	.mov
10_わ行	.mov
11_濁音半濁音_ひらがな	.mov
1_ア行	.mov
2_カ行	.mov
3_サ行	.mov
4_タ行	.mov
5_ナ行	.mov
6_ハ行	.mov
7_マ行	.mov
8_ヤ行	.mov
9_ラ行	.mov
10_ワ行	.mov
11_濁音半濁音_カタカナ	.mov



【資料】“あいさつ”の一場面



【資料】“6_ハ行”の一場面

2.事業内容

モデル4 概要

ハイフレックス型のオンライン日本語教育プログラム

取組の内容・目的

海外の待機学生を日本国内の教室で行うリアルな対面授業に双方向オンラインで参加させながら授業を実施するが、多くの日本語教育機関が使い慣れた教材である「みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ」電子版教材を主教材として使用したオンライン日本語教育プログラムの開発と初級文法項目復習のためのオンデマンド教材を開発し、サンプル教材を提示する。対面とオンラインの学生をハイブリッドで行う場合は、対面だけもしくは、オンラインだけの場合と異なり、映像、画像、音声の共有においてアナログ的な手法も組み合わせることが必要であり、機材選定・運用はもとより、教師の授業コントロールともに難易度が高いため、避けられる傾向にある。また、現在実施されているものは、対面学習者優先もしくは、オンライン学習者優先となりがちであり、オンライン学習者が十分な臨場感を持って双方向参加ができているとは言い難い。一方、今後の日本語教育を考えた場合、対面とオンラインの学生のハイブリッド授業は、海外でオンライン受講している学生が途中で来日して、教室で学習する学生となるようなときに授業の継続が容易であり、学習者と日本語教育機関両者へのメリットがある。これらの問題意識に基づき、よりシンプルで教師の負担が軽いハイブリッド授業モデルの開発とサンプルを提示するためにオンデマンド教材を開発した。

実証のためのオンライン教育の実施は6か月間（20週）としているが、3か月ごとに完結するプログラムとして計画されているため、3か月間（10週）のみの実施が可能となっている。参加学習者のオンデマンド教材を使用した標準的な自習時間は、2.5時間／週（週5回）、6か月間合計50時間を想定している。またオンライン教育の標準的な実施頻度は、1週間で5回（1回3時間）、全20週（6か月）で合計300時間となるように計画されている。

取組により期待される効果・成果、成果物及びその活用方法

ハイブリッドモデルの提示により、従来避けられがちであったハイブリッド授業の実施が促進される。さらに、オンデマンド教材サンプルの提示により、各日本語教育機関でのオンデマンド教材作成が容易に実施されることが期待される。

2.事業内容

取組概要／カリキュラム／シラバス

1, 取り組みのねらい

対面とオンラインの学生をハイブリッドで行う場合は、対面だけでもしくはオンラインだけの場合と異なり、映像、画像、音声の共有においてアナログ的な手法も組み合わせる方法が必要であり、機材選定・運用はもとより、教師の授業コントロールともに難易度が高いため、避けられる傾向がある。また、対面生優先もしくは、オンライン生優先となり勝ちであり、十分にオンライン生が臨場感を持って双方向参加ができているとは言い難い。

一方、今後の日本語教育を考えた場合、対面とオンラインの学生のハイブリッド授業は、海外でオンライン受講している学生が途中で来日して対面生に変わるようなときに授業の接続が容易であることや、対面だけでクラス構成するより学生募集が容易になることで、授業料を低廉に抑えられ、開講頻度もあげられるなど、学習希望者へのメリットも大きい。そのため、よりシンプルで教師の負担が軽いハイブリッド授業を目指し、実践を通じてそれらの知見の蓄積を行う。

また、近年は、オンデマンド授業の実施のためのツールも充実してきており一定の成果を上げているものの、語学学習においてはオンデマンド授業単体では、限界がある。したがって、対面とオンラインのハイブリッド授業に加え、オンデマンド教材を組み合わせたハイフレックス授業を企画し、その効果の実証を行う。

2, 実証取組モデル4の概要

想定学習対象者	オンライン生：未入国の入学予定者・入学希望者(2022年10月生以降)、在留資格「留学」以外の学習者で、日本国外若しくは、国内遠隔地の居住者等 直接対面生：在留資格「留学」以外の学習者で通学可能な範囲の居住者	
開始学習レベル	ゼロレベル	
目標到達レベル	A1(N5)、A2(N4)	
想定対象人数	対面、オンラインライブ計10名	
学習期間	前半3か月	後半3か月
授業時間(例)	週5日(月-金)、日本時間9時から12時半、又は、13時半から17時	
総学習時間	ライブ150時間(3時間/日)+オンデマンド10時間(15分×40回)	ライブ150時間(3時間/日)+オンデマンド6.25時間(15分×25回)
	①入門：ライブ45時間(3時間/日×15日)+オンデマンド3.75時間(15分×15回) ②初級1：ライブ105時間(3時間/日×35日)+オンデマンド6.25時間(15分×25回)	③初級2：ライブ150時間(3時間/日×50日)+オンデマンド6.25時間(15分×25回)
授業方式	リアル対面+オンラインライブ+オンデマンド	
推奨インターネット環境	上り下り3Mbps以上(15Mbps以上推奨)	
必要機材	PC、ipad、PCマイク、PCカメラ、三脚、大型モニター×2、作業台、タッチペン、スピーカー	
使用教材	オンライン教材	みんなの日本語初級1第2版オンライン版(本冊、翻訳・文法解説、標準問題集、漢字英語版) みんなの日本語初級1第2版聴解タスク2.5音声アプリ
	オリジナル教材	表記練習テキスト(著作権フリー、オンライン上の画面共有も、現地で印刷、コピーも可。) オンデマンド復習教材
	通常教材	要 郵 送
教 員 用		みんなの日本語初級1第2版(本冊付属CDの音声、絵教材CD-ROMブック、会話DVD)、絵で導入・絵で練習
評価方法	小テスト、定期テスト、授業態度、オンデマンド習得度から総合的に評価	
実施するテスト	到達度テスト：小テスト(ひらがな・カタカナ・漢字テスト、課テスト)、定期テスト※各校が独自に作成・実施。熟達度テスト：開始前/終了後のテスト	

2. 事業内容

使用教材等

1. 使用教材 概要

教材種類	教材名	利用方法	著作権上の留意点	必要数	
オリジナル教材	ひらがな・カタカナ表記練習テキスト	現物のテキストを現地へ郵送、または、データを現地で印刷し、授業中及び宿題の際、学生が直接記入して利用する。	—	受講者数＋教師分	
オンライン教材	みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ第2版オンライン版	本冊	オンラインの学生は電子版、対面の学生は紙の書籍を持って、教師が画面共有やスクリーンに投影して使用する。	オンライン生分＋教師分	
		漢字 英語版・ベトナム語版			
		標準問題集	オンラインの学生は電子版、対面の学生は紙の書籍を持って、テストまたは宿題としてオンラインの学生は答えをノートに記入、対面の学生は紙にそのまま記入。		本冊、漢字英語版と同じ扱い
	ダウンロード・ストリーミング等	翻訳・文法解説	学生は電子版の書籍を持って、予習・復習用（宿題）として使用する。	クラス全員分購入なのでOK	学生全員分
		聴解タスク2 5 音声アプリ	オンラインの学生、対面の学生ともに紙の書籍を持って、教師が音声アプリの音声を音声共有して使用する。	有料部分(スクリプト表示機能)をオンライン授業で使用しないなら、書籍のみ購入していれば、OK。	教師分
		会話DVD Web ver.	オンラインの学生、対面の学生ともに、授業で映像を見る。	受講者数分の『みんなの日本語初級本冊』（紙または電子）を購入している状況であれば、申請不要で利用可能。	
通常教材	みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ第2版	聴解タスク2 5	オンラインの学生、対面の学生ともに紙の書籍を持って、教師が音声アプリの音声を音声共有して使用する。	学生分購入した書籍をオンライン授業で使う場合、要所要所で学生と今何ページのどの問題を解いているかを 確認する程度（映り込み程度）の利用であれば申請不要。 しかしながら常にお手元の書籍をカメラに映して使うような、「映り込み程度」を超える利用に関しては許可申請が必要。	
		本冊付属CDの音声	問題や会話の音声を共有して問題をする。	受講者数分の『みんなの日本語初級本冊』（紙または電子）を購入している状況であれば、申請不要でwebsiteからダウンロードした音声を音声共有利用可能。	
		絵教材CD-ROMブック	オンラインの学生、対面の学生ともに、授業で絵を見る。	受講者数分の『みんなの日本語初級本冊』（紙または電子）を購入している状況であれば、申請不要で利用可能。	
	絵で導入・絵で練習（凡人社）	オンラインの学生、対面の学生ともに、授業で絵を見る。	申請不要で利用可能		

2.事業内容

2. 授業(ハイブリッド)の特徴と意識すべきポイント

- 通常のオンライン授業、配信授業では味わえないクラスレッスンの臨場感を感じながら学習でき、日本語学校で実施しているオンライン授業の良さとして差別化を図るため、オンラインの学生には、対面の学生の後ろ姿、教師、WBが見えるようにカメラをセッティングして、オンライン授業を聴講しているではなく、あくまで後ろの席からクラスの授業に参加しているようにする。
- そのため板書で示す、絵やカードを教師の手持ち(アナログ)で見せる、対面の学生とのQA練習など画面1つで収まるオンライン授業より教室感を出すようにする
- ハイブリッドというととっつきにくいですが、ICTを駆使する授業方式ではないので、ICTが苦手という教師も比較的取り組みやすい
- 板書に用いるペンは、太字のものをを用いる。
- 対面学生とオンライン学生はQAなどをさせて、クラスメイトという意識を持たせるようにする。
- 機械操作に無駄に時間を使ってしまうと、対面学生に不公平感を与えてしまい、対面の学生だけで完結するようなやりとりがあると、オンライン学生は疎外感を覚えるので、教師は対面学生、オンライン学生がお互い不公平感を持たないように気を配る。

2.事業内容

モデル5 概要

オンライン（双方向）授業とオンデマンドを組み合わせたハイブリッド型のプログラムに母語による学習サポートを加えたオンライン日本語教育プログラム

取組の内容・目的

本取り組みでは、各日本語教育機関が独自に作成したオンデマンド教材及び多くの日本語教育機関が使い慣れた教材である「みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ」電子版教材を主教材として使用し、これを組み合わせたハイブリッド型の授業を行うが、直説法で行う授業に母語によるサポートを加えることにより学生に学習項目を確実に理解させるだけでなく、学習や留学への不安の軽減を図ることができるオンライン日本語教育プログラムを開発した。独自に作成するオンデマンド教材については、各日本語教育機関の教材作成の参考のためにサンプル教材を提示するが、このオンデマンド教材を利用して反転授業型のオンライン（双方向）授業を行うことで、コミュニケーション力の育成を目指すプログラムである。またプログラムにはオンライン語学学習では行い難い「書き」に関して、手書きではなくデバイスへの日本語入力を優先し、LMSを利用した双方向の課題遂行の手法を含んでいる。実証のためのオンライン教育の実施は6か月間（21週）としているが、3か月ごとに完結するプログラムとして計画されているため、3か月間（10.5週）のみの実施が可能となっている。参加学習者のオンデマンド教材を使用した標準的な自習時間は、2時間／週（数回程度）、6か月間合計42時間を想定している。またオンライン教育の標準的な実施頻度は、1週間で3回（1回3時間）、全21週（6か月）で合計189時間となるように計画されている。

取組により期待される効果・成果、成果物及びその活用方法

オンライン授業では、対面授業よりも学習効果が低いと言われているが、対面授業で行う多国籍クラスでは行えない母語によるサポートが、比較的容易に行えるオンライン教育で学んだ学習者の上達を検証できれば、今後のオンライン教育の1つの手法として有効な教授形態となりうることを期待される。また教師は、反転授業型のオンライン（双方向）授業を行うために適切なオンデマンド教材の作成を通して、オンライン教材の作成技量を養うことが期待される。

2.事業内容

取組概要／カリキュラム／シラバス

1, 取組みのねらい

本取組は、以下の3点を主な特徴としている。

- ① 動画による予習と双方向でのオンライン授業を組み合わせる反転授業。
- ② 手書きよりも日本語入力を先行させた文字学習。
- ③ 学習事項の確実な理解、学習や留学への不安軽減を目的とした母語によるサポート。

各特徴のねらいは次のとおりである。

- ①学習者が日本語学習へのモチベーションを維持し、日本語力の向上を目指すようになるには、学習した日本語を実際に使ってコミュニケーションする機会の提供が有効と考える。オンライン学習である当コースにおいては、文法的な理解のために割く時間を減らし、双方向の授業時間を極力「日本語を使う」時間にするため、オンデマンド教材を用いた反転授業を行うことにする。
- ②オンライン授業を実施する上での困難点として、文字の教育が挙げられる。学習者の手元を確認することが困難なため、従来の教室で行われてきた、教師が机間巡視をしながら学習者の書き字をチェックし、指導するということができないからである。であれば、手書きの指導は来日後に行うことにし、当コースでは、日本語入力から始めるという発想をすることにした。近年、実生活において手書きが必須である場面が少なくなっていることから、手書きよりも入力を重視するという考えが日本語教育界でも起きてきている。本取組みは、この考えを実験的に行うものにもなり、効果の検証は注目に値するものになろう。
- ③本取組みでは、学習者の母語ができるスタッフ（外国人スタッフ等）を学習支援担当者として加え、定期的に授業に入り、学習者の疑問や質問に母語で答える体制をとる。これは、直接法による指導で起こりがちな曖昧な理解とそこから発生する学習不安に対応、解消するためである。日本国内で学習しているのであれば、日本語に囲まれた環境や周囲の人的リソースから自然に解消されることが多いが、海外にいるので、その機会を得るのは難しいと考える。そのため、コースの中に不安解消の機会を内在させ、学習者に不安やストレスを感じさせずに学習を進められるようにしたいと考えている。また、質問の内容は、学習に限らないので、日本での生活や日本社会のことなど、留学自体への不安の解消と期待感の醸成も期待している。また、ノンネイティブのスタッフが教務の業務の一端を担うことは、近年増えてきているノンネイティブの日本語教師の活用を試行した取組みにもなり、今後の新たな人材開発と活用に道を開く可能性を有すものと考えている。

2. 事業内容

2. 実証取組モデル5の概要

想定学習対象者	未入国の入学予定者・入学希望者(2023年1月生以降)	
開始学習レベル	ゼロ初級	JFスタンダードA1レベル
目標到達レベル	JFスタンダードA1レベル	JFスタンダードA2レベル
想定対象人数	10名	10名
学習期間	前半3か月	後半3か月
授業時間(例)	週3日(月-金)、日本時間13時から16時20分	
総学習時間	115.5時間 (オンライン授業： 94.5時間 オンデマンド教材： 21時間)	115.5時間 (オンライン授業：94.5時間 オンデマンド教材：21時間)
授業方式	オンライン双方向授業+オンデマンド教材視聴(予習)	
推奨インターネット環境	上り下り3Mbps以上(15Mbps以上推奨)	
必要機材	PC(カメラ、マイク、スピーカー内蔵) ※上記機能が搭載されない場合…PCマイク、PCカメラ、スピーカー	
想定するオンライン学生の受講環境	PC、iPad、スマートフォン、通信環境あり。	
使用教材	オンライン教材	『みんなの日本語初級Ⅰ』第2版オンライン版 (本冊、標準問題集) 『みんなの日本語初級Ⅰ』第2版聴解タスク25 音声アプリ 『まるごとプラス』 『JFにほんごeラーニング みなと』
	オリジナル教材	オンデマンド予習教材
	通常教材	要 郵 送 教 員 用 『みんなの日本語初級Ⅰ』第2版(聴解タスク25) 『みんなの日本語初級Ⅰ』第2版(本冊付属CDの音声、 絵教材CD-ROMブック、会話DVD)
評価方法	小テスト、成果発表、授業態度、オンデマンド習得度から総合的に評価	
実施するテスト	理解度確認テスト：予習動画の理解度確認 到達度テスト：2課毎に行う小テスト 熟達度テスト：開始前/終了後のテスト	

2. 事業内容

使用教材等

1. 使用教材 概要

教材種類	教材名		利用方法	著作権上の留意点	必要数
オンライン教材	みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ第2版オンライン版	本冊	学生は電子版を持ち、教師が画面共有やスクリーンに投影して使用する。	「電子版」を学生分購入すれば画面共有・スクリーン投影で利用可能。	学生分＋教師分
		標準問題集	学生は電子版を使い、復習や宿題として使用。答えはwordファイル等へ書き、LMSにアップする。	本冊と同じ扱い	
	ダウンロード・ストリーミング等	聴解タスク25音声アプリ	学生は紙の書籍を持ち、教師が音声アプリの音声を音声共有して使用する。	有料部分(スクリプト表示機能)をオンライン授業で使用しないなら、書籍のみ購入していれば、OK。	教師分
		会話DVD Web ver.	授業で映像を見る。	受講者数分の『みんなの日本語初級本冊』（紙または電子）を購入している状況であれば、申請不要で利用可能。	
通常教材	みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ第2版	聴解タスク25	学生は紙の書籍を持ち、教師が音声アプリの音声を音声共有して使用する。	学生分購入した書籍をオンライン授業で使う場合、要所要所で学生と今何ページのどの問題を解いているかを 確認する程度（映り込み程度）の利用であれば申請不要。 しかしながら常にお手元の書籍をカメラに映して使うような、「映り込み程度」を超える利用に関しては許可申請が必要。	
		本冊付属CDの音声	問題や会話の音声を共有して問題を解く。	受講者数分の『みんなの日本語初級本冊』（紙または電子）を購入している状況であれば、申請不要でwebsiteからダウンロードした音声を音声共有利用可能。	
		絵教材CD-ROMブック	学生は、画面を通して授業で絵を見る。	受講者数分の『みんなの日本語初級本冊』（紙または電子）を購入している状況であれば、申請不要で利用可能。	

2. 事業内容

2. 動画教材

教材名	ファイル形式
【サンプル】 予習動画 (1課) 音声入り - 英訳	.pptx

1課 文法
【Lesson 1 Grammar】


In Lesson 1, we will learn sentences with nouns.
The alphabet "N" represents "NOUN".

1 (N1)は(N2)です。
(N1)is(N2).

2 (N1)は(N2)ですか。
Is (N1)(N2)?

3 (N1)は(N2)じゃありません。
(N1)is not(N2).

4 (N1)も(N2)です。
(N1)is also(N2).



【資料】 “【サンプル】 予習動画 (1課) 音声入り - 英訳”の例

3. テスト

教材名	ファイル形式
【サンプル】 確認クイズ_L1	.pdf

2 / 5

🔍 ☰

🟢 1 ✖ 0

Q: やまださんはがくせいです () 。
A: はい、 がくせいです。

は

よ

も

か

次へ



【資料】 “【サンプル】 確認クイズ_L1”の例

2.事業内容

「日本語教育の参照枠」に基づいた日本語教育機関の留学現場can-do（試案）の検討

取組の内容・目的

今回、日本語教育機関の留学現場can-do検討及び評価試行をするにあたり、まずは「日本語教育の参照枠」¹（以下、参照枠）についての共通理解を得るため、読み合わせ及び内容についての議論をした。そして、参照枠に基づき、日本語教育機関の留学現場can-do及び評価を考えるとという共通認識をもち、詳細をまとめていくこととした。

取組により期待される効果・成果、成果物及びその活用方法

今回、留学can-doではなく、あえて日本語教育における日本語教育機関の留学現場can-doを検討することにしたのは、大学や専門学校等留学生は様々な機関に所属し学習をしているが、その中でも特に日本語教育機関で学習する留学生の言語活動に着目したためである。日本語教育機関では、日本語で学問研究を行うのではなく、日本社会へ適応できるよう、またコース修了後にそれぞれの進路に進むことができるよう日本語そのものを学ぶ場所であるため、大学等高等教育機関とは必要とするcan-doも異なってくるのではないかと考えた。

1. 「日本語教育の参照枠」報告 文化審議会国語分科会 令和3年10月12日

2. 事業内容

取組概要／カリキュラム／シラバス

日本語教育における日本語教育機関の留学現場can-doについて

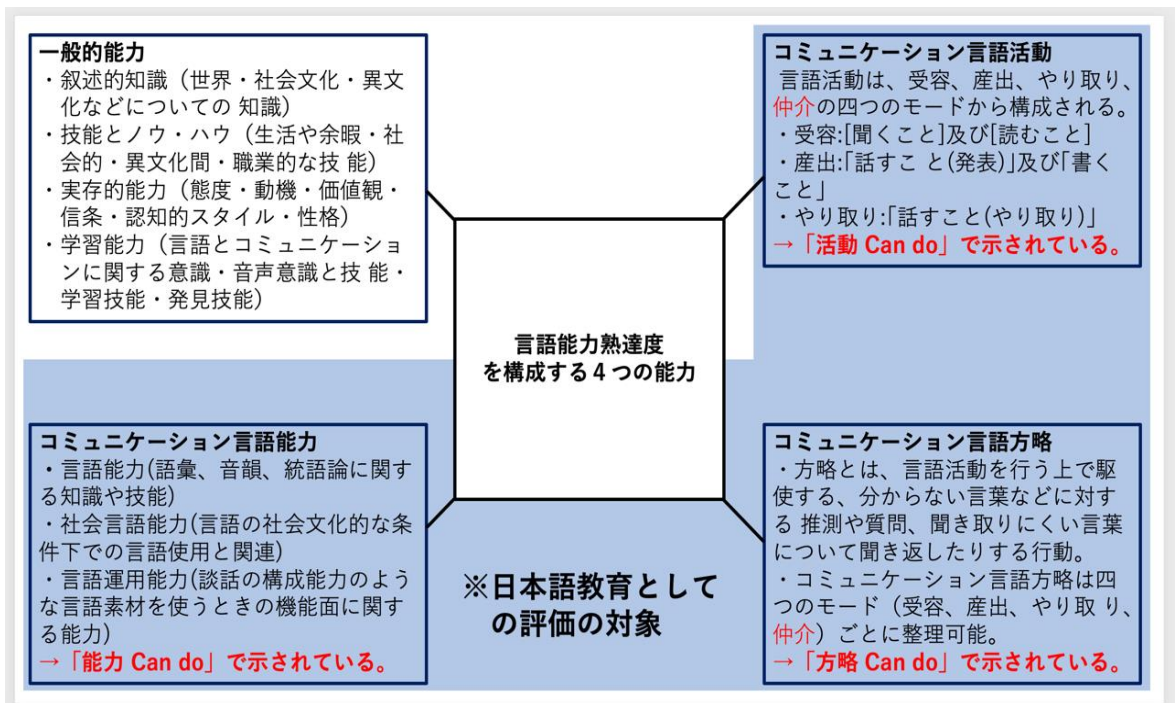
●日本語教育機関の留学現場can-doの日本語レベルと言語活動のバランス

初めに議論としてあがったのは留学、特に「日本語教育機関の留学現場can-doはどこのレベルまで必要なのか、またどの技能が重要なのか」であった。日本語教育機関で受け入れる留学生は多くが日本語初級レベルであり、初めて来日する人も多い。日本社会に入り、これから様々な進路に向かっていく学生たちの日本生活の入り口としてどのレベルまで達するのが妥当なのか。CEFRに基づいた欧米の留学can-doや枠を比較し、それらの言語能力記述文を確認し検討したところ、進学コースや一般コースなど、多様なコースを設定する日本語教育機関に共通するレベルとしては、「A1～B2程度」と考えることにした。

また、言語活動は、「やり取り」と「発表」主体の生活can-doとは異なり、日本語教育機関での日本語教育は、留学生が進学して大学等で講義を受けたり、就職してオフィスで働いたりなど、幅広く日本語で何ができるかを見据えた上で、その準備段階としての教育を行うことから、「読む」「聞く」「書く」「話す（やりとり）」「話す（発表）」の5つすべての言語活動が大切であり、その全てのバランスを重要視して、日本語教育機関の留学現場can-doの検討を進めることとした。

言語能力の熟達度を構成する能力としては一般的能力、コミュニケーション言語能力、コミュニケーション言語活動、コミュニケーション言語方略の4つがあるが、日本語教育機関における現場can-doにこのコミュニケーション言語能力及び言語方略も必要か否かについても考察した。

図1は参照枠より抜粋した言語使用者及び学習者の言語能力熟達度を構成する能力についてまとめた図である。



(図1) 言語能力熟達度を構成する4つの能力 (参照枠p.76,p.77より作成)

- 1 一般的能力
- 2 コミュニケーション言語能力
- 3 コミュニケーション言語活動
- 4 コミュニケーション言語方略

2.事業内容

前述の図1の4つの能力のうち、1の「一般的能力」は日本語教育機関で言語的側面から教育するものではなく、幼少期から積み上げてきた学習を補完する能力であるとの意見で一致し検討からは除外した。そして、日本語教育の評価の対象となる2から4までの3つの能力について、さらにどのような能力に分けられているのか参照枠をもとにまとめたものが次の表1である。

2 コミュニケーション言語能力		
コミュニケーション言語能力		言語能力を例示するCan-do
言語能力	語彙能力(使用語彙領域/語彙の使いこなし)	能力Can-do
	文法能力(文法的正確さ)	
	意味的能力	
	音声能力(音素の把握)	
	正書法の能力	
	読字能力	
	意味的能力	
	読字能力	
社会言語能力	社会言語的な適切さ	
言語運用能力	ディスコース能力	
	機能的能力	

3 コミュニケーション言語活動		
コミュニケーション言語活動		言語活動を例示するCan-do
理解すること	聞くこと	活動Can-do
	読むこと	
話すこと	やりとり	
	発表	
書くこと	書くこと	

4 コミュニケーション言語方略			
コミュニケーション言語方略		言語方略を例示するCan-do	
方略	産出的言語活動	計画	方略Can-do
		補償	
		モニタリングと修正	
	受容的言語活動	手掛かりの発見と推論	
	相互行為活動 (やり取り)	発言権の取得/保持	
		協力	
説明を求めること			

(表1) 3つの言語能力の熟達度を構成する能力とそれを例示するcan-do

2. 事業内容

ここで、能力can-do及び方略can-doを日本語教育機関の留学現場can-doに別途言語能力記述文の作成が必要かどうか検討した結果、これらのcan-doは評価やカリキュラム作成の際に利用すべきで、参照枠に記載されている内容で十分であり、今回の日本語教育機関の留学現場can-do作成に関しては、生活can-do同様、活動can-doに焦点をあてて作成することにした。

●日本語教育機関の留学現場can-doのカテゴリー分け

参照枠をもとに日本語教育機関の留学現場can-doの方向性について議論を行ったうえで、参照枠を参考に大分類、中分類、小分類のカテゴリー作成をすることにした。カテゴリーを作るにあたり、CEFR関連の他国の資料として「THE ALTE CAN DO PROJECT*」のcan-doを参照したところ、留学の中でも大学における枠組みとなっており、日本語教育機関のカテゴリーとはそぐわない部分が多くあった。日本語教育機関としては進学等の準備段階での言語活動となるため、そのための枠組みを新たに作成する必要があるがあった。枠組みを作成するにはそもそも留学生の留学上の言語活動としてどのようなものがあるか網羅的にリストアップすることが必要となった。

そこで、まずは日本語教育機関に在籍する留学生の生活面以外の活動をリスト化した（表2「留学生の活動場面」）。その過程において共通理解を得るため、日本語教育機関に在籍中の活動を、入学時、授業前後、授業時、進学、アルバイト/就職の大きく5場面で想定した。その5場面での活動のリストアップができたところで、活動内容についての検討を行った。特に入学時の活動については生活指導的側面が強く、また母語で説明が行われることも多い。そのため、日本語の言語活動としてのcan-doには当てはまらないものも多い。そのような性質のものは言語教育とは別のものとして社会適応に関するcan-doが必要と思われるため、今回の検討対象としては扱わないこととした。また、「予習・復習をする」「テスト勉強をする」などの活動も、先に述べた言語能力の熟達度を構成する能力の1番目にある「一般的能力」によるものとして、同じく検討対象外とした。そして、リストアップした留学生の活動場面の中から、言語活動を伴う活動のみを抽出し、日本語教育機関の留学現場can-doの作成を進めた。

また、言語活動のリストアップをする過程で、参照枠、CEFR、JFスタンダードを比較しながら分類についても検討をした。参照枠のカテゴリーは、基本的にCEFRと同じだが、「母語話者」という表現のみ「他の話者同士」と変えられている。CEFR、JFスタンダード、参照枠のカテゴリーを細かく比較検討したものが以下の表（表3、表4）である。

• Articles and Can Do statements produced by the members of ALTE 1992-2002
(<https://www.cambridgeenglish.org/Images/28906-alte-can-do-document.pdf>)

2. 事業内容

入学時	授業前後		授業時	進学	アルバイト/就職
オリエンテーション	友だちを誘う/断る	カラオケに行く	先生に聞く	学校を調べる	アルバイトを探す
プレースメントテスト	欠席遅刻の連絡	避難する	クラスメートに聞く	面接を受ける	電話をする
公共交通機関で学校へ来る	イベントに参加する(校内校外)	ガス会社に連絡する	意見を言う	計画を立てる	履歴書を書く
在留カード住所登録	病気やけがの時	電気会社に連絡する	意見を聞く	学校に質問する	面接を受ける
ゆうちょ開設	買い物をする	初詣に行く	指示理解	お受験塾に申し込む	雇用条件を知る
携帯契約	落とし物をする/拾う	絵馬を書く	発表する	お受験塾に通学する	オンライン就労講座を申し込む
国保加入	文化などの違いを知る	おみくじを引く	録音を聞く	進路を相談する	オンライン就労講座を受講する
年金加入	外食する	茶道を体験する	物語などを読む	学校にパンフレットを請求する	特定技能試験を申し込む
ハンコを作る	テイクアウトする	書初めをする	読む(テスト)	進学説明会に参加する	特定技能試験を受験する
部屋を決める、契約する	旅行に行く	いちご狩りに行く	短文	学校見学する	人材会社に登録する
引っ越し	習い事をする	料理を作る	作文	証明書の発行を依頼する	ハローワークに登録する
自転車を買う	ボランティアをする	料理を習う	レポート	書類を郵送する	就活情報を収集する
パスモ、スイカを購入	公共施設を利用する	お花見に行く	漢字を読む	出願する	志望する会社を選択する
ゴミを捨てる	苦情を言う/謝る	遊園地に行く	漢字を書く	入学試験を受ける	エントリーシートを作成する
道を聞く	災害時	携帯の会社を変える	先生やクラスメートに挨拶する	(大学等の)面接を受ける	
日本のルールを知る	健康診断を受ける	確定申告する	出欠取りの返事をする	学費を支払う	
大家さんに挨拶をする	歓迎会に参加する	年金の免除申請する	先生の説明を聞く	役所で課税証明をもらう	
生活用品を買う	校内任意イベントに申込する	年金の猶予申請する	先生に質問する	ビザ更新書類を作成する	
同居人に挨拶する	JLPTを申し込む/受ける	図書館に行く	口頭練習する	滞在費支弁に関する申告書を記入する	
教科書を買う	EJUを申し込む/受ける	給与明細をもらう	友達に充電器を借りる	部屋を探す	
uber eatsを注文する	受験票の不備を問い合わせる	国保の支払いをする	友達とLINEアカウントを交換する	一時帰国する	
GOする(タクシー)	受験票の未着を問い合わせる	趣味のサークルを探す	ヘアワークする	必要書類を準備する	
タバコ、お酒を買う	遅刻・休みの連絡)をする	コンサートに行く	予習する	入学願書を出す	
タバコを吸う	ホームビジットに行く	イベントに行く	復習する	筆記試験を受ける	
電子タバコを買う	手土産を買う	髪を切る	宿題をする	入学手続きをする	
お金を下ろす	浴衣を買う/着る	食事をする約束をする	教師の話聞く		
両替する	花火を見に行く	飲食店の情報を調べる	クラスメートの話を聞く		
交通標識を知る	旅行を計画する	飲食店を予約する	事務局員の話聞く		
授業を受ける	交通機関やホテルを予約/キャンセルする	飲食店のメニューを見る	学習用教材の音声聞く		
クラス分けに抗議する	旅行に行く	店員に注文する	生教材の音声聞く		
アルバイトを探す	友達と待ち合わせる、集合する	遊びに行く約束をする	授業中に発言する		
	海外送金を受け取る	遊びに行く場所を調べる	プレゼンテーションをする(発表する)		
	レストランで会計する	遊びに行く場所を話し合っ決めて	プレゼンテーションをする(質問に答える)		
	交通事故の対応をする(加害者、被害者)	交通手段を調べる	プレゼンテーションの発表原稿を書く		
	病院に行く(病気、けが)	必要に応じて予約等をする	プレゼンテーションの資料を作る		
	ドラッグストアで薬を買う	自分の興味に沿った活動のできる場の情報を調べる	クラスメートと雑談をする		
	救急車を呼ぶ	自分の興味に沿った活動のできる場の情報を調べる	知人とSNSでチャットをする		
	誕生日のお祝いをする	自分の興味に沿った活動について問い合わせる	SNSに文章を投稿する		
	プレゼントをあげる	自分の興味に沿った活動をする	SNSを読む		

(表2) 留学生の活動場面

2.事業内容

(表3) CEFRとJFスタンダードの比較

Can doの種類	言語活動	CEFR Can doのカテゴリ	JF Can doのカテゴリ
活動	受容	聞くこと全般	
活動	受容	母語話者同士の会話を聞く	
活動	受容	講演やプレゼンテーションを聞く	講演やプレゼンテーションを聞く
活動	受容	指示やアカウスを聞く	指示やアカウスを聞く
活動	受容	音声メディアを聞く	音声メディアを聞く
活動	受容	テレビや映画を見る	テレビや映画を見る
活動	受容	読むこと全般	
活動	受容	手紙やメールを読む	手紙やメールを読む
活動	受容	必要な情報を探し出す	必要な情報を探し出す
活動	受容	情報や要点を読み取る	情報や要点を読み取る
活動	受容	説明を読む	説明を読む
活動	産出	話すこと全般	
活動	産出	経験や物語を語る	経験や物語を語る
活動	産出	論述する	論述する
活動	産出	公共アカウスをする	公共アカウスをする
活動	産出	講演やプレゼンテーションをする	講演やプレゼンテーションをする
活動	産出	書くこと全般	
活動	産出	作文を書く	作文を書く
活動	産出	レポートや記事を書く	レポートや記事を書く
活動	やりとり	文書でのやりとり全般	
活動	やりとり	手紙やメールのやりとりをする	手紙やメールのやりとりをする
活動	やりとり	申請書類や伝言を書く	申請書類や伝言を書く
活動	やりとり	口頭でのやりとり全般	
活動	やりとり	母語話者とやりとりをする	
活動	やりとり	社交的なやりとりをする	社交的なやりとりをする
活動	やりとり	インフォーマルな場面でやりとりをする	インフォーマルな場面でやりとりをする
活動	やりとり	フォーマルな場面で議論する	フォーマルな場面で議論する
活動	やりとり	共同作業中にやりとりをする	共同作業中にやりとりをする
活動	やりとり	店や公共機関でやりとりをする	店や公共機関でやりとりをする
活動	やりとり	情報交換する	情報交換する
活動	やりとり	インタビューする／受ける	インタビューする／受ける
方略	受容	意図を推測する	
方略	産出	表現方法を考える	
方略	産出	(表現できないことを)他の方法で補う	
方略	産出	自分の発話をモニターする	
方略	やりとり	発言権を取る(ターン・テイク)	
方略	やりとり	議論の展開に協力する	
方略	やりとり	説明を求める	
テキスト	—	メモやノートを取る	
テキスト	—	要約したり書き写したりする	
能力	言語構造的な能力	使える言語の範囲	
能力	言語構造的な能力	使用語彙領域	
能力	言語構造的な能力	語彙の使いこなし	
能力	言語構造的な能力	文法的正確さ	
能力	言語構造的な能力	音素の把握	
能力	言語構造的な能力	正書法の把握	
能力	社会言語能力	社会言語的な適切さ	
能力	語用能力	柔軟性(デイスコース能力)	
能力	語用能力	発言権(デイスコース能力)	
能力	語用能力	話題の展開(デイスコース能力)	
能力	語用能力	一貫性と結束性(デイスコース能力)	
能力	語用能力	話しことばの流暢さ(機能的な能力)	
能力	語用能力	叙述の正確さ(機能的な能力)	

※CEFR Can do/JF Can doのカテゴリは、言語活動の下位に並べられている。→言語活動順にソートされている。

2.事業内容

(表4) 比較表__CEFR、JFスタンダード、参照枠

	提供レベル	提供されている can-doの種類	提供されている can-doのカ ゴリー	特徴	向いている使い方
CEFR	A1-C2	活動、方略、 テキスト、能 力	全カゴリー	抽象度が高く、場面や状 況を特定しない。	コース全体の目標 の設定
JFス タ ン ダ ー ド	A1-B1 の み	活動のみ	活動Can doの み CEFRのカテ ゴ リーの一部が ない	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の使用場面での 具体的な言語活動をイ メージしやすい。 ・言語活動の場面や内容 が、よりイメージしやす くなるトピックがついて いる。 ・活動Can doを3つ(受容、 産出、やり取り)にしか分 類していない。 	各授業の学習目標 の設定
参照枠	A1-C2	活動、方略、 テキスト、能 力	全カテゴリー CEFRのカテ ゴ リーとは重複 するものと異 なるものと がある	<ul style="list-style-type: none"> ・活動Can doを5つに分 類 	コース全体の目標 の設定 各授業の学習目標 の設定

2.事業内容

また、どのようなカテゴリーにし、言語能力記述文を考えていくかにあたり、現在すでに提示されているcan-doには生活者や就労者向けのものがあるため、その内容を参考にした（表5、表6、表7）。

JF生活Can doの「カテゴリー」を抜粋※カテゴリーという同じ言葉だが実際は、大・中・小分類		
出かける	公共空間でのコミュニケーション。やり取りの相手は、店員や施設の職員など公共の役割を担う人々。	交通機関を利用する
		街を歩く
		飲食店を利用する
		買い物をする
		郵便局/銀行を利用する
		公共機関を利用する
		娯楽施設を利用する
		観光施設を利用する
		地域の行事/活動に参加する
		美容院を利用する
		クリーニング店を利用する
		医療機関を利用する
★緊急時に備える/対応する		
暮らす	様々な場所での私的なコミュニケーション。やり取りの相手は、友人や知り合いなど(外出先でのやり取りでも友人との私的なやり取りはこちらに含む)。	生活の中で聞いたり話したりする
		生活の中で読んだり書いたりする
		テレビを見る/ラジオを聞く
		会話を円滑に進める
		★緊急時に備える/対応する
働く	職場でのコミュニケーション。やり取りの相手は、職場の上司や同僚など(同僚との休憩時間や忘年会、交流会に関するやり取りも含む。)	職場で聞いたり話したりする
		職場で読んだり書いたりする
		★緊急時に備える/対応する

(表5) JF生活can-doのカテゴリー

※JF生活Can doのカテゴリー/生活Can do等作成WGの大分類・(中分類)・小分類は、生活上の行為の分類であり、言語活動の下位のカテゴリーとは異なる。

2.事業内容

大分類	中分類	小分類
I 健康・安全に暮らす	01 健康を保つ	(1) 医療機関で治療を受ける
		(2) 薬を利用する
	02 安全を守る	(3) 健康に気を付ける
		(4) 事故に備え、対応する
		(5) 災害に備え、対応する
II 住居を確保・維持する	03 住居を確保する	(6) 住居を確保する
	04 住環境を整える	(7) 住居を管理する
III 消費活動を行う	05 物品購入・サービスを利用する	(8) 物品購入・サービスを利用する
	06 お金を管理する	(9) 金融機関を利用する
IV 目的地に移動する	07 公共交通機関を利用する	(10) 電車、バス、飛行機、船等を利用する
		(11) タクシーを利用する
	08 自力で移動する	(12) 徒歩で移動する
		(13) 自転車を利用する
V 子育て・教育を行う	09 家庭及び地域で子育てをする	(14) 車・オートバイ等を使用する
		(15) 出産に備える
		(16) 出産し育児をする
		(17) 家庭で子供を育てる
	10 子供に教育を受けさせる	(18) 地域で子供を育てる
		(19) 幼稚園・保育所で教育・保育を受けさせる
		(20) 小・中・高等学校で教育を受けさせる
VI 働く	11 仕事を探す	(21) 特別支援教育を受けさせる
		(22) 就職活動をする
	12 仕事をする	(23) 労働条件について理解する
		(24) 職場の安全を確保する
		(25) 個別業務を遂行する
		(26) 協働業務を遂行する
		(27) 勤務評価に対応する
	13 仕事に役立つ能力を高める	(28) 職業能力の開発を行う
		(29) 事務機器等を利用する
		(30) 職場の人間関係を円滑にする
VII 人とかかわる	14 他者との関係を円滑にする	(31) 人と付き合う
VIII 社会の一員となる	15 地域・社会のルール・マナーを守る	(32) 異文化を理解する
		(33) 住民としての手続きをする
	16 地域社会に参加する	(34) 住民としてのマナーを守る
		(35) 地域社会に参加する
17 社会制度を利用する	(36) 福祉等のサービスを利用する	
	(37) 社会保険を利用する	
IX 自身を豊かにする	18 人生設計をする	(38) 生活設計をする
	19 学習する	(39) 学習する
		(40) 学習を管理する
		(41) 学習方法を身に付ける
		(42) 日本語を学習する
	20 余暇を楽しむ	(43) 日本について理解する
(44) 余暇を楽しむ		
X 情報を収集・発信する	21 通信する	(45) 郵便・宅配便を利用する
		(46) インターネットを利用する
		(47) 電話等を利用する
	22 マスメディアを利用する	(48) マスメディア等を利用する

(表6) 生活上の行為の事例 (令和3年度改定)

「地域における日本語教育の在り方について (報告)」文化審議会国語分科会(令和4年11月29日) p.79より抜粋
 ※検討時は、公表前であったため、文化審議会国語分科会日本語教育小委員会「生活Can do」等の作成に関するワーキンググループ第3回生活Can do等の作成に関するワーキンググループ (R4.2.9) 資料3「生活者としての外国人」のための日本語教育の在り方について (報告) (案)を利用。

2.事業内容

No.	言語活動	カテゴリ	レベル	Can do	生活上の行為の事例				
					大分類	中分類	小分類	事例1	事例2
1	読むこと	世情を把握するために読むこと	B1	適切な医療機関を選ぶために、病院のサイトなどの、ある程度長い文章に目を通して、診療科目や診療内容など、必要な情報を探し出すことができる。	I 健康・安全に暮らす	01健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関の選択をする	選択する病院を知る
2	発表	長く一人で話す：経験談	B1	体調が悪く、医療相談窓口で電話したときに、相談員に自分の症状や症状の変化について、順序だてて説明することができる。	I 健康・安全に暮らす	01健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関の選択をする	症状の変化を説明する
3	読むこと	世情を把握するために読むこと	A1	健康診断や定期検診などで指定された病院のホームページにアクセスし、診察日や時間を確認することができる	I 健康・安全に暮らす	01健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関の選択をする	開院時間を確認する
4	やり取り	店や公共機関でやり取りをする	A2	電話で病院や歯医者との予約をするとき、ゆっくりとはっきりと話されれば、名前や電話番号、日時、診察理由など病院のスタッフの質問に答えることができる。	I 健康・安全に暮らす	01健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関の選択をする	予約を申し込む

(表7) 生活Can do一覧による提示の例より

「地域における日本語教育の在り方について(報告)」文化審議会国語分科会 令和4年11月29日 p.80より抜粋

日本語教育機関の留学現場can-doにおいて、生活者の目的と大きく異なる部分は、進学や就職等進路を想定し、試験や面接合格などがコースの目標となっているところである。しかし、留学生もまた日本社会で暮らす一員であり、生活者としての視点も必要である。そこで、いくつかの言語能力記述文及び分類の内容を比較検討し、どのように分類すべきか検討を重ねた結果、今回の日本語教育機関の留学現場can-doでは大きく以下の3つに分類することとした。

- 1、暮らす
- 2、学ぶ
- 3、アルバイトする

「暮らす」については、留学生は生活者でもあることから既存の生活can-doを参考とすることにしたが、今回はcan-doの検討時期が「地域における日本語教育の在り方について(報告)」²の公表前であったため、JF生活can-doを参考に作成をした。そして、「学ぶ」及び「アルバイトする」については前述で紹介した表2の留学生の活動場面をもとに作成することとした。また、JF生活can-doにおいては「出かける」というカテゴリーがあるが、今回の日本語教育機関の留学can-doでは、「暮らす」の中にも含めることにした。

2. 「地域における日本語教育の在り方について(報告)」文化審議会国語分科会 令和4年11月29日

2.事業内容

●日本語教育機関の留学現場can-doの基準と分類

次に、日本語教育機関の留学現場can-doの選出基準について検討した。まずは「就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール」の就労can-do（別添資料1「参考リンク集」4）、「JF生活日本語can-do」（別添資料1「参考リンク集」5）、「『生活者としての外国人』のための日本語教育の在り方について（報告）（案）R4.2.9」（別添資料1「参考リンク集」6）等にあるcan-doを参考にした。今回は、試行対象の多くがA1レベルの学習者であることや、また作成から試行までの時間的な制約もあり、全てのレベルの検討を行うことは難しいため、A1レベルのみ作成した。また、先述の表2の留學生活の活動場面で示した留學生活における活動の中から、以下の3つを基準に選出した。

- ・必要性
- ・頻度
- ・継続性

この3つの基準により選出された活動をもとに、日本語教育機関の留学現場can-doを作成した（別添資料2「日本語教育機関の留学現場can-doリスト(試案)」）。

このcan-doを大分類、中分類、小分類と作成を進めたところ、「学ぶ」「アルバイトする」にあたっては場面が「学校」「アルバイト先」に限られるため、中分類及び小分類という3水準による分類が困難であった。そこで「学ぶ」「アルバイトする」については2水準で分類し、分類名称を分類1、分類2とした。なお、「暮らす」に関しては3水準に分類できることから、分類1、分類2、分類3とした。

また、語学留学生を主に対象とする日本語教育機関では、can-doに対して学ぶべき文型や語彙表現等を網羅的に対応させていく必要があると考えた。日本語教育機関の場合は、学習者の修了後の進路が大学や企業等、進学や就職であることが多いため、一定の期間に段階的に学び、目標の段階まで体系的に日本語能力を積み上げなければならないからである。1つ1つの場面での対応だけでなく、文面を理解し、論理的な文章を書くためには、文型や語彙表現の積み上げは必須である。そのため、can-doを用いて課題達成型の授業を遂行すると同時に、文型や語彙表現を積み上げていく構造シラバスをその授業に対応させていくことが理想的なのではないだろうか。

また、そのような日本語教育機関の現場でよく使われている教科書にcan-doを対応させたい場合、記述が詳細過ぎては汎用性に欠ける。日本語教材のすべてが課題遂行型をもとに作成されているわけではないため、文法や語彙例などがあることで、どのcan-doをどの課の目的とするかカリキュラムに反映させやすいと考えた。そこで、場面を限定し過ぎる記述は削除しcan-doに汎用性を持たせるようにする一方、can-doから派生するものとして、想定場面例、会話の中で想定される語彙や文法を追記することにしたが、時間的制約もあり一部のみ記載した。留学生が社会の一員として日本社会へより円滑に適応していけるよう、できることに着目しながら、従来の構造シラバスをもとにした文法積み上げ型の教授経験を効果的に活用できるとよいのではないだろうか。

2.事業内容

● 「書くこと(やりとり)」について

can-doを作成していく中で大きな論点の一つとなったのが、やり取りについてである。近年においてはSNSの利用が広く普及していることにより、文字でのやり取りをする場面が非常に多くなっている。各can-doにおける言語活動の種類についても優先順位があり、その中でも日本語教育機関に在籍する留学生がSNSを多用する世代であることを考慮すると、文字でのやり取りの重要性はとても高い。そこで、今回作成した日本語教育機関の留学現場can-doでは、やり取りに関しては「話すこと(やりとり)」に加えて、文字でのやり取りを「書くこと(やりとり)」と定義して提示するようにした。

2.事業内容

評価について

今まで日本語教育機関で実施されてきている従来の筆記試験は、語彙・文法などの知識習得の評価に偏りがちであり、産出（話すこと（やりとり）、話すこと（発表）、書くこと）に関する評価は、教師の感覚に頼るものが多く、客観的根拠に乏しい傾向にあった。そこで、特に必要性を感じたため、パフォーマンス評価や、未だ実施できていない機関も多い自己評価に着目した。なお、A1レベルに焦点を当てることとしたため、母国語を介さなければ困難であるA1レベルの学習者のピア評価は除外した。

●パフォーマンス評価

パフォーマンス評価は日本語教育機関の現場でどう活用されるべきか議論したところ、レベル判定で終わらせるべきではなく、自律学習の促進につなげるために評価後にフィードバックをすべきだとの認識で一致した。なお、オンライン授業の書くことについてのパフォーマンス評価は、技術的な課題や制約が多いことから、今回は産出のうち、話すこと（やりとり）及び話すこと（発表）のみ作成した。

・評価内容

パフォーマンス評価を行うにあたり、まず評価基準の内容についての検討を行った。言語能力の種類（表1）「3つの言語能力の熟達度を構成する能力とそれを例示するcan-do」のうち、能力can-doをもとに評価欄を作成することとしたが、ここで議論となったのが、パフォーマンス評価は「熟達度」を測るべきか、又は「到達度」を測るべきかという点である。文法や語彙に関しては、日本語教育機関では特に授業で取り上げて学習していることが多く、既習未習は重要な要素となる。しかし、参照枠では多様な日本語を尊重するとしているため、文法的に誤りであろうと課題である言語活動が達成できればいいとも考えられる。しかし、一時的なコミュニケーションにおいてはそれでも十分ではあるものの、中長期的な人間関係の構築には、文法や語彙の正確性も必要であると考えられる。また、日本語教育機関に在籍している留学生にとってこのパフォーマンス評価は、単に言語レベルを測るものではなく、教師と共に面談をすることで振り返り、次の目標につなげるものとなる。そのため、到達度を測る「文法/語彙の正確性」の項目も含めることにした。

また、話すこと（やりとり）及び話すこと（発表）の評価を実際に行うにあたり、時間的な制約についても考慮した。評価を行うのに時間がかかり、学習する時間が減る、教師に負担がかかりすぎるなどの問題が出るのが想定されるからである。「やりとり」を中心にする、学習者がどのような回答をするかによって一人ひとり内容が変わっていくため、評価や時間のコントロールがより難しくなる。そこで、「発表」を中心にし、その発表について質疑応答を行うことで「やりとり」も同時に測ることにした。

以上の観点から、今回のパフォーマンス評価における評価基準には以下の評価項目を採用した。

1. 発表の完成度
2. やりとりの完成度
3. 文法/語彙的正確さ
4. 発音
5. 話しことばの流暢さ

2.事業内容

・評価方式

では、パフォーマンス評価において、何段階評価とすべきか。小学校や中学校では3段階評価、5段階評価などが基本である。しかし、5段階評価にした場合、教師が評価をする際に、無意識的に真ん中である3を選びがちになるという意見があがった。そこで、今回は4段階評価とすることにした。また、4段階の評価をする際に、実績のある学校の評価方式を参考に、点数ではなく以下のように段階分けをした。

- Sすばらしい
- Aできた
- Bもう少し
- Cがんばろう

・実施結果

A1レベルの学生13名に「ルーブリック評価表」（別添資料3）を用いてパフォーマンステストを実施した評価結果が以下の表である（表8）。A評価が特に多い結果となった。

No.	発表の完成度	やりとりの完成度	文法/語彙的正確さ	発音	話しことばの流暢さ
S1	C	A	B	B	A
S2	B	A	B	A	B
S3	S	S	B	A	A
S4	S	A	A	A	A
S5	A	S	A	A	A
S6	A	A	A	A	C
S7	S	S	A	A	A
S8	A	S	A	A	A
S9	C	B	B	A	B
S10	A	A	A	S	A
S11	S	A	B	A	A
S12	A	A	A	A	A
S13	S	A	A	A	A

(表8) ルーブリック評価の試行結果

2.事業内容

・実施後の課題

今回、評価担当教師以外の教師が結果を見たところ、評価対象学生の中には、A1レベルの会話力の各項目において、A評価ではなくB評価が妥当であるという意見が多かった。改めて評価担当者に聞き取りをしたところ、参照枠におけるA1レベルに基づいて評価を行ったというより、クラス内における相対評価で少し高めに評価をしてしまったことが判明した。まずは教師側の参照枠における評価者としてのトレーニングを行わなければ、正確な評価をすることは難しいということに、今回の試行で気づくことができた。

また、評価項目について、学習初期のA1レベルの学習者には社会言語能力がまだ必要ではないと判断して含めなかったのだが、実際に試行してみたところ、A1レベルでもコミュニケーション上、社会言語能力が必要であり、評価項目に含めるべきであるとの意見が大半を占めた。

●自己評価

自己評価においても、やはり目的は学習者の「自律学習の促進」であり、そのために日本語教育機関として何ができるかが大切である。パフォーマンス評価同様、レベル判定のための道具にとどまらず、自ら振り返り新たな目標をたてるためには、どのような自己評価が効果的といえるかを考察した。

・評価内容

自己評価と一概に言っても、その評価内容はさまざまである。個々の言語技能別のような自己評価もあれば、毎回の授業ごとに行うその日の自己評価もある。前者はcan-doを用いて自身の言語レベルがどの程度であるかという認識を得るものであり、後者はメタ認知ルーティンと言われているもののうち、学習ジャーナルに近く、自身の内省を促すものになる。この方法であれば母語で行うこともできるだろう。また、前項で述べたパフォーマンス評価（話すこと）において、教師だけでなく学習者本人もルーブリックにより評価するという方法もあるだろう。can-doによる自己評価の難点は、自己評価を正しく実施するには学習者自身の訓練も必要となるという点である。実際に教師の評価と学習者本人の評価が大きく異なることもしばしばある。頻繁に振り返りをし自己評価を行っていけば、自己モニター能力があがるかもしれないが、そのように頻度が必要となると、学習者はもちろん、教師への負担も重くなり、実際に導入するにはハードルが高い。また、自己評価を行った際に、その妥当性を誰が測るのかという問題もある。しかし、パフォーマンス評価同様、レベル判定をすることだけがここでは目的ではない。自分で正しいレベル判定ができなくとも、評価を行うことで次の目標につながればよい。そのために大切なのは、評価を行った後の担当教師による面談である。たとえ自己評価自体に正確性がなかったとしても、その評価をした理由を聞き取り、また修正を行うことで次の目標につながるができる。日本語教育機関に在籍している留学生は、語学学習が日々の主な活動であり、コース修了後の目的を見据えて長期間在籍することがほとんどである。だからこそ、担当教師のフィードバックを自律学習につなげるよう最大限活用すべきである。

2. 事業内容

・評価項目とレベル

次に評価項目について検討した。文化庁の「日本語能力自己評価ツール」³では、より詳細に記載されている「活動Can do一覧」の代表項目をもとに作成されており、学習者が、今、自分がどの段階にいるのかをすぐに把握できるようにできている。自分だけで自身の振り返りをすることができ、非常に有意義なものである。それに対し、今回作成する自己評価は、学習者の意識づけをすることに重点を置いており、教師が今後の指導のためにその結果をもとにどのような面談を行うかが重要である。つまり、自己評価のみでは不完全であり、その後の面談を行わなければ不十分ということになる。学習者の次の目標を明確にすることが目的であるため、自己評価自体はより簡素で行いやすいものがよいと判断し、参照枠に示されている「言語活動別の熟達度」⁴の表(表9)のcan-doを用いることとした。また、日本語教育機関の留学can-doリスト及びパフォーマンス評価同様、時間的な制約もあることから、A1レベルのみに限定して試行することにした。

段階	レベル	理解すること		話すこと		書くこと 書くこと
		聞くこと	読むこと	やり取り	発表	
熟達した言語使用者	C2	生であれ放送されたものであれ、自然な速さで話されても、その話し方の癖に慣れる時間の余裕があれば、どんな種類の話し言葉も、難なく理解できる。	抽象的で、構造的にも言語的にも複雑な、例えばマニュアルや専門の記事、文学作品のテキストなど、事実上あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	慣用表現、口語体表現をよく知っており、いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。 自分を流ちょうに表現し、詳細に細かい意味のニュアンスを伝えることができる。 表現上の困難に出合っても、周りの人がそれにほとんど気が付かないほどに修正し、うまく補うことができる。	状況にあった文体で、はっきりとすらすらと流ちょうに記述や論述ができる。 効果的な論理構成によって聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。	明瞭な、流ちょうな文章を適切な文体で書くことができる。 効果的な論理構成で事柄を説明し、その重要点を読み手に気付かせ、記憶にとどめさせるように、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。 仕事や文学作品の概要や評を書くことができる。
	C1	たとえ構成がはっきりとなく、関係性が暗示されているに過ぎず、明示的でない場合でも、長い話が理解できる。 特別の努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	長い複雑な事実に基づくテキストや文学テキストを、文体の違いを認識しながら理解できる。 自分の関連外の分野での専門の記事も長い技術的説明書も理解できる。	言葉を殊更探さずに流ちょうに自然に自己表現ができる。 社会上、仕事上の目的に合った言葉遣いが、意のままに効果的にできる。 自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を上手に他の話し手の発言に合わせるができる。	複雑な話題を、派生的話題にも立ち入って詳しく論ずることができ、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。 読者を念頭に置いて適切な文体を選択できる。	適当な長さで幾つかの視点を示して、明瞭な構成で自己表現ができる。 自分が重要だと思う点を強調しながら、手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。 読者を念頭に置いて適切な文体を選択できる。
自立した言語使用者	B2	長い会話や講義を理解することができる。 また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。 大抵のテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。 共通語の映画なら、大多数は理解できる。	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。 現代文学の散文は読める。	流ちょうに自然に会話をすることができ、熟達した日本語話者と普通にやり取りができる。 身近なコンテキスト(文脈・背景)の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。	自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。 エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。 手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。	興味関心のある分野内なら、幅広くいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。 エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。 手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。
	B1	仕事、学校、娯楽でふだん出会うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方の会話なら要点を理解することができる。 話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的若しくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	非常によく使われる日常会話や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。 起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすい大抵の状況に対処することができる。 例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語るることができる。 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。 物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 私信で経験や印象を書くことができる。
基礎段階の言語使用者	A2	(ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの)直接自分につながる領域で最も頻繁に使われる言葉や表現を理解することができる。 短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	ごく短い簡単なテキストなら理解できる。 広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測が付く情報を取り出せる。 簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話合いができる。 通常は会話を続けたいだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りをすることはできる。	家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。	直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。 短い個人的な手紙なら書くことができる。例えば礼状など。
	A1	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的な名前に関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	例えば、掲示やポスター、カタログの中よく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。 直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたやり答えたりできる。	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	新年の挨拶など短い簡単な手紙を書くことができる。 例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。

(表9) 言語活動別の熟達度

3. 文化庁<https://www.nihongo-check.bunka.go.jp/>
4. 参照枠p.23

2.事業内容

・評価実施手段の検討

評価を行う手段として、以下の3つの案が挙げられた。

1. 用紙（紙媒体）での実施
2. Google forms等のWebフォームツール
3. learningBOX（汎用LMS）

本事業はオンライン日本語教育の実証であるため、用紙での実施は行わないことにした。また、Google forms等のWebフォームツールは広く普及し回答集計には便利であるものの、一部の国や地域では通信制限により利用できないことがある。そのため、本事業の学習管理システム（LMS）として取り入れているlearningBOXの機能を研究し、自己評価ツールの構築に取り組んだ。learningBOXは、回答者ごとの実施履歴が蓄積され、一貫した学習者の成績管理ができるので、LMSの機能として非常に便利なものである。

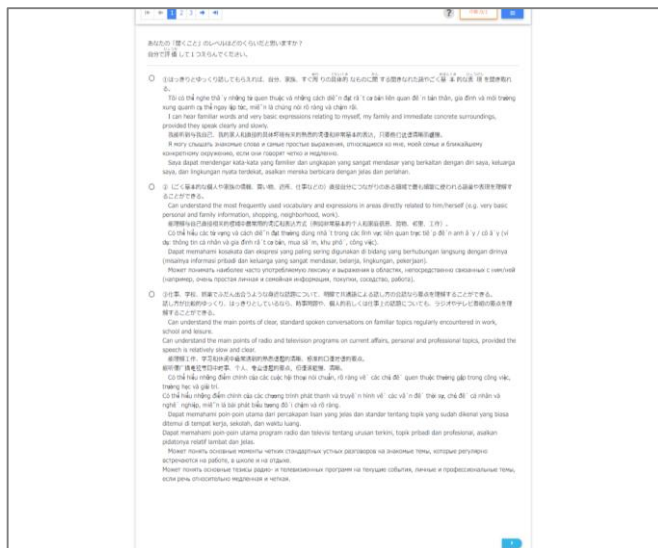
・評価方法

自己評価では、評価する主体が日本語能力の十分ではない学習者であるため、まずは言語活動別の熟達度のcan-doをどのような言語（日本語原文、やさしい日本語、媒介語）で提示するかという検討を行った。次に、全てのレベルの中から自分のレベルを選択するか、学習したレベルと上下の計3レベルの中から選択するか、学習したレベルの記述文のみに対して熟達度を自己評価するか、また、can-doの提示の際に、レベル名（A1、A2など）も含めるか等の記述文の提示方法の議論を行った。試作しつつ、検討を重ねたところ、can-doの提示に関しては、日本語と媒介語を併記し、学習したレベルのみに対して熟達度を自己評価するものに仕上げた。

3-2-5. learningBOXを利用した自己評価ツールの作成

次の図2から図6が実際に作成した試作と、最終的に完成した自己評価ツールである。試行錯誤を繰り返していく過程の中で、オンライン環境で提供するためには、紙媒体（用紙）とは違い、細かな制約等を理解した上で作成を進めていくことがとても大変であった。

言語活動「聞くこと」に対して、1つのレベルで各国語の表記を羅列すると膨大な情報量となり、さらに6のレベル全てを表示すると見にくくなる。



(図2) learningBOXのクイズ機能/
設問の日本語と各国語を提示～試作2

2. 事業内容

1 / 1

中断:0/1

B1	仕事、学校、娯楽でふたん出合うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方の会話なら要点を理解することができる。 話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的若しくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。
A2	ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの直接自分につながるりのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。 短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。
A1	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的ななものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。

聞くこと

A2 ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの。直接自分につながるりのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。

聞くこと

A1 はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的ななものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。

採点

(図3) learningBOXのテスト機能/設問及び選択肢の両方を表として提示～試作6

言語活動「聞くこと」に対して、上下前後のレベルを提示することで、学習者が全体像を把握した上で評価ができるように配慮したものの、日本語のみだけでも膨大な情報量となる。また、A1やA2などの記号があることで、自分のレベルを予め決めた上での評価をする危惧がある。

2.事業内容

Cando自己評価_個別確率バージョン

日本語でどれですか？

はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。(A1)

選んでください

- できる
- だいたいできる
- あまりできない
- できない

(ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの) 直接自分につながりのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。(A2)

選んでください

- できる
- だいたいできる
- あまりできない
- できない

仕事、学校、娯楽でふだん出会うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方の会話なら要点を理解することができる。話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしたら、時事問題や、個人的若しくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。(B1)

選んでください

- できる
- だいたいできる
- あまりできない
- できない

送信

(図4) learningBOXのアンケート機能/設問に対して、回答欄を複数提示～試作10

言語活動「聞くこと」の中で、それぞれのレベルに対して、さらにそのレベルの中での熟達度を4段階に分けた回答を選択させるもの。「できる」と「できない」の上下の両極端を選択することは分かりやすいものの、中間の理解度を、各国の翻訳言語に対応させることの難しさが発生した。例えば、英語でExcellent、Good、Average、Poorの4段階の言葉が、日本語でよくできる、できる、あまりできない、できないの4段階にそのまま対応しているのか。熟達度の段階の数だけではなく、提示方法の再検討が必要となった。

上記の試作を何度も重ね、機能としてはアンケート機能を採用することに決定し、言語については、多言語を挿入するとどの形式にしても情報量が膨大となり見にくいいため、日本語と学習者の母語のみを記載することにした。選択肢は、翻訳によるそれぞれの言語のニュアンスにできるだけ左右されないようパーセント表示も検討したが、そもそも自己評価が感覚であるところから、0から3の4段階として、文言を一番上と一番下のみに提示し、どの言語でも評価基準に差が出ないようにした。なお、丸印、三角、星の数等の記号は文字化けのリスクが高いこと等も、オンライン上での制約を考慮して、採用しないこととした。

最終的に完成したものが、次の図5である。

2.事業内容

A1 Can-do_Self-evaluation__Can-do自己評価_英語

This is a form for you to reflect on your learning achievements. Please answer frankly.
これは、今までの学習成果をみなさん自身で振り返るためのものです。率直に答えてください。

Able to catch familiar words and very basic expressions about themselves, their families, and specific things in their immediate surroundings if they speak clearly and slowly.
はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。

- Listen**
聞くこと
- 3 Very good_できる
 2
 1
 0 Not too good_できない

For example, they can understand familiar names, words, and simple sentences on billboards, posters, and catalogs.
例えば、掲示やポスター、カタログの中によく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。

- Read**
読むこと
- 3 Very good_できる
 2
 1
 0 Not too good_できない

If the other person speaks slowly, repeats or paraphrases, and offers help in expressing what he or she wants to say, you can have a simple exchange. Able to ask and answer simple questions about direct needs or very familiar topics.
相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。

- Conversation**
やり取り
- 3 Very good_できる
 2
 1
 0 Not too good_できない

Able to use simple words and sentences to describe where they live and the people they know.
どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。

- Speech**
発表
- 3 Very good_できる
 2
 1
 0 Not too good_できない

Able to write short, simple postcards, such as New Year's greetings. Able to write down personal data for example in a hotel, name, nationality, and address can be written by themselves.
新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。

- Listen**
書くこと
- 3 Very good_できる
 2
 1
 0 Not too good_できない

送信

(図5) learningBOXのアンケート機能による自己評価ツール（完成版）

2. 事業内容

上記の完成版はパソコンやタブレット等での大きな画面の機器での見え方であり、表示されたテキストや指示は学習者からも難なく読み取れることができる。一方で、学習者がオンライン環境で手軽に取り組める機器は、パソコンではなく常に持ち歩いているスマートフォンが想定されるため、その小さな画面にパソコンの大きな画面の内容を縮小化させてしまうと、それだけでストレスとなってしまうことを避けなければならない。learningBOXでは、レスポンス対応（画面の大きさによって、表示するテキスト等を自動調整する機能）が備わっており、表示の見栄えによる問題は自動的に解決できた（図6参照）。オンライン授業を実施する上では、教師側が提供する環境と、学習者が取り組む環境が違うことを常に意識して、必要性や状況に応じた対応を取ることがとても重要であることを再認識した。また、既存の汎用LMSを活用することで、高度なプログラミング技術を要することなく、少しのカスタマイズにより自己評価ツールを作成提供できることは有意義である。

なお、課題としてミャンマー語におけるデジタル機器画面でのテキスト表示の不具合、いわゆる「文字化け」（Mojibake, character error）の問題が発生し、その対処が必要となった。今回の自己評価では、対象をA1レベルとしており、学習者の母語での内容提示のために、各国語へ翻訳しそのテキストデータをlearningBOXのアンケート機能によるhtmlページへ埋め込むことにした。他の言語ではフォントの見え方の違いはあるものの、翻訳されたテキストがきちんと表示された。しかし、ミャンマー語に限っては、受け取ったpdfデータでは正確に表示され、印刷したのも正しく印字されているものの、htmlへの転記時に文字化けを起こすことが発覚した。サイト構築に詳しい者の情報によると、ミャンマーでは国際規格のUnicodeに対応していないテキストコード（Zawgyi）を利用していることが多々あり、それが文字化けを起こす原因と推定された。しかし、今回は文字化けの原因解明には至らず、その対処としては、ミャンマー語翻訳のpdfデータの提示と並行して、回答者には英語翻訳版で自己評価ツールを利用してもらうこととした。

A1 Can-do_Self-evaluation En__Can-do自己評価_英語

This is a form for you to reflect on your learning achievements. Please answer frankly.

これは、今までの学習成果をみなさん自身で振り返るためのものです。率直に教えてください。

Able to catch familiar words and very basic expressions about themselves, their families, and specific things in their immediate surroundings if they speak clearly and slowly.

はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。

Listen 聞くこと

- 3 Very good_できる
- 2
- 1
- 0 Not too good_できない

For example, they can understand familiar names, words, and simple sentences on billboards, posters, and catalogs.

例えば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、簡単な文を理解できる

(図6)完成版 ※スマートフォン画面

2.事業内容

・自己評価の実施結果

学習者からの自己評価の結果に対して、担当した教師へアンケートを実施した。学習者と教師の双方ともが全ての項目の結果で一致しているケースはとても少なく、一つ以上の項目の結果で不一致が見られた。

以下に、教師からの評価との差や、学習者の評価原因などに関して、感想の一例を挙げる。

“クラスの中で漢字圏からの学生が多数受講していたためか、教師側が思っている以上に「読むこと」が苦手だと感じていたようだ”（欧米圏の学習者）

“会話のテストでも質問を正確に理解していたようだが、外国語として、英語、中国語が堪能なため、それと比較をして「聞くこと」が難しいと感じていたのかと思う”（ロシア国籍の学習者）

“「やりとり」の自己評価が低くなった理由としては、本人が一番伸ばしたいと考えている能力がそれであり、他の言語能力に比べて意識がそこに向いていることが原因かと思われる”（モンゴル国籍の学習者）

“「聞くこと」「やりとり」の2つに関して、学習者の評価が高すぎるようだ。教師側の質問の意図を上手く理解できていないためか、少しずれた答えが返ってくるが多々あり、それに本人が気づいていない様子”（ミャンマー国籍の学習者）

今回は、自己評価の実施自体に、学習者が慣れていなかったことによる戸惑いも見られたようだが、母語の指示もあり意図していることは学習者には伝わっていたようである。また、前述の通り、今回作成した自己評価の結果の取り扱いは、学習者の意識づけをすることに重点を置き、教師がその後の指導のためにその結果をもとにどのような面談を行うか、どのように次の学習目標を定め、共通の意識を持てるかがとても大切である。択一問題の結果のように絶対的な評価が難しい中で、自信過剰や見栄、勘違い、他者との比較、他の言語能力との比較、謙遜、成長意識の表れなど、学習環境や性格の違いによる影響も多々あることなど、改めて自己評価をすることにより多くの気づきを得られることが最大の利点である。また、自己評価の結果をどのように扱うか、教師側の経験や理解に加え、その教育機関の教育方針も大きく関わることとなり、自己評価の実施が教育の質の向上にとっても役立つであろうと期待する。

2.事業内容

おわりに：取組の振り返り

日本語教育機関の留学現場can-doの検討や評価の実施は、参加した委員が属する日本語教育機関での取り組み実績や一部の研究事例発表があるものの、留学生への日本語教育を実施している現場ではあまり馴染みのあるものではなかった。参照枠の共通理解のために、委員同士で意見交換を行い、CEFR、JFスタンダードとの相違点も研究し、理解が深まるにつれ新たな謎が生まれては、議論の論点を見失わないよう互いに補い助け合い試行錯誤を繰り返して、期限を迎えての終了報告となった次第である。日頃の留学現場では時間に追われ、生活指導や感染防止対策なども山積みに業務を抱えている中で、今回の検討過程においては、所属機関を超えて委員同士の教育現場における共通課題や克服事例の共有もなされ、非常に有意義な時間を過ごすことができた。今回のオンライン教育実証事業は、対面授業とは違う新たな教授機会への挑戦であり、また参照枠の理解や導入が教育現場の教師へ与える大きな成長機会であることも実感できたように思える。

さて、最後に参照枠を理解し導入を試みていく中で、議論がまとまらず宙に浮いた時などには、下記の3つの大きな柱（「日本語教育の参照枠の言語教育観の柱⁵⁾」）に立ち戻るようにして理解を深めていった。

1. 学習者を社会的存在としてとらえる。
2. 言語を使って「できること」に注目する。
3. 多様な日本語使用を尊重する。

その時々委員が感じた意見や課題を以下に列挙する。今後、現場でのcan-do作成や評価実施の際に、参考にしていただければと思う。

- ・今回は「漢字」を取り扱わなかったが、項目として非常に重要である。
- ・学習コースの設計の際に、できることに着目する課題シラバスと、文法積み上げ型の構造シラバスとの間で、特に文法や文型における対応表の作成取組が必要である。
- ・語彙に関して、従来（留学現場）では教える必要のなかった言葉が、can-doとして課題遂行するために必要な言葉であれば、学習初期段階で導入する必要がある。
- ・教材ありきではなく、can-doありきで、カリキュラムが作成され、教材が作成されるべきで、教材開発も急務である。
- ・今回はA1のみ対象の取り組みだったが、A2など他のレベルのcan-doも検討した上で、A1のcan-doも見直していく必要がある。
- ・文法的正確さ、社会言語的な適切さ、多様な日本語使用を尊重するという考え方のバランスはどうあるべきか。相手に意図が通じて、敬語の使い方を間違えたりなど、適切かどうかを判断するのは難しい。活動can-doとしてはできていても、能力can-doとしてできているのか。
- ・多様な日本語使用の尊重は、間違えた日本語を使い続け、指摘をされても修正ができない化石などを放置することにならないかという危惧がある。

2.事業内容

2-4. 自主事業「モデル開発等事業」における日本語教育機関の取組結果

本事業において、各日本語教育機関で実施したオンライン教育実証の概要、実施結果等を取りまとめた。

2-4-1. 実施結果（設定目標、達成度評価、教材、成績等）

多くの授業の事後テストにおいて、点数の伸びが確認された。

全体の実施結果

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベル					モデル					事前テスト		事後テスト		成長幅(単位)					
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)	事前テスト テスト満点 割合	事後テスト テスト満点 割合				
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	回答者数	回答者数	事後-事前	事後-事前				
002-2	京都民際日本語学校_モデル外 (A1) _9/1-12/22	○											○	233	6	218	6	100	38.8%	36.3%	-3
004-1	東京育英日本語学院_モデル1 (B1) _7/19-10/18			○			○							478	6	166	2	200	39.8%	41.5%	2
004-2	東京育英日本語学校_モデル2 (A1) _7/20-10/5	○						○						177	14	61	2	40	31.6%	76.3%	45
006-1	双葉外語学校_モデル外②D (A1・A2) _7/28-9/20	○	○										○	158	7	156	6	40	56.4%	65.0%	9
006-1	双葉外語学校_モデル外②A (A1・A2) _7/28-9/20	○	○										○	137	5	147	5	35	78.3%	84.0%	6
006-1	双葉外語学校_モデル外②B (A1・A2) _7/28-9/20	○	○										○	210	7	234	7	40	75.0%	83.6%	9
006-1	双葉外語学校_モデル外②C (A1・A2) _7/28-9/20	○	○										○	115	5	110	5	40	57.5%	55.0%	-2
006-1	双葉外語学校_モデル外 (A1・A2) _10/27-12/2	○	○										○	151	7	180	7	35	61.6%	73.5%	12
006-1	双葉外語学校_モデル外 (A1,A2) _10/27-12/2	○	○										○	345	11	359	11	35	89.6%	93.2%	4
006-2	双葉外語学校_モデル外 (B1・B2) _10/27-12/10			○	○								○	139	4	108	3	40	86.9%	90.0%	3
006-3	双葉外語学校_モデル外 (B1・B2) _11/1-12/10			○	○								○	221	3	254	3	100	73.7%	84.7%	11
007-1	アカデミーオブランゲージアーツ_モデル 2 (A1) _7/18-9/22	○						○						204	11	290	11	40	46.4%	65.9%	20
007-2	アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ_ モデル2 (A1) _10/10-12/15	○						○						35	1	37	1	40	87.5%	92.5%	5
007-2	アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ_ モデル2 (A1) _10/10-12/16	○						○						19	1	24	1	40	47.5%	60.0%	13
010-1	上尾国際教育センター_モデル1 (A1) _7/27-10/4	○						○						594	4	724	4	230	64.6%	78.7%	14
010-2	上尾国際教育センター_モデル4 (A1) _10/11-12/23	○								○				329	8	459	8	100	41.1%	57.4%	16
011-1	浦和国际教育センター_モデル1 (A1) _7/25-9/22	○						○						675	5	890	5	230	58.7%	77.4%	19
011-2	浦和国际教育センター_モデル4 (A1) _10/11-12/23	○								○				259	7	264	7	100	37.0%	37.7%	1
012-1	与野学院日本語学校_モデル4 (A1) _7/20-10/17	○								○				375	6	377	5	100	62.5%	75.4%	13
012-2	与野学院日本語学校_モデル外 (B1) _10/1-12/31			○									○	1,977	14	2,447	14	225	62.8%	77.7%	15
013-1	福井ランゲージアカデミー_モデル外 (A1) _7/21-9/9	○											○	5,672	63	5,465	53	135	66.7%	76.4%	10
013-2	福井ランゲージアカデミー_モデル外 (A1) _7/21-9/9	○											○	776	31	745	26	40	62.6%	71.6%	9
013-3	福井ランゲージアカデミー_モデル外 (A1) _9/16-12/2	○											○	1,300	10	892	8	230	56.5%	48.5%	-8
013-4	福井ランゲージアカデミー_モデル2 (A1) _9/16-12/2	○						○						194	9	202	7	40	53.9%	72.1%	18
014-5	早稲田文化館日本語科_モデル外 (B2) _9/26-12/21			○									○	480	6	306	3	162	49.4%	63.0%	14
016-1	東方国際学院_モデル外 (B1) 7/14-9/30			○									○	738	13	512	7	100	56.8%	73.1%	16
016-1	東方国際学院_モデル外 (A1) _7/14- 12/16	○											○	643	12	593	9	100	53.6%	65.9%	12
018-1	習志野外語学院_モデル2 (A1) _7/20~ 9/20	○						○						24	2	47	2	40	30.0%	58.8%	29
018-2	習志野外語学院_モデル2 (A1) _10/3~ 12/12	○						○						283	11	309	10	40	64.3%	77.3%	13
019-1	ユニタス日本語学校_モデル1 (A1) _7/20-9/26	○						○						4,324	25	5,007	25	230	75.2%	87.1%	12

2.事業内容

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベル			モデル					モデル外		事前テスト		事後テスト		成長幅(単正答率(生正答率(生位:ポイント)						
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3	4	5	1	2	計	回答者数	計	回答者数	事後-事前				
019-1	ミツミネキャリアアカデミー_モデル2 (A1)_7/19~9/20	○											○		150	7	207	7	40	53.6%	73.9%	20
019-2	ミツミネキャリアアカデミー_日本語コース_モデル以外①(日本文化)_7/25~9/30				○	○								○	76	5	306	6	100	15.2%	51.0%	36
019-3	ミツミネキャリアアカデミー_日本語コース_モデル以外①(広告の日本語)_7/25~9/29				○	○								○	30	2	100	2	100	15.0%	50.0%	35
022-1	新宿平和日本語学校_モデル外 (A1)_9/5-12/10	○												○	6,494	18	15,389	16	1,200	30.1%	80.2%	50
022-2	新宿平和日本語学校_モデル外ハイフレックス (A1)_9/5-12/10	○												○	5,670	13	7,924	9	1,200	36.3%	73.4%	37
023-1	東京三立学院_モデル外 (B1)_10/5-10/31				○									○	92	5	149	4	50	36.8%	74.5%	38
023-2	東京三立学院_モデル外 (B1)_11/4-11/28				○									○	113	4	125	4	50	56.5%	62.5%	6
024-2	東京ノアランゲージスクール_モデル外 (B1)_9/1-11/30				○									○	14	2	34	2	20	35.0%	85.0%	50
025-1	東京四木教育学院_モデル1 (B1)_8/23-10/27				○		○								1,439	15	1,578	14	200	48.0%	56.4%	8
027-1	静岡日本語教育センター_モデル1 (B1)_9/20-10/25				○		○								292	6	655	5	200	24.3%	65.5%	41
027-2	静岡日本語教育センター_モデル2 (A1)_9/26-12/7	○					○								182	8	195	7	40	56.9%	69.6%	13
028-1	日本教育学院_モデル3 (A1・A2)_10/11-1/20	○	○					○						○	144	10	288	10	100	14.4%	28.8%	14
029-1	SCG日本語学校_モデル外 (A1,A2)_10/11-1/31	○	○											○	4,012	75	4,178	62	100	53.5%	67.4%	14
031-1	Sun-A国際学院大江戸校_モデル4 (A2)_10/5-12-23		○							○					237	5	306	5	100	47.4%	61.2%	14
031-2	Sun-A国際学院大江戸校_モデル4 (A1)_10/5-12-23	○								○					122	5	274	5	100	24.4%	54.8%	30
032-1	ヨシダ日本語学院_モデル4 (A1)_10/11-10/21	○								○					46	3	130	3	100	15.3%	43.3%	28
032-2	ヨシダ日本語学院_モデル4 (A2)_10/11-10/21		○							○					58	3	133	3	100	19.3%	44.3%	25
033-1	えびす日本語学校_モデル1 (A1)_10/7-12/9	○					○								843	5	914	5	230	73.3%	79.5%	6
034-1	KIJ語学院_モデル外 (A1・A2)_10/20-12/1	○	○											○	119	6	130	4	36	55.1%	90.3%	35
035-1	友国際文化学院_モデル5 (A1)_10/26-12/23	○												○	171	5	65	1	100	34.2%	65.0%	31
036-1	友ランゲージアカデミー_モデル5 (A2)_10/25-12/23		○											○	14	2	48	2	100	7.0%	24.0%	17
037-1	ファーストスタディ_モデル外 (A1)_11/1-12/29	○												○	81	7	107	6	30	38.6%	59.4%	21
037-2	ファーストスタディ_モデル外 (A2)_10/31-12/29		○											○	56	4	85	4	40	35.0%	53.1%	18
037-3	ファーストスタディ_モデル外 (B1)_10/31-12/29			○										○	298	10	423	10	55	54.2%	76.9%	23
037-4	ファーストスタディ_モデル外 (B2)_11/7-11/27			○										○	159	10	192	10	30	53.0%	64.0%	11
037-5	ファーストスタディ_モデル外 (A1)_10/31-12/28	○												○	211	11	218	11	30	63.9%	66.1%	2
037-6	ファーストスタディ_モデル外 (A2)_10/31-12/28		○											○	310	13	315	12	40	59.6%	65.6%	6
038-1	東京東陽日本語学院_モデル外 (A1)_11/1-12/23	○												○	142	16	88	11	45	19.7%	17.8%	-2

2.事業内容

■6カ月コース

授業ID	日本語教育機関・モデル名	レベル			モデル					事前テスト 事前の点数 (生徒合 計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合 計)		事前テスト 事後テスト テスト満点 合格数		成長幅(単 正答率(生 正答率(生 位:ポイン ト)		事後-事前				
		A1	A2	B1	B2	C	1	2	3		4	5	1	2	計	回答者数		計	回答者数	事後-事前	事後-事前
前半 三 カ 月	001-1	アリス日本語学校横浜校_モデル2 (A1,A2)_7/29-12/27	○	○										128	7	179	7	40	45.7%	63.9%	18
	002-1	京都民際日本語学校_モデル1 (A2) _7/20-12/14		○										807	8	988	8	199	50.7%	62.1%	11
	003-1	青山国際教育学院_モデル3 (A1,A2) _7/11-12/22	○	○										307	6	504	6	100	51.2%	84.0%	33
	007-3	アカデミーオプランゲージアーツ_モデル 2 (A1,A2)_7/18-12/15	○	○										320	13	375	13	40	61.5%	72.1%	11
	014-2	早稲田文化館_モデル1 (A2)_7/25-12/9		○										731	10	826	9	199	36.7%	46.1%	9
	014-3	早稲田文化館_モデル1 (A1)_7/25- 12/31	○											434	6	797	6	230	31.4%	57.8%	26
	014-4	早稲田文化館_モデル1 (B1)_7/25-12/9			○									343	3	511	3	200	57.2%	85.2%	28
	017-1	埼玉国際_モデル3 (A1・A2)_7/12- 12/23	○	○										1,181	36	1,655	35	100	32.8%	47.3%	14
	020-1	東京国際日本語学院_モデル外 (A1・ A2)_7/25-12/23	○	○									○	48	3	80	3	100	16.0%	26.7%	11
	024-1	東京ノアランゲージスクール_モデル5 (A1,A2)_9/1-1/31	○	○										290	10	759	11	100	29.0%	69.0%	40
026-1	東京アジア学友会_モデル4 (A1,A2) _8/22-1/25	○	○										540	27	1,584	24	100	20.0%	66.0%	46	
後半 三 カ 月	001-1	アリス日本語学校横浜校_モデル2 (A1,A2)_7/29-12/27	○	○										138	6	111	3	40	57.5%	92.5%	35
	002-1	京都民際日本語学校_モデル1 (A2) _7/20-12/14		○										1,040	8	862	6	200	65.0%	71.8%	7
	003-1	青山国際教育学院_モデル3 (A1,A2) _7/11-12/22	○	○										408	6	476	6	100	68.0%	79.3%	11
	007-3	アカデミーオプランゲージアーツ_モデル 2 (A1,A2)_7/18-12/15	○	○										53	2	53	2	40	66.3%	66.3%	0
	014-2	早稲田文化館_モデル1 (A2)_7/25-12/9		○										518	4	646	4	200	64.8%	80.8%	16
	014-3	早稲田文化館_モデル1 (A1)_7/25- 12/31	○											460	5	649	5	199	46.2%	65.2%	19
	014-4	早稲田文化館_モデル1 (B1)_7/25-12/9			○									258	2	349	2	215	60.0%	81.2%	21
	017-1	埼玉国際_モデル3 (A1・A2)_7/12- 12/23	○	○										650	33	870	28	100	19.7%	31.1%	11
	020-1	東京国際日本語学院_モデル外 (A1・ A2)_7/25-12/23	○	○									○	35	3	132	3	100	11.7%	44.0%	32
	024-1	東京ノアランゲージスクール_モデル5 (A1,A2)_9/1-1/31	○	○										433	8	904	11	100	54.1%	82.2%	28
026-1	東京アジア学友会_モデル4 (A1,A2) _8/22-1/25	○	○										462	24	1,040	20	100	19.3%	52.0%	33	

2.事業内容

2-4-2. アンケート（学習者・教師・機関責任者）結果分析

検証事業を通じた、オンライン日本語教育に関する当事者目線の課題感等の把握を目的として、参加した日本語教育機関の学習者、教師、機関の責任者を対象にアンケートを実施した。

アンケート調査概要

実施時期	2022年10月～2023年1月
実施方法	オンラインシステムで配布・回収 (※一部の回答者はExcel、PDFで配布・回収)
対象	実証事業参加の日本語教育機関 -学習者・教師・機関責任者、それぞれ別の設問で実査
目的	<ul style="list-style-type: none"> 本実証事業の取組の状況把握 回答結果の分析を通じた、本事業の効果検証
構成	学習者・教師・機関責任者、それぞれに本事業の効果、オンライン日本語教育の促進に向けた課題等をうかがう内容を整理（※右図は「学習者向け」の一部）。それらの内容を基に、オンラインシステムで実査

学習者向けアンケート	
■学習動機	
1.	【SA】 オンライン日本語教育プログラムを受けて日本 (1) 非常に高まった (2) 少し高まった
2.	【SA】 継続してオンライン日本語教育プログラムを受 (1) ぜひ続けたい (2) 続けると思う
3.	【SA】 継続して日本語を勉強したいと思えますか。 (1) ぜひ続けたい (2) 続けると思う
4.	【SA】 今後、日本語を学習する際、最も好ましい授業 (1) オンライン（リアルタイムのオンライン授業） (2) 教室での対面+オンライン参加の同時開催授業 (3) 教室での対面+オンライン参加の同時開催授業 (4) 教室での対面+オンライン参加の同時開催授業 (5) 教室での対面授業（オンラインを利用しない）
4-1.	【言語MA】 設問4.で (1) と答えた理由を教えてください (1) 日本の質の高い講師が行う授業が受講できるか (2) 移動する必要が無いため授業の選択の幅が広がる (3) その他（
4-2.	【言語MA】 設問4.で (2) と答えた理由を教えてください (1) 日本の質の高い講師が行う授業が受講できるか (2) 移動する必要が無いため授業の選択の幅が広がる (3) その他（
4-3.	【言語MA】 設問4.で (3) と答えた理由を教えてください (1) 日本の質の高い講師が行う授業が受講できるか (2) 移動する必要が無いため授業の選択の幅が広がる (3) その他（
4-4.	【言語MA】 設問4.で (4) と答えた理由を教えてください

学習者向けアンケート（回答者数：N=510, 回収率：71%）

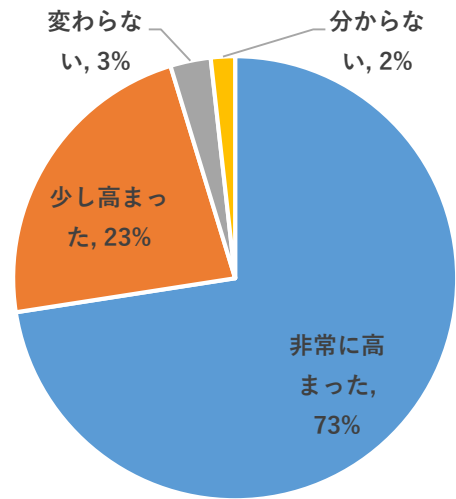
アンケート回答サマリ

- 9割を越える回答者が、日本留学の動機が高まったと回答、ほぼ全ての回答者が、日本語の勉強を継続する意思があると回答する等、参加者の「日本留学への動機付け」「今後も日本語を学びたい意欲醸成」に寄与できた
- ネットワーク不良や、コミュニケーションの難しさなど、オンラインという方法に依存する不満点は各日本語教育機関で共通して確認された
また、ネットワーク不良にも起因する「聞く」能力の向上の難しさや、オンラインでは確認しにくい「書く」能力の向上の難しさは、多くの生徒から課題である、と確認された
- 対面とオンライン、オンデマンドのそれぞれのメリットを活かす組み合わせで学習できる環境を求める意見も多く確認された
- 学生自身から、目が届かないゆえに自らの自主性を向上させることが重要、といった意見も挙がった

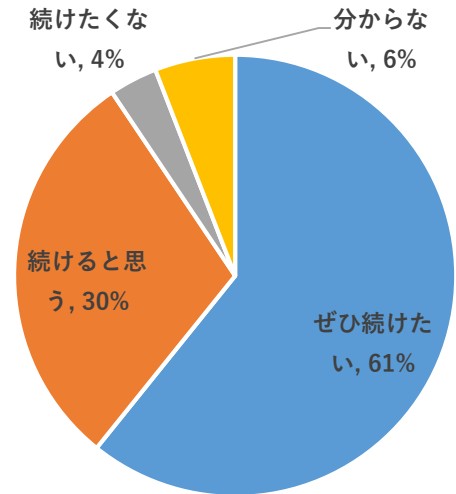
2.事業内容

各項目の回答

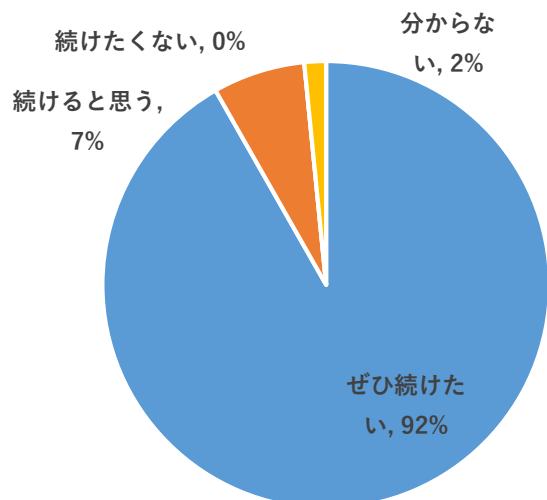
<p>1. オンライン日本語教育プログラムを受けて日本留学の動機が高まりましたか。</p>	<p>9割を越える方が、オンライン日本語教育プログラムを受けて日本留学の動機が高まったと回答した。</p>
---	---



<p>2. 継続してオンライン日本語教育プログラムを受講してみたいと思いますか。</p>	<p>8割を越える方が、オンライン日本語教育プログラムを継続して受講したいと回答した。</p>
--	---



<p>3. 継続して日本語を勉強したいと思いますか。</p>	<p>9割を越える方が、継続して日本語を勉強したいと回答した。</p>
--------------------------------	-------------------------------------

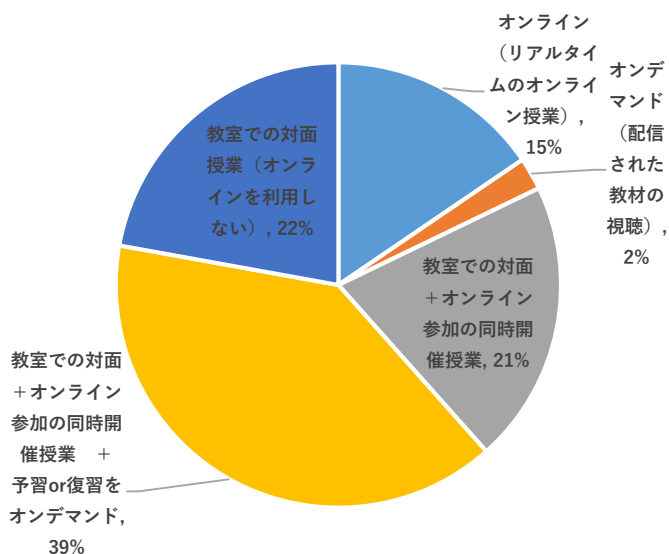


2.事業内容

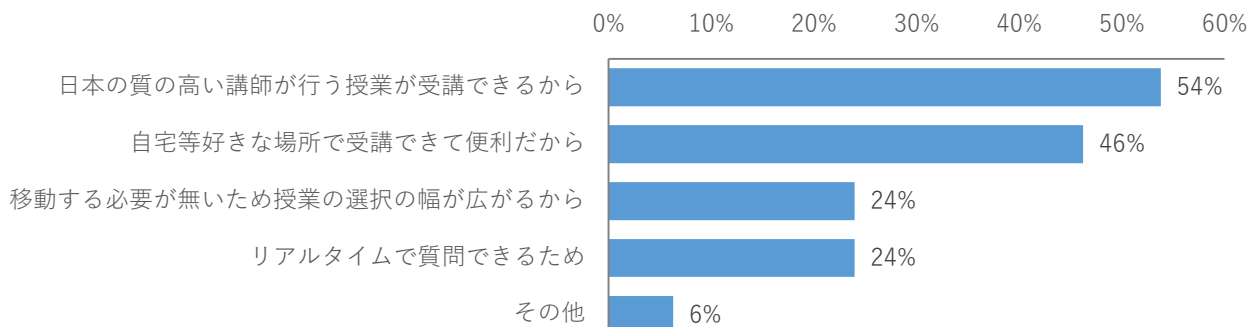
4. 今後、日本語を学習する際、最も好ましい授業形式はどれですか。

「教室での対面+オンライン参加の同時開催授業+予習or復習をオンデマンド」を好ましいと回答する方が最も多く、約39%の回答となった。

上記について、個別の設問において、生徒自身の好きな方法、タイミングで学習できることが選択された一つの理由であると確認された。

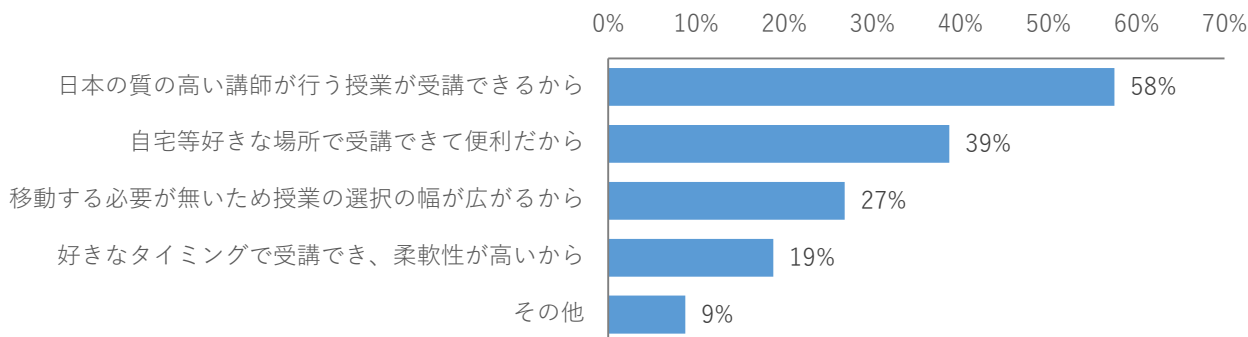


⇒設問4で、「オンライン (リアルタイムのオンライン授業) が好ましい」と答えた理由 (複数回答)



【その他の回答】
※自由記入の記載なし

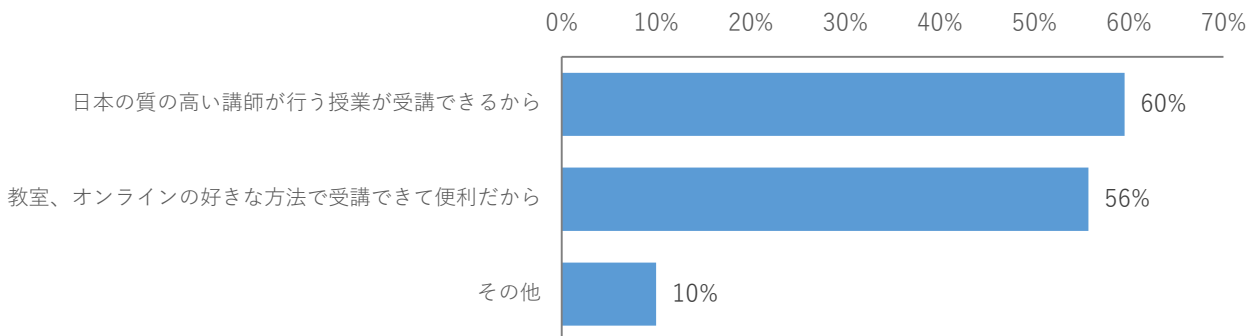
⇒設問4で、「オンデマンド (配信された教材の視聴) が好ましい」と答えた理由 (複数回答)



【その他の回答】
※自由記入の記載なし

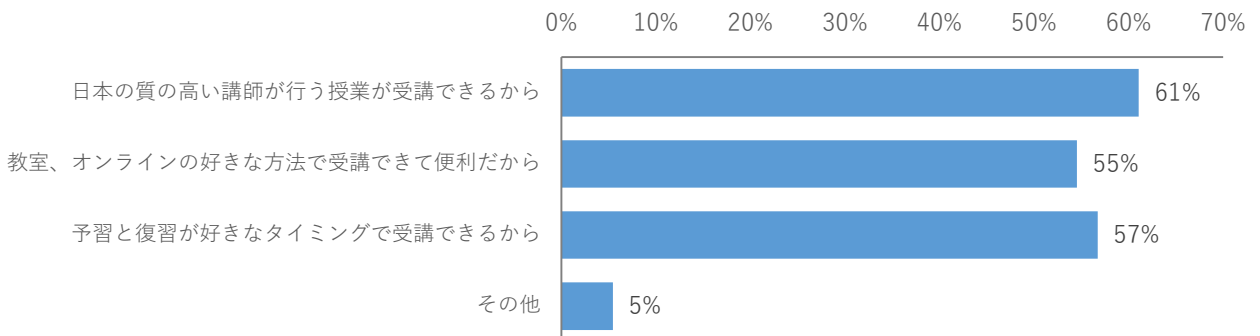
2.事業内容

⇒設問4で、「**教室での対面+オンライン参加の同時開催授業**」と答えた理由
(複数回答)



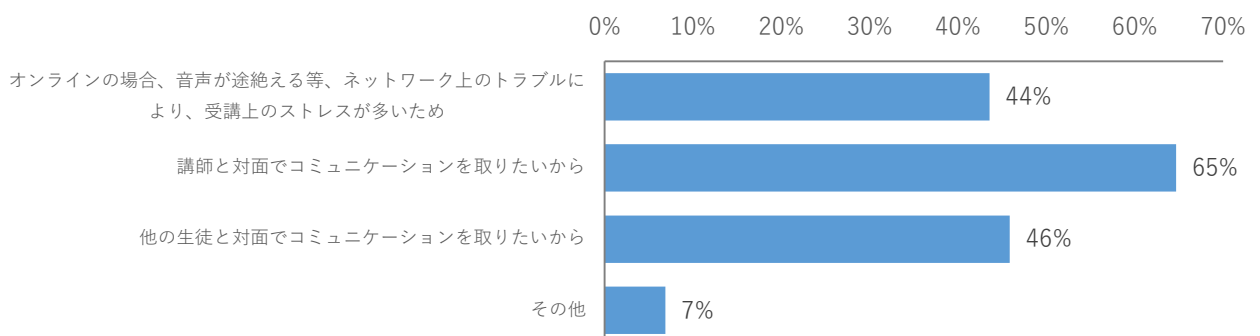
【その他の回答】
対面での授業はより理解しやすいため。／楽しいから。

⇒設問4で、「**教室での対面+オンライン参加の同時開催授業 + 予習or復習をオンデマンド**」と答えた理由 (複数回答)



【その他の回答】
様々な学習方法のバランスが取れるため。

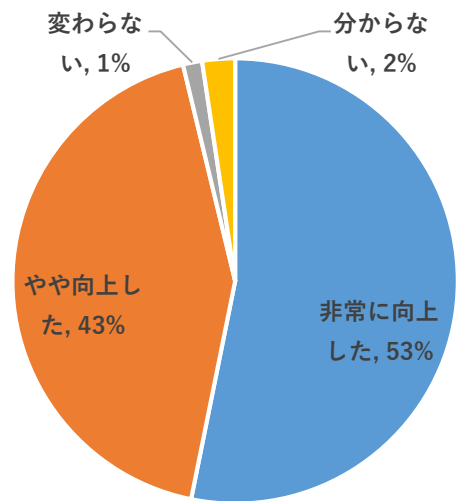
⇒設問4で、「**教室での対面授業 (オンラインを利用しない)**」と答えた理由
(複数回答)



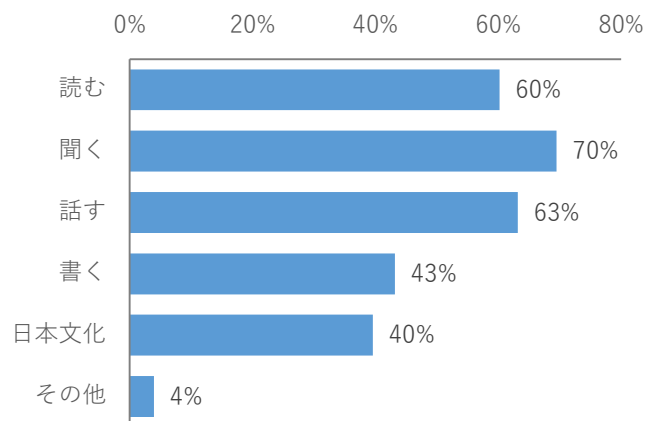
【その他の回答】
オンライン学習の場合、直接聞くことが非常に難しいから。／オンライン授業はとても便利ですが、私の住んでいるところではネットワークに少し問題があり、時々はっきり聞こえなかったり、はっきり話せなかったりすることがあるため。日本語のスピーキング能力を向上させるために、すべての先生や生徒と良いコミュニケーションを取りたい。／先生や他の生徒と顔を合わせて勉強することで授業を覚えやすく、集中力も持続しやすいと思うため。

2. 事業内容

<p>5. オンライン日本語教育プログラムを受けて日本語能力が向上しましたか。</p>	<p>9割を超える方が、オンライン日本語教育プログラムを受けて日本語能力が向上したと回答した。</p>
---	---



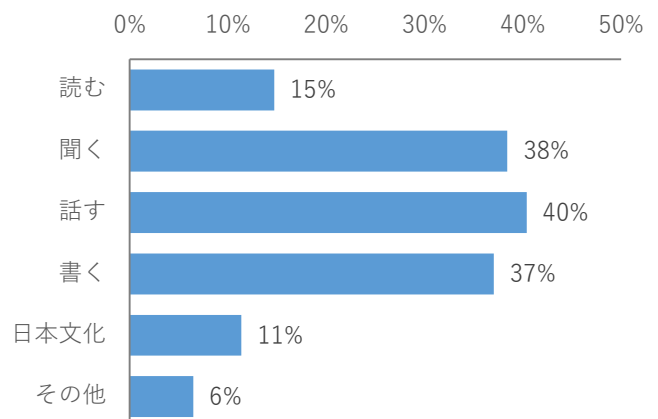
<p>6. 授業科目の中で、能力が向上したと感じる科目を教えてください。(複数回答)</p>	<p>「聞く」能力が向上した、という方が最も多く70%となった。</p>
--	--------------------------------------



【その他の回答】

漢字 / 敬語を使う力 / 話すことの自信 / 作文力 / 日本の都市、イベント、季節などの知識 等

<p>7. 授業科目の中で、オンラインで学習するのは難しいと感じた科目を教えてください。(複数回答)</p>	<p>「話す」能力の向上が難しかった、という方が最も多く40%、次いで「聞く」、「書く」の回答が多かった。</p>
--	---



【その他の回答】

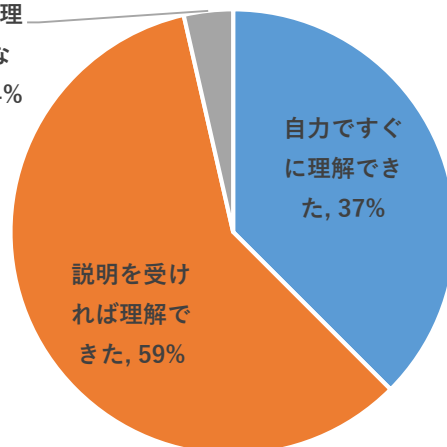
漢字を書くこと / 漢字を覚えること / 漢字を読むこと / アクセントの差異・発音 等

2.事業内容

8. オンライン学習の際に利用したシステム (learningBOX) の使い方はすぐ理解できましたか。

9割を超える方が、自力もしくは説明を受けることで「learningBOX」の使い方は理解できたと回答した

説明されてもあまり理解できなかった, 4%

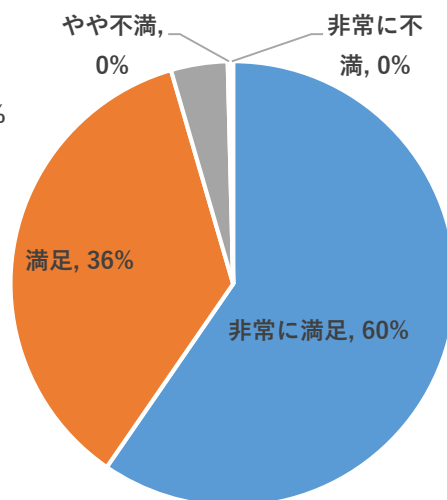


9. オンライン学習に関する学校からのサポート (システムの使い方サポートなど) について、満足度を教えてください。

オンライン学習に関する学校からのサポートについて、特に不満はなく、9割を超える方が満足と回答した。

やや不満, 0%
非常に不満, 0%

普通, 4%



2.事業内容

教師むけアンケート（回答者数：N=171, 回収率：80%）

※同一機関の複数コースで教師が重複している可能性があるため、回収率は参考値

アンケート回答サマリ

- 8割を越える方が、本事業を通じて「日本語の教授能力・スキルが向上した」と回答した。
- 対面での指導の理解度を50とした時、オンライン講義の際の生徒の理解度の感覚値を「50以下」と回答する方が86%を占めた
対面と同等、対面以上の理解度を実現するにはまだ課題があると感じた教師が多いことが確認された。
- 渡航前に日本語の基礎力をつけるための教育手法として有用であるとする意見が複数確認された。訪日後の本格的な授業開始時に、授業内容にキャッチアップするためのスキルを身に着けることで、対面授業によい影響がある、と推測されている。
また、日本の文化を知る、教師・他の生徒と事前にコミュニケーションする、ということの定性的な価値（訪日の興味意欲醸成、安心感の獲得など）にも寄与するのではないかと考える教師方が複数いた。
- 今後も積極的にオンライン教育に取り組むべきと考える方が多かった。一報、教える上では以下のような課題・困難が挙げられた。
 - ✓ 【「書く」能力の教育】
机を見回って記載内容を確認することができないため、日本語を「書く」能力を教育することが難しいと考える意見が多く確認された。写真を撮ってアップロードする等の対応をしている機関もあったが、より利便性の高い対応方法が求められる。
 - ✓ 【ネット環境整備】
相互の音声聞き取りにくいことで、発音矯正や指導など「聞く」能力の教育にネガティブな影響があった。容易に解決できることではないと多くの方が理解しつつ、生徒側の受講環境を整える必要性は多く言及された。
 - ✓ 【オンラインに適した授業づくり】
オンライン授業を効果的に実施するために、オンラインに適した教材の作成が必要であるといった意見が複数確認された。また、オリジナル教材が必要となった際には著作権の対応などが大きな負担となるため、レベルごとに共通した教材・ツールがあるとありがたい、といった意見も確認された。
クラスの人数についても、「少人数の方が適している」といった意見の方が多く、顔が見にくい状況で生徒の理解度などを把握するための努力が対面よりも必要であることや、各生徒とのやりとりにタイムラグなどが生じることから、大人数での対応が容易でない（＝少人数がよい）と考えているものと推察される。

2.事業内容

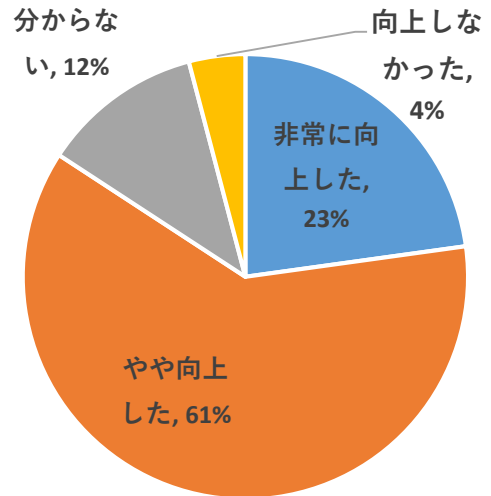
各項目の回答

1. 今回指導した学習のコースを選択してください。

※各回答者の該当するコースを選択

2. 本事業を通じて日本語の教授能力・スキルが向上しましたか。

8割を越える方が、本事業を通じて「日本語の教授能力・スキルが向上した」と回答した。



3. 向上したと考える日本語の教授能力・スキルを教えてください。

※回答を一部抜粋

【日本語教育スキル】

- ・ 読解ポイントの説明、漢字読み
- ・ 聴解ポイントの聞かせ方
- ・ 文法の説明方法（例文を多くすること）
- ・ 語彙の説明方法のスキル
- ・ 学生のアウトプットの確認方法やフィードバックのスキル
- ・ 提出物や記述したものはその場で確認しにくいいため、授業内でのやりとりの幅を広げることができた

【オンライン授業スキル】

- ・ オンライン上での教授法（例：オンライン授業という経験を通して、相手のスキルをどのように判断するかなど）
- ・ デジタル教材を使った説明・教え方（例：対面授業を行いながらいかにスムーズにPC上にイラストを出すか、次のDVDを出すかなど）
- ・ 教材作成するスキル（パワーポイントスライドなど、学生にわかりやすい、授業用スライドの作り方）
- ・ 表情の作り方（対面よりも大げさに）
- ・ 学生の発話を聞き取る力→多少Wi-Fi環境が悪くとも授業がスムーズに進められた
- ・ 発話の引き出し方
- ・ オンライン授業における学生のアウトプットの引き出し方、フィードバックの手法"
- ・ 質問に答えられない学生がこたえられるようにするための、ヒントの出し方や導き方。

2.事業内容

4. 対面で指導するのに比べて、どのような教授能力・スキルがより必要となると感じましたか教えてください。

【資料作成（事前準備など）】

- 板書計画を線密にたてPPTで準備しておくこと
- 授業構成能力。対面で行う内容の8割くらいしか進まない、という印象があり、たとえばネット不良などで説明や画面切り替えに時間もかかる。そのようなとき、時間制限がある中で、教える予定だった内容のどこに力点を置いて要領よく指導するか、を毎回考えた
- パワーポイント等の教材作成のスキル
- イラストなどを用いて、初級の学生でも分かりやすいように文型を導入するスキル 等

【学習者の巻き込み・モチベート】

- 質問や読みなど、小まめに発音を促し、聴講者とならないよう、授業に参加していることを常に体感させること"
- 対面であれば、クラスの一体感や協力関係を作りやすく、授業を重ねる中で学生同士の関係性も良い変化が見られるが、オンラインではそのような横の繋がりへのアプローチはしにくい面もあるため、クラスコントロールのようなスキルも必要だと感じた
- オンライン授業では、教師と学生が同じ場所にいないため、実際のところは授業にどの程度参加しているのか見えにくい点がある。主体的に授業に取り組むことが苦手な学生や集中しにくいという面もあると思うので、学生がカリキュラム全体やその日の学習項目一つ一つへの動機づけができるよう、教師側でも仕掛けを作っていく必要があると感じた
- 学習者との信頼関係・コミュニケーションの取り方 等

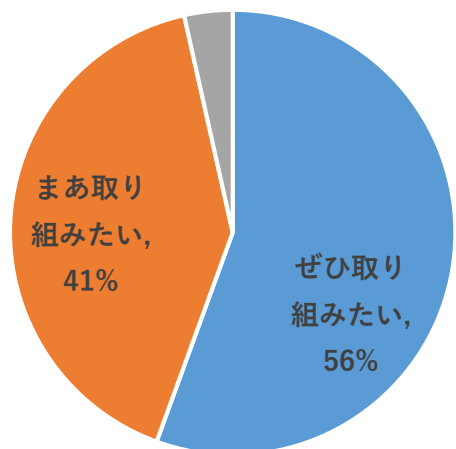
【PCスキル】

- パソコンの操作
- スムーズにイラストを用意して、タイミングに合わせて説明するスキル
- Zoom等の機能をうまく使用することができるとより効果的な練習や説明ができると感じた 等

5. 今後もオンライン教育に取り組んでいきたいですか。

9割を越える方が、今後もオンライン教育に取り組んでいきたいと回答した。

取り組みたくない, 4%

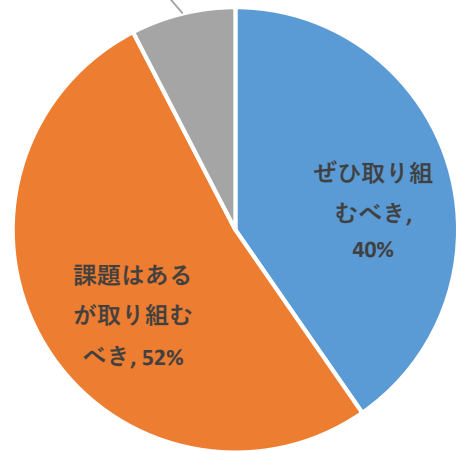


2.事業内容

6. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。

9割を超える方が、日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきと回答した。

慎重にすべき, 8%



7. 前設問のように答えた理由を詳しく教えてください。

【ぜひ取り組むべき】

- 日本へ来る前に表記や簡単な挨拶、日本の習慣等について学んでおけば、来日後スムーズに学習や生活を始めることができるのではと思うため
- オンラインでの授業を提供することができれば、さまざまな理由で通学が困難な学習者も日本語の学習が継続できる機会なると思うため
- 入国したばかりの学生たちは、初めて聞く日本人の日本語に戸惑ったり、緊張して上手く話せない方も多いです。事前に英語や母国語なども交えながら、説明があるとより安心して日本語学習に取り組めると思うため 等

【課題はあるが取り組むべき】

- 渡日前で学習意欲のある学生にはすすめるが、対面のほうがやりやすいところはある。
- 通信状態が悪い場合は難しい。また、書く技能の習得には不向きと考える
- オンライン授業では教授スキルだけではなく、PCスキルも必要になる点が課題 等

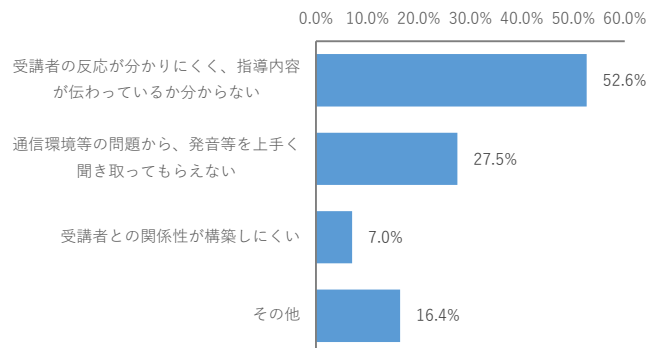
【慎重にすべき】

- 教室だけの授業に比べて制限等が多く、質を保つのが大変であるため
- 事前の準備の負担が大きい(wi-fiなどの環境整備・授業用の資料準備など)
- 対面の方が効果があると思うので、オンライン授業には慎重な態度をとるべきと思った 等

8. オンラインで日本語を教える際、困難や課題だと感じる部分を教えてください。(複数回答を含む)

「受講者の反応が分かりにくく、指導内容が伝わっているか分からない」という点に難しさを感じた回答者が多かった。

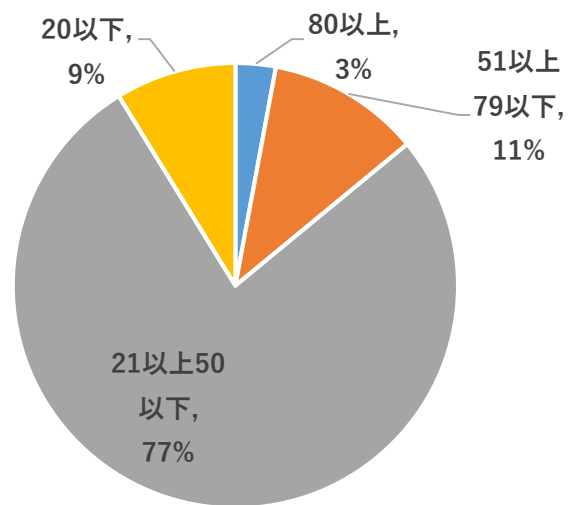
「その他」では、通信環境が悪い際の授業の停止や、国ごとの通信環境差異などが複数挙がった。



2.事業内容

9. 対面と比較して特に教えるのが困難だと感じた科目を教えてください。 注) 複数に該当する回答があったため合計が100%を超えている	書く	66%
	話す	17%
	聞く	7%
	読む	6%
	その他 (内訳：文法、多人数での文作指導、学習者同士の会話等)	4%
	日本文化	2%

10. 対面での指導の理解度を50とした時、オンライン講義の際の生徒の理解度の感覚値を0~100の整数でお答えください。	回答した数値が21~50の方が77%と、対面よりも生徒の理解度が低いと感じた方が多いことが確認された。
---	---

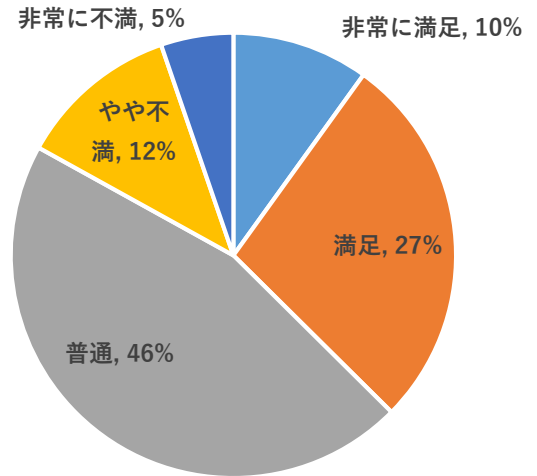


12. オンライン教育を今後より効果的なものにしていくために、授業の進め方や内容等、改善すべき点があれば教えてください。	<p>【「書く」スキルの教育方法改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> 書く授業について、学生が書いたものをどう回収しどうフィードバックするか、効率的な方法を考える必要がある 学生が文字を書いているところを教師が見られるようになると作文を書く際に困らないなど感じた <p>【ネット環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ネット環境が人によって異なるので、そこを改善できるかどうかが一番大きな課題／双方とも電波（Wi-Fi）環境をよくすること 特に海外にいる学習者の場合はインターネット環境が脆弱で、そのために学習がすすまないということが多々あった <p>【オンラインに適した授業づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインで使える教材を増やす／オンライン上で使用できる教材の開発 教師のITリテラシーの向上 画面共有できる教材の開発、オンライン受講者同士をスムーズに会話練習させ指導する方法、ハイブリッド授業の際の、教室内の学生の発話を聞かせるための、マイクなどの配置方法などの検討 教師側のオンライン授業の教授スキルを上げるために、定期的に講習会などを行うとよい
---	---

2.事業内容

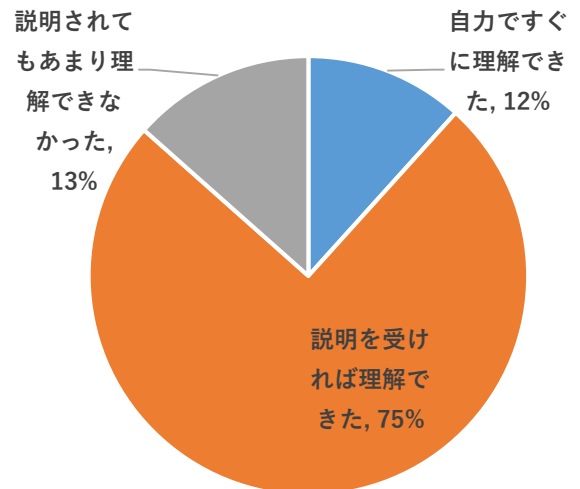
13. オンライン教育を効果的に実施するための校内研修やサポートについて、満足度を教えてください。

37%の方が、校内研修やサポートに一定程度の満足を得ていることが確認された。



14. オンライン教育の際に利用したシステム (learningBOX) の使い方はすぐ理解できましたか。

87%の方が、説明等を通じてlearningBOXの使い方を理解できたことが確認された。



2.事業内容

機関責任者むけアンケート（回答者数：N=33, 回収率：100%）

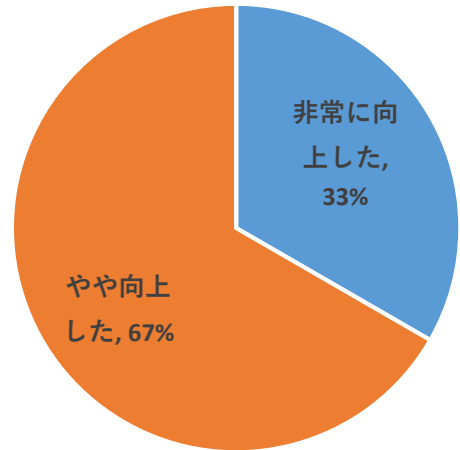
アンケート回答サマリ

- 日本語（教育）を世界により普及させるために、オンライン教育への取り組みの必要性共通している
オンラインによる日本語学習機会の提供に今後積極的に取り組むべきか、については「ぜひ取り組むべき」「課題はあるが取り組むべき」と回答したすべての責任者が考えている
- 継続的な実施にむけた課題としては、以下のような点が挙げられた。
 - ✓ **【ネットワーク環境の整備】**
生徒、教育機関の両面でのオンライン受講環境（デバイス、通信環境）の整備および整備の支援が必要
また、教育機関側のシステムやツールの使用への慣れ（デジタルリテラシー）も必要
 - ✓ **【教員配置／適切なカリキュラムの設定】**
実証ではなく、正規の授業としてオンライン教育に取り組んでいくにあたって、レベル別のカリキュラムや、対面授業と組み合わせを考慮した上での人員の配置変更や増員、授業プラン・教材の作成などが必要
 - ✓ **【現場のリソース（人員、知見、費用）の充足】**
教師・日本語教育機関職員のITリテラシー向上や、授業に必要なデジタル機器導入に関する予算確保など、機関のリソース確保が必要
- 国への要望としては、以下のような点が挙げられた。
 - ✓ **【環境整備への金銭的補助】**
生徒、教育機関の両面でのオンライン受講環境（デバイス、通信環境）の整備を促進する補助金、支援金があると取り組みがさらに進む
また、教材作成における著作権料の補助や、日本語教育機関運営に係る免税などもオンラインへの投資を可能にするため大きな支援となる
 - ✓ **【共通的な知見の提供】**
国などの条件別で適切なオンラインツールに関する知見や、オンライン講座に関するオリエンテーションなど、多く・全ての教育機関に共通して必要となるものについては、国などが一括して対応することで効率的な運用が可能となり、各機関の負担が減る

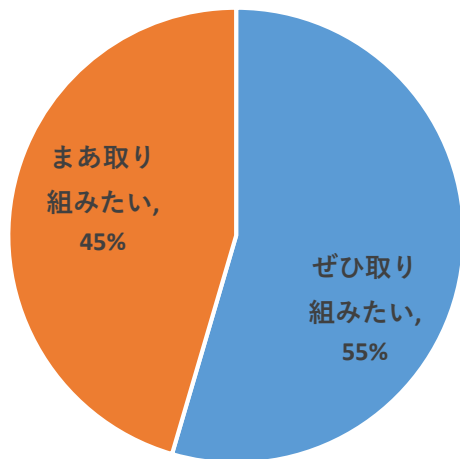
2.事業内容

各項目の回答

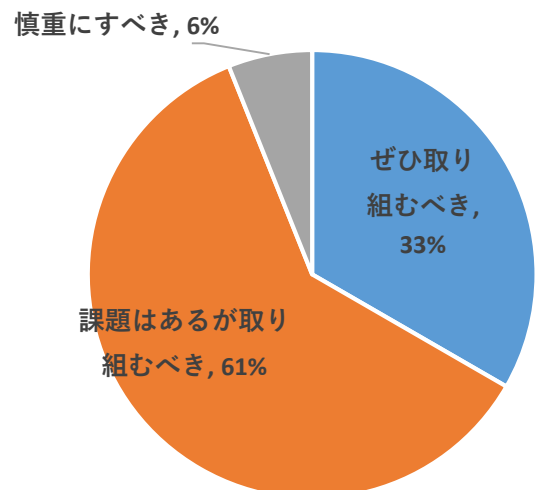
<p>1. 本事業を通じて日本語の教授能力・スキルが向上しましたか。</p>	<p>全ての回答者が、本事業を通じて「日本語の教授能力・スキルが向上した」と回答した。</p>
--	---



<p>2. 今後もオンライン教育に取り組んでいきたいですか。</p>	<p>全ての回答者が、今後もオンライン教育に取り組んでいきたいと回答した。</p>
------------------------------------	---



<p>3. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。</p>	<p>90%以上の回答者が、今後、日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供に取り組むべきと回答した。</p>
--	---



2.事業内容

4. 前設問のように答えた理由を詳しく教えてください。

【ぜひ取り組むべき】

- 現地で学んでいるものを実際にアウトプットするという事は来日前に非常に重要なポイントであるため
- 来日前にオンラインで慣れていると、何より来日後に非常にスムーズに日本での生活に溶け込んでいける、入国後の学級運営に有意義なため
- 今回のような新型コロナなどで対面授業が行うことができない不測の事態においても、学習者に対しての学習の機会を提供できるため
- 今後、学習者の国籍/ニーズなど多様化が予想され、オンライン授業を通じて学校と取組や学習内容を配信することは、学生募集にもつながると考えるため
- 日本人講師がいない地域への日本語教育を容易にしてくれる。日本語学習者の裾野を広げてくれるため
- 学校の知名度を高めてくれるため
- 日本語教育機関もなくNATテストやJLPTが行われていない国の学生にとって日本留学への機会が得られる。また日本留学の前に先生との信頼関係も築くことができるため 等

【課題はあるが取り組むべき】

- オンライン授業では、1つの固定カメラだけなので、「読む」「聞く」「書く」「話す」の生徒の理解度を図るのが非常に難しく、細かにチェックしていかなければならないので、少人数が望ましい
- 渡日前の教育としては現地の日本語の教育水準があまり高くない場合は、日本から直接の学習機会を提供したほうが学習効率的には良い。また国内でも日本語学習空白地帯と言われている場所に在住の学習希望者への提供は積極的にすべきであると考え。ただし、学習者のオンライン授業を受ける環境とITスキルについて双方の条件が整っていることが必要
- 渡日前の日本語教育は経済格差がある国の場合、有償で行う場合のコストの問題がある
- 現地でのネットワーク環境が良好でない事例が多い
- オンラインとして授業が成立するのか、国によってネットワークの状況整備が難しい場合があるので慎重に取り組むべき。ただ、今後日本に来る学生たちの意識づけとしては良いと思う 等

【慎重にすべき】

- 通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供については概ね賛同するが、渡日前については非常にやり取りが困難な上、学習者の管理や指導が非常に難しく質の保証という点で疑問が残った
- 現地の学校による現地の学生のオンラインと、日本側からの会ったこともない学生に対する完全なオンライン教育は別であると感じている 等

2.事業内容

5. 日本語教育機関として、今後オンライン教育を実施する上で、課題があれば教えてください。 注) 複数回答のため合計が100%を超えている	ネットワーク環境の整備	64%
	教員配置	55%
	適切なカリキュラムの設定	48%
	機器等のコスト	42%
	講師のオンライン教育ノウハウの不足	42%
	講師のITリテラシーの欠如	33%
	その他 (内訳：著作権、教授法の検討、オンライン授業に関する教師への研修、学費等)	21%

6. 前設問で回答した課題について詳しく教えてください。	【ネットワーク環境の整備】 <ul style="list-style-type: none"> ● 今回はインドネシアをメインで実施しましたが、日本語教員からの声でZoomが固まってしまうたり、授業が途切れてしまい何度か言い直さないとダメな時があり、理解をさせられているか不安だとの声が毎回の授業報告で上がってきたため ● 学校側のネットワーク環境はある程度準備を行い事業を行ったが、色々な国の学習者を対応したため、各学習者でネットワーク環境が異なっていた
	【教員配置】 <ul style="list-style-type: none"> ● 教員不足 ● 入国緩和により留学生の受入れが開始されたため、通常のクラス運営と時期が重なったために教師配置に苦労した
	【適切なカリキュラムの設定】 <ul style="list-style-type: none"> ● 学習者はオンライン受講以外に仕事を持っていたり家族の世話があたりと、時間的な制約や余裕がそれぞれであるため、無理のないペースで学習できるコースを作らなければ負担が大きいようである
	【機器等のコスト】 <ul style="list-style-type: none"> ● 教員側については、コスト面から学校が教員にPCを配ることができなかった為に、パフォーマンスが一定ではなかった
	【講師のオンライン教育ノウハウの不足】 <ul style="list-style-type: none"> ● クラス授業が基本であり現実的にはハイフレックス型が望ましいが、対面とオンライン双方に適するカリキュラムを作成するためには、オンライン教育の実践経験がある程度必要と考える
	【講師のITリテラシーの欠如】 <ul style="list-style-type: none"> ● ベテラン教師にはクラス授業をオンラインでスムーズに行う事がやや難しい。ましてやlearningBOX等のeラーニングシステムを使用するのは不可能
	【その他】 <ul style="list-style-type: none"> ● <教授法の検討> 現地の学生が直接法での授業に慣れていないことから、日本で教えている教え方をそのままでは適用できないことも今後検討する必要があると思われる ● <著作権> オンライン授業に特化した教材作成の際に、講師・機関で著作権の許諾を得ることが難しく、紹介したいものほど許諾をえられず、非常にもどかしい 等

2.事業内容

7. 前設問で回答した課題が、現状解決できていない原因（例：予算不足、優先度低、知見不足等）があれば教えてください。

【人員不足】

- 今回は教員に無理をしてもらうことで解決したが、適切な対応であったとは思えずに解決したとは思えない。本来であれば、そのために新しい教員を採用すべきであったかもしれなかった
- 予算及び教員リソースの不足、より優先度の高い業務があるため経験を蓄積できない
- 教員が新しいことを取り入れられるようなマインド及び技術研修や環境を整備できていない
- 若い講師を採用しなければならないが、現在募集をかけてもなかなか若い教師が見つからない
- 業界全体的な教員不足
- 求人を出していても応募がない／若い講師を採用しなければならないが、現在募集をかけてもなかなか若い教師が見つからない 等

【予算不足】

- オンライン授業のためのカリキュラムや環境整備するためには、ネット環境、パソコンの性能、オンライン授業ツールをそろえるために費用もかかり、またカリキュラムを開発するためには研究人材の費用が掛かる
- 予算不足。コロナ時代の厳しい経営状況もあり、施設、設備の整備は、簡単ではない

【知見不足】

- オンライン授業のノウハウもまだまだ不足しているため、まだまだエラーアンドトライを続けている状況
- 年配のベテラン教師がZoomの使い方やパソコン、IPADの接続、設定方法などについて講習も行い、念のためすべての授業にITスキルを有する事務職員がオンラインで待機し、フォローした 等

2.事業内容

8. 前設問で回答した課題の解決にむけて実施可能な取り組み（自社でできること、国としての支援、双方の視点で）があれば教えてください。

【人材関連の支援】

- オリエンテーションや学習相談等は、各学校が各自で行うのではなく、国別で全学校共通するスタッフを配置することは一案
- 日本語オンライン教育に必要なIT技術に関する講習の定期的な実施。特に年配なベテラン教師を対象に定期的に支援があれば助かる
- 日本語学校への支援、日本語教師の給料面改善等、若い人材の就職を促進・支援する取組があると良い 等

【費用・予算面の支援】

- 日本語教育機関の運営経費が軽減される支援（例：日本語学校への税の見直し、日本語教員への補助金等）があると、オンライン環境整備にかかる費用を確保できる
- 学習者の通学・移動などの費用、PCシステムなどの提供の補助などを行ってもらえると均一のネットワークの環境の提供が可能になると考える
- オンラインを実施するための環境整備費（例：機器導入に対する税控除、IT導入補助金の用途拡大、ネット環境整備費の支援など）への支援があると取り組みがスピードアップすると考える
- 教材制作に係る著作権料への支援があると、学校がオンライン、ハイブリッド向けに教材作りに取り組みやすくなる
- オンライン環境整備に必要な機器の一定期間のレンタル等支援。例えば、他の学校と同一の機材を利用することで、共通の理解や問題解決が期待できるため、機材研究の研修等を併せて提供されると個別の機関のみでなく、様々な日本語教育機関にとって有益である 等

【制度・仕組み面の支援】

- 渡日前教育として今後もオンライン授業を留学生のビザ申請の学習履歴として認めてもらえれば、日本からのオンライン授業を選ぶ留学希望者も現れるのではないかと考える
- 今回のオンライン実証事業も意欲的な試みで良かった。継続して同じような事業をしていただくことも一案
- オンライン機器・ツールに関する纏まった情報（例：どの国でも対応できるオンラインソフト、適切なオンライン環境の機器リスト等）を国が提示してくれれば環境について一から個々の学校が調査する時間が省けるため、良いと考える
- 他校や異業種等とのオンライン授業に特化した学習コースの開発等の共同開発の機会を設けていただくこと
- 指定文化財や公共価値のある建物や、店舗等の著作権の特例措置を検討していただくこと／DXを推進し、オンラインを活用して日本語教育の水準を上げることを本気で考えるのであれば、テキストの著作権の在り方を一考していただきたい 等

2.事業内容

2-4-3. マトリクスに基づくグッドプラクティス抽出・分析

本章では、各日本語教育機関が実施した実証事業の内容を踏まえ、マトリクスを構成する観点「日本語レベル（A~C）」、「言語活動領域」、「オンライン教育手法（オンライン（双方向）、ハイブリッド型、オンデマンド型、ハイフレックス型）」、「授業のコース（進学、就職、一般）」のそれぞれにおいて、優れた取組を抽出することで、より多くの日本語教育機関に参考となる好事例・具体的な取組などの整理を目指して取り組んだ。

■実証実施状況 マトリクスによる整理

レベル	言語活動	オンライン（双方向）のみ			ハイブリッド型			オンデマンド型			ハイフレックス型		
		進学	就職	一般	進学	就職	一般	進学	就職	一般	進学	就職	一般
A1	話す（やりとり）	21	10	15	3	3	4	13	9	11	7	2	3
	話す（発表）	21	10	15	3	3	4	13	9	11	6	2	3
	聞く	21	10	15	3	3	4	13	9	11	7	2	3
	読む	21	10	15	3	3	3	13	9	11	7	2	3
	書く	20	10	14	3	3	3	13	9	11	7	2	3
	日本事情・日本理解	21	10	15	3	3	4	13	9	11	7	2	3
	その他	2	2	2	0	0	0	1	1	1	1	1	1
A2	話す（やりとり）	8	4	8	0	0	1	6	4	6	2	1	2
	話す（発表）	8	4	8	0	0	1	6	4	6	2	1	2
	聞く	8	4	8	0	0	1	6	4	6	2	1	2
	読む	8	4	8	0	0	0	6	4	6	2	1	2
	書く	8	4	8	0	0	0	6	4	6	2	1	2
	日本事情・日本理解	8	4	8	0	0	1	6	4	6	2	1	2
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B1	話す（やりとり）	7	4	4	0	0	0	4	4	3	0	0	0
	話す（発表）	5	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	聞く	7	4	4	0	0	0	4	3	2	0	0	0
	読む	7	4	4	0	0	0	5	4	3	0	0	0
	書く	3	1	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0
	日本事情・日本理解	6	3	3	0	0	0	3	3	2	0	0	0
	その他	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B2	話す（やりとり）	2	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	話す（発表）	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	聞く	2	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	読む	2	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	書く	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	日本事情・日本理解	2	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C	話す（やりとり）	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	話す（発表）	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	聞く	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	読む	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	書く	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本事情・日本理解	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

実証数 計	226	119	172	18	18	26	134	100	114	54	19	31
実証数総合計	1031											

2. 事業内容

グッドプラクティス選定の観点

グッドプラクティスの判断基準は、「1. マトリクスの網羅性」を満たすこと、「2. 成績の成長幅」が大きいこと、「3. 各日本語教育機関からの報告書や報告会等での報告内容（実施内容）」に工夫が見られること、という観点で総合的に判断して事例を抽出した。

なお、グッドプラクティスは受託事業者による上記観点踏まえた選定であり、対象となっていない各機関での取組に工夫が見られなかった、等ということを意味しない。各機関の詳細な取組は、「別添4 各日本語教育機関の実施結果」に詳しいため、必要に応じて参照されたい。

各機関の学生成績一覧及び選定観点を整理

選定観点

基準

1. マトリクスの網羅性

- 他観点を踏まえた総合判断を前提として、基本的に、
- ✓ 該当機関があるマトリクスを網羅的に対象。各個別観点（例：オンライン（双方向）、進学、書く等）では必ず1つを対象に選定
 - ✓ 対象なしのマトリクスも存在

参考：下記の塗りつぶし箇所はグッドプラクティスを抽出

レベル	言語活動	オンライン (双方向)			ハイブリッド型			オンデマンド型			ハイフレックス型		
		進学	就職	一般	進学	就職	一般	進学	就職	一般	進学	就職	一般
A1	話す（やりとり）	21	10	15	3	3	4	13	9	11	7	2	3
	話す（発表）	21	10	15	3	3	4	13	9	11	6	2	3
	聞く	21	10	15	3	3	4	13	9	11	7	2	3
	読む	21	10	15	3	3	3	13	9	11	7	2	3
	書く	20	10	14	3	3	3	13	9	11	7	2	3
	日本事情・日本理解	21	10	15	3	3	4	13	9	11	7	2	3
	その他	2	2	2	0	0	0	1	1	1	1	1	1
A2	話す（やりとり）	8	4	8	0	0	1	6	4	6	2	1	2
	話す（発表）	8	4	8	0	0	1	6	4	6	2	1	2
	聞く	8	4	8	0	0	1	6	4	6	2	1	2
	読む	8	4	8	0	0	0	6	4	6	2	1	2
	書く	8	4	8	0	0	0	6	4	6	2	1	2
	日本事情・日本理解	8	4	8	0	0	1	6	4	6	2	1	2
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B1	話す（やりとり）	7	4	4	0	0	0	4	4	3	0	0	0
	話す（発表）	5	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	聞く	7	4	4	0	0	0	4	3	2	0	0	0
	読む	7	4	4	0	0	0	5	4	3	0	0	0
	書く	3	1	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0
	日本事情・日本理解	6	3	3	0	0	0	3	3	2	0	0	0
	その他	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B2	話す（やりとり）	2	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	話す（発表）	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	聞く	2	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	読む	2	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	書く	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	日本事情・日本理解	2	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C	話す（やりとり）	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	話す（発表）	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	聞く	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	読む	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	書く	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本事情・日本理解	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2. 事業内容

選定観点

基準

2. 成績の成長幅

- 他観点を踏まえた総合判断を前提として、基本的に、
- ✓ 生徒全体の事前テストと事後テストの成長幅が10ポイント以上プラスの機関を対象
- ✓ 同マトリクスにおける相对比较で上位の成長幅を対象
- ✓ 生徒が5名以上の機関を対象

参考：各機関の成績一覧（※塗りつぶしはグッドプラクティス）

授業ID	学校・モデル名	レベル										事前テスト 事前の点数 (生徒合計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合計)	事後テスト 回答者数	テスト満点	事前テスト正答率 (生徒合計)	事後テスト正答率 (生徒合計)	成長幅 (ポイント)			
		A					B														
		1	2	1	2	C	1	2	3	4	5								1	2	
002-2	京都市国際日本語学校_モデル外(A1)_9/1-12/22	○											○	233	6	218	6	100	38.8%	36.3%	-3
004-1	東京育英日本語学院_モデル1(B1)_7/19-10/18			○			○							478	6	166	2	200	39.8%	41.5%	2
004-2	東京育英日本語学校_モデル2(A1)_7/20-10/5	○						○						177	14	61	2	40	31.6%	76.3%	45
006-1	双葉外語学校_モデル外②D(A1・A2)_7/28-9/20	○	○										○	158	7	156	6	40	56.4%	65.0%	9
006-1	双葉外語学校_モデル外②A(A1・A2)_7/28-9/20	○	○										○	137	5	147	5	35	78.3%	84.0%	6
006-1	双葉外語学校_モデル外②B(A1・A2)_7/28-9/20	○	○										○	210	7	234	7	40	75.0%	83.6%	9
006-1	双葉外語学校_モデル外②C(A1・A2)_7/28-9/20	○	○										○	115	5	110	5	40	57.5%	55.0%	-2
006-1	双葉外語学校_モデル外(A1・A2)_10/27-12/2	○	○										○	151	7	180	7	35	61.6%	73.5%	12
006-1	双葉外語学校_モデル外(A1,A2)_10/27-12/2	○	○										○	345	11	359	11	35	89.6%	93.2%	4
006-2	双葉外語学校_モデル外(B1・B2)_10/27-12/10			○	○								○	139	4	108	3	40	86.9%	90.0%	3
006-3	双葉外語学校_モデル外(B1・B2)_11/1-12/10			○	○								○	221	3	254	3	100	73.7%	84.7%	11
007-1	アカデミーオブランゲージーツ_モデル2(A1)_7/18-9/22	○						○						204	11	290	11	40	46.4%	65.9%	20
007-2	アカデミー・オブ・ランゲージーツ_モデル2(A1)_10/10-12/15	○						○						35	1	37	1	40	87.5%	92.5%	5
007-2	アカデミー・オブ・ランゲージーツ_モデル2(A1)_10/10-12/16	○						○						19	1	24	1	40	47.5%	60.0%	13
010-1	上尾国際教育センター_モデル1(A1)_7/27-10/4	○						○						594	4	724	4	230	64.6%	78.7%	14
010-2	上尾国際教育センター_モデル4(A1)_10/11-12/23	○								○				329	8	459	8	100	41.1%	57.4%	16
011-1	浦和国际教育センター_モデル1(A1)_7/25-9/22	○						○						675	5	890	5	230	58.7%	77.4%	19
011-2	浦和国际教育センター_モデル4(A1)_10/11-12/23	○								○				259	7	264	7	100	37.0%	37.7%	1
012-1	与野学院日本語学校_モデル4(A1)_7/20-10/17	○								○				375	6	377	5	100	62.5%	75.4%	13
012-2	与野学院日本語学校_モデル外(B1)_10/1-12/31			○							○			1,977	14	2,447	14	225	62.8%	77.7%	15
013-1	福井ランゲージアカデミー_モデル外(A1)_7/21-9/9	○									○			5,672	63	5,465	53	135	66.7%	76.4%	10
013-2	福井ランゲージアカデミー_モデル外(A1)_7/21-9/9	○									○			776	31	745	26	40	62.6%	71.6%	9
013-3	福井ランゲージアカデミー_モデル外(A1)_9/16-12/2	○									○			1,300	10	892	8	230	56.5%	48.5%	-8
013-4	福井ランゲージアカデミー_モデル2(A1)_9/16-12/2	○						○						194	9	202	7	40	53.9%	72.1%	18

2.事業内容

授業ID	学校・モデル名	レベル										事前テスト 事前の点数 (生徒合計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合計)	テスト満点	事前テスト 正答率 (生徒合計)	事後テスト 正答率 (生徒合計)	成長幅 (単位: ポイント)			
		A					B														
		1	2	1	2	C	1	2	3	4	5								1	2	
014-5	早稲田文化館日本語科_モデル外 (B2)_9/26-12/21					○							○	480	6	306	3	162	49.4%	63.0%	14
016-1	東方国際学院_モデル外 (B1) 7/14-9/30					○							○	738	13	512	7	100	56.8%	73.1%	16
016-1	東方国際学院_モデル外 (A1) 7/14-12/16	○											○	643	12	593	9	100	53.6%	65.9%	12
018-1	習志野外語学院_モデル2 (A1) 7/20~9/20	○									○			24	2	47	2	40	30.0%	58.8%	29
018-2	習志野外語学院_モデル2 (A1) 10/3~12/12	○									○			283	11	309	10	40	64.3%	77.3%	13
019-1	ユニタス日本語学校_モデル1 (A1) 7/20-9/26	○									○			4,324	25	5,007	25	230	75.2%	87.1%	12
019-1	ミツミネキャリアアカデミー_モデル2 (A1) 7/19~9/20	○									○			150	7	207	7	40	53.6%	73.9%	20
019-2	ミツミネキャリアアカデミー日本語コース_モデル以外①(日本文化) 7/25~9/30												○	76	5	306	6	100	15.2%	51.0%	36
019-3	ミツミネキャリアアカデミー日本語コース_モデル以外①(広告の日本語) 7/25~9/29												○	30	2	100	2	100	15.0%	50.0%	35
022-1	新宿平和日本語学校_モデル外 (A1) 9/5-12/10	○											○	6,494	18	15,389	16	1,200	30.1%	80.2%	50
022-2	新宿平和日本語学校_モデル外 ハイフレックス (A1) 9/5-12/10	○											○	5,670	13	7,924	9	1,200	36.3%	73.4%	37
023-1	東京三立学院_モデル外 (B1) 10/5-10/31					○							○	92	5	149	4	50	36.8%	74.5%	38
023-2	東京三立学院_モデル外 (B1) 11/4-11/28					○							○	113	4	125	4	50	56.5%	62.5%	6
024-2	東京ノアランゲージスクール_モデル外 (B1) 9/1-11/30					○							○	14	2	34	2	20	35.0%	85.0%	50
025-1	東京四木教育学院_モデル1 (B1) 8/23-10/27					○								1,439	15	1,578	14	200	48.0%	56.4%	8
027-1	静岡日本語教育センター_モデル1 (B1) 9/20-10/25					○							○	292	6	655	5	200	24.3%	65.5%	41
027-2	静岡日本語教育センター_モデル2 (A1) 9/26-12/7	○									○			182	8	195	7	40	56.9%	69.6%	13
028-1	日本教育学院_モデル3 (A1・A2) 10/11-1/20	○	○								○			144	10	288	10	100	14.4%	28.8%	14
029-1	SCG日本語学校_モデル外 (A1,A2) 10/11-1/31	○	○										○	4,012	75	4,178	62	100	53.5%	67.4%	14
031-1	Sun-A国際学院大江戸校_モデル4 (A2) 10/5-12-23					○							○	237	5	306	5	100	47.4%	61.2%	14
031-2	Sun-A国際学院大江戸校_モデル4 (A1) 10/5-12-23	○											○	122	5	274	5	100	24.4%	54.8%	30
032-1	ヨシダ日本語学院_モデル4 (A1) 10/11-10/21	○									○			46	3	130	3	100	15.3%	43.3%	28
032-2	ヨシダ日本語学院_モデル4 (A2) 10/11-10/21					○							○	58	3	133	3	100	19.3%	44.3%	25
033-1	えびす日本語学校_モデル1 (A1) 10/7-12/9	○									○			843	5	914	5	230	73.3%	79.5%	6
034-1	KIJ語学院_モデル外 (A1・A2) 10/20-12/1	○	○										○	119	6	130	4	36	55.1%	90.3%	35
035-1	友国際文化学院_モデル5 (A1) 10/26-12/23	○											○	171	5	65	1	100	34.2%	65.0%	31
036-1	友ランゲージアカデミー_モデル5 (A2) 10/25-12/23					○							○	14	2	48	2	100	7.0%	24.0%	17
037-1	ファーストスタディ_モデル外 (A1) 11/1-12/29	○											○	81	7	107	6	30	38.6%	59.4%	21
037-2	ファーストスタディ_モデル外 (A2) 10/31-12/29					○							○	56	4	85	4	40	35.0%	53.1%	18
037-3	ファーストスタディ_モデル外 (B1) 10/31-12/29					○							○	298	10	423	10	55	54.2%	76.9%	23
037-4	ファーストスタディ_モデル外 (B2) 11/7-11/27					○							○	159	10	192	10	30	53.0%	64.0%	11
037-5	ファーストスタディ_モデル外 (A1) 10/31-12/28	○											○	211	11	218	11	30	63.9%	66.1%	2
037-6	ファーストスタディ_モデル外 (A2) 10/31-12/28					○							○	310	13	315	12	40	59.6%	65.6%	6
038-1	東京東陽日本語学院_モデル外 (A1) 11/1-12/23	○											○	142	16	88	11	45	19.7%	17.8%	-2

2.事業内容

授業ID	学校・モデル名	レベル										事前テスト 事前の点数 (生徒合計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合計)	事後テスト 事後の点数 (生徒合計)	テスト満点	事前テスト正答率 (生徒合計)	事後テスト正答率 (生徒合計)	成長幅 (単位:ポイント)	
		A					B												
		1	2	1	2	C	1	2	3	4	5								1
001-1	アリス日本語学校横浜校_モデル2 (A1,A2) _7/29-12/27	○	○					○				128	7	179	7	40	45.7%	63.9%	※前 18 半3 カ月
002-1	京都国際日本語学校_モデル1 (A2) _7/20-12/14		○				○					807	8	988	8	199	50.7%	62.1%	※前 11 半3 カ月
003-1	青山国際教育学院_モデル3 (A1,A2) _7/11-12/22	○	○					○				307	6	504	6	100	51.2%	84.0%	※前 33 半3 カ月
007-3	アカデミーオプランゲージアーツ_モデル2 (A1,A2) _7/18-12/15	○	○					○				320	13	375	13	40	61.5%	72.1%	※前 11 半3 カ月
014-2	早稲田文化館_モデル1 (A2) _7/25-12/9		○				○					731	10	826	9	199	36.7%	46.1%	※前 9 半3 カ月
014-3	早稲田文化館_モデル1 (A1) _7/25-12/31	○					○					434	6	797	6	230	31.4%	57.8%	※前 26 半3 カ月
014-4	早稲田文化館_モデル1 (B1) _7/25-12/9			○			○					343	3	511	3	200	57.2%	85.2%	※前 28 半3 カ月
017-1	埼玉国際_モデル3 (A1・A2) _7/12-12/23	○	○					○				1,181	36	1,655	35	100	32.8%	47.3%	※前 14 半3 カ月
020-1	東京国際日本語学院_モデル外 (A1・A2) _7/25-12/23	○	○								○	48	3	80	3	100	16.0%	26.7%	※前 11 半3 カ月
024-1	東京ノアランゲージスクール_モデル5 (A1,A2) _9/1-1/31	○	○							○		290	10	759	11	100	29.0%	69.0%	※前 40 半3 カ月
026-1	東京アジア学友会_モデル4 (A1,A2) _8/22-1/25	○	○					○				540	27	1,584	24	100	20.0%	66.0%	※前 48 半3 カ月
001-1	アリス日本語学校横浜校_モデル2 (A1,A2) _7/29-12/27	○	○					○				138	6	111	3	40	57.5%	92.5%	※後 35 半3 カ月
002-1	京都国際日本語学校_モデル1 (A2) _7/20-12/14		○				○					1,040	8	862	6	200	65.0%	71.8%	※後 7 半3 カ月
003-1	青山国際教育学院_モデル3 (A1,A2) _7/11-12/22	○	○					○				408	6	476	6	100	68.0%	79.3%	※後 11 半3 カ月
007-3	アカデミーオプランゲージアーツ_モデル2 (A1,A2) _7/18-12/15	○	○					○				53	2	53	2	40	66.3%	66.3%	※後 0 半3 カ月
014-2	早稲田文化館_モデル1 (A2) _7/25-12/9		○				○					518	4	646	4	200	64.8%	80.8%	※後 16 半3 カ月
014-3	早稲田文化館_モデル1 (A1) _7/25-12/31	○					○					460	5	649	5	199	46.2%	65.2%	※後 19 半3 カ月
014-4	早稲田文化館_モデル1 (B1) _7/25-12/9			○			○					258	2	349	2	215	60.0%	81.2%	※後 21 半3 カ月
017-1	埼玉国際_モデル3 (A1・A2) _7/12-12/23	○	○					○				650	33	870	28	100	19.7%	31.1%	※後 11 半3 カ月
020-1	東京国際日本語学院_モデル外 (A1・A2) _7/25-12/23	○	○								○	35	3	132	3	100	11.7%	44.0%	※後 32 半3 カ月
024-1	東京ノアランゲージスクール_モデル5 (A1,A2) _9/1-1/31	○	○							○		433	8	904	11	100	54.1%	82.2%	※後 28 半3 カ月
026-1	東京アジア学友会_モデル4 (A1,A2) _8/22-1/25	○	○					○				462	24	1,040	20	100	19.3%	52.0%	※後 33 半3 カ月

赤字は6か月コース

2.事業内容

選定観点

3. 各日本語教育機関からの報告書や報告会等での報告内容（実施内容）

基準

他観点を踏まえた総合判断を前提として、

- ✓ 日本語教育機関報告書の記載が豊富、詳細（＝取り組みの充実度、本事業への前向きな姿勢）であった機関を対象
- ✓ 中間報告会等で、取り組みを発表いただいた機関を対象（※報告が早期かつその時点での成長幅が大きかった、短期で対応いただいた等、本事業への取り組み姿勢からの判断）

グッドプラクティス一覧

グッドプラクティス		マトリクスとの対応			
		レベル	教育手法	コース	言語活動領域
Case.1	032：ヨシダ日本語学院	A1	ハイフレックス	進学	話す（やりとり）
Case.2	027：静岡日本語教育センター	B1	オンライン（双方向）	進学	話す（発表）
Case.3	013：福井ランゲージアカデミー	A1	ハイブリッド型	進学・就職・一般	話す（やりとり）
Case.4	019：ミツミネキャリアアカデミー	B2、C	オンライン（双方向）	進学・就職・一般	聞く
Case.5	022：新宿平和日本語学校	A1	オンデマンド	進学・就職・一般	書く
Case.6	037：ファーストスタディ	A2	オンライン（双方向）	一般	聞く
Case.7	026：東京アジア学友会	A1	ハイフレックス	進学・就職・一般	日本事情・日本理解
Case.8	026：東京アジア学友会	A2	ハイフレックス	進学・就職・一般	日本事情・日本理解
Case.9	007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ	A1	オンデマンド	進学・就職・一般	話す（やりとり）
Case.10	〃	〃	〃	〃	話す（発表）
Case.11	〃	〃	〃	〃	聞く
Case.12	〃	〃	〃	〃	読む
Case.13	〃	〃	〃	〃	書く
Case.14	〃	〃	〃	〃	日本事情・日本理解
Case.15	003：青山国際教育学院	A1	オンライン（双方向）	進学・就職・一般	話す（やりとり）
Case.16	〃	〃	〃	〃	話す（発表）
Case.17	〃	〃	〃	〃	聞く
Case.18	〃	〃	〃	〃	読む
Case.19	〃	〃	〃	〃	書く
Case.20	〃	〃	〃	〃	日本事情・日本理解

2.事業内容

グッドプラクティス		マトリクスとの対応			
		レベル	教育手法	コース	言語活動領域
Case.21	003：青山国際教育学院	A2	オンライン（双方向）	進学・就職・一般	話す（やりとり）
Case.22	〃	〃	〃	〃	話す（発表）
Case.23	〃	〃	〃	〃	聞く
Case.24	〃	〃	〃	〃	読む
Case.25	〃	〃	〃	〃	書く
Case.26	〃	〃	〃	〃	日本事情・日本理解
Case.27	013：福井ランゲージアカデミー	A1	ハイブリッド	進学・就職・一般	話す（やりとり）
Case.28	〃	〃	〃	〃	話す（発表）
Case.29	〃	〃	〃	〃	聞く
Case.30	〃	〃	〃	〃	読む
Case.31	〃	〃	〃	〃	書く
Case.32	〃	〃	〃	〃	日本事情・日本理解
Case.33	022：新宿平和日本語学校	A1	ハイフレックス	進学・就職・一般	話す（やりとり）
Case.34	〃	〃	〃	〃	話す（発表）
Case.35	〃	〃	〃	〃	聞く
Case.36	〃	〃	〃	〃	読む
Case.37	〃	〃	〃	〃	書く
Case.38	〃	〃	〃	〃	日本事情・日本理解
Case.39	〃	〃	〃	〃	その他
Case.40	023：東京三立学院	B1	オンデマンド	進学・就職・一般	話す（やりとり）
Case.41	〃	〃	〃	〃	話す（発表）
Case.42	〃	〃	〃	〃	聞く
Case.43	〃	〃	〃	〃	読む
Case.44	〃	〃	〃	〃	書く
Case.45	037：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校	B1	オンライン（双方向）	一般	話す（やりとり）
Case.46	〃	〃	〃	〃	話す（発表）
Case.47	〃	〃	〃	〃	聞く
Case.48	〃	〃	〃	〃	日本事情・日本理解

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイフレックス×進学>

言語活動<話す(やりとり)>

Case.1 032：ヨシダ日本語学院

■基本情報

授業ID	032-1
機関名	ヨシダ日本語学院
実証取組モデル	実証取組モデル4（3か月）
オンライン教育手法	ハイフレックス型 / オンデマンド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学
授業の実施期間	2022/10/11～2022/12/21
学習者数	3名
担当教師	5名
授業の学習時間	150
実施した言語活動	話す(やりとり) 聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール (Zoom)
使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	Anker
使用した映像 (カメラ) 機	logicool
使用したファイル形式	PowerPoint、PDF、MP3、MP4
撮影をした場所	普段の教室

■実証内容

講義内容	日常会話
授業方式	オンライン (双方向)
使用教材	①名称：みんなの日本語初級 I 第2版 レベル：A1 内容：「練習B」, 「練習C」, 「会話」に沿った会話練習 ②名称：【オンデマンド教材】例文やりとり動画 レベル：A1 内容：やりとりのモデルを視聴し、発話練習をする。質問に答える。
教授法	直接法

2.事業内容

Case.1 032：ヨシダ日本語学院

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ 自己紹介をはじめとし、初対面の相手に挨拶ができ、自分の身分等について話すことができる。
- ✓ 日常生活の基本的な行為をはじめ、趣味や休日の過ごし方などについて述べるができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ 『みんなの日本語初級Ⅰ』の「練習C」、「会話」を発展させたオリジナル会話発表
- ✓ 修了試験（本校オリジナル）「会話テスト」

評価方法

- ✓ テキストを読むことなく、テキストの型に沿って自分なりに言いたいことを産出することができる。
- ✓ 『みんなの日本語初級Ⅰ』各課の学習目標に沿って設定している。
- ✓ 授業内におけるやりとり、質問に対する答えを観察する。
- ✓ 修了試験「会話テスト」においてタスクに沿った発話、やりとりを行う。

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (100点満点)	事後テスト点数 (100点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Turkey	男性	20代	7	53	46	88%
02	Senegal	女性	20代	10	29	19	89%
03	China	男性	10代	29	48	19	86%

実証事業参加者 計3名

Point：効果的な教育にむけて実施した、講師・学習者に対する研修やサポート

【学習者に対して】

- オンライン参加の学習者に孤独感を感じさせずに教室にいるかのようなやり取りを実現するべく、教室の機材の配置、設定に気を配った。また、オンライン学習者と教室の学習者とでペア練習するなど、互いに話す機会を多く取り入れた。
- 宿題など定着を図る機会をつくり、こまめなテストを実施した。

【講師に対して】

- 教室内の学生とオンラインの学生とでペアを組ませてやりとりの練習をさせる際の、タブレット端末の操作について説明した。
- オンデマンド教材作成に必要な機器操作について説明した。

2.事業内容

Case.1 032：ヨシダ日本語学院

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 修了後の「効果検証テスト」（learningBOX上）に関して、事前のテスト結果より点数が大きく伸びた学生は、文字から状況を読み取る力がつき、会話における産出力もついた。
- 修了試験（本校オリジナル）「会話テスト」の結果より、学習した語彙・文法を運用する力がついたと言える学生が3人中2人いる。残る1人も開講当初に比べると相当話す（やりとりをする）ことができるようになった。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 適切なカリキュラムの設定が必要。
- 個別の発話機会、対面の学生とオンラインの学生が交流する場をより多く設けることが課題である。

2.事業内容

グッドプラクティス

<B1×オンライン（双方向）型×進学>

言語活動<話す（発表）>

Case.2 027：静岡日本語教育センター

■基本情報

授業ID	027-1
機関名	学校法人静岡日本語教育センター
実証取組モデル	実証取組モデル1（3か月）
オンライン教育手法	オンライン（双方向）
授業のレベル	B1
授業のコース	進学
授業の実施期間	2022/9/20～2022/12/15
学習者数	7名
担当教師	2名
授業の学習時間	60
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	付属のスピーカー、マイク
使用した映像（カメラ）機	付属のカメラ、書画カメラ
使用したファイル形式	パワーポイントの教材を使用、ワード、エクセル
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容	動画を見ながらレベルに合わせた日本語を勉強し身近な話題について理解 動画に関連する日本文化やポップカルチャーに触れ、日本を理解 日本での日常生活で出会う話題について、会話の表現を勉強し、練習
授業方式	オンライン（双方向）
使用教材	①事務局提供教材 レベル：B1 内容：日本文化、風習、日本人の考え方、社会に関する動画教材

2.事業内容

Case.2 027：静岡日本語教育センター

■目標設定／評価方法

・ can-do
目標

- ✓ 身近な話題や自分の体験について順序だてて論理的に話すことができるようになる。
身近な話題、一般的な社会の話題について自分の意見や感想を話せるようになる。

評価方法

評価ツール

- ✓ 授業期間内の発表

評価方法

- ✓ 「指示されたテーマにそって話すことができているか。」「説明、事実をもとに自分の意見、感想、調べたことが順序立てて話せているか。」について、「よく理解できている・おおむね理解できている・あまり理解できていない・全く理解できていない」の四段階で評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (200点満点)	事後テスト点数 (200点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Myanmar	女	20代	137	173	36	96%
02	Myanmar	女	20代	6	126	120	92%
03	Myanmar	男	10代	55	86	31	40%
04	China	男	10代	18	187	169	100%
05	Mongolia	女	20代	15	-	-	16%
06	SriLanka	男	20代	61	83	22	60%
07	SriLanka	男	20代	-	-	-	16%

実証事業参加者 登録計7名

Point：発言の促進やコミュニケーションの活性化を実現する、授業内外の発言機会の設計

- ・ 事務局提供の動画教材を使用し、それをもとに話すきっかけになるような話題提供を増やし、学習モチベーションの向上を図った。
- ・ 毎回の授業の感想、意見が発表できる機会を増やした。
- ・ 発表が一方にならないように、発表する・コメントするというやりとりを増やした。
- ・ オンライン授業実施のための技術向上を目指して、オンライン教育の経験が多くある教員とそうでない教員を組み合わせた。

2.事業内容

Case.2 027：静岡日本語教育センター

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 話す量、時間が増えました。自分の感想や意見を順序立てて論理的に話せるようになりました。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が必要。
- インターネット環境が不安定で、発表内容が聞き取りづらい場合があります。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイブリッド型×進学・就職・一般>

言語活動<話す(やりとり)>

Case.3 013：福井ランゲージアカデミー

■基本情報

授業ID	013-4
機関名	福井ランゲージアカデミー
実証取組モデル	モデル外② (3か月)
オンライン教育手法	ハイブリッド型+オンデマンド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/9/16~2022/12/2
学習者数	10名
担当教師	14名
授業の学習時間	60
実施した言語活動	話す(やりとり) 話す(発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール (Zoom)
使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	AVerMedia Sony
使用した映像 (カメラ) 機	Web会議用カメラ360° AIカメラ (Owl)
使用したファイル形式	モデル2 配布PDF及び授業担当教師作成オリジナルパワーポイントを使用
撮影をした場所	普通の教室

■実証内容

講義内容	さまざまなタイプのオンライン教材を使用した授業
授業方式	ハイブリッド型ハイフレックス型
使用教材	①「eTRY!START/N5」及びモデル2 提供PDFファイル 内容：会話場面、会話練習、ロールプレイの提供、使用文法項目の学習、使用語彙の学習 ②「いろいろ」及びモデル2 提供PDFファイル 内容：会話場面、会話練習、ロールプレイの提供、使用文法項目の学習、使用語彙の学習 ③うごく絵本ライブラリ ストーリーの理解確認、自分に引き寄せた話題に関するやりとり ※教材レベルはすべてA1
教授方法	通常使用している以外の教材に触れ、各教師の教授方法のバリエーションを増やすことをめざした。また、この実証事業を通して、教員全体が情報を共有し、協働する意義を理解し、日々の教育活動へよい影響をもたらすことをめざした。動画を見ながらレベルに合わせた日本語を勉強し身近な話題について理解。

2.事業内容

Case.3 013：福井ランゲージアカデミー

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ 相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。

評価方法

評価ツール

- ✓ モデル2 提供「会話やりとりテスト」

評価方法

- ✓ 「タスクの達成度 正確さ」を指標として、モデル2 指定基準で評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (40点満点*)	事後テスト点数 (40点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Nepal	男性	20代	19	-	-	23%
02	Nepal	女性	20代	20	24	4	90%
03	Nepal	女性	20代	28	39	11	94%
04	Nepal	女性	20代	14	24	10	42%
05	Nepal	男性	20代	-	-	-	45%
06	Nepal	男性	20代	14	28	14	87%
07	Nepal	男性	20代	23			90%
08	Nepal	男性	20代	12	35	23	97%
09	Nepal	男性	20代	26	28	2	84%
10	Nepal	女性	20代	38	24	-14	35%

実証事業参加者 計10名

*文法テスト30点満点、会話テスト10点満点の合計

2.事業内容

Case.3 013：福井ランゲージアカデミー

Point：多様な教材の活用・教員による指導を通して、学習者にとって日本語をより身近にする

【教材の工夫】

- さまざまなタイプのオンライン教材を使用して授業活動を行うことを通して、身近な事柄に関する日本語使用ができるようになることを目指して取り組んだ。

【教師の工夫】

- 教員配置において、専任及び非常勤の講師全員が本実証事業の授業を担当し、教員全員のオンライン日本語教育に関する教育力の向上を目指して取り組んだ。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、結果の信頼性が疑われる場合もあった。
- ZoomでのQAのやりとりテストの事前事後では、参加率の高かった学習者は大きな進歩がみられた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が必要。
- 音声を介した全体でのやり取り練習や活動はおおむね問題なくできたが、ペアやグループで行う練習は今回のハイブリットの場合、ブレイクアウトルーム（BOR）を利用する必要がある。しかし、海外からアクセスする学習者がネット環境により、BORに参加する際に負荷が大きくネットから落ちてしまう場合があり、BORの利用ができなかった。それにより、すべての練習が全体で行われ、発言の機会は限られた時間になってしまった。ネット環境に左右される活動は課題が残る。

2.事業内容

グッドプラクティス

<B2・C×オンライン（双方向）型×進学・就職・一般>

言語活動<聞く>

Case.4 019：ミツミネキャリアアカデミー

■基本情報

授業ID	019-2
機関名	ミツミネキャリアアカデミー
実証取組モデル	モデル外①（2か月）
オンライン教育手法	オンライン（双方向）
授業のレベル	B2、C
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/19～2022/9/26
学習者数	6名
担当教師	4名 ※アンケート回答者数
授業の学習時間	32
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	dynabookPC付属のスピーカーとマイク
使用した映像（カメラ）機	dynabookPC付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント、PDF,写真
撮影をした場所	その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | 教師が用意したPPTで日本文化や日本事情をかみ砕いて説明*

OPクラスの内容をオンライン授業に移行

参考教材：「マンガで学ぶ日本語表現と日本文化」

☆日本の年中行事や習慣、またそれに関連のある日本語を学び、日本と自国を比較する。他学生と意見を交わし、日本や自国の年中行事や習慣などについて発表する。（基本的には個人発表）

担当講師 | 日本文化に精通している日本語教師

授業方式 | オンライン（双方向）

使用教材 | ①教師の自作教材

レベル：B2、C

内容：日本の行事や習慣など

*教師のかみ砕いた説明の内容が分からないという学生はほとんどいなかった。一方、学生の発表の日本語の聞き取りが難しかったようである。辞書などで説明したものをそのまま発表したりしていたためと考える。その際は簡単な日本語に直すように指導をおこなった。

2.事業内容

Case.4 019：ミツミネキャリアアカデミー

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ 教師の説明から日本事情の用語や学生の発表内容が理解できる。

評価方法

評価ツール

- ✓ 特になし

評価方法

- ✓ 教師の説明や発表の内容を正しく、理解できているか。

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (100点満点)	事後テスト点数 (100点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	China	女性	20代	27	44	17	94%
02	China	男性	20代	14	67	53	88%
03	China	男性	20代	13	73	60	75%
04	VietNam	女性	20代	11	63	52	63%
05	China	男性	20代	-	40	-	75%

実証事業参加者 計6名

Point：効果的な授業進行を実現するクラス及び授業設計

- 全員にプレースメントテストの実施と会話チェックを実施、希望のクラスのレベルに合うかどうかを確認。クラスに合ったレベルの学生で構成することによって、日本語能力のばらつきがなく、円滑な授業進行を実現。
- 発表準備を宿題とした。授業の時間は時間は学びに時間を多く割くことができ、意見交換などの発話の時間が確保できた。
- 各言語の担当者を設置、休んだ学習者のフォロー等を行った。休んだ学習者が宿題や、その日に学んだ内容を確認していることも多くあった。モデル外クラスでは宿題をしてこない学生はいなかった。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 特になし。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が必要。
- 聞いている内容が本当に理解できているかの把握をできるだけ行うことが必要だと思いました。
- 教えているときは理解しているから大丈夫と意思表示をしても「皆の前でまで恥ずかしいから」「授業を止めたくないから」という理由で分からない部分をそのままにしている人もいたと思います。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×オンデマンド型×進学・就職・一般>

言語活動<書く>

Case.5 022：新宿平和日本語学校

■基本情報

授業ID	022-1
機関名	新宿平和日本語学校
実証取組モデル	モデル外②
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/9/5～2022/12/10
学習者数	18名
担当教師	3名
授業の学習時間	150
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解その他
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー、マイク
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
使用したファイル形式	Powerpoint、PDF、mp4
撮影をした場所	その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容	オンデマンド学習) 自校作成文法教材 (ラーニングボックス)
授業方式	オンライン (双方向) + オンデマンド型
使用教材	①文法復習帳 レベル: A1 内容: オンデマンド教材、learningBOXのレポート機能を利用し提出及び返却。
授業時間	1, 実施前) LMS オンデマンド学習授業 ひらがなカタカナ4時間 2, 授業期間中) 4時間/1日、3日/1週間 ・Zoomオンライン双方向授業 1日2時間・週3日・12週間実施→計72時間 ・LMS オンデマンド学習授業 1日2時間・週3日・12週間実施→計72時間 3, 終了後) LMS オンデマンド学習授業 総復習2時間 ⇒コース合計150時間

2.事業内容

Case.5 022：新宿平和日本語学校

■目標設定／評価方法

・ can-do
目標

- ✓ 新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。
- ✓ 例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ learningBOXのテスト機能

評価方法

- ✓ 「コース終了後のオンデマンドテストでの成績テキスト」を指標として、オンデマンドのテストによる評価を実施。100点中の取得点により判定。

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (1200点満点*)	事後テスト点数 (1200点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Philippines	女性	20代	295	1009	714	92%
02	Thai	男性	20代	454	1025	571	96%
03	Thai	女性	20代	122	967	845	100%
04	Peru	女性	10代	185	847	662	88%
05	Peru	女性	20代	127	686	559	81%
06	Argentina	男性	20代	185	—	—	51%
07	Peru	女性	20代	209	1010	801	85%
08	Thailand	男性	20代	584	756	172	58%
09	Thailand	女性	20代	548	1011	463	92%
10	Thailand	女性	30代	627	1079	452	86%
11	Thailand	男性	10代	250	—	—	19%
12	Indonesia	女性	20代	219	1137	918	81%
13	Indonesia	男性	10代	784	1103	319	96%
14	Indonesia	女性	20代	514	1099	585	85%
15	Indonesia	男性	20代	293	824	531	74%
16	Indonesia	女性	20代	479	1129	650	85%
17	Indonesia	男性	20代	374	785	411	94%
18	Indonesia	男性	20代	245	922	677	96%

実証事業参加者 計18名

*Grammar(100点満点) Kanji(100点満点) Katakana(100点満点) Listening(100点満点) Reading1(100点満点) Reading2(100点満点) Words(100点満点) 会話(500点満点) の合計

2.事業内容

Case.5 022：新宿平和日本語学校

Point：学習者目線に立った、効果的な授業を実現する授業構成などの設計

【A.時間配分】

- 学習時間：オンライン授業での集中力維持が2時間まで。
 - 学習頻度：会社員や学生の最適な外国語学習の頻度は週3日。
 - 学習方法：オンライン双方向（同期）と、LMS（非同期）の併用。
- 「学習の継続意欲をいかに維持できるのか。」という観点での工夫

【B.音声重視】

- 映像：画面の大きさや通信環境等により学習環境の把握が難しい。
 - 音声：映像と比べると講師の発する音声のクオリティは一定に保てるので、ワイヤレス機器や編集ソフトで音声を重視。
- YouTube等で質の高い音声に聞き慣れている学習者を意識した工夫

【C.学習サポート】

- 言語補助：母国語又は流暢な英語による意思疎通ができる各国語のサポート教員が学習をサポート
- 日本語の初学段階（A1）での安心感を確保を狙った工夫

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 毎回復習として、練習帳を提出してもらっていたため、自分のことについてだいた書けるようになった学習者が多かった。A1レベルだったため、練習帳の内容も自分について書くことを意識して作成をしていたが、その効果が会話力にもつながり、会話テストの結果としても出ていた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 機器等のコストが課題である。
- 今回はラーニングボックスを使用したがる、レポート機能が少し使いづらかった。一度ダウンロードして、提出時にまたアップロードというのは手間になり、学習者の意欲もそいでしまう原因になるのではないかと思う。オンライン上ですぐに添削ができるといいと思った。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A2×オンライン（双方向）型×一般>

言語活動<聞く>

Case.6 037：ファーストスタディ

■基本情報

授業ID	037-2
機関名	ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校
実証取組モデル	モデル外
オンライン教育手法	オンラインのみ
授業のレベル	A2
授業のコース	一般
授業の実施期間	2022/10/31～2022/12/29
学習者数	4名
担当教師	1名
授業の学習時間	140
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー、マイク
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント、PDF、MP3、Word
撮影をした場所	その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | 各テーマの会話CDを聞く
授業方式 | オンライン（双方向）
使用教材 | ①「できる日本語」
レベル：A2
内容：会話のCD

2.事業内容

Case.6 037：ファーストスタディ

■目標設定／評価方法

・ can-do
目標

✓ 2回目で会話のおおまかな意味を理解できる。

評価方法

評価ツール

✓ 自作のパワーポイント

評価方法

✓ 「2回聞いて、大まかな内容がわかるかどうか」を指標に、日本で生活するうえで必要な基準をクリアしているかという観点で評価を行った。

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (40点満点)	事後テスト点数 (40点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Indonesia	女性	20代	14	25	11	69%
02	Indonesia	男性	20代	0	13	13	80%
03	Indonesia	男性	10代	25	28	3	54%
04	Indonesia	女性	20代	17	19	2	89%

実証事業参加者 計4名

Point：ヒアリングを通じた現地の受講環境の確認と改善の取り組み

- ・ 今回はインドネシアをメインで実施しましたが、日本語教員からの声でZoomが固まってしまうたり、授業が途切れてしまい何度か言い直さないとダメな時があり、理解をさせられているか不安だとの声が毎回の授業報告で上がってきたため、インドネシア現地で寮でのWi-Fi環境を確認。授業に支障があると判断したため、現地でWi-Fi環境を立て直しに取り組んだ。他方、現地で整えられる状況には限界があった。今後も現地の人達から話を聞いてみて、どのような機種を取り入れればよりWi-Fi環境を改善できるか確認して取り組む方針である。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- ・ 全ては聞き取れなくてもざっくりはわかるようになった。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ・ ネットワーク環境の整備が必要である。
- ・ 学生・教師双方のWi-Fi環境の整備が課題である。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイフレックス×進学・就職・一般>

言語活動<日本事情・日本理解>

Case.7 026：東京アジア学友会

■基本情報

授業ID	026-1
機関名	東京アジア学友会
実証取組モデル	実証取組モデル4（6か月）
オンライン教育手法	ハイフレックス
授業のレベル	A1 A2
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/8/22～2023/1/31
学習者数	27名
担当教師	5名
授業の学習時間	300
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	FIFINE
使用した映像（カメラ）機	ロジクール
使用したファイル形式	パワーポイントの教材を使用
撮影をした場所	普通の教室

■実証内容

講義内容 | 教科書の「会話」のページでDVDを使用し日本の生活に触れ、理解を促した。

授業方式 | ハイフレックス

使用教材 | ①みんなの日本語初級 | 第2版 本冊

レベル：A1

内容：やさしい文型から難しい文型へ、単純で具体的な場面から複雑で抽象的な場面へ会話を中心に、初級前期レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を身につけることを目指しています。

②みんなの日本語初級 | 第2版 会話DVD Web ver.

レベル：A1

2.事業内容

Case.7 026：東京アジア学友会

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ 挨拶や買い物など日常生活の場面を見て、日本人のふるまいなどを感じ、自国との違いに気づくことができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ 『みんなの日本語初級Ⅰ 会話DVD Web ver.』教師とのやりとり

評価方法

- ✓ 「日本事情・日本理解に関する質問に対して、答えられるか。」を指標として、授業時間内の『みんなの日本語初級Ⅰ 会話DVD Web ver.』の理解度を教師とのやりとりにて判断。

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (100点満点)	事後テスト点数 (100点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	China	男性	10代	39	81	42	87%
02	China	女性	10代	53	82	29	84%
03	China	男性	30代	10	85	75	37%
04	China	女性	30代	11	88	77	63%
05	China	女性	30代	8	-	-	29%
06	China	男性	10代	9	73	64	41%
07	China	女性	30代	22	57	35	56%
08	China	女性	30代	32	75	43	99%
09	China	女性	30代	11	-	-	22%
10	China	女性	10代	0	86	86	99%
11	China	男性	10代	19	51	32	95%
12	China	男性	10代	15	34	19	86%
13	Japan	男性	20代	33	86	53	100%
14	Japan	男性	20代	23	69	46	99%
15	Japan	女性	20代	46	54	8	99%
16	Japan	男性	20代	46	65	19	100%
17	Japan	男性	20代	0	38	38	82%
18	Japan	男性	20代	10	85	75	66%
19	Japan	男性	40代	4	-	-	9%
20	Japan	男性	10代	22	63	41	100%
21	Japan	女性	30代	26	21	-5	100%
22	Japan	男性	20代	12	81	69	90%
23	Japan	女性	20代	20	76	56	85%
24	Japan	男性	20代	31	38	7	94%
25	Japan	女性	20代	20	54	34	53%
26	Japan	女性	20代	18	87	69	55%
27	China	男性	20代	-	55	-	85%

実証事業参加者 計27名

2.事業内容

Case.7 026：東京アジア学友会

Point：教師個々人のITスキルを踏まえた、適切な人員配置

- ベテラン教師を中心に人員配置したところ、機器及びソフトの設定や操作など、技術のサポートがなるとなかなかスムーズに授業を行えなかったことを踏まえ、ITリテラシーの面を配慮し、機器及びソフトの設定や操作に詳しい若手教師や事務職員をチームに加え、役割分担をしっかりと決めた上で実証事業を開始した。そのような対応をとったことで、6ヶ月間の授業においては機器とソフトの問題は解決できた。
- 年配のベテラン教師を対象に、Zoomの使い方やパソコン、iPadの接続、設定方法などについて講習も行ったうえで、念のためすべての授業にITスキルを有する事務職員がオンラインで待機し、フォローする体制を整えて事業に取り組んだ。
- 可能な範囲で日本と自国の違いを導入やドリル練習の中に取り入れた。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 授業時間数が足りず、なかなか日本事情を深めて扱うことが難しかった。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題です。
- 学内のWi-Fi環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A2×ハイフレックス×進学・就職・一般>

言語活動<日本事情・日本理解>

Case.8 026：東京アジア学友会

■基本情報

授業ID	026-1
機関名	東京アジア学友会
実証取組モデル	実証取組モデル4（6か月）
オンライン教育手法	ハイフレックス
授業のレベル	A1 A2
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/8/22～2023/1/31
学習者数	27名
担当教師	5名
授業の学習時間	300
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	FIFINE
使用した映像（カメラ）機	ロジクール
使用したファイル形式	パワーポイントの教材を使用
撮影をした場所	普通の教室

■実証内容

講義内容 | 教科書の「会話」のページでDVDを使用し日本の生活に触れ、理解を促した。

授業方式 | ハイフレックス

使用教材 | ①みんなの日本語初級Ⅰ第2版 本冊

レベル：A2

内容：やさしい文型から難しい文型へ、単純で具体的な場面から複雑で抽象的な場面へ会話を中心に、初級後期レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」の総合的な力を身につけ、日常生活の基本的場面で、状況に応じたやり取りができることを目的にしています。

②みんなの日本語初級Ⅰ第2版 会話DVD Web ver.

レベル：A2

2.事業内容

Case.8 026：東京アジア学友会

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

✓ 日本人の行動や表現の仕方を理解し、習慣の違いなどを感じることができる。

評価ツール

✓ 『みんなの日本語初級Ⅱ 会話DVD Web ver.』教師とのやりとり

評価方法

✓ 「日本事情・日本理解に関する質問に対して、答えられるか。」を指標として、授業時間内の『みんなの日本語初級Ⅰ 会話DVD Web ver.』の理解度を教師とのやりとりにて判断。

■結果

再掲 (A1と同様)

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (100点満点)	事後テスト点数 (100点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	China	男性	10代	39	81	42	87%
02	China	女性	10代	53	82	29	84%
03	China	男性	30代	10	85	75	37%
04	China	女性	30代	11	88	77	63%
05	China	女性	30代	8	-	-	29%
06	China	男性	10代	9	73	64	41%
07	China	女性	30代	22	57	35	56%
08	China	女性	30代	32	75	43	99%
09	China	女性	30代	11	-	-	22%
10	China	女性	10代	0	86	86	99%
11	China	男性	10代	19	51	32	95%
12	China	男性	10代	15	34	19	86%
13	Japan	男性	20代	33	86	53	100%
14	Japan	男性	20代	23	69	46	99%
15	Japan	女性	20代	46	54	8	99%
16	Japan	男性	20代	46	65	19	100%
17	Japan	男性	20代	0	38	38	82%
18	Japan	男性	20代	10	85	75	66%
19	Japan	男性	40代	4	-	-	9%
20	Japan	男性	10代	22	63	41	100%
21	Japan	女性	30代	26	21	-5	100%
22	Japan	男性	20代	12	81	69	90%
23	Japan	女性	20代	20	76	56	85%
24	Japan	男性	20代	31	38	7	94%
25	Japan	女性	20代	20	54	34	53%
26	Japan	女性	20代	18	87	69	55%
27	China	男性	20代	-	55	-	85%

実証事業参加者 計27名

2.事業内容

Case.8 026：東京アジア学友会

Point：教師個々人のITスキルを踏まえた、適切な人員配置

再掲（A1と同様）

- ベテラン教師を中心に人員配置したところ、機器及びソフトの設定や操作など、技術のサポートがなるとなかなかスムーズに授業を行えなかったことを踏まえ、ITリテラシーの面を配慮し、機器及びソフトの設定や操作に詳しい若手教師や事務職員をチームに加え、役割分担をしっかりと決めた上で実証事業を開始した。そのような対応をとったことで、6ヶ月間の授業においては機器とソフトの問題は解決できた。
- 年配のベテラン教師を対象に、Zoomの使い方やパソコン、iPadの接続、設定方法などについて講習も行ったうえで、念のためすべての授業にITスキルを有する事務職員がオンラインで待機し、フォローする体制を整えて事業に取り組んだ。
- 可能な範囲で日本と自国の違いを導入やドリル練習の中に取り入れた。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 授業時間数が足りず、なかなか日本事情を深めて扱うことが難しかった。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 学内のWi-Fi環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×オンデマンド型×進学・就職・一般>

言語活動<話す(やりとり)>

Case.9 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

■基本情報

授業ID	007-1
機関名	アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ
実証取組モデル	実証取組モデル2 (3か月)
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/18~2022/9/22
学習者数	11名
担当教師	8名
授業の学習時間	60
実施した言語活動	話す(やりとり) 話す(発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール (Zoom)
使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	PC付属のスピーカー、マイク
使用した映像 (カメラ) 機	PC付属のカメラ
使用したファイル形式	モデル2の教材PDF、各講師により、パワーポイント、ワード等も使用
撮影をした場所	普通の教室 その他 (講師自宅等)

■実証内容

講義内容 | 教師から受講生へのQ&A、受講生同士のQ&A を多く行い、日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすことに注力。Zoomのブレイクアウトルールも活用して、グループ活動も実施。

授業方式 | オンライン (双方向) オンデマンド型

使用教材 | ①eTRY!日本語 Start
レベル：A1
内容：オンライン教材
②eTRY!日本語 N5
レベル：A1
内容：オンライン教材
③いどころ生活の日本語
レベル：A1
内容：教材

2.事業内容

Case.9 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

■目標設定／評価方法

・ can-do
目標

- ✓ 日本でしたいことを質問されて簡単に答えることができる。ごく簡単なコミュニケーションができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ 授業終了後、learningBOXにより 会話やり取りテストとZoom により、スピーチテストを実施

評価方法

- ✓ 「正答率」を指標として評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (40点満点)	事後テスト点数 (40点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Philippines	男性	30代	17	21	4	87%
02	Canada	男性	30代	14	21	7	84%
03	UnitedStatesOfAmerica	女性	30代	18	16	-2	37%
04	Brazil	男性	30代	31	38	7	63%
05	Chile	女性	20代	21	34	13	29%
06	UnitedStatesOfAmerica	女性	30代	23	33	10	41%
07	Canada	女性	20代	28	31	3	56%
08	Mexico	男性	20代	11	28	17	99%
09	UnitedStatesOfAmerica	男性	20代	8	16	8	22%
10	UnitedStatesOfAmerica	男性	30代	3	18	15	99%
11	UnitedStatesOfAmerica	男性	20代	30	34	4	95%

実証事業参加者 計11名

2.事業内容

Case.9 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

【教師に対して】

- 学内において勉強会の実施、授業開始後も会議を行った。

【学習者に対して】

- メールまたはZoomによる対面において適宜コンサルティングを実施した。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 熱心に受講した学生は、目標以上の成果を上げた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- オンライン教育でも、対面とほぼ同じように実施できる。
- 適切なカリキュラムの設定が課題である。
- 学内のWi-Fi環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×オンデマンド型×進学・就職・一般>

言語活動<話す(発表)>

Case.10 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

■基本情報

授業ID	007-1
機関名	アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ
実証取組モデル	実証取組モデル2 (3か月)
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/18~2022/9/22
学習者数	11名
担当教師	8名
授業の学習時間	60
実施した言語活動	話す(やりとり) 話す(発表) 聞く読む書く 日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール (Zoom)
使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	PC付属のスピーカー、マイク
使用した映像 (カメラ) 機	PC付属のカメラ
使用したファイル形式	モデル2の教材PDF、各講師により、パワーポイント、ワード等も使用
撮影をした場所	普通の教室 その他 (講師自宅等)

■実証内容

講義内容	自己紹介、自分の国、自分の趣味などについて、適宜スピーチの機会を作り発表させる。
授業方式	オンライン (双方向) オンデマンド型
使用教材	①eTRY!日本語 Start レベル：A1 内容：オンライン教材 ②eTRY!日本語 N5 レベル：A1 内容：オンライン教材 ③いもどり生活の日本語 レベル：A1 内容：教材

2.事業内容

Case.10 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

✓ 自分の将来の希望を簡単に話すことができる。

評価方法

評価ツール

✓ Zoom による対面授業内において評価

評価方法

✓ 教員による主観的評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (40点満点)	事後テスト点数 (40点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Philippines	男性	30代	17	21	4	87%
02	Canada	男性	30代	14	21	7	84%
03	UnitedStatesOfAmerica	女性	30代	18	16	-2	37%
04	Brazil	男性	30代	31	38	7	63%
05	Chile	女性	20代	21	34	13	29%
06	UnitedStatesOfAmerica	女性	30代	23	33	10	41%
07	Canada	女性	20代	28	31	3	56%
08	Mexico	男性	20代	11	28	17	99%
09	UnitedStatesOfAmerica	男性	20代	8	16	8	22%
10	UnitedStatesOfAmerica	男性	30代	3	18	15	99%
11	UnitedStatesOfAmerica	男性	20代	30	34	4	95%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計11名

2.事業内容

Case.10 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

【教師に対して】

- 学内において勉強会の実施、授業開始後も会議を行った。

【学習者に対して】

- メールまたはZoomによる対面において適宜コンサルティングを実施した。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 積極的に自分の言いたいことを伝えようという姿勢が見られた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- オンライン教育でも、対面とほぼ同じように実施できる。
- 適切なカリキュラムの設定が課題である。
- 学内のWi-Fi環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×オンデマンド型×進学・就職・一般>

言語活動<聞く>

Case.11 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

■基本情報

授業ID	007-1
機関名	アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ
実証取組モデル	実証取組モデル2（3か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/18～2022/9/22
学習者数	11名
担当教師	8名
授業の学習時間	60
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー、マイク
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
使用したファイル形式	モデル2の教材PDF、各講師により、パワーポイント、ワード等も使用
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | eTRY、「動く絵本ライブラリー」「いろいろ」の教材を聴解教材として利用。

授業方式 | オンライン（双方向）オンデマンド型

使用教材 | ①動く絵本ライブラリー
レベル：A1、A2
内容：昔話、イソップ等の映像教材
②eTRY!日本語 Start
レベル：A1
内容：オンライン教材
③eTRY!日本語 N5
レベル：A1、A2
内容：オンライン教材

2.事業内容

Case.11 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

✓ 日常場面で遭遇するごく簡単な情報を聞き取ることができる。

評価方法

評価ツール

✓ Zoom により、スピーチテストを実施

評価方法

✓ 「正答率」を指標として評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (40点満点)	事後テスト点数 (40点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Philippines	男性	30代	17	21	4	87%
02	Canada	男性	30代	14	21	7	84%
03	UnitedStatesOfAmerica	女性	30代	18	16	-2	37%
04	Brazil	男性	30代	31	38	7	63%
05	Chile	女性	20代	21	34	13	29%
06	UnitedStatesOfAmerica	女性	30代	23	33	10	41%
07	Canada	女性	20代	28	31	3	56%
08	Mexico	男性	20代	11	28	17	99%
09	UnitedStatesOfAmerica	男性	20代	8	16	8	22%
10	UnitedStatesOfAmerica	男性	30代	3	18	15	99%
11	UnitedStatesOfAmerica	男性	20代	30	34	4	95%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計11名

2.事業内容

Case.11 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

【教師に対して】

- 学内において勉強会の実施、授業開始後も会議を行った。

【学習者に対して】

- メールまたはZoomによる対面において適宜コンサルティングを実施した。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- コースが進むにつれて、聞き取る力が伸びていった。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 動く絵本ライブラリーは、受講生の興味を引き、効果的だった。
- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 学内のWi-Fi環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×オンデマンド型×進学・就職・一般>

言語活動<読む>

Case.12 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

■基本情報

授業ID	007-1
機関名	アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ
実証取組モデル	実証取組モデル2（3か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/18～2022/9/22
学習者数	11名
担当教師	8名
授業の学習時間	60
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー、マイク
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
使用したファイル形式	モデル2の教材PDF、各講師により、パワーポイント、ワード等も使用
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | eTRY、「いろどり」の教材を活用し、情報を読み取る活動。

授業方式 | オンライン（双方向）オンデマンド型

使用教材 | ①eTRY!日本語 Start
レベル：A1
内容：ひらがな、かたかな、漢字、会話文、ほか
②eTRY!日本語 N5
レベル：A1、A2
内容：ひらがな、かたかな、漢字、会話文、ほか
③いろどり生活の日本語
レベル：A1
内容：ひらがな、かたかな、漢字、会話文、ほか

2.事業内容

Case.12 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

✓ 駅や町でよく見かける表示の意味が理解できる。

評価方法

評価ツール

✓ Zoom による対面授業内において評価

評価方法

✓ 教員による主観的評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (40点満点)	事後テスト点数 (40点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Philippines	男性	30代	17	21	4	87%
02	Canada	男性	30代	14	21	7	84%
03	UnitedStatesOfAmerica	女性	30代	18	16	-2	37%
04	Brazil	男性	30代	31	38	7	63%
05	Chile	女性	20代	21	34	13	29%
06	UnitedStatesOfAmerica	女性	30代	23	33	10	41%
07	Canada	女性	20代	28	31	3	56%
08	Mexico	男性	20代	11	28	17	99%
09	UnitedStatesOfAmerica	男性	20代	8	16	8	22%
10	UnitedStatesOfAmerica	男性	30代	3	18	15	99%
11	UnitedStatesOfAmerica	男性	20代	30	34	4	95%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計11名

2.事業内容

Case.12 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

【教師に対して】

- 学内において勉強会の実施、授業開始後も会議を行った。

【学習者に対して】

- メールまたはZoomによる対面において適宜コンサルティングを実施した。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 受講生間でレベル差が見られた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- A1レベルの受講者向けにちょうどいい読解教材があればよい。
- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 学内のWi-Fi環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×オンデマンド型×進学・就職・一般>

言語活動<書く>

Case.13 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

■基本情報

授業ID	007-1
機関名	アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ
実証取組モデル	実証取組モデル2（3か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/18～2022/9/22
学習者数	11名
担当教師	8名
授業の学習時間	60
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー、マイク
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
使用したファイル形式	モデル2の教材PDF、各講師により、パワーポイント、ワード等も使用
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | ひらがな、カタカナ、漢字を導入する際、Zoomの画面共有で教師が読み上げ、受講生にリピートしてもらい、その後各自に書かせる。

授業方式 | オンライン（双方向）オンデマンド型

使用教材 | ①eTRY!日本語 Start
レベル：A1
内容：ひらがな、カタカナ、漢字
②eTRY!日本語 N5
レベル：A1、A2
内容：漢字

2.事業内容

Case.13 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

✓ ひらがな、かたかな、ごく簡単な漢字が読める。

評価方法

評価ツール

✓ 作文テスト（受講者がエクセルに入力してメール等で提出）

評価方法

✓ 教員による主観的評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (40点満点)	事後テスト点数 (40点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Philippines	男性	30代	17	21	4	87%
02	Canada	男性	30代	14	21	7	84%
03	UnitedStatesOfAmerica	女性	30代	18	16	-2	37%
04	Brazil	男性	30代	31	38	7	63%
05	Chile	女性	20代	21	34	13	29%
06	UnitedStatesOfAmerica	女性	30代	23	33	10	41%
07	Canada	女性	20代	28	31	3	56%
08	Mexico	男性	20代	11	28	17	99%
09	UnitedStatesOfAmerica	男性	20代	8	16	8	22%
10	UnitedStatesOfAmerica	男性	30代	3	18	15	99%
11	UnitedStatesOfAmerica	男性	20代	30	34	4	95%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計11名

2.事業内容

Case.13 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

【教師に対して】

- 学内において勉強会の実施、授業開始後も会議を行った。

【学習者に対して】

- メールまたはZoomによる対面において適宜コンサルティングを実施した。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 発話レベルに比べて、細かい間違いも見られた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 書く技能を向上させるには、個別の添削などが必要で、今回のオンライン教育ではそこまでできなかった。
- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 学内のWi-Fi環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×オンデマンド型×進学・就職・一般>

言語活動<日本事情・日本理解>

Case.14 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

■基本情報

授業ID	007-1
機関名	アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ
実証取組モデル	実証取組モデル2（3か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/18～2022/9/22
学習者数	11名
担当教師	8名
授業の学習時間	60
実施した言語活動	話す（やりとり） 話す（発表） 聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー、マイク
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
使用したファイル形式	モデル2の教材PDF、各講師により、パワーポイント、ワード等も使用
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

- 講義内容 | いろいろ 「日本の生活TIPS」を自習として読んでおくように指示。授業中に
取り上げ意見を求める。
- 授業方式 | オンライン（双方向）オンデマンド型
- 使用教材 | ①いろいろ生活の日本語
レベル：A1
内容：日本の生活TIPS

2.事業内容

Case.14 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

✓ 日本語または自国語で日本事情を知り、ごく簡単な意見をいうことができる。

評価方法

評価ツール

✓ Zoom による対面授業内において評価

評価方法

✓ 教員による主観的評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (40点満点)	事後テスト点数 (40点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Philippines	男性	30代	17	21	4	87%
02	Canada	男性	30代	14	21	7	84%
03	UnitedStatesOfAmerica	女性	30代	18	16	-2	37%
04	Brazil	男性	30代	31	38	7	63%
05	Chile	女性	20代	21	34	13	29%
06	UnitedStatesOfAmerica	女性	30代	23	33	10	41%
07	Canada	女性	20代	28	31	3	56%
08	Mexico	男性	20代	11	28	17	99%
09	UnitedStatesOfAmerica	男性	20代	8	16	8	22%
10	UnitedStatesOfAmerica	男性	30代	3	18	15	99%
11	UnitedStatesOfAmerica	男性	20代	30	34	4	95%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計11名

2.事業内容

Case.14 007：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

【教師に対して】

- 学内において勉強会の実施、授業開始後も会議を行った。

【学習者に対して】

- メールまたはZoomによる対面において適宜コンサルティングを実施した。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 日本に対する興味が強く好意的なコメントが多かった。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- A1レベルの学習者に対しては、母国語の情報が必要。
- 適切なカリキュラムの設定が課題である。
- 学内のWi-Fi環境が整備されるまでは、授業が予定通りに進められなかったり、学生たち（特にオンラインでの参加者）の集中力が途切れる要因になった。授業準備を行った教員にも徒労感を感じさせることとなった。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×オンライン（双方向）×進学・就職・一般>

言語活動<話す（やりとり）>

Case.15 003：青山国際教育学院

■基本情報

授業ID	003-1
機関名	青山国際教育学院
実証取組モデル	実証取組モデル3（6か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1 A2
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/11～2022/12/22
学習者数	6名
担当教師	3名
授業の学習時間	326
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	ELECOM（マイク付きヘッドホン）
使用した映像（カメラ）機	ノートPC（DELL）付属のカメラ、Macbook Pro 付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント/Keynote/PDF
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | みんなの日本語を用いたオンライン授業を行う。オンライン授業の経験があり、ICTツールに精通した教師を配置。媒介言語を用いない直接法。開始時と3ヶ月経過時、3ヶ月経過時と6ヶ月修了時で同じレベルチェックテストを行い、理解度、達成度をはかる。ひらがなとカタカナ、数字、あいさつ等については動画のオンデマンド教材を作成し、learningBOXを介して各自自習できる形で提供する。また、learningBOX上にみんなの日本語の各課について語彙・文法のクイズと小テストを作成。

授業方式 | オンライン（双方向）

使用教材 | ①みんなの日本語 初級I
レベル：A1
内容：本冊

2. 事業内容

Case.15 003：青山国際教育学院

■ 目標設定 / 評価方法

・ can-do
目標

- ✓ 人物や場所について、単純な字句を並べて、述べることができる。
自分に向けられた、注意深く、ゆっくり表現された質問や説明が理解できる。短い簡単な指示を理解できる。
人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ レベルチェックテスト、教師による質問に答える会話力のチェックテスト、みんなの日本語の文型を作って会話を作る練習

評価方法

- ✓ 「言いたいことが伝わるかどうか、発音はよいか、語彙力、文法の運用力、ロールプレイの場合、課題を達成できるか。」を指標にCEFR can-do、JF can-doなどにより評価

■ 結果

#	居住国	性別	年代	前半三ヶ月		後半三ヶ月		向上 (=後半事後出席率 -前期事前)	
				事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)	事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)		
01	VietNam	女性	20代	82	90	86	87	5	96%
02	RussianFederation	女性	20代	10	83	41	67	57	65%
03	Myanmar	女性	20代	43	75	72	67	24	93%
04	Myanmar	女性	10代	40	70	70	75	35	92%
05	Myanmar	女性	20代	73	98	68	83	10	92%
06	China	女性	30代	59	88	71	97	38	91%

再掲 (話す (やりとり) と同様)

実証事業参加者 計6名

2.事業内容

Case.15 003：青山国際教育学院

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

【教師に対して】

- learningBOXやスリーエーネットワークの電子テキストの使い方について、事前に使い方を確認する研修を実施。
- 実証事業の内容や目的、授業の内容について他の教師や職員に共有するための研修会も実施。

【学習者に対して】

- 授業開始初日に、代理店のスタッフや校内の外国人スタッフも一緒にZoomと一緒に入室してもらい、学生たちに通訳やサポートをしてもらいながら、Zoom、learningBOX、スリーエーネットワークの電子テキストの使い方のオリエンテーションを実施。
- 学生の欠席が続いたときや、レベルチェックテストやアンケートが回答されない場合などにも、代理店や外国人スタッフを通じて学生に連絡してもらい、サポートを実施。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- すべての学生について、開始時と3ヶ月経過時のレベルチェックテストで有意に上達が見られた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 国ごとにインターネット環境、IT設備の充実度が異なることがいちばんのネックでした。当校の場合、ミャンマーのインターネット環境があまりよくなく、頻繁に回線落ちすることがよく見られました。そんな中でも学生たちは懸命にオンライン授業に参加してくれていたと思います。中には毎回特別回線のプリペイドカードを購入して、オンライン授業に参加してくれていた学生もいました。
- 教員の配置については事前に校内でよく検討してから人員を決定したため、問題はありませんでした。
- また、オンライン教育ノウハウやITリテラシーについては、当校の教師はすでにオンライン授業の経験が豊富にあり、learningBOXについても全員が問題なく使っていました。
learningBOXのLMSシステムやスリーエーネットワークの電子テキストについては、もともと日本国内のみでの使用を想定して作られていると思われ、海外の学生が使用する時には若干不便さがあるように感じられました。具体的にはUIが日本語と英語表示にしか対応していないこと、UIで使用される単語の複雑さなどです。対応策としては、初回授業のときに海外現地の代理店の人や当校の外国人スタッフと一緒にZoomに入室してもらい、通訳やサポートをもらいながらオリエンテーションを行ったことで、その後の授業が大変スムーズになったと思います。

【続く】

2.事業内容

Case.15 003：青山国際教育学院

- また、カリキュラムについては、授業を開始して早い段階で、当初目標だった50課すべての授業を行うのではなく、学生の理解度・修達度を考慮して柔軟にスピードを変更することを決めました。
オンライン授業の特性上、学生たちには現地での日々の生活があり、様々な用事などによって欠席することが多いことが課題でした。改善案として、授業のスピードをゆっくりにすることで、1日や2日休んでも授業に置いて行かれにくく、ついていけるようにしました。
それでも様々な理由により、途中で参加しなくなってしまう学生はいました。ただ、初期から参加してくれていた6名は、100日間もの授業を最後まで完走し、実際にその努力に見合うだけの語学力の向上も見られたと感じます。
- 当校でかつて行っていたオンライン授業は、学生が受け身になりやすく、ともすればカメラやマイクをオフにして形だけの出席をしてしまうことが課題でした。
ただ、今回の実証事業においては学生たち6名の意識が非常に高く、常にカメラをオンにして自分の姿を見せており、非常に積極的に参加していたと感じます。授業の内容も、学生たちのアウトプット（発話や作文など）をいかに多く引き出すか、それに迅速にフィードバックするか重点を置いて考えていました。
- 当校でかつて行っていたオンライン授業では、人数が多く、個別のアウトプットについては確認できないことが多いという問題がありました。今回は人数が6人と少なかったこともあり、一人一人のアウトプットについて丁寧にチェックし、個別にフィードバックを返すことができ、学習者の向上、モチベーションの維持に大きな効果が得られたと思います。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×オンライン（双方向）×進学・就職・一般>

言語活動<話す（発表）>

Case.16 003：青山国際教育学院

■基本情報

授業ID	003-1
機関名	青山国際教育学院
実証取組モデル	実証取組モデル3（6か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1 A2
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/11～2022/12/22
学習者数	6名
担当教師	3名
授業の学習時間	326
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	ELECOM（マイク付きヘッドホン）
使用した映像（カメラ）機	ノートPC（DELL）付属のカメラ、Macbook Pro 付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント/Keynote/PDF
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | みんなの日本語を用いたオンライン授業を行う。オンライン授業の経験があり、ICTツールに精通した教師を配置。媒介言語を用いない直接法。開始時と3ヶ月経過時、3ヶ月経過時と6ヶ月修了時で同じレベルチェックテストを行い、理解度、達成度をはかる。ひらがなとカタカナ、数字、あいさつ等については動画のオンデマンド教材を作成し、learningBOXを介して各自自習できる形で提供する。また、learningBOX上にみんなの日本語の各課について語彙・文法のクイズと小テストを作成。

授業方式 | オンライン（双方向）

使用教材 | ①みんなの日本語 初級I
レベル：A1
内容：本冊

2.事業内容

Case.16 003：青山国際教育学院

■目標設定／評価方法

・ can-do
目標

- ✓ 非常に短い、準備して練習した言葉を読み上げることができる。
自分自身や想像上の人々について、どこに住んでいるか、何をやる人なのかについて、簡単な句や文を書くことができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ スピーチ発表

評価方法

- ✓ 「言いたいことが伝わるかどうか、発音はよいか、順序立てて説明できるか、語彙力、文法の運用力」を指標にCEFR can-do、JF can-doなどにより評価

■結果

#	居住国	性別	年代	前半三ヵ月		後半三ヵ月		向上 (=後半事後-前期事前) 出席率	
				事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)	事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)		
01	VietNam	女性	20代	82	90	86	87	5	96%
02	RussianFederation	女性	20代	10	83	41	67	57	65%
03	Myanmar	女性	20代	43	75	72	67	24	93%
04	Myanmar	女性	10代	40	70	70	75	35	92%
05	Myanmar	女性	20代	73	98	68	83	10	92%
06	China	女性	30代	59	88	71	97	38	91%

再掲 (話す (やりとり) と同様)

実証事業参加者 計6名

2.事業内容

Case.16 003：青山国際教育学院

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

再掲（話す（やりとり）と同様）

【教師に対して】

- learningBOXやスリーエーネットワークの電子テキストの使い方について、事前に使い方を確認する研修を実施。
- 実証事業の内容や目的、授業の内容について他の教師や職員に共有するための研修会も実施。

【学習者に対して】

- 授業開始初日に、代理店のスタッフや校内の外国人スタッフも一緒にZoomと一緒に入室してもらい、学生たちに通訳やサポートをしてもらいながら、Zoom、learningBOX、スリーエーネットワークの電子テキストの使い方のオリエンテーションを実施。
- 学生の欠席が続いたときや、レベルチェックテストやアンケートが回答されない場合などにも、代理店や外国人スタッフを通じて学生に連絡してもらい、サポートを実施。

再掲（話す（やりとり）と同様）

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- すべての学生について、開始時と3ヶ月経過時のレベルチェックテストで有意に上達が見られた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 国ごとにインターネット環境、IT設備の充実度が異なることがいちばんのネックでした。当校の場合、ミャンマーのインターネット環境があまりよくなく、頻繁に回線落ちすることがよく見られました。そんな中でも学生たちは懸命にオンライン授業に参加してくれていたと思います。中には毎回特別回線のプリペイドカードを購入して、オンライン授業に参加してくれていた学生もいました。
- 教員の配置については事前に校内でよく検討してから人員を決定したため、問題はありませんでした。
- また、オンライン教育ノウハウやITリテラシーについては、当校の教師はすでにオンライン授業の経験が豊富にあり、learningBOXについても全員が問題なく使えていました。
learningBOXのLMSシステムやスリーエーネットワークの電子テキストについては、もともと日本国内のみでの使用を想定して作られていると思われ、海外の学生が使用する際には若干不便さがあるように感じられました。具体的にはUIが日本語と英語表示にしか対応していないこと、UIで使用される単語の複雑さなどです。対応策としては、初回授業のときに海外現地の代理店の人や当校の外国人スタッフと一緒にZoomに入室してもらい、通訳やサポートをもらいながらオリエンテーションを行ったことで、その後の授業が大変スムーズになったと思います。

【続く】

2.事業内容

Case.16 003：青山国際教育学院

再掲（話す（やりとり）と同様）

- また、カリキュラムについては、授業を開始して早い段階で、当初目標だった50課すべての授業を行うのではなく、学生の理解度・修達度を考慮して柔軟にスピードを変更することを決めました。
オンライン授業の特性上、学生たちには現地での日々の生活があり、様々な用事などによって欠席することが多いことが課題でした。改善案として、授業のスピードをゆっくりにすることで、1日や2日休んでも授業に置いて行かれにくく、ついていけるようにしました。
それでも様々な理由により、途中で参加しなくなってしまう学生はいました。ただ、初期から参加してくれていた6名は、100日間もの授業を最後まで完走し、実際にその努力に見合うだけの語学力の向上も見られたと感じます。
- 当校でかつて行っていたオンライン授業は、学生が受け身になりやすく、ともすればカメラやマイクをオフにして形だけの出席をしてしまうことが課題でした。
ただ、今回の実証事業においては学生たち6名の意識が非常に高く、常にカメラをオンにして自分の姿を見せており、非常に積極的に参加していたと感じます。授業の内容も、学生たちのアウトプット（発話や作文など）をいかに多く引き出すか、それに迅速にフィードバックするか重点を置いて考えていました。
- 当校でかつて行っていたオンライン授業では、人数が多く、個別のアウトプットについては確認できないことが多いという問題がありました。今回は人数が6人と少なかったこともあり、一人一人のアウトプットについて丁寧にチェックし、個別にフィードバックを返すことができ、学習者の向上、モチベーションの維持に大きな効果が得られたと思います。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×オンライン（双方向）×進学・就職・一般>

言語活動<聞く>

Case.17 003：青山国際教育学院

■基本情報

授業ID	003-1
機関名	青山国際教育学院
実証取組モデル	実証取組モデル3（6か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1 A2
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/11～2022/12/22
学習者数	6名
担当教師	3名
授業の学習時間	326
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	ELECOM（マイク付きヘッドホン）
使用した映像（カメラ）機	ノートPC（DELL）付属のカメラ、Macbook Pro 付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント/Keynote/PDF
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | みんなの日本語を用いたオンライン授業を行う。オンライン授業の経験があり、ICTツールに精通した教師を配置。媒介言語を用いない直接法。開始時と3ヶ月経過時、3ヶ月経過時と6ヶ月修了時で同じレベルチェックテストを行い、理解度、達成度をはかる。ひらがなとカタカナ、数字、あいさつ等については動画のオンデマンド教材を作成し、learningBOXを介して各自自習できる形で提供する。また、learningBOX上にみんなの日本語の各課について語彙・文法のクイズと小テストを作成。

授業方式 | オンライン（双方向）

使用教材 | ①みんなの日本語 初級I
レベル：A1
内容：本冊

2.事業内容

Case.17 003：青山国際教育学院

■目標設定／評価方法

・ can-do
目標

- ✓ 意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。

評価方法

評価ツール

- ✓ みんなの日本語各課の課末問題の聴解、小テストや語彙クイズの聴解問題

評価方法

- ✓ 「みんなの日本語各課末問題の聴解」を指標にCEFR can-do、JF can-doなどにより評価

■結果

#	居住国	性別	年代	前半三ヶ月		後半三ヶ月		向上 (=後半事後 出席率 -前期事前)	
				事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)	事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)		
01	VietNam	女性	20代	82	90	86	87	5	96%
02	RussianFederation	女性	20代	10	83	41	67	57	65%
03	Myanmar	女性	20代	43	75	72	67	24	93%
04	Myanmar	女性	10代	40	70	70	75	35	92%
05	Myanmar	女性	20代	73	98	68	83	10	92%
06	China	女性	30代	59	88	71	97	38	91%

再掲 (話す (やりとり) と同様)

実証事業参加者 計6名

2.事業内容

Case.17 003：青山国際教育学院

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

再掲（話す（やりとり）と同様）

【教師に対して】

- learningBOXやスリーエーネットワークの電子テキストの使い方について、事前に使い方を確認する研修を実施。
- 実証事業の内容や目的、授業の内容について他の教師や職員に共有するための研修会も実施。

【学習者に対して】

- 授業開始初日に、代理店のスタッフや校内の外国人スタッフも一緒にZoomと一緒に入室してもらい、学生たちに通訳やサポートをしてもらいながら、Zoom、learningBOX、スリーエーネットワークの電子テキストの使い方のオリエンテーションを実施。
- 学生の欠席が続いたときや、レベルチェックテストやアンケートが回答されない場合などにも、代理店や外国人スタッフを通じて学生に連絡してもらい、サポートを実施。

再掲（話す（やりとり）と同様）

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- すべての学生について、開始時と3ヶ月経過時のレベルチェックテストで有意に上達が見られた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 国ごとにインターネット環境、IT設備の充実度が異なることがいちばんのネックでした。当校の場合、ミャンマーのインターネット環境があまりよくなく、頻繁に回線落ちすることがよく見られました。そんな中でも学生たちは懸命にオンライン授業に参加してくれていたと思います。中には毎回特別回線のプリペイドカードを購入して、オンライン授業に参加してくれていた学生もいました。
- 教員の配置については事前に校内でよく検討してから人員を決定したため、問題はありませんでした。
- また、オンライン教育ノウハウやITリテラシーについては、当校の教師はすでにオンライン授業の経験が豊富にあり、learningBOXについても全員が問題なく使えていました。
learningBOXのLMSシステムやスリーエーネットワークの電子テキストについては、もともと日本国内のみでの使用を想定して作られていると思われ、海外の学生が使用する際には若干不便さがあるように感じられました。具体的にはUIが日本語と英語表示にしか対応していないこと、UIで使用される単語の複雑さなどです。対応策としては、初回授業のときに海外現地の代理店の人や当校の外国人スタッフと一緒にZoomに入室してもらい、通訳やサポートをもらいながらオリエンテーションを行ったことで、その後の授業が大変スムーズになったと思います。

【続く】

2.事業内容

Case.17 003：青山国際教育学院

再掲（話す（やりとり）と同様）

- また、カリキュラムについては、授業を開始して早い段階で、当初目標だった50課すべての授業を行うのではなく、学生の理解度・修達度を考慮して柔軟にスピードを変更することを決めました。
オンライン授業の特性上、学生たちには現地での日々の生活があり、様々な用事などによって欠席することが多いことが課題でした。改善案として、授業のスピードをゆっくりにすることで、1日や2日休んでも授業に置いて行かれにくく、ついていけるようにしました。
それでも様々な理由により、途中で参加しなくなってしまう学生はいました。ただ、初期から参加してくれていた6名は、100日間もの授業を最後まで完走し、実際にその努力に見合うだけの語学力の向上も見られたと感じます。
- 当校でかつて行っていたオンライン授業は、学生が受け身になりやすく、ともすればカメラやマイクをオフにして形だけの出席をしてしまうことが課題でした。
ただ、今回の実証事業においては学生たち6名の意識が非常に高く、常にカメラをオンにして自分の姿を見せており、非常に積極的に参加していたと感じます。授業の内容も、学生たちのアウトプット（発話や作文など）をいかに多く引き出すか、それに迅速にフィードバックするか重点を置いて考えていました。
- 当校でかつて行っていたオンライン授業では、人数が多く、個別のアウトプットについては確認できないことが多いという問題がありました。今回は人数が6人と少なかったこともあり、一人一人のアウトプットについて丁寧にチェックし、個別にフィードバックを返すことができ、学習者の向上、モチベーションの維持に大きな効果が得られたと思います。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×オンライン（双方向）×進学・就職・一般>

言語活動<読む>

Case.18 003：青山国際教育学院

■基本情報

授業ID	003-1
機関名	青山国際教育学院
実証取組モデル	実証取組モデル3（6か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1 A2
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/11～2022/12/22
学習者数	6名
担当教師	3名
授業の学習時間	326
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	ELECOM（マイク付きヘッドホン）
使用した映像（カメラ）機	ノートPC（DELL）付属のカメラ、Macbook Pro 付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント/Keynote/PDF
撮影をした場所	普段の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | みんなの日本語を用いたオンライン授業を行う。オンライン授業の経験があり、ICTツールに精通した教師を配置。媒介言語を用いない直接法。開始時と3ヶ月経過時、3ヶ月経過時と6ヶ月修了時で同じレベルチェックテストを行い、理解度、達成度をはかる。ひらがなとカタカナ、数字、あいさつ等については動画のオンデマンド教材を作成し、learningBOXを介して各自自習できる形で提供する。また、learningBOX上にみんなの日本語の各課について語彙・文法のクイズと小テストを作成。

授業方式 | オンライン（双方向）

使用教材 | ①みんなの日本語 初級I
レベル：A1
内容：本冊
②みんなの日本語初級I 標準問題集
レベル：A1
②みんなの日本語初級I 漢字練習帳
レベル：A1

2.事業内容

Case.18 003：青山国際教育学院

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ ひらがな・カタカナ・漢字100文字程度を読むことができる。
非常に短い簡単なテキストを、身近な名前、単語や基本的な表現と一つずつ取りあげて、必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ レベルチェックテスト、learningBOXの小テスト・クイズ、みんなの日本語各課末問題の読解

評価方法

- ✓ 「みんなの日本語各課末問題の読解、読んだ後に内容について簡単な質問に答えられるか。」を指標にCEFR can-do、JF can-doなどにより評価

■結果

#	居住国	性別	年代	前半三ヵ月		後半三ヵ月		向上 (=後半事後-前期事前) 出席率	
				事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)	事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)		
01	VietNam	女性	20代	82	90	86	87	5	96%
02	RussianFederation	女性	20代	10	83	41	67	57	65%
03	Myanmar	女性	20代	43	75	72	67	24	93%
04	Myanmar	女性	10代	40	70	70	75	35	92%
05	Myanmar	女性	20代	73	98	68	83	10	92%
06	China	女性	30代	59	88	71	97	38	91%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計6名

2.事業内容

Case.18 003：青山国際教育学院

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

再掲（話す（やりとり）と同様）

【教師に対して】

- learningBOXやスリーエーネットワークの電子テキストの使い方について、事前に使い方を確認する研修を実施。
- 実証事業の内容や目的、授業の内容について他の教師や職員に共有するための研修会も実施。

【学習者に対して】

- 授業開始初日に、代理店のスタッフや校内の外国人スタッフも一緒にZoomと一緒に入室してもらい、学生たちに通訳やサポートをしてもらいながら、Zoom、learningBOX、スリーエーネットワークの電子テキストの使い方のオリエンテーションを実施。
- 学生の欠席が続いたときや、レベルチェックテストやアンケートが回答されない場合などにも、代理店や外国人スタッフを通じて学生に連絡してもらい、サポートを実施。

再掲（話す（やりとり）と同様）

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- すべての学生について、開始時と3ヶ月経過時のレベルチェックテストで有意に上達が見られた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 国ごとにインターネット環境、IT設備の充実度が異なることがいちばんのネックでした。当校の場合、ミャンマーのインターネット環境があまりよくなく、頻繁に回線落ちすることがよく見られました。そんな中でも学生たちは懸命にオンライン授業に参加してくれていたと思います。中には毎回特別回線のプリペイドカードを購入して、オンライン授業に参加してくれていた学生もいました。
- 教員の配置については事前に校内でよく検討してから人員を決定したため、問題はありませんでした。
- また、オンライン教育ノウハウやITリテラシーについては、当校の教師はすでにオンライン授業の経験が豊富にあり、learningBOXについても全員が問題なく使っていました。
learningBOXのLMSシステムやスリーエーネットワークの電子テキストについては、もともと日本国内のみでの使用を想定して作られていると思われ、海外の学生が使用する時には若干不便さがあるように感じられました。具体的にはUIが日本語と英語表示にしか対応していないこと、UIで使用される単語の複雑さなどです。対応策としては、初回授業のときに海外現地の代理店の人や当校の外国人スタッフと一緒にZoomに入室してもらい、通訳やサポートをもらいながらオリエンテーションを行ったことで、その後の授業が大変スムーズになったと思います。

【続く】

2.事業内容

Case.18 003：青山国際教育学院

再掲（話す（やりとり）と同様）

- また、カリキュラムについては、授業を開始して早い段階で、当初目標だった50課すべての授業を行うのではなく、学生の理解度・修達度を考慮して柔軟にスピードを変更することを決めました。
オンライン授業の特性上、学生たちには現地での日々の生活があり、様々な用事などによって欠席することが多いことが課題でした。改善案として、授業のスピードをゆっくりにすることで、1日や2日休んでも授業に置いて行かれにくく、ついていけるようにしました。
それでも様々な理由により、途中で参加しなくなってしまう学生はいました。ただ、初期から参加してくれていた6名は、100日間もの授業を最後まで完走し、実際にその努力に見合うだけの語学力の向上も見られたと感じます。
- 当校でかつて行っていたオンライン授業は、学生が受け身になりやすく、ともすればカメラやマイクをオフにして形だけの出席をしてしまうことが課題でした。
ただ、今回の実証事業においては学生たち6名の意識が非常に高く、常にカメラをオンにして自分の姿を見せており、非常に積極的に参加していたと感じます。授業の内容も、学生たちのアウトプット（発話や作文など）をいかに多く引き出すか、それに迅速にフィードバックするか重点を置いて考えていました。
- 当校でかつて行っていたオンライン授業では、人数が多く、個別のアウトプットについては確認できないことが多いという問題がありました。今回は人数が6人と少なかったこともあり、一人一人のアウトプットについて丁寧にチェックし、個別にフィードバックを返すことができ、学習者の向上、モチベーションの維持に大きな効果が得られたと思います。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×オンライン（双方向）×進学・就職・一般>

言語活動<書く>

Case.19 003：青山国際教育学院

■基本情報

授業ID	003-1
機関名	青山国際教育学院
実証取組モデル	実証取組モデル3（6か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1 A2
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/11～2022/12/22
学習者数	6名
担当教師	3名
授業の学習時間	326
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	ELECOM（マイク付きヘッドホン）
使用した映像（カメラ）機	ノートPC（DELL）付属のカメラ、Macbook Pro 付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント/Keynote/PDF
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | みんなの日本語を用いたオンライン授業を行う。オンライン授業の経験があり、ICTツールに精通した教師を配置。媒介言語を用いない直接法。開始時と3ヶ月経過時、3ヶ月経過時と6ヶ月修了時で同じレベルチェックテストを行い、理解度、達成度をはかる。ひらがなとカタカナ、数字、あいさつ等については動画のオンデマンド教材を作成し、learningBOXを介して各自自習できる形で提供する。また、learningBOX上にみんなの日本語の各課について語彙・文法のクイズと小テストを作成。

授業方式 | オンライン（双方向）

使用教材 | ①みんなの日本語 初級I
レベル：A1
内容：本冊
②みんなの日本語初級I 標準問題集
レベル：A1
②みんなの日本語初級I 漢字練習帳
レベル：A1

2.事業内容

Case.19 003：青山国際教育学院

■目標設定／評価方法

・ can-do
目標

- ✓ ひらがな・カタカナ・漢字50文字程度を読むことができる。
簡単な表現や文を単独に書くことができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ レベルチェックテスト、learningBOXの小テスト・クイズ、作文の添削、漢字練習帳の添削

評価方法

- ✓ 作文は「言いたいことが伝わるか、誤字脱字がないか。」、漢字は「learningBOXやZoomでのチェック」を指標にCEFR can-do、JF can-doなどにより評価

■結果

#	居住国	性別	年代	前半三ヵ月		後半三ヵ月		向上 (=後半事後 出席率 -前期事前)	
				事前テスト 点数 (100点満 点)	事後テスト 点数 (100点満 点)	事前テスト 点数 (100点満 点)	事後テスト 点数 (100点満 点)		
01	VietNam	女性	20代	82	90	86	87	5	96%
02	RussianF ederation	女性	20代	10	83	41	67	57	65%
03	Myanmar	女性	20代	43	75	72	67	24	93%
04	Myanmar	女性	10代	40	70	70	75	35	92%
05	Myanmar	女性	20代	73	98	68	83	10	92%
06	China	女性	30代	59	88	71	97	38	91%

再掲 (話す (やり
とり) と同様)

実証事業参加者 計6名

2.事業内容

Case.19 003：青山国際教育学院

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

再掲（話す（やりとり）と同様）

【教師に対して】

- learningBOXやスリーエーネットワークの電子テキストの使い方について、事前に使い方を確認する研修を実施。
- 実証事業の内容や目的、授業の内容について他の教師や職員に共有するための研修会も実施。

【学習者に対して】

- 授業開始初日に、代理店のスタッフや校内の外国人スタッフも一緒にZoomと一緒に入室してもらい、学生たちに通訳やサポートをしてもらいながら、Zoom、learningBOX、スリーエーネットワークの電子テキストの使い方のオリエンテーションを実施。
- 学生の欠席が続いたときや、レベルチェックテストやアンケートが回答されない場合などにも、代理店や外国人スタッフを通じて学生に連絡してもらい、サポートを実施。

再掲（話す（やりとり）と同様）

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- すべての学生について、開始時と3ヶ月経過時のレベルチェックテストで有意に上達が見られた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 国ごとにインターネット環境、IT設備の充実度が異なることがいちばんのネックでした。当校の場合、ミャンマーのインターネット環境があまりよくなく、頻繁に回線落ちすることがよく見られました。そんな中でも学生たちは懸命にオンライン授業に参加してくれていたと思います。中には毎回特別回線のプリペイドカードを購入して、オンライン授業に参加してくれていた学生もいました。
- 教員の配置については事前に校内でよく検討してから人員を決定したため、問題はありませんでした。
- また、オンライン教育ノウハウやITリテラシーについては、当校の教師はすでにオンライン授業の経験が豊富にあり、learningBOXについても全員が問題なく使っていました。
learningBOXのLMSシステムやスリーエーネットワークの電子テキストについては、もともと日本国内のみでの使用を想定して作られていると思われ、海外の学生が使用する時には若干不便さがあるように感じられました。具体的にはUIが日本語と英語表示にしか対応していないこと、UIで使用される単語の複雑さなどです。対応策としては、初回授業のときに海外現地の代理店の人や当校の外国人スタッフと一緒にZoomに入室してもらい、通訳やサポートをしてもらいながらオリエンテーションを行ったことで、その後の授業が大変スムーズになったと思います。

【続く】

2.事業内容

Case.19 003：青山国際教育学院

再掲（話す（やりとり）と同様）

- また、カリキュラムについては、授業を開始して早い段階で、当初目標だった50課すべての授業を行うのではなく、学生の理解度・修達度を考慮して柔軟にスピードを変更することを決めました。
オンライン授業の特性上、学生たちには現地での日々の生活があり、様々な用事などによって欠席することが多いことが課題でした。改善案として、授業のスピードをゆっくりにすることで、1日や2日休んでも授業に置いて行かれにくく、ついていけるようにしました。
それでも様々な理由により、途中で参加しなくなってしまう学生はいました。ただ、初期から参加してくれていた6名は、100日間もの授業を最後まで完走し、実際にその努力に見合うだけの語学力の向上も見られたと感じます。
- 当校でかつて行っていたオンライン授業は、学生が受け身になりやすく、ともすればカメラやマイクをオフにして形だけの出席をしてしまうことが課題でした。
ただ、今回の実証事業においては学生たち6名の意識が非常に高く、常にカメラをオンにして自分の姿を見せており、非常に積極的に参加していたと感じます。授業の内容も、学生たちのアウトプット（発話や作文など）をいかに多く引き出すか、それに迅速にフィードバックするか重点を置いて考えていました。
- 当校でかつて行っていたオンライン授業では、人数が多く、個別のアウトプットについては確認できないことが多いという問題がありました。今回は人数が6人と少なかったこともあり、一人一人のアウトプットについて丁寧にチェックし、個別にフィードバックを返すことができ、学習者の向上、モチベーションの維持に大きな効果が得られたと思います。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×オンライン（双方向）×進学・就職・一般>

言語活動<日本事情・日本理解>

Case.20 003：青山国際教育学院

■基本情報

授業ID	003-1
機関名	青山国際教育学院
実証取組モデル	実証取組モデル3（6か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1 A2
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/11～2022/12/22
学習者数	6名
担当教師	3名
授業の学習時間	326
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	ELECOM（マイク付きヘッドホン）
使用した映像（カメラ）機	ノートPC（DELL）付属のカメラ、Macbook Pro 付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント/Keynote/PDF
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | みんなの日本語を用いたオンライン授業を行う。オンライン授業の経験があり、ICTツールに精通した教師を配置。媒介言語を用いない直接法。開始時と3ヶ月経過時、3ヶ月経過時と6ヶ月修了時で同じレベルチェックテストを行い、理解度、達成度をはかる。ひらがなとカタカナ、数字、あいさつ等については動画のオンデマンド教材を作成し、learningBOXを介して各自自習できる形で提供する。また、learningBOX上にみんなの日本語の各課について語彙・文法のクイズと小テストを作成。

授業方式 | オンライン（双方向）

使用教材 | ①みんなの日本語 初級I
レベル：A1
内容：本冊

2.事業内容

Case.20 003：青山国際教育学院

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

✓ 日本のいくつかの都市の名前とその場所の特色について理解している

評価方法

評価ツール

✓ みんなの日本語各課

評価方法

✓ 「日本に来た時に行きたい場所、日本でしたいことなどについて自分で調べ、話すことができるか」を指標にCEFR can-do、JF can-doなどにより評価

■結果

#	居住国	性別	年代	前半三ヶ月		後半三ヶ月		向上 (=後半事後-前期事前) 出席率	
				事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)	事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)		
01	VietNam	女性	20代	82	90	86	87	5	96%
02	RussianFederation	女性	20代	10	83	41	67	57	65%
03	Myanmar	女性	20代	43	75	72	67	24	93%
04	Myanmar	女性	10代	40	70	70	75	35	92%
05	Myanmar	女性	20代	73	98	68	83	10	92%
06	China	女性	30代	59	88	71	97	38	91%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計6名

2.事業内容

Case.20 003：青山国際教育学院

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

【教師に対して】

- learningBOXやスリーエーネットワークの電子テキストの使い方について、事前に使い方を確認する研修を実施。
- 実証事業の内容や目的、授業の内容について他の教師や職員に共有するための研修会も実施。

【学習者に対して】

- 授業開始初日に、代理店のスタッフや校内の外国人スタッフも一緒にZoomと一緒に入室してもらい、学生たちに通訳やサポートをしてもらいながら、Zoom、learningBOX、スリーエーネットワークの電子テキストの使い方のオリエンテーションを実施。
- 学生の欠席が続いたときや、レベルチェックテストやアンケートが回答されない場合などにも、代理店や外国人スタッフを通じて学生に連絡してもらい、サポートを実施。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- すべての学生について、開始時と3ヶ月経過時のレベルチェックテストで有意に上達が見られた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 適切なカリキュラムの設定が課題である。
- 日本事情・日本理解については、教師が説明するだけだと学生が受け身になりやすいという課題がありました。日本に来たらどこへ旅行に行きたいか、何をしたいかなど、学生の立場に合わせてアウトプットを引き出すことで、モチベーションを高める工夫をしました。

また、「日本事情を伝える」という目的からは離れてしまっていますが、学生たちが世界各地に散らばっているという状況を生かし、「それぞれの国の生活や文化、日常のことを日本語で説明してもらおう」という形の方がよかったですと感じます。学生たちのモチベーションが高く、発表の内容も非常にバラエティーに富んでおり、教師から見ても、普段学校で対面授業でやっているときには見られないような、興味深い発表を多く見る事ができたと感じています。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A2×オンライン（双方向）×進学・就職・一般>

言語活動<話す（やりとり）>

Case.21 003：青山国際教育学院

■基本情報

授業ID	003-1
機関名	青山国際教育学院
実証取組モデル	実証取組モデル3（6か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1 A2
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/11～2022/12/22
学習者数	6名
担当教師	3名
授業の学習時間	326
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	ELECOM（マイク付きヘッドホン）
使用した映像（カメラ）機	ノートPC（DELL）付属のカメラ、Macbook Pro 付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント/Keynote/PDF
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容	3ヶ月経過時と6ヶ月修了時で同じレベルチェックテストを行い、理解度、達成度をはかる。learningBOX上にみんなの日本語の各課について語彙・文法のクイズと小テストを作成。
授業方式	オンライン（双方向）
使用教材	①みんなの日本語 初級II レベル：A2 内容：本冊

2. 事業内容

Case.21 003：青山国際教育学院

■ 目標設定／評価方法

・ can-do
目標

- ✓ もし、発話がはっきりとゆっくりとした発音ならば、最も直接的な優先事項の領域（例：ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、その地域の地理、仕事・雇用）に関連した句や表現が理解できる。

評価ツール

- ✓ レベルチェックテスト、教師による質問に答える会話力のチェックテスト、みんなの日本語の文型を作って会話を作る練習

評価方法

- ✓ 「言いたいことが伝わるかどうか、発音はよいか、ロールプレイの場合、課題を達成できるか。」を指標にCEFR can-do、JF can-doなどにより評価

■ 結果

#	居住国	性別	年代	前半三ヶ月		後半三ヶ月		向上 (=後半事後 出席率 -前期事前)	
				事前テスト 点数 (100点満 点)	事後テスト 点数 (100点満 点)	事前テスト 点数 (100点満 点)	事後テスト 点数 (100点満 点)		
01	VietNam	女性	20代	82	90	86	87	5	96%
02	RussianF ederation	女性	20代	10	83	41	67	57	65%
03	Myanmar	女性	20代	43	75	72	67	24	93%
04	Myanmar	女性	10代	40	70	70	75	35	92%
05	Myanmar	女性	20代	73	98	68	83	10	92%
06	China	女性	30代	59	88	71	97	38	91%

実証事業参加者 計6名

2.事業内容

Case.21 003：青山国際教育学院

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

【教師に対して】

- learningBOXやスリーエーネットワークの電子テキストの使い方について、事前に使い方を確認する研修を実施。
- 実証事業の内容や目的、授業の内容について他の教師や職員に共有するための研修会も実施。

【学習者に対して】

- 授業開始初日に、代理店のスタッフや校内の外国人スタッフも一緒にZoomと一緒に入室してもらい、学生たちに通訳やサポートをしてもらいながら、Zoom、learningBOX、スリーエーネットワークの電子テキストの使い方のオリエンテーションを実施。
- 学生の欠席が続いたときや、レベルチェックテストやアンケートが回答されない場合などにも、代理店や外国人スタッフを通じて学生に連絡してもらい、サポートを実施。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- ほとんどの学生で3ヶ月経過時と6ヶ月修了時のテスト結果で点数の上昇が見られた。実証事業の授業だけでなく、学生たちは現地日本語学校の授業を並行して受けていたり、日々数時間の自宅学習をしていたりしていた。学生によっては日本語だけで授業が行われる「直接法」の授業、と母国語で説明を受けることができる「間接法」の授業を平行して受けていた。その相乗効果によるものも大きいと思われる。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 国ごとにインターネット環境、IT設備の充実度が異なることがいちばんのネックでした。当校の場合、ミャンマーのインターネット環境があまりよくなく、頻繁に回線落ちすることがよく見られました。そんな中でも学生たちは懸命にオンライン授業に参加してくれていたと思います。中には毎回特別回線のプリペイドカードを購入して、オンライン授業に参加してくれていた学生もいました。

【続く】

2.事業内容

Case.21 003：青山国際教育学院

- 教員の配置については事前に校内でよく検討してから人員を決定したため、問題はありませんでした。
- また、オンライン教育ノウハウやITリテラシーについては、当校の教師はすでにオンライン授業の経験が豊富にあり、learningBOXについても全員が問題なく使っていました。

learningBOXのLMSシステムやスリーエーネットワークの電子テキストについては、もともと日本国内のみでの使用を想定して作られていると思われ、海外の学生が使用するときには若干不便さがあるように感じられました。具体的にはUIが日本語と英語表示にしか対応していないこと、UIで使用される単語の複雑さなどです。対応策としては、初回授業のときに海外現地の代理店の人や当校の外国人スタッフと一緒にZoomに入室してもらい、通訳やサポートをしてもらいながらオリエンテーションを行ったことで、その後の授業が大変スムーズになったと思います。

- また、カリキュラムについては、授業を開始して早い段階で、当初目標だった50課すべての授業を行うのではなく、学生の理解度・修達度を考慮して柔軟にスピードを変更することを決めました。

オンライン授業の特性上、学生たちには現地での日々の生活があり、様々な用事などによって欠席することが多いことが課題でした。改善案として、授業のスピードをゆっくりにするこゝで、1日や2日休んでも授業に置いて行かれにくく、ついていけるようにしました。

それでも様々な理由により、途中で参加しなくなってしまう学生はいました。ただ、初期から参加してくれていた6名は、100日間もの授業を最後まで完走し、実際にその努力に見合うだけの語学力の向上も見られたと感じます。

- 当校でかつて行っていたオンライン授業は、学生が受け身になりやすく、ともすればカメラやマイクをオフにして形だけの出席をしてしまうことが課題でした。

ただ、今回の実証事業においては学生たち6名の意識が非常に高く、常にカメラをオンにして自分の姿を見せており、非常に積極的に参加していたと感じます。授業の内容も、学生たちのアウトプット（発話や作文など）をいかに多く引き出すか、それに迅速にフィードバックするか重点を置いて考えていました。

- 当校でかつて行っていたオンライン授業では、人数が多く、個別のアウトプットについては確認できないことが多いという問題がありました。今回は人数が6人と少なかったこともあり、一人一人のアウトプットについて丁寧にチェックし、個別にフィードバックを返すことができ、学習者の向上、モチベーションの維持に大きな効果が得られたと思います。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A2×オンライン（双方向）×進学・就職・一般>

言語活動<話す（発表）>

Case.22 003：青山国際教育学院

■基本情報

授業ID	003-1
機関名	青山国際教育学院
実証取組モデル	実証取組モデル3（6か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1 A2
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/11～2022/12/22
学習者数	6名
担当教師	3名
授業の学習時間	326
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	ELECOM（マイク付きヘッドホン）
使用した映像（カメラ）機	ノートPC（DELL）付属のカメラ、Macbook Pro 付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント/Keynote/PDF
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | 3ヶ月経過時と6ヶ月修了時で同じレベルチェックテストを行い、理解度、達成度をはかる。learningBOX上にみんなの日本語の各課について語彙・文法のクイズと小テストを作成。

授業方式 | オンライン（双方向）

使用教材 | ①みんなの日本語 初級II
レベル：A2
内容：本冊

2.事業内容

Case.22 003：青山国際教育学院

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ 人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。その際簡単な字句や文を並べる。
「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた簡単な表現や文を書くことができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ スピーチ発表

評価方法

- ✓ 「言いたいことが伝わるかどうか、発音はよいか、順序立てて説明できるか」を指標にCEFR can-do、JF can-doなどにより評価

■結果

#	居住国	性別	年代	前半三ヵ月		後半三ヵ月		向上 (=後半事後出席率-前期事前)	
				事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)	事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)		
01	VietNam	女性	20代	82	90	86	87	5	96%
02	RussianFederation	女性	20代	10	83	41	67	57	65%
03	Myanmar	女性	20代	43	75	72	67	24	93%
04	Myanmar	女性	10代	40	70	70	75	35	92%
05	Myanmar	女性	20代	73	98	68	83	10	92%
06	China	女性	30代	59	88	71	97	38	91%

再掲 (話す (やりとり) と同様)

実証事業参加者 計6名

2.事業内容

Case.22 003：青山国際教育学院

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

【教師に対して】

- learningBOXやスリーエーネットワークの電子テキストの使い方について、事前に使い方を確認する研修を実施。
- 実証事業の内容や目的、授業の内容について他の教師や職員に共有するための研修会も実施。

【学習者に対して】

- 授業開始初日に、代理店のスタッフや校内の外国人スタッフも一緒にZoomと一緒に入室してもらい、学生たちに通訳やサポートをしてもらいながら、Zoom、learningBOX、スリーエーネットワークの電子テキストの使い方のオリエンテーションを実施。
- 学生の欠席が続いたときや、レベルチェックテストやアンケートが回答されない場合などにも、代理店や外国人スタッフを通じて学生に連絡してもらい、サポートを実施。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 効果検証テストの中に「発表」の能力をみる問題はなかったが、授業内でスピーチ発表を複数回行った。
テーマは「自分が夏休みや秋休みにしたこと」や、「自分の国の有名な人について紹介する」など。
写真などを用いて発表してもらった。
発表内容は作文として提出してもらい、添削して返却も行った。
回を重ねるごとに使える文型や語彙が増え、説明の内容も厚みを持っていくようすが見て取れた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 国ごとにインターネット環境、IT設備の充実度が異なることがいちばんのネックでした。当校の場合、ミャンマーのインターネット環境があまりよくなく、頻繁に回線落ちすることがよく見られました。そんな中でも学生たちは懸命にオンライン授業に参加してくれていたと思います。中には毎回特別回線のプリペイドカードを購入して、オンライン授業に参加してくれていた学生もいました。

【続く】

2.事業内容

Case.22 003：青山国際教育学院

再掲（話す（やりとり）と同様）

- 教員の配置については事前に校内でよく検討してから人員を決定したため、問題はありませんでした。
- また、オンライン教育ノウハウやITリテラシーについては、当校の教師はすでにオンライン授業の経験が豊富にあり、learningBOXについても全員が問題なく使っていました。

learningBOXのLMSシステムやスリーエーネットワークの電子テキストについては、もともと日本国内のみでの使用を想定して作られていると思われ、海外の学生が使用するときには若干不便さがあるように感じられました。具体的にはUIが日本語と英語表示にしか対応していないこと、UIで使用される単語の複雑さなどです。対応策としては、初回授業のときに海外現地の代理店の人や当校の外国人スタッフと一緒にZoomに入室してもらい、通訳やサポートをしてもらいながらオリエンテーションを行ったことで、その後の授業が大変スムーズになったと思います。

- また、カリキュラムについては、授業を開始して早い段階で、当初目標だった50課すべての授業を行うのではなく、学生の理解度・修達度を考慮して柔軟にスピードを変更することを決めました。

オンライン授業の特性上、学生たちには現地での日々の生活があり、様々な用事などによって欠席することが多いことが課題でした。改善案として、授業のスピードをゆっくりにすることで、1日や2日休んでも授業に置いて行かれにくく、ついていけるようにしました。

それでも様々な理由により、途中で参加しなくなってしまう学生はいました。ただ、初期から参加してくれていた6名は、100日間もの授業を最後まで完走し、実際にその努力に見合うだけの語学力の向上も見られたと感じます。

- 当校でかつて行っていたオンライン授業は、学生が受け身になりやすく、ともすればカメラやマイクをオフにして形だけの出席をしてしまうことが課題でした。

ただ、今回の実証事業においては学生たち6名の意識が非常に高く、常にカメラをオンにして自分の姿を見せており、非常に積極的に参加していたと感じます。授業の内容も、学生たちのアウトプット（発話や作文など）をいかに多く引き出すか、それに迅速にフィードバックするかに重点を置いて考えていました。

- 当校でかつて行っていたオンライン授業では、人数が多く、個別のアウトプットについては確認できないことが多いという問題がありました。今回は人数が6人と少なかったこともあり、一人一人のアウトプットについて丁寧にチェックし、個別にフィードバックを返すことができ、学習者の向上、モチベーションの維持に大きな効果が得られたと思います。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A2×オンライン（双方向）×進学・就職・一般>

言語活動<聞く>

Case.23 003：青山国際教育学院

■基本情報

授業ID	003-1
機関名	青山国際教育学院
実証取組モデル	実証取組モデル3（6か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1 A2
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/11～2022/12/22
学習者数	6名
担当教師	3名
授業の学習時間	326
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	ELECOM（マイク付きヘッドホン）
使用した映像（カメラ）機	ノートPC（DELL）付属のカメラ、Macbook Pro 付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント/Keynote/PDF
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | 3ヶ月経過時と6ヶ月修了時で同じレベルチェックテストを行い、理解度、達成度をはかる。learningBOX上にみんなの日本語の各課について語彙・文法のクイズと小テストを作成。

授業方式 | オンライン（双方向）

使用教材 | ①みんなの日本語 初級II
レベル：A2
内容：本冊

2. 事業内容

Case.23 003：青山国際教育学院

■ 目標設定／評価方法

・ can-do
目標

- ✓ もし、発話がはっきりとゆっくりとした発音ならば、最も直接的な優先事項の領域（例：ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、その地域の地理、仕事・雇用）に関連した句や表現が理解できる。

評価方法

評価ツール

- ✓ みんなの日本語各課の課末問題の聴解、小テストや語彙クイズの聴解問題

評価方法

- ✓ 「みんなの日本語各課末問題の聴解」を指標にCEFR can-do、JF can-doなどにより評価

■ 結果

#	居住国	性別	年代	前半三ヶ月		後半三ヶ月		向上 (=後半事後 出席率 -前期事前)	
				事前テスト 点数 (100点満 点)	事後テスト 点数 (100点満 点)	事前テスト 点数 (100点満 点)	事後テスト 点数 (100点満 点)		
01	VietNam	女性	20代	82	90	86	87	5	96%
02	RussianF ederation	女性	20代	10	83	41	67	57	65%
03	Myanmar	女性	20代	43	75	72	67	24	93%
04	Myanmar	女性	10代	40	70	70	75	35	92%
05	Myanmar	女性	20代	73	98	68	83	10	92%
06	China	女性	30代	59	88	71	97	38	91%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計6名

2.事業内容

Case.23 003：青山国際教育学院

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

【教師に対して】

- learningBOXやスリーエーネットワークの電子テキストの使い方について、事前に使い方を確認する研修を実施。
- 実証事業の内容や目的、授業の内容について他の教師や職員に共有するための研修会も実施。

【学習者に対して】

- 授業開始初日に、代理店のスタッフや校内の外国人スタッフも一緒にZoomと一緒に入室してもらい、学生たちに通訳やサポートをしてもらいながら、Zoom、learningBOX、スリーエーネットワークの電子テキストの使い方のオリエンテーションを実施。
- 学生の欠席が続いたときや、レベルチェックテストやアンケートが回答されない場合などにも、代理店や外国人スタッフを通じて学生に連絡してもらい、サポートを実施。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 効果検証テストの中に直接「聞く」能力をみる問題はなかったが、授業中に行った聴解問題や、学生との面接において、聞き取る能力が高まっていると感じられる。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 国ごとにインターネット環境、IT設備の充実度が異なることがいちばんのネックでした。当校の場合、ミャンマーのインターネット環境があまりよくなく、頻繁に回線落ちすることがよく見られました。そんな中でも学生たちは懸命にオンライン授業に参加してくれていたと思います。中には毎回特別回線のプリペイドカードを購入して、オンライン授業に参加してくれていた学生もいました。

【続く】

2.事業内容

Case.23 003：青山国際教育学院

再掲（話す（やりとり）と同様）

- 教員の配置については事前に校内でよく検討してから人員を決定したため、問題はありませんでした。
- また、オンライン教育ノウハウやITリテラシーについては、当校の教師はすでにオンライン授業の経験が豊富にあり、learningBOXについても全員が問題なく使っていました。

learningBOXのLMSシステムやスリーエーネットワークの電子テキストについては、もともと日本国内のみでの使用を想定して作られていると思われ、海外の学生が使用するときには若干不便さがあるように感じられました。具体的にはUIが日本語と英語表示にしか対応していないこと、UIで使用される単語の複雑さなどです。対応策としては、初回授業のときに海外現地の代理店の人や当校の外国人スタッフと一緒にZoomに入室してもらい、通訳やサポートをしてもらいながらオリエンテーションを行ったことで、その後の授業が大変スムーズになったと思います。

- また、カリキュラムについては、授業を開始して早い段階で、当初目標だった50課すべての授業を行うのではなく、学生の理解度・修達度を考慮して柔軟にスピードを変更することを決めました。

オンライン授業の特性上、学生たちには現地での日々の生活があり、様々な用事などによって欠席することが多いことが課題でした。改善案として、授業のスピードをゆっくりにするので、1日や2日休んでも授業に置いて行かれにくく、ついていけるようにしました。

それでも様々な理由により、途中で参加しなくなってしまう学生はいました。ただ、初期から参加してくれていた6名は、100日間もの授業を最後まで完走し、実際にその努力に見合うだけの語学力の向上も見られたと感じます。

- 当校でかつて行っていたオンライン授業は、学生が受け身になりやすく、ともすればカメラやマイクをオフにして形だけの出席をしてしまうことが課題でした。

ただ、今回の実証事業においては学生たち6名の意識が非常に高く、常にカメラをオンにして自分の姿を見せており、非常に積極的に参加していたと感じます。授業の内容も、学生たちのアウトプット（発話や作文など）をいかに多く引き出すか、それに迅速にフィードバックするかに重点を置いて考えていました。

- 当校でかつて行っていたオンライン授業では、人数が多く、個別のアウトプットについては確認できないことが多いという問題がありました。今回は人数が6人と少なかったこともあり、一人一人のアウトプットについて丁寧にチェックし、個別にフィードバックを返すことができ、学習者の向上、モチベーションの維持に大きな効果が得られたと思います。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A2×オンライン（双方向）×進学・就職・一般>

言語活動<読む>

Case.24 003：青山国際教育学院

■基本情報

授業ID	003-1
機関名	青山国際教育学院
実証取組モデル	実証取組モデル3（6か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1 A2
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/11～2022/12/22
学習者数	6名
担当教師	3名
授業の学習時間	326
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	ELECOM（マイク付きヘッドホン）
使用した映像（カメラ）機	ノートPC（DELL）付属のカメラ、Macbook Pro 付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント/Keynote/PDF
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容	3ヶ月経過時と6ヶ月修了時で同じレベルチェックテストを行い、理解度、達成度をはかる。learningBOX上にみんなの日本語の各課について語彙・文法のクイズと小テストを作成。
授業方式	オンライン（双方向）
使用教材	①みんなの日本語 初級II レベル：A2 内容：本冊 ②みんなの日本語初級II標準問題集 レベル：A2 ③みんなの日本語初級II漢字練習帳 レベル：A2

2. 事業内容

Case.24 003：青山国際教育学院

■ 目標設定／評価方法

・ can-do
目標

- ✓ 非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテキストが理解できる。
- よく使われる語で書かれた、国際的共通語彙もかなり多い、短い簡単なテキストが理解できる。

評価方法

評価ツール

- ✓ レベルチェックテスト、learningBOXの小テスト・クイズ、みんなの日本語各課末問題の読解

評価方法

- ✓ 「みんなの日本語各課末問題の読解、読んだ後に内容について簡単な質問に答えられるか。」を指標にCEFR can-do、JF can-doなどにより評価

■ 結果

#	居住国	性別	年代	前半三ヵ月		後半三ヵ月		向上 (=後半事後-前期事前) 出席率	
				事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)	事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)		
01	VietNam	女性	20代	82	90	86	87	5	96%
02	RussianFederation	女性	20代	10	83	41	67	57	65%
03	Myanmar	女性	20代	43	75	72	67	24	93%
04	Myanmar	女性	10代	40	70	70	75	35	92%
05	Myanmar	女性	20代	73	98	68	83	10	92%
06	China	女性	30代	59	88	71	97	38	91%

再掲 (話す (やりとり) と同様)

実証事業参加者 計6名

2.事業内容

Case.24 003：青山国際教育学院

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

【教師に対して】

- learningBOXやスリーエーネットワークの電子テキストの使い方について、事前に使い方を確認する研修を実施。
- 実証事業の内容や目的、授業の内容について他の教師や職員に共有するための研修会も実施。

【学習者に対して】

- 授業開始初日に、代理店のスタッフや校内の外国人スタッフも一緒にZoomと一緒に入室してもらい、学生たちに通訳やサポートをしてもらいながら、Zoom、learningBOX、スリーエーネットワークの電子テキストの使い方のオリエンテーションを実施。
- 学生の欠席が続いたときや、レベルチェックテストやアンケートが回答されない場合などにも、代理店や外国人スタッフを通じて学生に連絡してもらい、サポートを実施。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 実証事業の授業だけでなく、学生たちは現地日本語学校の授業を並行して受けていたり、日々数時間の自宅学習をしていたりしていた。

学生によっては日本語だけで授業が行われる「直接法」の授業、と母国語で説明を受けることができる「間接法」の授業を平行して受けていた。その相乗効果によるものも大きいと思われる。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 国ごとにインターネット環境、IT設備の充実度が異なることがいちばんのネックでした。当校の場合、ミャンマーのインターネット環境があまりよくなく、頻繁に回線落ちすることがよく見られました。そんな中でも学生たちは懸命にオンライン授業に参加してくれていたと思います。中には毎回特別回線のプリペイドカードを購入して、オンライン授業に参加してくれていた学生もいました。

【続く】

2.事業内容

Case.24 003：青山国際教育学院

再掲（話す（やりとり）と同様）

- 教員の配置については事前に校内でよく検討してから人員を決定したため、問題はありませんでした。
- また、オンライン教育ノウハウやITリテラシーについては、当校の教師はすでにオンライン授業の経験が豊富にあり、learningBOXについても全員が問題なく使っていました。

learningBOXのLMSシステムやスリーエーネットワークの電子テキストについては、もともと日本国内のみでの使用を想定して作られていると思われ、海外の学生が使用するときには若干不便さがあるように感じられました。具体的にはUIが日本語と英語表示にしか対応していないこと、UIで使用される単語の複雑さなどです。対応策としては、初回授業のときに海外現地の代理店の人や当校の外国人スタッフと一緒にZoomに入室してもらい、通訳やサポートをしてもらいながらオリエンテーションを行ったことで、その後の授業が大変スムーズになったと思います。

- また、カリキュラムについては、授業を開始して早い段階で、当初目標だった50課すべての授業を行うのではなく、学生の理解度・修達度を考慮して柔軟にスピードを変更することを決めました。

オンライン授業の特性上、学生たちには現地での日々の生活があり、様々な用事などによって欠席することが多いことが課題でした。改善案として、授業のスピードをゆっくりにすることで、1日や2日休んでも授業に置いて行かれにくく、ついていけるようにしました。

それでも様々な理由により、途中で参加しなくなってしまう学生はいました。ただ、初期から参加してくれていた6名は、100日間もの授業を最後まで完走し、実際にその努力に見合うだけの語学力の向上も見られたと感じます。

- 当校でかつて行っていたオンライン授業は、学生が受け身になりやすく、ともすればカメラやマイクをオフにして形だけの出席をしてしまうことが課題でした。

ただ、今回の実証事業においては学生たち6名の意識が非常に高く、常にカメラをオンにして自分の姿を見せており、非常に積極的に参加していたと感じます。授業の内容も、学生たちのアウトプット（発話や作文など）をいかに多く引き出すか、それに迅速にフィードバックするかに重点を置いて考えていました。

- 当校でかつて行っていたオンライン授業では、人数が多く、個別のアウトプットについては確認できないことが多いという問題がありました。今回は人数が6人と少なかったこともあり、一人一人のアウトプットについて丁寧にチェックし、個別にフィードバックを返すことができ、学習者の向上、モチベーションの維持に大きな効果が得られたと思います。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A2×オンライン（双方向）×進学・就職・一般>

言語活動<書く>

Case.25 003：青山国際教育学院

■基本情報

授業ID	003-1
機関名	青山国際教育学院
実証取組モデル	実証取組モデル3（6か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1 A2
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/11～2022/12/22
学習者数	6名
担当教師	3名
授業の学習時間	326
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	ELECOM（マイク付きヘッドホン）
使用した映像（カメラ）機	ノートPC（DELL）付属のカメラ、Macbook Pro 付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント/Keynote/PDF
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | 3ヶ月経過時と6ヶ月修了時で同じレベルチェックテストを行い、理解度、達成度をはかる。learningBOX上にみんなの日本語の各課について語彙・文法のクイズと小テストを作成。

授業方式 | オンライン（双方向）

使用教材 | ①みんなの日本語 初級II
レベル：A2
内容：本冊
②みんなの日本語 初級II標準問題集
レベル：A2
③みんなの日本語 初級II漢字練習帳
レベル：A2

2.事業内容

Case.25 003：青山国際教育学院

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ 人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。その際簡単な字句や文を並べる。
「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた簡単な表現や文を書くことができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ レベルチェックテスト、learningBOXの小テスト・クイズ、作文の添削、漢字練習帳の添削

評価方法

- ✓ 作文は「言いたいことが伝わるか、誤字脱字がないか。」、漢字は「形が正しいか」を指標にCEFR can-do、JF can-doなどにより評価

■結果

#	居住国	性別	年代	前半三ヵ月		後半三ヵ月		向上 (=後半事後出席率-前期事前)	
				事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)	事前テスト 点数 (100点満点)	事後テスト 点数 (100点満点)		
01	VietNam	女性	20代	82	90	86	87	5	96%
02	RussianFederation	女性	20代	10	83	41	67	57	65%
03	Myanmar	女性	20代	43	75	72	67	24	93%
04	Myanmar	女性	10代	40	70	70	75	35	92%
05	Myanmar	女性	20代	73	98	68	83	10	92%
06	China	女性	30代	59	88	71	97	38	91%

再掲 (話す (やりとり) と同様)

実証事業参加者 計6名

2.事業内容

Case.25 003：青山国際教育学院

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

【教師に対して】

- learningBOXやスリーエーネットワークの電子テキストの使い方について、事前に使い方を確認する研修を実施。
- 実証事業の内容や目的、授業の内容について他の教師や職員に共有するための研修会も実施。

【学習者に対して】

- 授業開始初日に、代理店のスタッフや校内の外国人スタッフも一緒にZoomと一緒に入室してもらい、学生たちに通訳やサポートをしてもらいながら、Zoom、learningBOX、スリーエーネットワークの電子テキストの使い方のオリエンテーションを実施。
- 学生の欠席が続いたときや、レベルチェックテストやアンケートが回答されない場合などにも、代理店や外国人スタッフを通じて学生に連絡してもらい、サポートを実施。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- ほとんどの学生で3ヶ月経過時と6ヶ月修了時のテスト結果で点数の上昇が見られた。実証事業の授業だけでなく、学生たちは現地日本語学校の授業を並行して受けていたり、日々数時間の自宅学習をしていたりしていた。学生によっては日本語だけで授業が行われる「直接法」の授業、と母国語で説明を受けることができる「間接法」の授業を平行して受けていた。その相乗効果によるものも大きいと思われる。また、発表や作文の授業においても、使える語彙・文型の種類の増加が見られ、回を重ねるにしたがって複文の使用などが見られるようになっていった。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 国ごとにインターネット環境、IT設備の充実度が異なることがいちばんのネックでした。当校の場合、ミャンマーのインターネット環境があまりよくなく、頻繁に回線落ちすることがよく見られました。そんな中でも学生たちは懸命にオンライン授業に参加してくれていたと思います。中には毎回特別回線のプリペイドカードを購入して、オンライン授業に参加してくれていた学生もいました。

【続く】

2.事業内容

Case.25 003：青山国際教育学院

再掲（話す（やりとり）と同様）

- 教員の配置については事前に校内でよく検討してから人員を決定したため、問題はありませんでした。
- また、オンライン教育ノウハウやITリテラシーについては、当校の教師はすでにオンライン授業の経験が豊富にあり、learningBOXについても全員が問題なく使っていました。

learningBOXのLMSシステムやスリーエーネットワークの電子テキストについては、もともと日本国内のみでの使用を想定して作られていると思われ、海外の学生が使用するときには若干不便さがあるように感じられました。具体的にはUIが日本語と英語表示にしか対応していないこと、UIで使用される単語の複雑さなどです。対応策としては、初回授業のときに海外現地の代理店の人や当校の外国人スタッフと一緒にZoomに入室してもらい、通訳やサポートをしてもらいながらオリエンテーションを行ったことで、その後の授業が大変スムーズになったと思います。

- また、カリキュラムについては、授業を開始して早い段階で、当初目標だった50課すべての授業を行うのではなく、学生の理解度・修達度を考慮して柔軟にスピードを変更することを決めました。

オンライン授業の特性上、学生たちには現地での日々の生活があり、様々な用事などによって欠席することが多いことが課題でした。改善案として、授業のスピードをゆっくりにすることで、1日や2日休んでも授業に置いて行かれにくく、ついていけるようにしました。

それでも様々な理由により、途中で参加しなくなってしまう学生はいました。ただ、初期から参加してくれていた6名は、100日間もの授業を最後まで完走し、実際にその努力に見合うだけの語学力の向上も見られたと感じます。

- 当校でかつて行っていたオンライン授業は、学生が受け身になりやすく、ともすればカメラやマイクをオフにして形だけの出席をしてしまうことが課題でした。

ただ、今回の実証事業においては学生たち6名の意識が非常に高く、常にカメラをオンにして自分の姿を見せており、非常に積極的に参加していたと感じます。授業の内容も、学生たちのアウトプット（発話や作文など）をいかに多く引き出すか、それに迅速にフィードバックするかに重点を置いて考えていました。

- 当校でかつて行っていたオンライン授業では、人数が多く、個別のアウトプットについては確認できないことが多いという問題がありました。今回は人数が6人と少なかったこともあり、一人一人のアウトプットについて丁寧にチェックし、個別にフィードバックを返すことができ、学習者の向上、モチベーションの維持に大きな効果が得られたと思います。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A2×オンライン（双方向）×進学・就職・一般>

言語活動<日本事情・日本理解>

Case.26 003：青山国際教育学院

■基本情報

授業ID	003-1
機関名	青山国際教育学院
実証取組モデル	実証取組モデル3（6か月）
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	A1 A2
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/11～2022/12/22
学習者数	6名
担当教師	3名
授業の学習時間	326
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	ELECOM（マイク付きヘッドホン）
使用した映像（カメラ）機	ノートPC（DELL）付属のカメラ、Macbook Pro 付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント/Keynote/PDF
撮影をした場所	普通の教室 その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容	3ヶ月経過時と6ヶ月修了時で同じレベルチェックテストを行い、理解度、達成度をはかる。learningBOX上にみんなの日本語の各課について語彙・文法のクイズと小テストを作成。
授業方式	オンライン（双方向）
使用教材	①みんなの日本語 初級II レベル：A2 内容：本冊

2.事業内容

Case.26 003：青山国際教育学院

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ 日本の地理や文化を部分的に理解し、日本の都市で旅行に行きたいところ、日本で体験したいことについて話すことができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ みんなの日本語各課

評価方法

- ✓ 「日本に来た時に行きたい場所、日本でしたいことなどについて自分で調べ、話すことができる。」を指標にCEFR can-do、JF can-doなどにより評価

■結果

#	居住国	性別	年代	前半三ヶ月		後半三ヶ月		向上 (=後半事後 出席率 -前期事前)	
				事前テスト 点数 (100点満 点)	事後テスト 点数 (100点満 点)	事前テスト 点数 (100点満 点)	事後テスト 点数 (100点満 点)		
01	VietNam	女性	20代	82	90	86	87	5	96%
02	RussianF ederation	女性	20代	10	83	41	67	57	65%
03	Myanmar	女性	20代	43	75	72	67	24	93%
04	Myanmar	女性	10代	40	70	70	75	35	92%
05	Myanmar	女性	20代	73	98	68	83	10	92%
06	China	女性	30代	59	88	71	97	38	91%

再掲（話す（やり
とり）と同様）

実証事業参加者 計6名

2.事業内容

Case.26 003：青山国際教育学院

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインへの適応に向けた教師のサポートと、学習者の個別フォローの実施

【教師に対して】

- learningBOXやスリーエーネットワークの電子テキストの使い方について、事前に使い方を確認する研修を実施。
- 実証事業の内容や目的、授業の内容について他の教師や職員に共有するための研修会も実施。

【学習者に対して】

- 授業開始初日に、代理店のスタッフや校内の外国人スタッフも一緒にZoomと一緒に入室してもらい、学生たちに通訳やサポートをしてもらいながら、Zoom、learningBOX、スリーエーネットワークの電子テキストの使い方のオリエンテーションを実施。
- 学生の欠席が続いたときや、レベルチェックテストやアンケートが回答されない場合などにも、代理店や外国人スタッフを通じて学生に連絡してもらい、サポートを実施。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 効果検証テストの中で日本の文化的慣習や考え方を問う問題があった。
ほとんどの学生で3ヶ月経過時と6ヶ月修了時のテスト結果で点数の上昇が見られた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 適切なカリキュラムの設定が課題である。
- 日本事情・日本理解については、教師が説明するだけだと学生が受け身になりやすいという課題がありました。日本に来たらどこへ旅行に行きたいか、何をしたいかなど、学生の立場に合わせてアウトプットを引き出すことで、モチベーションを高める工夫をしました。
また、「日本事情を伝える」という目的からは離れてしまいましたが、学生たちが世界各地に散らばっているという状況を生かし、「それぞれの国の生活や文化、日常のことを日本語で説明してもらおう」という形の方がよかったですと感じます。学生たちのモチベーションが高く、発表の内容も非常にバラエティーに富んでおり、教師から見ても、普段学校で対面授業でやっているときには見られないような、興味深い発表を多く見る事ができています。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイブリッド型×進学・就職・一般>

言語活動<話す(やりとり)>

Case.27 013：福井ランゲージアカデミー

■基本情報

授業ID	013-1
機関名	福井ランゲージアカデミー
実証取組モデル	モデル外② (3か月)
オンライン教育手法	ハイブリッド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/21～2022/9/9
学習者数	34名
担当教師	14名
授業の学習時間	50
実施した言語活動	話す(やりとり) 話す(発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール (Zoom)
使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	AVerMedia、Sony
使用した映像 (カメラ) 機	Web会議用カメラ360° AIカメラ (Owl)
使用したファイル形式	モデル1 提供のパワーポイントのほか、授業担当教師が作成したオリジナルパワーポイントを使用
撮影をした場所	普段の教室

■実証内容

講義内容	さまざまなタイプのオンライン教材を使用し、各活動(話す:やりとり、話す:発表、聞く、読む、書く)を行うことを通して、身近な事柄に関する日本語使用ができるようになることを目指した。
教員配置	専任及び非常勤の講師全員が本実証事業の授業を担当し、教員全員のオンライン日本語教育に関する教育力の向上を目指した。
教授方法	通常使用している以外の教材に触れ、各教師の教授方法のバリエーションを増やすことをめざした。
授業方式	ハイブリッド型
使用教材	①モデル1 配布スライド レベル: A1 内容: 日常の基本的で簡単なやりとり 例: スケジュール、感想など ②モデル1配布動画 レベル: A1 内容: 日本の街、文化に関する動画を見て、見たものを簡単な言葉表現を使い描写したり、感想を述べたりする ③自主作成教材(PPTスライド) レベル: A1 内容: 会話場面の提示、表現練習、語彙練習等

2.事業内容

Case.27 013：福井ランゲージアカデミー

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ 相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりをすることができる。ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。

評価方法

評価ツール

- ✓ 当校作成のA1/A2用やりとり評価ルーブリック

評価方法

- ✓ 「理解力 コミュニケーションストラテジー 正確さ（語彙、文法、表現） 構造 分量 内容」を指標にACTFUL 文化庁（2021）「日本語教育の参照枠 報告」を参照して評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (230点満点)	事後テスト点数 (230点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Nepal	女性	20代	168	170	2	73%
02	Nepal	男性	20代	139	165	26	19%
03	Nepal	男性	20代	-	-	-	4%
04	Nepal	女性	10代	153	158	5	12%
05	Nepal	男性	20代	162	195	33	73%
06	Nepal	男性	10代	180	103	-77	8%
07	Nepal	女性	20代	119	-	-	58%
08	Nepal	女性	20代	208	-	-	4%
09	Nepal	女性	20代	176	-	-	31%
10	Nepal	女性	20代	192	142	-50	31%
11	Nepal	男性	20代	198	213	15	62%
12	Nepal	男性	20代	172	-	-	8%
13	Nepal	女性	20代	-	175	-	8%
14	Nepal	男性	20代	183	176	-7	4%
15	Philippines	女性	20代	109	210	101	100%
16	Philippines	女性	20代	197	214	17	96%
17	Philippines	女性	10代	36	212	-	92%
18	Philippines	女性	20代	205	200	-5	85%
19	Nepal	男性	20代	145	147	2	96%
20	Nepal	男性	20代	165	197	32	65%
21	Nepal	男性	10代	131	160	29	69%
22	Nepal	女性	20代	140	165	25	54%
23	Nepal	男性	10代	150	170	20	73%
24	Nepal	女性	20代	132	156	24	69%
25	VietNam	男性	20代	150	204	54	85%
26	Japan	女性	30代	113	190	77	69%
27	Japan	女性	40代	109	143	34	69%
28	Japan	女性	10代	224	221	-3	58%
29	Japan	女性	20代	186	196	10	58%
30	Japan	男性	10代	200	207	7	62%
31	Japan	男性	10代	188	-	-	35%
32	Japan	女性	20代	69	100	31	73%
33	Japan	女性	20代	133	-	-	8%
34	Japan	女性	20代	64	131	67	77%

実証事業参加者 計34名

2.事業内容

Case.27 013：福井ランゲージアカデミー

Point：教師間の効果的な情報共有／現地対応・母語対応等、生徒に寄り添ったサポートの実施

【教師に対して】

1. 受託から授業の実施までの時間が短く、事前の準備（カリキュラム理解、教材使用法理解、シラバス理解、オンラインツール使用方法トレーニング）が十分ではなかったため、各教師がオンラインで理解共有(SNSチャット機能、ファイル共有機能を活用)できるようにした。
2. 1の実現の一環として、相互授業見学(オンライン・対面)を自由に行えるようにし、情報の有機的な共有機会を作った。
3. 授業終了後に全員の教師が参加する振り返りの機会(オンライン・対面・オンデマンド)をつくり、各教師が得た知見を共有した。
4. ツールの使用に関しては、使い方マニュアルの提供（書面と動画）とともに随時問い合わせができるコンサルタントを設置した。

【学習者に対して】

1. オンラインの学習者に対しては母語のわかるスタッフが対応し、ツールの使い方、学習への参加の仕方を随時サポートした。
2. オンラインの学習者には在住国での送り出し機関と協働し、学習者の学習の場の提供、ネット環境の提供を依頼。ツール使用のサポートも当校スタッフと協働で行った。
3. ウクライナ避難民にたいしては対面でのサポート、ネット環境の提供、文法説明(ロシア語・英語)の提供等を行った。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 各回の会話の達成度は着実に上がった。理解力、正確さ（語彙、文法、表現）、構造、分量、内容の項目で力をつけていた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 適切なカリキュラムの設定が課題である。
- 今回利用したモデル1では、動画の内容とあまり関係のないやりとりの活動があったが、やりとりと動画をより有機的にリンクできるとオンラインに適したコンテンツが考えられるのではないかと思った。オンラインでは、対面よりもツールに適したコンテンツを準備することで、より有効な学習活動ができるのではないかと思った。言い換えると、オンラインはツールに適した内容を準備できるかどうかで学習の成否が大きく左右されるのではないかと思った。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイブリッド型×進学・就職・一般>

言語活動<話す(発表)>

Case.28 013：福井ランゲージアカデミー

■基本情報

授業ID	013-1
機関名	福井ランゲージアカデミー
実証取組モデル	モデル外② (3か月)
オンライン教育手法	ハイブリッド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/21～2022/9/9
学習者数	34名
担当教師	14名
授業の学習時間	50
実施した言語活動	話す(やりとり) 話す(発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール (Zoom)
使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	AVerMedia、Sony
使用した映像 (カメラ) 機	Web会議用カメラ360° AIカメラ (Owl)
使用したファイル形式	モデル1提供のパワーポイントのほか、授業担当教師が作成したオリジナルパワーポイントを使用
撮影をした場所	普段の教室

■実証内容

講義内容	さまざまなタイプのオンライン教材を使用し、各活動(話す:やりとり、話す:発表、聞く、読む、書く)を行うことを通して、身近な事柄に関する日本語使用ができるようになることを目指した。
教員配置	専任及び非常勤の講師全員が本実証事業の授業を担当し、教員全員のオンライン日本語教育に関する教育力の向上を目指した。
教授方法	通常使用している以外の教材に触れ、各教師の教授方法のバリエーションを増やすことをめざした。
授業方式	ハイブリッド型
使用教材	①モデル1配布スライド レベル: A1 内容: 発表トピックの提示 ②自主作成教材(PPTスライド) レベル: A1 内容: 発表のための材料の提示、表現の提示

2.事業内容

Case.28 013：福井ランゲージアカデミー

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ 自分についての情報、どこに住んでいるかや、知っている人たちについて簡単な語句や文を使って表現できる。

評価方法

評価ツール

- ✓ 当校作成のA1/A2用発表り評価ルーブリック

評価方法

- ✓ 「正確さ（語彙、文法、表現） 構造 分量 内容」を指標にACTFUL 文化庁（2021）「日本語教育の参照枠 報告」を参照して評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (230点満点)	事後テスト点数 (230点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Nepal	女性	20代	168	170	2	73%
02	Nepal	男性	20代	139	165	26	19%
03	Nepal	男性	20代	-	-	-	4%
04	Nepal	女性	10代	153	158	5	12%
05	Nepal	男性	20代	162	195	33	73%
06	Nepal	男性	10代	180	103	-77	8%
07	Nepal	女性	20代	119	-	-	58%
08	Nepal	女性	20代	208	-	-	4%
09	Nepal	女性	20代	176	-	-	31%
10	Nepal	女性	20代	192	142	-50	31%
11	Nepal	男性	20代	198	213	15	62%
12	Nepal	男性	20代	172	-	-	8%
13	Nepal	女性	20代	-	175	-	8%
14	Nepal	男性	20代	183	176	-7	4%
15	Philippines	女性	20代	109	210	101	100%
16	Philippines	女性	20代	197	214	17	96%
17	Philippines	女性	10代	36	212	-	92%
18	Philippines	女性	20代	205	200	-5	85%
19	Nepal	男性	20代	145	147	2	96%
20	Nepal	男性	20代	165	197	32	65%
21	Nepal	男性	10代	131	160	29	69%
22	Nepal	女性	20代	140	165	25	54%
23	Nepal	男性	10代	150	170	20	73%
24	Nepal	女性	20代	132	156	24	69%
25	VietNam	男性	20代	150	204	54	85%
26	Japan	女性	30代	113	190	77	69%
27	Japan	女性	40代	109	143	34	69%
28	Japan	女性	10代	224	221	-3	58%
29	Japan	女性	20代	186	196	10	58%
30	Japan	男性	10代	200	207	7	62%
31	Japan	男性	10代	188	-	-	35%
32	Japan	女性	20代	69	100	31	73%
33	Japan	女性	20代	133	-	-	8%
34	Japan	女性	20代	64	131	67	77%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計34名

2. 事業内容

Case.28 013：福井ランゲージアカデミー

Point：教師間の効果的な情報共有／現地対応・母語対応等、生徒に寄り添ったサポートの実施

再掲（話す（やりとり）と同様）

【教師に対して】

1. 受託から授業の実施までの時間が短く、事前の準備（カリキュラム理解、教材使用法理解、シラバス理解、オンラインツール使用方法トレーニング）が十分ではなかったため、各教師がオンラインで理解共有(SNSチャット機能、ファイル共有機能を活用)できるようにした。
2. 1の実現の一環として、相互授業見学(オンライン・対面)を自由に行えるようにし、情報の有機的な共有機会を作った。
3. 授業終了後に全員の教師が参加する振り返りの機会(オンライン・対面・オンデマンド)をつくり、各教師が得た知見を共有した。
4. ツールの使用に関しては、使い方マニュアルの提供（書面と動画）とともに随時問い合わせができるコンサルタントを設置した。

【学習者に対して】

1. オンラインの学習者に対しては母語のわかるスタッフが対応し、ツールの使い方、学習への参加の仕方を随時サポートした。
2. オンラインの学習者には在住国での送り出し機関と協働し、学習者の学習の場の提供、ネット環境の提供を依頼。ツール使用のサポートも当校スタッフと協働で行った。
3. ウクライナ避難民にたいしては対面でのサポート、ネット環境の提供、文法説明(ロシア語・英語)の提供等を行った。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- ・ こちらも正確さ（語彙、文法、表現）、構造、分量、内容の項目で力をつけていた。特に話す分量は確実に増え、話す意欲の向上が見られた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ・ 適切なカリキュラムの設定が課題である。
- ・ 発表活動自体は、オンラインで十分に有効なやりとりが可能だが、発表を作るまでのサポートのツールが必要である。今回使用したlearningBOXとZoomではその機能が十分ではないように感じている。アウトプットしたものをよりよくするためのステップに使用するツールが必要であると感じた。また、授業の進め方も、対面より計画的でなければ、実施が難しい。臨機応変な対応が可能な対面とは異なる部分が多く、準備はかなり十分な時間をかける必要がある。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイブリッド型×進学・就職・一般>

言語活動<聞く>

Case.29 013：福井ランゲージアカデミー

■基本情報

授業ID	013-1
機関名	福井ランゲージアカデミー
実証取組モデル	モデル外②（3か月）
オンライン教育手法	ハイブリッド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/21～2022/9/9
学習者数	34名
担当教師	14名
授業の学習時間	50
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	AVerMedia、Sony
使用した映像（カメラ）機	Web会議用カメラ360° AIカメラ（Owl）
使用したファイル形式	モデル1提供のパワーポイントのほか、授業担当教師が作成したオリジナルパワーポイントを使用
撮影をした場所	普段の教室

■実証内容

講義内容	さまざまなタイプのオンライン教材を使用し、各活動（話す：やりとり、話す：発表、聞く、読む、書く）を行うことを通して、身近な事柄に関する日本語使用ができるようになることを目指した。
教員配置	専任及び非常勤の講師全員が本実証事業の授業を担当し、教員全員のオンライン日本語教育に関する教育力の向上を目指した。
教授方法	通常使用している以外の教材に触れ、各教師の教授方法のバリエーションを増やすことをめざした。
授業方式	ハイブリッド型
使用教材	①モデル1配布スライド レベル：A1 内容：知っている表現、画像化情報を手掛かりに理解できる情報を聞き取る ②教師、学習者同士のやりとり、発表の聞き取り レベル：A1 内容：動画の内容をやさしい日本語で言い換えたもの、動画に関するやりとりを理解する ③自主作成教材(PPTスライド) レベル：A1 内容：動画理解のための、導入、補足資料

2.事業内容

Case.29 013：福井ランゲージアカデミー

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐまわりの具体的なものに関する聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。

評価方法

評価ツール

- ✓ 各タスクの達成度 モデル1 learningBOX内のテスト

評価方法

- ✓ 「タスクの達成度」を指標に評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (230点満点)	事後テスト点数 (230点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Nepal	女性	20代	168	170	2	73%
02	Nepal	男性	20代	139	165	26	19%
03	Nepal	男性	20代	-	-	-	4%
04	Nepal	女性	10代	153	158	5	12%
05	Nepal	男性	20代	162	195	33	73%
06	Nepal	男性	10代	180	103	-77	8%
07	Nepal	女性	20代	119	-	-	58%
08	Nepal	女性	20代	208	-	-	4%
09	Nepal	女性	20代	176	-	-	31%
10	Nepal	女性	20代	192	142	-50	31%
11	Nepal	男性	20代	198	213	15	62%
12	Nepal	男性	20代	172	-	-	8%
13	Nepal	女性	20代	-	175	-	8%
14	Nepal	男性	20代	183	176	-7	4%
15	Philippines	女性	20代	109	210	101	100%
16	Philippines	女性	20代	197	214	17	96%
17	Philippines	女性	10代	36	212	-	92%
18	Philippines	女性	20代	205	200	-5	85%
19	Nepal	男性	20代	145	147	2	96%
20	Nepal	男性	20代	165	197	32	65%
21	Nepal	男性	10代	131	160	29	69%
22	Nepal	女性	20代	140	165	25	54%
23	Nepal	男性	10代	150	170	20	73%
24	Nepal	女性	20代	132	156	24	69%
25	VietNam	男性	20代	150	204	54	85%
26	Japan	女性	30代	113	190	77	69%
27	Japan	女性	40代	109	143	34	69%
28	Japan	女性	10代	224	221	-3	58%
29	Japan	女性	20代	186	196	10	58%
30	Japan	男性	10代	200	207	7	62%
31	Japan	男性	10代	188	-	-	35%
32	Japan	女性	20代	69	100	31	73%
33	Japan	女性	20代	133	-	-	8%
34	Japan	女性	20代	64	131	67	77%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計34名

2.事業内容

Case.29 013：福井ランゲージアカデミー

Point：教師間の効果的な情報共有／現地対応・母語対応等、生徒に寄り添ったサポートの実施

再掲（話す（やりとり）と同様）

【教師に対して】

1. 受託から授業の実施までの時間が短く、事前の準備（カリキュラム理解、教材使用法理解、シラバス理解、オンラインツール使用方法トレーニング）が十分ではなかったため、各教師がオンラインで理解共有(SNSチャット機能、ファイル共有機能を活用)できるようにした。
2. 1の実現の一環として、相互授業見学(オンライン・対面)を自由に行えるようにし、情報の有機的な共有機会を作った。
3. 授業終了後に全員の教師が参加する振り返りの機会(オンライン・対面・オンデマンド)をつくり、各教師が得た知見を共有した。
4. ツールの使用に関しては、使い方マニュアルの提供（書面と動画）とともに随時間問い合わせができるコンサルタントを設置した。

【学習者に対して】

1. オンラインの学習者に対しては母語のわかるスタッフが対応し、ツールの使い方、学習への参加の仕方を随時サポートした。
2. オンラインの学習者には在住国での送り出し機関と協働し、学習者の学習の場の提供、ネット環境の提供を依頼。ツール使用のサポートも当校スタッフと協働で行った。
3. ウクライナ避難民にたいしては対面でのサポート、ネット環境の提供、文法説明(ロシア語・英語)の提供等を行った。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、結果の信頼性が疑われる場合もあった。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 適切なカリキュラムの設定が課題である。
- 予想とは異なるコンテンツであった場合の対処する時間が圧倒的に不足していた。特に聞く能力を伸ばすためのコンテンツの準備は時間がかかるため、A1レベルの聞き取り能力を伸ばす適切な内容と方法の準備が十分にできなかった。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイブリッド型×進学・就職・一般>

言語活動<読む>

Case.30 013：福井ランゲージアカデミー

■基本情報

授業ID	013-1
機関名	福井ランゲージアカデミー
実証取組モデル	モデル外②（3か月）
オンライン教育手法	ハイブリッド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/21～2022/9/9
学習者数	34名
担当教師	14名
授業の学習時間	50
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	AVerMedia、Sony
使用した映像（カメラ）機	Web会議用カメラ360° AIカメラ（Owl）
使用したファイル形式	モデル1提供のパワーポイントのほか、授業担当教師が作成したオリジナルパワーポイントを使用
撮影をした場所	普段の教室

■実証内容

講義内容	さまざまなタイプのオンライン教材を使用し、各活動（話す：やりとり、話す：発表、聞く、読む、書く）を行うことを通して、身近な事柄に関する日本語使用ができるようになることを目指した。
教員配置	専任及び非常勤の講師全員が本実証事業の授業を担当し、教員全員のオンライン日本語教育に関する教育力の向上を目指した。
教授方法	通常使用している以外の教材に触れ、各教師の教授方法のバリエーションを増やすことをめざした。
授業方式	ハイブリッド型
使用教材	①モデル1配布動画 レベル：A1 内容：動画中に提示される文字情報の読み取り ②自主作成教材(PPTスライド) レベル：A1 内容：動画理解のための、導入、補足資料

2.事業内容

Case.30 013：福井ランゲージアカデミー

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ 身近な場面での文字による情報の理解、例えば、メニュー、掲示、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。

評価方法

評価ツール

- ✓ 各タスクの達成度 モデル1 learningBOX内のテスト

評価方法

- ✓ 「タスクの達成度」を指標に評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (230点満点)	事後テスト点数 (230点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Nepal	女性	20代	168	170	2	73%
02	Nepal	男性	20代	139	165	26	19%
03	Nepal	男性	20代	-	-	-	4%
04	Nepal	女性	10代	153	158	5	12%
05	Nepal	男性	20代	162	195	33	73%
06	Nepal	男性	10代	180	103	-77	8%
07	Nepal	女性	20代	119	-	-	58%
08	Nepal	女性	20代	208	-	-	4%
09	Nepal	女性	20代	176	-	-	31%
10	Nepal	女性	20代	192	142	-50	31%
11	Nepal	男性	20代	198	213	15	62%
12	Nepal	男性	20代	172	-	-	8%
13	Nepal	女性	20代	-	175	-	8%
14	Nepal	男性	20代	183	176	-7	4%
15	Philippines	女性	20代	109	210	101	100%
16	Philippines	女性	20代	197	214	17	96%
17	Philippines	女性	10代	36	212	-	92%
18	Philippines	女性	20代	205	200	-5	85%
19	Nepal	男性	20代	145	147	2	96%
20	Nepal	男性	20代	165	197	32	65%
21	Nepal	男性	10代	131	160	29	69%
22	Nepal	女性	20代	140	165	25	54%
23	Nepal	男性	10代	150	170	20	73%
24	Nepal	女性	20代	132	156	24	69%
25	VietNam	男性	20代	150	204	54	85%
26	Japan	女性	30代	113	190	77	69%
27	Japan	女性	40代	109	143	34	69%
28	Japan	女性	10代	224	221	-3	58%
29	Japan	女性	20代	186	196	10	58%
30	Japan	男性	10代	200	207	7	62%
31	Japan	男性	10代	188	-	-	35%
32	Japan	女性	20代	69	100	31	73%
33	Japan	女性	20代	133	-	-	8%
34	Japan	女性	20代	64	131	67	77%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計34名

2.事業内容

Case.30 013：福井ランゲージアカデミー

Point：教師間の効果的な情報共有／現地対応・母語対応等、生徒に寄り添ったサポートの実施

再掲（話す（やりとり）と同様）

【教師に対して】

1. 受託から授業の実施までの時間が短く、事前の準備（カリキュラム理解、教材使用法理解、シラバス理解、オンラインツール使用方法トレーニング）が十分ではなかったため、各教師がオンラインで理解共有(SNSチャット機能、ファイル共有機能を活用)できるようにした。
2. 1の実現の一環として、相互授業見学(オンライン・対面)を自由に行えるようにし、情報の有機的な共有機会を作った。
3. 授業終了後に全員の教師が参加する振り返りの機会(オンライン・対面・オンデマンド)をつくり、各教師が得た知見を共有した。
4. ツールの使用に関しては、使い方マニュアルの提供（書面と動画）とともに随時間問い合わせができるコンサルタントを設置した。

【学習者に対して】

1. オンラインの学習者に対しては母語のわかるスタッフが対応し、ツールの使い方、学習への参加の仕方を随時サポートした。
2. オンラインの学習者には在住国での送り出し機関と協働し、学習者の学習の場の提供、ネット環境の提供を依頼。ツール使用のサポートも当校スタッフと協働で行った。
3. ウクライナ避難民にたいしては対面でのサポート、ネット環境の提供、文法説明(ロシア語・英語)の提供等を行った。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- ・ テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、結果の信頼性が疑われる場合もあった。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ・ 適切なカリキュラムの設定が課題である。
- ・ 今回利用したモデル1のカリキュラムでは、A1レベルに向けた読みのコンテンツが少なく、時間的にも余裕がなかった。限られた時間でレベルに合った読みの力を養成するためにはレベルに合ったコンテンツをどのツールを使って、どのように準備するかが重要であると思った。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイブリッド型×進学・就職・一般>

言語活動<書く>

Case.31 013：福井ランゲージアカデミー

■基本情報

授業ID	013-1
機関名	福井ランゲージアカデミー
実証取組モデル	モデル外②（3か月）
オンライン教育手法	ハイブリッド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/21～2022/9/9
学習者数	34名
担当教師	14名
授業の学習時間	50
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	AVerMedia、Sony
使用した映像（カメラ）機	Web会議用カメラ360° AIカメラ（Owl）
使用したファイル形式	モデル1提供のパワーポイントのほか、授業担当教師が作成したオリジナルパワーポイントを使用
撮影をした場所	普段の教室

■実証内容

講義内容	さまざまなタイプのオンライン教材を使用し、各活動（話す：やりとり、話す：発表、聞く、読む、書く）を行うことを通して、身近な事柄に関する日本語使用ができるようになることを目指した。
教員配置	専任及び非常勤の講師全員が本実証事業の授業を担当し、教員全員のオンライン日本語教育に関する教育力の向上を目指した。
教授方法	通常使用している以外の教材に触れ、各教師の教授方法のバリエーションを増やすことをめざした。
授業方式	ハイブリッド型
使用教材	①モデル1配布スライド レベル：A1 内容：作文トピックの利用 ②自主作成教材(PPTスライド) レベル：A1 内容：作文、発表原稿作成のための材料の提示、表現の提示

2. 事業内容

Case.31 013：福井ランゲージアカデミー

■ 目標設定／評価方法

・ can-do
目標

- ✓ 自己紹介など短い簡単な言葉を書くことができる。例えば、市役所などの書類で、名前、国籍や住所といった個人のデータを書きこむことができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ 当校作成のA1/A2用作文評価ルーブリック モデル1 learningBOX内のテスト

評価方法

- ✓ 「正確さ（語彙、文法、表現） 構造 分量 内容」を指標にACTFUL 文化庁（2021）「日本語教育の参照枠 報告」を参照して評価

■ 結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (230点満点)	事後テスト点数 (230点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Nepal	女性	20代	168	170	2	73%
02	Nepal	男性	20代	139	165	26	19%
03	Nepal	男性	20代	-	-	-	4%
04	Nepal	女性	10代	153	158	5	12%
05	Nepal	男性	20代	162	195	33	73%
06	Nepal	男性	10代	180	103	-77	8%
07	Nepal	女性	20代	119	-	-	58%
08	Nepal	女性	20代	208	-	-	4%
09	Nepal	女性	20代	176	-	-	31%
10	Nepal	女性	20代	192	142	-50	31%
11	Nepal	男性	20代	198	213	15	62%
12	Nepal	男性	20代	172	-	-	8%
13	Nepal	女性	20代	-	175	-	8%
14	Nepal	男性	20代	183	176	-7	4%
15	Philippines	女性	20代	109	210	101	100%
16	Philippines	女性	20代	197	214	17	96%
17	Philippines	女性	10代	36	212	-	92%
18	Philippines	女性	20代	205	200	-5	85%
19	Nepal	男性	20代	145	147	2	96%
20	Nepal	男性	20代	165	197	32	65%
21	Nepal	男性	10代	131	160	29	69%
22	Nepal	女性	20代	140	165	25	54%
23	Nepal	男性	10代	150	170	20	73%
24	Nepal	女性	20代	132	156	24	69%
25	VietNam	男性	20代	150	204	54	85%
26	Japan	女性	30代	113	190	77	69%
27	Japan	女性	40代	109	143	34	69%
28	Japan	女性	10代	224	221	-3	58%
29	Japan	女性	20代	186	196	10	58%
30	Japan	男性	10代	200	207	7	62%
31	Japan	男性	10代	188	-	-	35%
32	Japan	女性	20代	69	100	31	73%
33	Japan	女性	20代	133	-	-	8%
34	Japan	女性	20代	64	131	67	77%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計34名

2. 事業内容

Case.31 013：福井ランゲージアカデミー

Point：教師間の効果的な情報共有／現地対応・母語対応等、生徒に寄り添ったサポートの実施

再掲（話す（やりとり）と同様）

【教師に対して】

1. 受託から授業の実施までの時間が短く、事前の準備（カリキュラム理解、教材使用法理解、シラバス理解、オンラインツール使用方法トレーニング）が十分ではなかったため、各教師がオンラインで理解共有(SNSチャット機能、ファイル共有機能を活用)できるようにした。
2. 1の実現の一環として、相互授業見学(オンライン・対面)を自由に行えるようにし、情報の有機的な共有機会を作った。
3. 授業終了後に全員の教師が参加する振り返りの機会(オンライン・対面・オンデマンド)をつくり、各教師が得た知見を共有した。
4. ツールの使用に関しては、使い方マニュアルの提供（書面と動画）とともに随時間問い合わせができるコンサルタントを設置した。

【学習者に対して】

1. オンラインの学習者に対しては母語のわかるスタッフが対応し、ツールの使い方、学習への参加の仕方を随時サポートした。
2. オンラインの学習者には在住国での送り出し機関と協働し、学習者の学習の場の提供、ネット環境の提供を依頼。ツール使用のサポートも当校スタッフと協働で行った。
3. ウクライナ避難民にたいしては対面でのサポート、ネット環境の提供、文法説明(ロシア語・英語)の提供等を行った。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- テストに関しては事前と事後では点数的には伸びている学習者もいたが、learningBOXの試験結果は授業内でのやりとりの様子とは異なった結果も見られ、結果の信頼性が疑われる場合もあった。授業内で行う書くタスクでは、正確さ（語彙、文法、表現）、構造、分量、内容の項目で力をつけていた。特に書く分量は確実に増えた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 適切なカリキュラムの設定が課題である。
- 今回使用したlearningBOXでは、書いたもの（手書きとタイプ）を提出し、添削し返却するようなツールが見つからず、Zoomのみを利用して行ったため、フィードバックに限界があった。書くというアウトプットを共有できたり、やりとりできたりするツールが必要だった。Padletなどを使用することも考えたが、海外からアクセスする学習者のICTリテラシーの問題とネット環境の不備で使うことができなかった。学習者と彼らの環境にとって使いやすいツールをどう選ぶかが重要であると感じた。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイブリッド型×進学・就職・一般>

言語活動<日本事情・日本理解>

Case.32 013：福井ランゲージアカデミー

■基本情報

授業ID	013-1
機関名	福井ランゲージアカデミー
実証取組モデル	モデル外②（3か月）
オンライン教育手法	ハイブリッド型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/7/21～2022/9/9
学習者数	34名
担当教師	14名
授業の学習時間	50
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	AVerMedia、Sony
使用した映像（カメラ）機	Web会議用カメラ360° AIカメラ（Owl）
使用したファイル形式	モデル1提供のパワーポイントのほか、授業担当教師が作成したオリジナルパワーポイントを使用
撮影をした場所	普段の教室

■実証内容

講義内容	さまざまなタイプのオンライン教材を使用し、各活動（話す：やりとり、話す：発表、聞く、読む、書く）を行うことを通して、身近な事柄に関する日本語使用ができるようになることを目指した。
教員配置	専任及び非常勤の講師全員が本実証事業の授業を担当し、教員全員のオンライン日本語教育に関する教育力の向上を目指した。
教授方法	通常使用している以外の教材に触れ、各教師の教授方法のバリエーションを増やすことをめざした。
授業方式	ハイブリッド型
使用教材	①モデル1 配布スライド レベル：A1 内容：やりとりの文化的背景の理解 ②モデル1配布動画 レベル：A1 内容：動画中に現れる町の様子、文化的景観の理解 ③いもどり 日本の生活TIPS レベル：A1 内容：動画に関連する内容を母語で理解できる補助として

2.事業内容

Case.32 013：福井ランゲージアカデミー

■目標設定／評価方法

・ can-do
目標

- ✓ コミュニケーション上必要な一般的で日常的によくつかわれる丁寧なあいさつ等を理解できる。
日本の街や文化的な動画を見て、親しみを持つ。

評価方法

評価ツール

- ✓ ※特に評価を行わなかった

評価方法

- ✓ ※特に評価を行わなかった

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (230点満点)	事後テスト点数 (230点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Nepal	女性	20代	168	170	2	73%
02	Nepal	男性	20代	139	165	26	19%
03	Nepal	男性	20代	-	-	-	4%
04	Nepal	女性	10代	153	158	5	12%
05	Nepal	男性	20代	162	195	33	73%
06	Nepal	男性	10代	180	103	-77	8%
07	Nepal	女性	20代	119	-	-	58%
08	Nepal	女性	20代	208	-	-	4%
09	Nepal	女性	20代	176	-	-	31%
10	Nepal	女性	20代	192	142	-50	31%
11	Nepal	男性	20代	198	213	15	62%
12	Nepal	男性	20代	172	-	-	8%
13	Nepal	女性	20代	-	175	-	8%
14	Nepal	男性	20代	183	176	-7	4%
15	Philippines	女性	20代	109	210	101	100%
16	Philippines	女性	20代	197	214	17	96%
17	Philippines	女性	10代	36	212	-	92%
18	Philippines	女性	20代	205	200	-5	85%
19	Nepal	男性	20代	145	147	2	96%
20	Nepal	男性	20代	165	197	32	65%
21	Nepal	男性	10代	131	160	29	69%
22	Nepal	女性	20代	140	165	25	54%
23	Nepal	男性	10代	150	170	20	73%
24	Nepal	女性	20代	132	156	24	69%
25	VietNam	男性	20代	150	204	54	85%
26	Japan	女性	30代	113	190	77	69%
27	Japan	女性	40代	109	143	34	69%
28	Japan	女性	10代	224	221	-3	58%
29	Japan	女性	20代	186	196	10	58%
30	Japan	男性	10代	200	207	7	62%
31	Japan	男性	10代	188	-	-	35%
32	Japan	女性	20代	69	100	31	73%
33	Japan	女性	20代	133	-	-	8%
34	Japan	女性	20代	64	131	67	77%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計34名

2.事業内容

Case.32 013：福井ランゲージアカデミー

Point：教師間の効果的な情報共有／現地対応・母語対応等、生徒に寄り添ったサポートの実施

再掲（話す（やりとり）と同様）

【教師に対して】

1. 受託から授業の実施までの時間が短く、事前の準備（カリキュラム理解、教材使用法理解、シラバス理解、オンラインツール使用方法トレーニング）が十分ではなかったため、各教師がオンラインで理解共有(SNSチャット機能、ファイル共有機能を活用)できるようにした。
2. 1の実現の一環として、相互授業見学(オンライン・対面)を自由に行えるようにし、情報の有機的な共有機会を作った。
3. 授業終了後に全員の教師が参加する振り返りの機会(オンライン・対面・オンデマンド)をつくり、各教師が得た知見を共有した。
4. ツールの使用に関しては、使い方マニュアルの提供（書面と動画）とともに随時間問い合わせができるコンサルタントを設置した。

【学習者に対して】

1. オンラインの学習者に対しては母語のわかるスタッフが対応し、ツールの使い方、学習への参加の仕方を随時サポートした。
2. オンラインの学習者には在住国での送り出し機関と協働し、学習者の学習の場の提供、ネット環境の提供を依頼。ツール使用のサポートも当校スタッフと協働で行った。
3. ウクライナ避難民にたいしては対面でのサポート、ネット環境の提供、文法説明(ロシア語・英語)の提供等を行った。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- ・ 興味を持ち、取り組んでいた。特に評価は行わなかったが、日本への理解の深まりを感じた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ・ 適切なカリキュラムの設定が課題である。
- ・ モデル1提供のコンテンツを利用したが、関東周辺の情報が中心で、当校に留学を目指す学習者や当校のある地域に在住する学習者向けには別の補足情報がかなり必要だった。観光地だけでなく、日本に初めて来た学習者が日常的に接する文化情報を増やし、話すこと書くことにつながる内容を増やしていくと効果的なのではないかと感じた。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイフレックス型×進学・就職・一般>

言語活動<話す(やりとり)>

Case.33 022：新宿平和日本語学校

■基本情報

授業ID	022-2
機関名	新宿平和日本語学校
実証取組モデル	モデル外②
オンライン教育手法	ハイフレックス型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/9/5～2022/12/10
学習者数	13名
担当教師	3名
授業の学習時間	150
実施した言語活動	話す(やりとり) 話す(発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解その他
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール (Zoom)
使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	PC (Windows Surface) 付属のスピーカー、RODE Wireless GO (ワイヤレスマイク)
使用した映像 (カメラ) 機	PC付属のカメラ (講師撮影)、Logicool Webカメラ (教室受講者撮影)
使用したファイル形式	Powerpoint, PDF, MP4
撮影をした場所	普段の教室

■実証内容

講義内容 | できる日本語初級使用／自校作成動画教材 (日本事情・理解)、課題遂行型、コミュニケーション・アプローチ

配置教員 | 3名、うち2名英語使用可能。→A1レベル授業でゼロレベル学習者が多く、最初は初級英語を使ったほうがスムーズに進むと考えられたため。

授業方式 | ハイフレックス型

使用教材 | ①できる日本語初級
レベル：A1
内容：教材内の会話練習の部分で、全体で会話。またはペアで練習。オンライン学習者にはブレイクアウトルームも使用。

2.事業内容

Case.33 022：新宿平和日本語学校

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ 相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。
- ✓ 直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。

評価方法

評価ツール

- ✓ Zoom

評価方法

- ✓ 「コース終了後の会話テストでの成績」を指標に当校作成ループリックによる評価。やりとりの完成度（発表）、やりとりの完成度（質疑応答）、文法/語彙の正確さ、発音、話ことばの流暢さをそれぞれ100点満点とし、合計500点中の取得点により判定。

再掲（話す（やりとり）と同様）

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (1200点満点)	事後テスト点数 (1200点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Japan	女性	30代	290	-	-	43%
02	Indonesia	女性	20代	990	1082	92	67%
03	VietNam	女性	30代	263	-	-	18%
04	VietNam	男性	10代	416	819	403	92%
05	VietNam	女性	10代	457	887	430	86%
06	VietNam	男性	10代	462	842	380	86%
07	VietNam	女性	10代	639	917	278	94%
08	VietNam	女性	10代	472	875	403	85%
09	VietNam	男性	10代	394	1000	606	97%
10	VietNam	男性	20代	544	933	389	85%
11	Peru	女性	20代	157	-	-	44%
12	Argentina	女性	20代	417	-	-	31%
13	Mexico	女性	20代	169	569	400	92%

実証事業参加者 計13名

2.事業内容

Case.33 022：新宿平和日本語学校

Point：ハイブリッドへの対応をスムーズにするための事前勉強会の開催

【教師に対して】

- 事前勉強会を実施（画面共有、ブレイクアウトルーム、ホワイトボード機能、アプリ等+対面者への対応について）

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 022-1のコースに比べ、こちらのコースの学生は比較的スタート時の会話もできていたが、定型文のようなやりとりのみだった。コース後のテストではさらに広い範囲でのやりとりが可能になっており、継続的に学ぶことでオンラインでも会話力の向上が見られた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 機器等のコストが課題である。
- ハイブリッド授業で大人数の場合、オンラインと対面者のやりとりを促すことが非常に難しかったように思う。また、どうしても講師は人数が多いほう（今回はオンライン）に引っ張られがちとなり、学習者が待つ時間が生じてしまいがちだった。ハイブリッドの場合は、オンラインよりもさらに授業計画が煩雑となる。画面を見る時間（オンライン側は画面共有を見る時間）、会話をする時間など内容の計画のみではなく、その内容時に対面者とオンライン受講者に対してそれぞれどのように対応するか、またそれぞれの学習者が何を見てそれがそれぞれどのように見えているか、など確認事項も多く講師の負担が大きい。講師の技術も必要となり、まずは勉強会や研修などでしっかり講師側が学ぶことも必要と感じた。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイフレックス型×進学・就職・一般>

言語活動<話す(発表)>

Case.34 022：新宿平和日本語学校

■基本情報

授業ID	022-2
機関名	新宿平和日本語学校
実証取組モデル	モデル外②
オンライン教育手法	ハイフレックス型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/9/5～2022/12/10
学習者数	13名
担当教師	3名
授業の学習時間	150
実施した言語活動	話す(やりとり) 話す(発表) 聞く読む書く日本事情・日本理解その他
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール (Zoom)
使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	PC (Windows Surface) 付属のスピーカー、RODE Wireless GO (ワイヤレスマイク)
使用した映像 (カメラ) 機	PC付属のカメラ (講師撮影)、Logicool Webカメラ (教室受講者撮影)
使用したファイル形式	Powerpoint, PDF, MP4
撮影をした場所	普通の教室

■実証内容

- 講義内容 | できる日本語初級使用／自校作成動画教材 (日本事情・理解)、課題遂行型、コミュニケーション・アプローチ
- 配置教員 | 3名、うち2名英語使用可能。→A1レベル授業でゼロレベル学習者が多く、最初は初級英語を使ったほうがスムーズに進むと考えられたため。
- 授業方式 | ハイフレックス型
- 使用教材 | ①できる日本語初級
レベル：A1
内容：教材内の会話の部分で、一人ひとり発表の機会を設けた。

2.事業内容

Case.34 022：新宿平和日本語学校

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

✓ どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。

評価方法

評価ツール

✓ Zoom

評価方法

✓ 「コース終了後の会話テストでの成績」を指標に当校作成ルーブリックによる評価。やりとりの完成度（発表）、やりとりの完成度（質疑応答）、文法/語彙の正確さ、発音、話ことばの流暢さをそれぞれ100点満点とし、合計500点中の取得点により判定。

■結果

再掲（話す（やりとり）と同様）

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (1200点満点)	事後テスト点数 (1200点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Japan	女性	30代	290	-	-	43%
02	Indonesia	女性	20代	990	1082	92	67%
03	VietNam	女性	30代	263	-	-	18%
04	VietNam	男性	10代	416	819	403	92%
05	VietNam	女性	10代	457	887	430	86%
06	VietNam	男性	10代	462	842	380	86%
07	VietNam	女性	10代	639	917	278	94%
08	VietNam	女性	10代	472	875	403	85%
09	VietNam	男性	10代	394	1000	606	97%
10	VietNam	男性	20代	544	933	389	85%
11	Peru	女性	20代	157	-	-	44%
12	Argentina	女性	20代	417	-	-	31%
13	Mexico	女性	20代	169	569	400	92%

実証事業参加者 計13名

2.事業内容

Case.34 022：新宿平和日本語学校

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：ハイブリッドへの対応をスムーズにするための事前勉強会の開催

【教師に対して】

- 事前勉強会を実施（画面共有、ブレイクアウトルーム、ホワイトボード機能、アプリ等+対面者への対応について）

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- スタート時は定型文を暗記をしたような表現だったが、コース後には自分のことなどをより伝える力がついていた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 機器等のコストが課題である。
- やりとり時も同じことが言えるが、発表については対面者の音声の問題が大きかった。今回は講師のみワイヤレスマイクをピンマイクとして使用した。学習者は1つのワイヤレスマイクを共有することとなり、音声をうまく拾えないこともあった。
オンライン側の学習者にしっかり音声を届けるには一人ひとりにピンマイクのようなものがあるといいが、費用的にかなり難しそうだと思う。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイフレックス型×進学・就職・一般>

言語活動<聞く>

Case.35 022：新宿平和日本語学校

■基本情報

授業ID	022-2
機関名	新宿平和日本語学校
実証取組モデル	モデル外②
オンライン教育手法	ハイフレックス型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/9/5～2022/12/10
学習者数	13名
担当教師	3名
授業の学習時間	150
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解その他
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC（Windows Surface）付属のスピーカー、RODE Wireless GO（ワイヤレスマイク）
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ（講師撮影）、Logicool Webカメラ（教室受講者撮影）
使用したファイル形式	Powerpoint, PDF, MP4
撮影をした場所	普段の教室

■実証内容

- 講義内容 | できる日本語初級使用／自校作成動画教材（日本事情・理解）、課題遂行型、コミュニケーション・アプローチ
- 配置教員 | 3名、うち2名英語使用可能。→A1レベル授業でゼロレベル学習者が多く、最初は初級英語を使ったほうがスムーズに進むと考えられたため。
- 授業方式 | ハイフレックス型
- 使用教材 | ①できる日本語初級
レベル：A1
内容：教材の聴解部分を使用。
- ②文法動画教材
レベル：A1
内容：新しい文法項目をlearningBOXの動画で確認。
- ③独自動画教材
レベル：A1
内容：できる日本語初級の各課の最後に使用。駄菓子屋やすしなど、学んだ表現を聞きながら日本理解を深めた。

2.事業内容

Case.35 022：新宿平和日本語学校

■目標設定／評価方法

・ can-do
目標

- ✓ はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。

評価方法

評価ツール

- ✓ learningBOXのテスト機能

評価方法

- ✓ 「コース終了後のオンデマンドテストでの成績」を指標にオンデマンドによるテスト。100点中の取得点により評価

■結果

再掲（話す（やりとり）と同様）

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (1200点満点)	事後テスト点数 (1200点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Japan	女性	30代	290	-	-	43%
02	Indonesia	女性	20代	990	1082	92	67%
03	VietNam	女性	30代	263	-	-	18%
04	VietNam	男性	10代	416	819	403	92%
05	VietNam	女性	10代	457	887	430	86%
06	VietNam	男性	10代	462	842	380	86%
07	VietNam	女性	10代	639	917	278	94%
08	VietNam	女性	10代	472	875	403	85%
09	VietNam	男性	10代	394	1000	606	97%
10	VietNam	男性	20代	544	933	389	85%
11	Peru	女性	20代	157	-	-	44%
12	Argentina	女性	20代	417	-	-	31%
13	Mexico	女性	20代	169	569	400	92%

実証事業参加者 計13名

2.事業内容

Case.35 022：新宿平和日本語学校

Point：事前学習をより効果的にするための勉強環境（教材）の提供

- 事前オンデマンド教材の動画教材に音声を吹き込み、日本人母語話者の音声をオンデマンドでも聞けるようにした。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 聴解のテスト結果は、他の結果に比べ伸び率が低かった。授業中、特に聴解に特化したものは行っておらず、授業以外では一切日本語を聞くことのない学習者のため、このような結果につながったのではないかと思う。また、オンデマンドでも聴解はなかったため、もう少し聞く練習を増やせばよかったと感じている。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 機器等のコストが課題である。
- ハイブリッド授業の場合、講師もマスクをしているため、オンライン学習者にとっては講師の発話が聞きづらかったのではないかと思う。オンライン授業ではマスクがなく、口の動きも見えるが、ハイブリッドの場合はオンライン学習者の聞く力がより伸びづらいように思う。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイフレックス型×進学・就職・一般>

言語活動<読む>

Case.36 022：新宿平和日本語学校

■基本情報

授業ID	022-2
機関名	新宿平和日本語学校
実証取組モデル	モデル外②
オンライン教育手法	ハイフレックス型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/9/5～2022/12/10
学習者数	13名
担当教師	3名
授業の学習時間	150
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解その他
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC（Windows Surface）付属のスピーカー、RODE Wiress GO（ワイヤレスマイク）
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ（講師撮影）、Logicool Webカメラ（教室受講者撮影）
使用したファイル形式	Powerpoint, PDF, MP4
撮影をした場所	普段の教室

■実証内容

講義内容	できる日本語初級
授業方式	オンライン（双方向）＋オンデマンド型
使用教材	①できる日本語初級 レベル：A1 内容：教材を読む。講師作成のスライドを読む。 ②語彙クイズ レベル：A1 内容：新しい語彙をlearningBOXのクイズで確認。

2.事業内容

Case.36 022：新宿平和日本語学校

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

✓ 例えば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。

評価方法

評価ツール

✓ learningBOXのテスト機能

評価方法

✓ 「コース終了後のオンデマンドテストでの成績」を指標にオンデマンドによるテスト。100点中の取得点により評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (1200点満点)	事後テスト点数 (1200点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Japan	女性	30代	290	-	-	43%
02	Indonesia	女性	20代	990	1082	92	67%
03	VietNam	女性	30代	263	-	-	18%
04	VietNam	男性	10代	416	819	403	92%
05	VietNam	女性	10代	457	887	430	86%
06	VietNam	男性	10代	462	842	380	86%
07	VietNam	女性	10代	639	917	278	94%
08	VietNam	女性	10代	472	875	403	85%
09	VietNam	男性	10代	394	1000	606	97%
10	VietNam	男性	20代	544	933	389	85%
11	Peru	女性	20代	157	-	-	44%
12	Argentina	女性	20代	417	-	-	31%
13	Mexico	女性	20代	169	569	400	92%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計13名

2.事業内容

Case.36 022：新宿平和日本語学校

Point：学習者の疑問等に素早く答えられる手段の提供

【学習者に対して】

- LINEやメール、learningBOXのメッセージにより母国語等で質問対応

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- このコースの学習者ははじめからひらがなカタカナが読める学習者が多かったが、継続してレッスンを受けることで日本語を読む機会が増え、結果的に読むテストの力も向上していた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 機器等のコストが課題である。
- 読む活動については、ハイブリッドでも難なく行える。オンライン学習者は画面共有、対面学習者はZoomの画面共有をモニターに映し出すことでどちらの学習者も一緒に活動が可能。ただ、読む活動から発展した際に、上記の問題が起こりうる。

2.事業内容

グッドプラクティス

＜A1×ハイフレックス型×進学・就職・一般＞

言語活動＜書く＞

Case.37 022：新宿平和日本語学校

■基本情報

授業ID	022-2
機関名	新宿平和日本語学校
実証取組モデル	モデル外②
オンライン教育手法	ハイフレックス型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/9/5～2022/12/10
学習者数	13名
担当教師	3名
授業の学習時間	150
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解その他
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC（Windows Surface）付属のスピーカー、RODE Wireless GO（ワイヤレスマイク）
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ（講師撮影）、Logicool Webカメラ（教室受講者撮影）
使用したファイル形式	Powerpoint, PDF, MP4
撮影をした場所	普通の教室

■実証内容

講義内容 | 自校作成文法教材（ラーニングボックス）

授業方式 | ハイフレックス型

使用教材 | ①文法復習帳

レベル：A1

内容：オンデマンド教材、learningBOXのレポート機能を利用し提出及び返却。

2.事業内容

Case.37 022：新宿平和日本語学校

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ 新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。
例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ learningBOXのテスト機能

評価方法

- ✓ 「コース終了後のオンデマンドテストでの成績」を指標にオンデマンドによるテスト。100点中の取得点により評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (1200点満点)	事後テスト点数 (1200点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Japan	女性	30代	290	-	-	43%
02	Indonesia	女性	20代	990	1082	92	67%
03	VietNam	女性	30代	263	-	-	18%
04	VietNam	男性	10代	416	819	403	92%
05	VietNam	女性	10代	457	887	430	86%
06	VietNam	男性	10代	462	842	380	86%
07	VietNam	女性	10代	639	917	278	94%
08	VietNam	女性	10代	472	875	403	85%
09	VietNam	男性	10代	394	1000	606	97%
10	VietNam	男性	20代	544	933	389	85%
11	Peru	女性	20代	157	-	-	44%
12	Argentina	女性	20代	417	-	-	31%
13	Mexico	女性	20代	169	569	400	92%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計13名

2.事業内容

Case.37 022：新宿平和日本語学校

再掲
(読むと同様)

Point：学習者の疑問等に素早く答えられる手段の提供

【学習者に対して】

- LINEやメール、learningBOXのメッセージにより母国語等で質問対応

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 毎回復習として、練習帳を提出してもらっていたため、提出している学習者については自分のことについてだいぶ書けるようになった学習者が多かった。A1レベルだったため、練習帳の内容も自分について書くことを意識して作成をしていたが、その効果が会話力にもつながり、会話テストの結果としても出ていた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 機器等のコストが課題である。
- 今回はラーニングボックスを使用したがる、レポート機能が少し使いづらかった。一度ダウンロードして、提出時にまたアップロードというのは手間になり、学習者の意欲もそいでしまう原因になるのではないかと思う。オンライン上ですぐに添削ができるといいと思った。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイフレックス型×進学・就職・一般>

言語活動<日本事情・日本理解>

Case.38 022：新宿平和日本語学校

■基本情報

授業ID	022-2
機関名	新宿平和日本語学校
実証取組モデル	モデル外②
オンライン教育手法	ハイフレックス型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/9/5～2022/12/10
学習者数	13名
担当教師	3名
授業の学習時間	150
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解その他
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC（Windows Surface）付属のスピーカー、RODE Wireless GO（ワイヤレスマイク）
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ（講師撮影）、Logicool Webカメラ（教室受講者撮影）
使用したファイル形式	Powerpoint, PDF, MP4
撮影をした場所	普通の教室

■実証内容

講義内容 | 自校作成動画教材（日本事情・理解）

授業方式 | ハイフレックス型

使用教材 | ①できる日本語初級

レベル：A1

内容：各課で紹介される名所や食べ物等について、授業中に触れる。

②独自作成動画

レベル：A1

内容：できる日本語初級の各課の最後に使用。駄菓子屋やすしなど、学んだ表現を聞きながら日本理解を深めた。

2.事業内容

Case.38 022：新宿平和日本語学校

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

✓ 動画や教材を通し、日本の生活や文化について触れる。

評価方法

評価ツール

✓ なし

評価方法

✓ なし

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (1200点満点)	事後テスト点数 (1200点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Japan	女性	30代	290	-	-	43%
02	Indonesia	女性	20代	990	1082	92	67%
03	VietNam	女性	30代	263	-	-	18%
04	VietNam	男性	10代	416	819	403	92%
05	VietNam	女性	10代	457	887	430	86%
06	VietNam	男性	10代	462	842	380	86%
07	VietNam	女性	10代	639	917	278	94%
08	VietNam	女性	10代	472	875	403	85%
09	VietNam	男性	10代	394	1000	606	97%
10	VietNam	男性	20代	544	933	389	85%
11	Peru	女性	20代	157	-	-	44%
12	Argentina	女性	20代	417	-	-	31%
13	Mexico	女性	20代	169	569	400	92%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計13名

2.事業内容

Case.38 022：新宿平和日本語学校

Point：カリキュラム等に応じた、学習者の理解を深める教材の改良・工夫

- 動画やスライドに日本理解につながるものを入れた。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 今回はテストとしては評価を行っていないが、教材のところどころに日本理解につながるものが入っていたため、日本へ興味を持ってくれた学習者も多かったように思う。これからも学習を続けると言ってくれる学習者が多かったのは、日本語だけでなく日本の魅力を伝えられたからだと思いたい。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- 機器等のコストが課題である。
- 今回は日本理解もかね、動画作成をしたが、できれば短い様々なやさしい日本語での日本理解動画（素材）が共有できるプラットフォームがあるといいと感じた。さらに、その動画に各学校で自由に翻訳を入れたり編集ができるとレベルや状況に合わせて使用ができていい。

2.事業内容

グッドプラクティス

<A1×ハイフレックス型×進学・就職・一般>

言語活動<その他>

Case.39 022：新宿平和日本語学校

■基本情報

授業ID	022-2
機関名	新宿平和日本語学校
実証取組モデル	モデル外②
オンライン教育手法	ハイフレックス型
授業のレベル	A1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/9/5～2022/12/10
学習者数	13名
担当教師	3名
授業の学習時間	150
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く日本事情・日本理解その他
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC（Windows Surface）付属のスピーカー、RODE Wiress GO（ワイヤレスマイク）
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ（講師撮影）、Logicool Webカメラ（教室受講者撮影）
使用したファイル形式	Powerpoint, PDF, MP4
撮影をした場所	普通の教室

■実証内容

講義内容 | 自校作成漢字教材（ラーニングボックス）
授業方式 | ハイフレックス型
使用教材 | ①漢字クイズ
レベル：A1
内容：learningBOXのクイズ機能で漢字の読み、書きを練習。

2.事業内容

Case.39 022：新宿平和日本語学校

■目標設定／評価方法

・ can-do
目標

- ✓ 日本語教育の参照枠記載の基礎漢字や教科書で扱われる初級語彙のうち100字程度の漢字を読むことができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ learningBOXのテスト機能

評価方法

- ✓ 「コース終了後のオンデマンドテストでの成績」を指標にオンデマンドによるテスト。100点中の取得点により評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (1200点満点)	事後テスト点数 (1200点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Japan	女性	30代	290	-	-	43%
02	Indonesia	女性	20代	990	1082	92	67%
03	VietNam	女性	30代	263	-	-	18%
04	VietNam	男性	10代	416	819	403	92%
05	VietNam	女性	10代	457	887	430	86%
06	VietNam	男性	10代	462	842	380	86%
07	VietNam	女性	10代	639	917	278	94%
08	VietNam	女性	10代	472	875	403	85%
09	VietNam	男性	10代	394	1000	606	97%
10	VietNam	男性	20代	544	933	389	85%
11	Peru	女性	20代	157	-	-	44%
12	Argentina	女性	20代	417	-	-	31%
13	Mexico	女性	20代	169	569	400	92%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計13名

2.事業内容

Case.39 022：新宿平和日本語学校

Point：オンライン教育の特性を踏まえた、学習者の理解を深めるカリキュラム・教え方の改良・工夫

- ・ オンデマンドでできるよう毎回クイズを出した。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- ・ 022-1のコースに比べ、オンデマンドの達成率が低かったが、オンデマンドをしっかりしていた学習者について、漢字の力がついていたのはコツコツとクイズを繰り返ししてくれたからかと思う。オンデマンドのみでも漢字の読みについてはある程度習得できていた。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ・ 機器等のコストが課題である。
- ・ 漢字については読み方などを覚えるのはオンデマンドで十分だが、時間に余裕があれば、成り立ちや漢字の知識を広げていくために授業中に扱えると本当はよかった。書く練習については、今回はできなかったが、小学生の漢字練習によくあるアプリのようなものも効果的だと思う。

2.事業内容

グッドプラクティス

< B1 × オンデマンド型 × 進学・就職・一般 >

言語活動 < 話す (やりとり) >

Case.40 023 : 東京三立学院

■基本情報

授業ID	023-1
機関名	東京三立学院
実証取組モデル	モデル外①
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	B1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/10/5~2022/10/31
学習者数	5名
担当教師	2名
授業の学習時間	64
実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール (Zoom)
使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	Anker
使用した映像 (カメラ) 機	Anker
使用したファイル形式	パワーポイントの教材を使用 (画面共有およびモニター投影)
撮影をした場所	普通の教室

■実証内容

講義内容 | 「会話練習」の授業を設定。オンデマンドの予習動画で会話スキットのスクリーンを提示し、見本を示した後、学習者が参加できるように促す。オンライン授業ではスキットを確認しながら双方向で実際に発話していく形式をとった。

授業方式 | オンライン (双方向) オンデマンド型

使用教材 | ①オリジナルテキスト教材・パワーポイント
レベル：B1
内容：会話スキット (1回の授業で3パターン) ・場面別発話例

2. 事業内容

Case.40 023 : 東京三立学院

■ 目標設定 / 評価方法

・can-do
目標

進学コース

- ✓ 平易な日常会話に加え敬語を交えた丁寧な表現をスキットで練習することで、進学準備の上でも必要な問い合わせ、依頼などの基本的な言い回しがスムーズにできるようにする。

就職コース

- ✓ 日本人相手に丁寧で聞き取りやすい表現を適切に使えるよう練習する。

一般（生活）コース

- ✓ 「場面発話」の授業で、場面に応じたいくつものパターンの発話練習をし、日本語表現の使い分けを知るとともにスムーズなやりとりができるようにする。

評価方法

評価ツール

- ✓ 教師による授業内評価

評価方法

- ✓ 「与えられた会話スキットの練習がなされているか。オンライン授業時の発話で、概ね違和感なく会話として成立しているか」を指標にB1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をそのレベルの学習者用に作成し、それらが概ね理解・実践できることを基準として評価

■ 結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (50点満点)	事後テスト点数 (50点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	VietNam	女性	10代	26	35	9	28%
02	VietNam	女性	20代	18	46	28	97%
03	VietNam	女性	20代	8			41%
04	VietNam	女性	10代	21	46	25	86%
05	VietNam	女性	10代	19	22	3	69%

実証事業参加者 計5名

2.事業内容

Case.40 023：東京三立学院

Point：オンライン（映像・動画）授業で求められるスキル研修の実施

- 会話授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。話者がどんな立場であるかをまず明確にすること。カメラに向けて口元を見せること。内容と解説を明確に分け、文を示すときは必ず指示棒でスキット文を示し、学習者に話しかけるときは、指示棒を下ろしてカメラ目線とすること。反復練習を促す手振りを明確にし、通常授業より大きく頷く等リアクションの取り方を指導。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 検証テストで話す能力の測定は非常に困難である。別途オンライン授業時に学習者一人ずつ会話力チェックをするしか方法がないのではないか。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。

2.事業内容

グッドプラクティス

< B1 × オンデマンド型 × 進学・就職・一般 >

言語活動 < 話す (発表) >

Case.41 023 : 東京三立学院

■基本情報

授業ID	023-1
機関名	東京三立学院
実証取組モデル	モデル外①
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	B1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/10/5~2022/10/31
学習者数	5名
担当教師	2名
授業の学習時間	64
実施した言語活動	話す (やりとり) 話す (発表) 聞く読む書く
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール (Zoom)
使用した音声機材 (スピーカー、マイク)	Anker
使用した映像 (カメラ) 機	Anker
使用したファイル形式	パワーポイントの教材を使用 (画面共有およびモニター投影)
撮影をした場所	普段の教室

■実証内容

- 講義内容 | 聞きやすい日本語で話せることを目標に、平易な文章を1回の授業で3編用意。オンデマンド予習動画で読み上げる見本を示し、練習を促す。オンライン授業で学習者に練習成果を発表させ、教師がチェックしていくという展開とした。
- 授業方式 | オンライン (双方向) オンデマンド型
- 使用教材 | ①オリジナルテキスト教材・パワーポイント
レベル: B1
内容: 音読・発表の文章 (1回の授業で3パターン)

2. 事業内容

Case.41 023：東京三立学院

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

進学コース

- ✓ 日本語のイントネーションやアクセントに留意しながら、まとまった文章を聞きやすい発話で伝えることができる。

就職コース

- ✓ 自己紹介、自分のことをわかりやすく伝えるなど面接対応の基礎能力を養う。

一般（生活）コース

- ✓ 毎日の授業の中で教師に自分のことを話すタイミングを設け、自分の言葉で他者に伝えることができるようにする。

評価方法

評価ツール

- ✓ 教師による授業内評価

評価方法

- ✓ 「与えられた音読・発表文章の読み上げ練習がなされているか。オンライン授業時の発表で、概ね違和感なく聞きやすい日本語か、内容は伝わるか」を指標にB1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をそのレベルの学習者用に作成し、それらが概ね理解・実践できることを基準として評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (50点満点)	事後テスト点数 (50点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	VietNam	女性	10代	26	35	9	28%
02	VietNam	女性	20代	18	46	28	97%
03	VietNam	女性	20代	8			41%
04	VietNam	女性	10代	21	46	25	86%
05	VietNam	女性	10代	19	22	3	69%

実証事業参加者 計5名

2.事業内容

Case.41 023：東京三立学院

Point：オンライン（映像・動画）授業で求められるスキル研修の実施

- 発表授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。「話す（やりとり）」同様、教師のデモはカメラに向けて口元を見せること。内容と解説を明確に分け、文を示すときは必ず指示棒で音読文を示し、学習者に話しかけるときは、指示棒を下ろしてカメラ目線とすること。反復練習を促す手振りを明確にし、通常授業より大きく頷く等リアクションの取り方を指導。また、自由発話の場合は、他の学習者の理解を助けるよう、言葉を加えたり確認したりして補うこと。学習者が発話に前向きになるよう必ず褒めること。

再掲（話す（やりとり）と同様）

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 検証テストで話す能力の測定は非常に困難である。別途オンライン授業時に学習者一人ずつ会話力チェックをするしか方法がないのではないか。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。

2.事業内容

グッドプラクティス

< B1 × オンデマンド型 × 進学・就職・一般 >

言語活動<聞く>

Case.42 023：東京三立学院

■基本情報

授業ID	023-1
機関名	東京三立学院
実証取組モデル	モデル外①
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	B1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/10/5～2022/10/31
学習者数	5名
担当教師	2名
授業の学習時間	64
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	Anker
使用した映像（カメラ）機	Anker
使用したファイル形式	パワーポイントの教材を使用（画面共有およびモニター投影）
撮影をした場所	普段の教室

■実証内容

講義内容 | 「聴解練習」の授業で、JLPTのN3レベルのスキriptと音源をオリジナルで作成。オンデマンド予習動画で問題を提示し、オンライン授業でその解答解説を行うという展開とした。

授業方式 | オンライン（双方向）オンデマンド型

使用教材 | ①オリジナルテキスト教材・パワーポイント
レベル：B1
内容：N3レベル聴解問題（内容と音声）

2.事業内容

Case.42 023：東京三立学院

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

進学コース

- ✓ N3レベルの聴解練習を複数回行うことで、問題形式に慣れ、設問のポイントをつかんだ聞き方ができるようにする。

就職コース

- ✓ やや硬い表現や、目上の者からの指示を聞き取って反応できるようにする。

一般（生活）コース

- ✓ まとまった話を聞き、どんな話題でどんな状況を言っているかを聞き取れるように練習する。
JLPTのような選択問題ではない内容理解の練習をすることで話の全体がつかめるようにする。

評価方法

評価ツール

- ✓ 教師による授業内評価

評価方法

- ✓ 「聴解問題の解答チェックをし、設問の半数以上の正解ができるレベルであるか」を指標にB1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をN3レベルで作成し、ある程度理解できる（60%程度）ことを基準として評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (50点満点)	事後テスト点数 (50点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	VietNam	女性	10代	26	35	9	28%
02	VietNam	女性	20代	18	46	28	97%
03	VietNam	女性	20代	8			41%
04	VietNam	女性	10代	21	46	25	86%
05	VietNam	女性	10代	19	22	3	69%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計5名

2.事業内容

Case.42 023：東京三立学院

Point：オンライン（映像・動画）授業特有の問題を踏まえた対応スキル研修の実施

- 聴解授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。オンライン授業であることから、学習者に届いている音声の状況を確認しながら進めること。解説時は教師の声に置き換えるのではなく必ず同じ音声を使用すること。重要部分は流してから確認するのではなく、先に一時停止をしておき、注意を促してから聞かせること、等。

再掲（話す（やりとり）と同様）

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 検証テストで話す能力の測定は非常に困難である。別途オンライン授業時に学習者一人ずつ会話力チェックをするしか方法がないのではないか。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。

2. 事業内容

グッドプラクティス

< B1 × オンデマンド型 × 進学・就職・一般 >

言語活動 < 読む >

Case.43 023 : 東京三立学院

■ 基本情報

授業ID	023-1
機関名	東京三立学院
実証取組モデル	モデル外①
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	B1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/10/5~2022/10/31
学習者数	5名
担当教師	2名
授業の学習時間	64
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	Anker
使用した映像（カメラ）機	Anker
使用したファイル形式	パワーポイントの教材を使用（画面共有およびモニター投影）
撮影をした場所	普通の教室

■ 実証内容

講義内容 | 「読解」「速読」の授業を設定。「読解」はオンデマンド予習動画で文中の語彙や表現を説明し、基本的な内容を理解させたあとオンライン授業で設問を提示、解答解説を授業形式で行った。「速読」はテキストに文章を載せず、オンデマンド予習動画で初見の形式をとった。400字程度の文を2分提示し、その後設問の選択肢（4択）を30秒提示とした。学習者はその短時間で解答を選ぶ必要がある。解答解説はオンライン授業で双方向的に行った。

授業方式 | オンライン（双方向）オンデマンド型

使用教材 | ①オリジナルテキスト教材・パワーポイント
レベル：B1
内容：読解文12、速読文16を作成

2. 事業内容

Case.43 023：東京三立学院

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

進学コース

- ✓ 400字程度の比較的読みやすい文章の大意を把握することができる。部分的な精読で設問に適した解答を文中もしくは選択肢から選ぶことができる。また、速読授業では平易な文章の内容把握を短時間で行うことができるようにする。

就職コース

- ✓ 身近な日本社会の問題点や、日本人の考え方を文章を通して理解できる。

一般（生活）コース

- ✓ 文章についての設問に答えるばかりでなく、筆者はどんな思いなのか、自分に、あるいは自分の国の場合に置き換えて考えてみることで、幅を広げた文の読み方ができるようにする。

評価方法

評価ツール

- ✓ 教師による授業内評価・効果測定の事後テスト

評価方法

- ✓ 「読解問題の解答チェックをし、設問の半数以上の正解ができるレベルであるか」を指標にB1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をそのレベルで作成し、ある程度理解できる（60%程度）ことを基準として評価

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数	事後テスト点数	向上	出席率
				(50点満点)	(50点満点)	(=事後-事前)	
01	VietNam	女性	10代	26	35	9	28%
02	VietNam	女性	20代	18	46	28	97%
03	VietNam	女性	20代	8			41%
04	VietNam	女性	10代	21	46	25	86%
05	VietNam	女性	10代	19	22	3	69%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計5名

2.事業内容

Case.43 023：東京三立学院

Point：オンライン（映像・動画）授業で求められるスキル研修の実施

- 読解授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。常にどこを読んでいるのかわかるようにモニター表示の文章を指示棒で指しながら読み進めること。比較的小さなまとまりで内容確認を進めていくこと～オンライン授業だと教材を手元に広げたり大きなパソコン画面で見られない場合も多いことが想定られ、通常授業よりも細かく区切りながら理解させていくべき。また学習者がノートを取ったりメモをしたりできない状況も想定し、その場で聞いて理解させるつもりで明確な指導をする必要性についても学びがあった。

再掲（話す（やりとり）と同様）

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 検証テストで話す能力の測定は非常に困難である。別途オンライン授業時に学習者一人ずつ会話力チェックをするしか方法がないのではないか。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。

2.事業内容

グッドプラクティス

< B1 × オンデマンド型 × 進学・就職・一般 >

言語活動<書く>

Case.44 023：東京三立学院

■基本情報

授業ID	023-1
機関名	東京三立学院
実証取組モデル	モデル外①
オンライン教育手法	オンラインのみ+オンデマンド型
授業のレベル	B1
授業のコース	進学 就職 一般
授業の実施期間	2022/10/5～2022/10/31
学習者数	5名
担当教師	2名
授業の学習時間	64
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く読む書く
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	Anker
使用した映像（カメラ）機	Anker
使用したファイル形式	パワーポイントの教材を使用（画面共有およびモニター投影）
撮影をした場所	普段の教室

■実証内容

講義内容 | オンライン授業での作文は効果的な実施が困難と思われたため、今回はディクテーションにて正確に表記する練習とした。オンデマンド予習動画で文章を読み上げ、学習者に書き取る時間を与えた。その上でオンライン授業で書いたものをカメラを通して確認し、学習者に読み上げさせるという展開の後、正解確認という流れをとった。また、「文の完成」授業を設定。前件をもとに後件作文をさせるというもので、オンデマンド予習動画で前件を提示、オンライン授業で後件の解答確認と解説をする展開とした。

授業方式 | オンライン（双方向）オンデマンド型

使用教材 | ①オリジナルテキスト教材・パワーポイント
レベル：B1
内容：ディクテーション文章・文の完成問題（空欄補充問題）

2. 事業内容

Case.44 023 : 東京三立学院

■ 目標設定 / 評価方法

・ can-do
目標

進学コース

- ✓ ディクテーション授業で、比較的平易な教師の発話を聞き取り、漢字交じりの文に書き出すことができる。「文の完成」授業で、N3レベルの機能語を用いた前件の提示を受け、適切な後件文を書くことができる。

就職コース

- ✓ 耳で聞いた音声を正確に漢字も交えながら文章化できるようにする。

一般（生活）コース

- ✓ ディクテーション授業で、比較的平易な日常的な内容の教師の発話を聞き取り、漢字交じりの文に書き出すことができる。

評価方法

評価ツール

- ✓ 教師による授業内評価

評価方法

- ✓ 「与えられたディクテーション課題に取り組んでいるか。解答確認で、軽微なミス以外に概ね提示文通りの記述ができているか」を指標にB1レベルを初中級～中級前期ととらえ、当コースがJLPTでN3レベルを目指す段階と設定したため、教材内容をそのレベルの学習者用に作成し、それらが概ね実践できることを基準として評価

■ 結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (50点満点)	事後テスト点数 (50点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	VietNam	女性	10代	26	35	9	28%
02	VietNam	女性	20代	18	46	28	97%
03	VietNam	女性	20代	8			41%
04	VietNam	女性	10代	21	46	25	86%
05	VietNam	女性	10代	19	22	3	69%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計5名

2. 事業内容

Case.44 023：東京三立学院

Point：オンライン（映像・動画）授業で求められるスキル研修の実施

- 記述確認の授業をする際の留意点を事前に教師の研修として行った。カメラの前で学習者が書いたものを提示してもらうため、場合によってはそれができない状況もあること、カメラにうまく収まらない場合もあることを想定し、臨機応変な対応をすること。訂正箇所を直接示せないで、ホワイトボード等を活用して示すやり方。一人の学習者の添削が他の学習者の学びにもなるように、教師の発言は常に全学習者に向けたものにする。課題がすべて消化できない学習者に対して、必ず取り組みの努力を褒めること、等。今回はディクテーションおよび短文作成の場合に限定し、文章として書く作文の指導法は割愛。

再掲（話す（やりとり）と同様）

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 検証テストで話す能力の測定は非常に困難である。別途オンライン授業時に学習者一人ずつ会話力チェックをするしか方法がないのではないか。

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- すべてにあてはまるのが「ネットワーク環境の整備」「機器等のコスト」「適切なカリキュラムの設定」である。前2つに関しては各学校に公的な補助があればほぼ改善できるはずである。但し学習者のネット環境は日本側の努力では困難。「カリキュラム」に関しては、全体として今回は学習者の時間的負担が大きかったようなので、今後オンライン教育を行う際にはかなり余裕を持った進度にすべきだと思われる。

2.事業内容

グッドプラクティス

<B1×オンライン（双方向）×一般>

言語活動<話す（やりとり）>

Case.45 037：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

■基本情報

授業ID	037-3
機関名	ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校
実証取組モデル	モデル外
オンライン教育手法	オンラインのみ
授業のレベル	B1
授業のコース	一般
授業の実施期間	2022/10/31～2022/12/29
学習者数	10名
担当教師	1名
授業の学習時間	140
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー&マイク
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント・PDF・MP3
撮影をした場所	その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容	文法授業を中心にすべて日本語で授業を行った。また学んだ文法を使い、文を作り、会話を行った
授業方式	オンライン（双方向）
使用教材	①できる日本語初中級 レベル：B1 内容：文法 ②パワーポイント レベル：B1 内容：文法

2.事業内容

Case.45 037：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ 学んだ文法を使って日本人との会話で自信を持てるようになること

評価ツール

- ✓ 自作問題、テキスト問題を使用した

評価方法

- ✓ 「使用したテキストに教えた文法対応する問題があり、テキスト問題」を指標に問題ができるように事前に授業でポイントを説明しているので、問題が解答できているかどうかで確認。ただ間違えたかどうかだけでなく、どのように間違えているかなども評価に入れた。また文法を正しく使い、文作や会話ができているかも評価した

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (55点満点)	事後テスト点数 (55点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Indonesia	男性	20代	38	41	3	97%
02	Indonesia	女性	20代	20	44	24	6%
03	Indonesia	女性	20代	21	32	11	77%
04	Indonesia	女性	30代	27	38	11	77%
05	Indonesia	男性	20代	31	50	19	94%
06	Indonesia	女性	20代	41	50	9	100%
07	Indonesia	男性	20代	20	31	11	97%
08	Indonesia	女性	20代	25	40	15	83%
09	Indonesia	男性	30代	45	51	6	97%
10	Indonesia	男性	20代	30	46	16	94%

実証事業参加者 計10名

2.事業内容

Case.45 037：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインツールの使い方習得のサポート

【教師について】

- Zoomの運用方法、オンライン授業のノウハウを日本語学校の上司から学んだ。

【学生について】

- learningBOXの使い方をサポートした。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- はじめは日本人との会話に緊張していたが、最後は自分から発言するなど、学んだ文法を使って自信を持って日本語が話せるようになった

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 文法の授業の課題はとくにないと感じます。対面よりもスムーズに授業が行えた

2.事業内容

グッドプラクティス

<B1×オンライン（双方向）×一般>

言語活動<話す（発表）>

Case.46 037：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

■基本情報

授業ID	037-3
機関名	ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校
実証取組モデル	モデル外
オンライン教育手法	オンラインのみ
授業のレベル	B1
授業のコース	一般
授業の実施期間	2022/10/31～2022/12/29
学習者数	10名
担当教師	1名
授業の学習時間	140
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー&マイク
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント・PDF・MP3
撮影をした場所	その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容	宿題としてテーマに沿った作文を書き、毎授業で発表を行った。事実を述べるだけでなく、そのことに対する意見や感想を取り込むよう指導した
授業方式	オンライン（双方向）
使用教材	①できる日本語初中級 レベル：B1 内容：文作・作文・作文発表

2.事業内容

Case.46 037：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

- ✓ 事実だけでなく、自分の意見や考え、感想を取り入れること

評価方法

評価ツール

- ✓ 作文発表

評価方法

- ✓ 「使用したテキストに作文の例があり、そのテーマ」を指標にまずテーマに沿っているか。そして事実説明だけでなく、自分の意見や考え、感想を自分の言葉で説明できているかを主に評価した

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数	事後テスト点数	向上	出席率
				(55点満点)	(55点満点)	(=事後-事前)	
01	Indonesia	男性	20代	38	41	3	97%
02	Indonesia	女性	20代	20	44	24	6%
03	Indonesia	女性	20代	21	32	11	77%
04	Indonesia	女性	30代	27	38	11	77%
05	Indonesia	男性	20代	31	50	19	94%
06	Indonesia	女性	20代	41	50	9	100%
07	Indonesia	男性	20代	20	31	11	97%
08	Indonesia	女性	20代	25	40	15	83%
09	Indonesia	男性	30代	45	51	6	97%
10	Indonesia	男性	20代	30	46	16	94%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計10名

2.事業内容

Case.46 037：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインツールの使い方習得のサポート

【教師について】

- Zoomの運用方法、オンライン授業のノウハウを日本語学校の上司から学んだ。

【学生について】

- learningBOXの使い方をサポートした。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- はじめは事実だけを述べるが多かったが、指導するにつれて自分の意見や感想を伝えられるようになった

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。
- ネットワーク環境の問題で、発表が途切れたりしてしまい、学生に聞き直すことが多々あった

2.事業内容

グッドプラクティス

<B1×オンライン（双方向）×一般>

言語活動<聞く>

Case.47 037：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

■基本情報

授業ID	037-3
機関名	ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校
実証取組モデル	モデル外
オンライン教育手法	オンラインのみ
授業のレベル	B1
授業のコース	一般
授業の実施期間	2022/10/31～2022/12/29
学習者数	10名
担当教師	1名
授業の学習時間	140
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー&マイク
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント・PDF・MP3
撮影をした場所	その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容 | 日本人との会話や説明を中心に聞く力を伸ばした。また学んだ文法を使った聴解も行った。聴解では会話を聞き。問題に答える形式だった

授業方式 | オンライン（双方向）

使用教材 | ①できる日本語初中級
レベル：B1
内容：聴解
②できる日本語初中級（聴解教材）
レベル：B1
内容：聴解

2.事業内容

Case.47 037：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

✓ 日本人との会話に慣れること

評価方法

評価ツール

✓ テキスト問題

評価方法

✓ 「使用したテキストに聴解問題があり、テキスト問題」を指標に聴解のテキスト問題に解答ができていのかどうかで判断しました。またそれだけでなく、聴解の内容を要約させ発表させることで、理解しているかどうかで評価した

再掲（話す（やりとり）と同様）

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (55点満点)	事後テスト点数 (55点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Indonesia	男性	20代	38	41	3	97%
02	Indonesia	女性	20代	20	44	24	6%
03	Indonesia	女性	20代	21	32	11	77%
04	Indonesia	女性	30代	27	38	11	77%
05	Indonesia	男性	20代	31	50	19	94%
06	Indonesia	女性	20代	41	50	9	100%
07	Indonesia	男性	20代	20	31	11	97%
08	Indonesia	女性	20代	25	40	15	83%
09	Indonesia	男性	30代	45	51	6	97%
10	Indonesia	男性	20代	30	46	16	94%

実証事業参加者 計10名

2.事業内容

Case.47 037：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインツールの使い方習得のサポート

【教師について】

- Zoomの運用方法、オンライン授業のノウハウを日本語学校の上司から学んだ。

【学生について】

- learningBOXの使い方をサポートした。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- はじめは聞いた内容を要約できなかったが、後半は聴解の内容をよく理解し、内容を要約してまとめることができた

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。

2.事業内容

グッドプラクティス

<B1×オンライン（双方向）×一般>

言語活動<日本事情・日本理解>

Case.48 037：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

■基本情報

授業ID	037-3
機関名	ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校
実証取組モデル	モデル外
オンライン教育手法	オンラインのみ
授業のレベル	B1
授業のコース	一般
授業の実施期間	2022/10/31～2022/12/29
学習者数	10名
担当教師	1名
授業の学習時間	140
実施した言語活動	話す（やりとり）話す（発表）聞く日本事情・日本理解
使用したオンライン会議ツール	事務局指定ツール（Zoom）
使用した音声機材（スピーカー、マイク）	PC付属のスピーカー&マイク
使用した映像（カメラ）機	PC付属のカメラ
使用したファイル形式	パワーポイント・PDF・MP3
撮影をした場所	その他（講師自宅等）

■実証内容

講義内容	テキストに書いてある日本文化・マナー・ルールを中心に日本事情・日本理解の指導を行った
授業方式	オンライン（双方向）
使用教材	①できる日本語初中級 レベル：B1 内容：日本文化・マナー・ルール

2.事業内容

Case.48 037：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

■目標設定／評価方法

・can-do
目標

✓ 日本の文化・マナー・ルールを理解し、日本での生活に役立てること

評価方法

評価ツール

✓ テキスト問題

評価方法

✓ 「使用したテキストには文化等の紹介のみで、対応する問題がなかったため、口頭確認」を指標にテキストで紹介されている日本文化などを理解しているか、口頭で確認し評価した

■結果

#	居住国	性別	年代	事前テスト点数 (55点満点)	事後テスト点数 (55点満点)	向上 (=事後-事前)	出席率
01	Indonesia	男性	20代	38	41	3	97%
02	Indonesia	女性	20代	20	44	24	6%
03	Indonesia	女性	20代	21	32	11	77%
04	Indonesia	女性	30代	27	38	11	77%
05	Indonesia	男性	20代	31	50	19	94%
06	Indonesia	女性	20代	41	50	9	100%
07	Indonesia	男性	20代	20	31	11	97%
08	Indonesia	女性	20代	25	40	15	83%
09	Indonesia	男性	30代	45	51	6	97%
10	Indonesia	男性	20代	30	46	16	94%

再掲（話す（やりとり）と同様）

実証事業参加者 計10名

2.事業内容

Case.48 037：ファースト・スタディ日本語学校大阪泉大津校

再掲（話す（やりとり）と同様）

Point：オンラインツールの使い方習得のサポート

【教師について】

- Zoomの運用方法、オンライン授業のノウハウを日本語学校の上司から学んだ。

【学生について】

- learningBOXの使い方をサポートした。

効果検証テスト結果について学習成果に関する意見・考察

- 日本文化に興味を持つようになった

オンライン教育上の課題/改善点および考察

- ネットワーク環境の整備が課題である。
- 今回できる日本語以外にもの日本文化等を指導するため、教材を探したがオンライン向けにはなかなかいいものがなかった

3. 外部評価委員会 による分析

3.外部評価委員会による分析

3-1. 実施概要

実証結果における分析方針を決定すること等を目的として、評価検証委員会を組成、全4回実施した。

実施日時およびアジェンダ

	実施日時	アジェンダ
1	2022年11月18日(金) 10:00~12:00	1. 開会 2. ご挨拶 3. 委員ご紹介 4. 事業の概要および評価検証委員会の目的について 5. 実証取組モデルのご紹介 6. 分析方針の検討 7. 閉会
2	2022年12月12日(月) 10:00~12:00	1. 開会 2. 現在の実施状況の共有 3. 分析結果の共有・検討 4. 閉会
3	2023年01月16日(月) 13:00~15:00	1. 開会 2. 現在の実施状況の共有 3. 分析結果の共有・検討 4. 閉会
4	2023年01月26日(木) 10:00~12:00	1. 開会 2. 現在の実施状況の共有 3. 分析結果の共有・検討 4. 閉会

■委員一覧：外部有識者

	氏名（敬称略）	所属	職位	備考
1	野口 洋平	杏林大学 地域連携センター	准教授	委員(大学教員)
2	丹治 朋子	宮城大学 食産業学群	准教授	委員(大学教員)
3	石澤 徹	東京外国語大学大学院 国際日本語学研究院	准教授	委員(大学教員)

■委員一覧：事業推進体制の委員

	氏名（敬称略）	所属	職位	備考
4	大日向 和知夫	(一社)日本語学校ネットワーク	代表理事	委員(日本語教育機関団体役員)
5	谷 一郎	同上	副代表理事	委員(日本語教育機関団体役員)
6	本田 善太郎	同上	理事	委員(日本語教育機関団体役員)
7	西原 幸伸	同上	理事	委員(日本語教育機関団体役員)
8	井上 貴由	同上	理事	委員(日本語教育機関団体役員)
9	竹添 一恵	早稲田文化館日本語科	理事長	委員(日本語教育機関教員)
10	川鍋 智子	アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ	校長	委員(日本語教育機関教員)
11	正能 志保	新宿平和日本語学校	教育開発担当・事務統括責任者	委員(日本語教育機関教員)
12	湯澤 一哉	株式会社クニエ	マネージャー	委員(分析担当者)
13	蓮井 健吾	近畿日本ツーリスト 公務営業支店	支店長	全体調整及び進捗管理

3.外部評価委員会による分析

3-2. オンラインによる日本語教育の成果と課題

【成果】

生徒
(学習者)

< 定量的成果 >

- およそ94%の参加教育機関で、事前テストと比較して、事後テストでの点数向上が確認された
 - 学習者の96%が「日本留学の動機が高まった」と回答した
 - 学習者の96%が「オンライン日本語教育プログラムを受けて日本語能力が向上した」と回答した
 - オンラインでの訪日前教育を経て、訪日時には上位のクラスで入学する良い接続（アーティキュレーション）が確認された
- 具体的には、青山国際教育学院では、3か月コースで1名、6か月コースが1名、訪日時は次のレベルで参加した
新宿平和日本語学校では、2023年1月に1名フィリピンから入国。A1レベルをオンラインで学んだことで、訪日時は次のレベルから学習に臨むことができた

< 定性的効果 >

- 新宿平和日本語学校のフィリピンからの学習者は、オンライン担当教師が留学生担当もしていたため、学生が安心感を抱きながらスムーズに授業に入れた
- 与野学院日本語学校では、7～9月にオンラインで学習した3名が、10月から入国して学んでいる。元々意欲や質が高い生徒にオンラインに参加いただいた点を考慮しても、接続は非常にスムーズだった。また、訪日時に教師や生徒ともすでに顔見知りだったため、コミュニティ形成という点でも非常に良かった

教育機関
教員・
責任者

- オンライン事業を担当した教員のアンケートでは、84%が、本事業を通じて「日本語の教授能力・スキルが向上した」と回答した

- 教育機関責任者へのアンケートでは、全回答者が、オンラインによる日本語学習機会の提供に今後積極的に取り組むべきか、について「ぜひ取り組むべき」「課題はあるが取り組むべき」と回答。前向きな姿勢が確認された

【課題】

- オンライン事業を担当した教員のアンケートでは、対面での指導の理解度を50とした時、オンライン講義の際の生徒の理解度の感覚値を「50以下」と回答する方が86%を占めた
- 教育機関側、生徒側のネットワーク環境の整備が不十分。対応が必須
多くの受講者は受講デバイスがスマホであり、学習効果にも格差が生じている。家庭ごとの経済力の差などにも依存するため容易でないが、今後はこれらの差を埋めるべく指導側が工夫を施していく、もしくはデバイスをPCに限定・指定するといった工夫など、安定した授業実施にむけた対応が必須
- オンライン教育へ取り組むにあたっての教育機関側の負担（コスト）の障壁が存在
デジタルツールの導入、教員への教育等、オンライン教育実施にあたって少なくない負担が各機関に求められる。オンライン教育の普及・拡大にむけて、これらの障壁を軽減・取り除くためのリソース支援が必要
- 学習者の成長（＝提供するオンライン日本語教育のコンテンツの効果）を計測する方法（例：試験内容、各設問）の妥当性、信頼性の検証。評価指標の継続的な見直し

3. 外部評価委員会による分析

3-3. オンライン教育普及に向けた制度・仕組みに関する提言

▶ 各機関における効果的なオンライン教育にむけた環境整備・改善

- 学習者の成長につながる、効果的なオンライン日本語教育カリキュラムの継続的な検討・実施

▶ 教員個々人のデジタルツール、オンライン教育関連のスキル習得

- 基本的なデジタルツール（例：オンライン会議ツール、スライド作成等）の利用スキルの向上
- 実践を通じたオンライン教育特有のスキル（例：カメラ越しの生徒の様子把握、教室より視認が難しい「書く」スキルの効果的な確認方法の検討・実施、音声不通などのネットワーク不良に起因する問題が起きた時の対処方法等）

▶ 各機関が共通的に利活用できる教育機関むけのオンライン教育用の基盤整備

- LMS（学習管理システム：Learning Management System）等、日本語教育機関の独自保有が容易ではない基盤の提供・補助
- 教材の二次加工への障壁や著作権の処理が容易であるものなど、各機関・教員が使いやすい教材のプールのような仕組の整備
- 各機関・教員がオンライン教育に必要なスキルを学ぶことができる研修提供、事例共有

▶ 生徒・教員にとって利便性が高いIT機器・教育ソフトウェアの情報提供及び導入支援

- 対応言語が多いソフトウェアや、指導に便利なハードウェアなどの情報の提供。また、各機関が共通して使用すべき、もしくは無料かつ安全に使用可能な資材などがあった場合などには、それらを導入する金銭等の支援
- 他の事業者が受託している実証事業も含めた、参加する日本語教育機関の間で、導入する機器に関する情報共有が早期に行えるとよかった（実証実験に初めてオンライン授業に取り組みIT機器を導入する機関にとって、適切なモニターのサイズや電子黒板の製品ごとの使い勝手など、実際に使用してから知ることが多かったため）。そのような情報連携の継続的な実施、各事業者における今後の事業への反映

▶ 世界各国への広報活動、受講機会の普及

- 各国の生徒（候補）に日本語教育を届けられる機能（カリキュラム、受講手段）を各日本語教育機関が整備。国・文化庁がそれらの教育機関と各国をつなぐゲートウェイとして、自国において日本語を学ぶ環境が整備されていない地域へのオンライン日本語教育の広報を担うといった役割分担・連携により、世界各国へのオンライン日本語教育機会の普及を目指す

4. 本事業の総括

4. 本事業の総括

本事業は、コロナ禍において待機を余儀なくされた留学生や今後、日本語教育機関に入学を目指す留学生が、日本語教育機関が提供するオンライン教育を通して本国で効果的に日本語を学ぶことができる体制を構築することを目的として着手したが、日本語教育機関に対しては、①留学待機学生（既に入学した者及び入学予定者）の留学意欲の維持・向上、②留学待機学生（既に入学した者及び入学予定者）の日本語能力の維持・向上、③新たな留学希望者の発掘、④所属教員のオンライン日本語教授能力の向上、⑤所属教職員のITリテラシーの向上等を事業参加のメリットとして示しながら応募を募った。

しかしながら2022年3月には水際対策が緩和され、同年4月以降、2020～2021年の2年間の待機学生が一斉に入学し始めたことから日本語教育機関の教職員は新入生の受け入れに忙殺された。この間の入学生の受け入れ業務は、学生の五月雨式の入国、感染症対策として待機のための宿泊施設の手配が加わり、通常の業務と異なった煩雑な受け入れ業務となったようだ。コロナ禍期間中に多くの教職員が離職し、人員不足気味となっていた日本語教育機関にとって多忙を極めるものであったと言われている。これにより本事業への参加を見合わせる日本語教育機関が多数発生し、参加を見込んだ日本語教育機関数が当初の予定を大きく下回る結果となった。

このような状況にもかかわらず、本事業の意義を理解して、ご参加くださった日本語教育機関の皆様には感謝の念に堪えないが、本事業を通じて、これらの日本語教育機関や留学待機学生に対しては一定の寄与ができたと自負している。留学待機学生の留学意欲の維持・向上及び日本語能力の維持・向上については、事前-事後におけるテスト結果から参加学習者の日本語能力の向上が実証され、アンケート調査によれば、9割以上の学習者から日本留学の動機が高まり、ほぼ全ての学習者から日本語の勉強を継続する意思があると回答があった。また事業に参加した日本語教員のオンライン日本語教授能力については、アンケート調査により8割を越える教師が「日本語の教授能力・スキルが向上した」との回答があったことから事業に参加した教師のオンライン日本語教授能力の向上が確認できる。また本事業への参加自体が日本語教育機関のITリテラシーの向上に寄与したことは想像に難くないが、事業に参加した教師の方々からはオンライン授業のみならず、教室での対面授業においてもオンライン授業で培ったデジタルスキルが発揮できるようになったとのご意見をいただいた。本事業の副次的な効果として日本語教育機関のDX化への寄与があったと考えられる。さらに事業参加後のアンケートに機関の責任者の殆どが、オンラインによる日本語学習機会の提供に今後積極的に取り組むべきと回答していることから今後のオンライン日本語教育の発展が見込まれる。事務局には、留学生のCOE申請に日本語学習既習歴として利用できるか否かの多くの問い合わせが寄せられ、入管局からもこれを認める見解が示されたことから入国前の日本語基礎教育にオンライン日本語教育が積極的に利用されることが予見されるが、これが日本語や日本文化の紹介に繋がり、新たな留学希望者の発掘に繋がることが期待される。

4. 本事業の総括

本事業により多くの日本語教育機関がオンライン授業の実施の経験を積むことができたが、さらに発展させるためにはオンライン授業の実施環境の整備が必要であることが多くの参加者から指摘されている。特に日本教育機関のIT機材の整備は必須であるが、比較的の小規模の機関が多く、経営基盤が弱い日本教育機関にとっては経済的に大きな負担となることから政府からの支援が必要である。支援は、オンライン授業の発展のみならず、日本語教育機関のDX化にも大いに貢献するであろうと推測できる。また使用する教材のリソース不足も多くの関係者から指摘されたことから、教育機関が共有できる教材リソースの整備も求められる。今後もオンライン授業を実施しながら授業の進め方の更なる研究について、本事業に参加した多くの教職員から積極的な姿勢が示されていることから、政府の支援事業が今後も引き続き行われれば、日本語教育機関のDX化とオンライン日本語教育を大いに促進するであろうと思料する。

改めて本事業に参加してくださった日本語教育機関の皆様へ感謝申し上げます。また本事業実施に当たり、多大なるご協力及びご助言をいただいた一般社団法人日本語学校ネットワークの皆様、実証結果における分析方針等に有益なご議論・ご提案をいただきました評価検証委員会の皆様、実証事業の効果分析、報告書作成支援をいただいた株式会社クニエに感謝申し上げます。

5. 参考

5.参考：別添資料一覧

”「日本語教育の参照枠」に基づいた日本語教育機関の留学現場can-do（試案）の検討“

関連資料

- 別添1 参考リンク集
- 別添2 candoリスト
- 別添3 ルーブリック評価表

各日本語教育機関におけるモデル開発等事業関連資料

- 別添4 各日本語教育機関の実施結果

文化庁委託事業
ウィズコロナにおけるオンライン
日本語教育実証事業
成果報告書